

### 第54A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	寸法(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第107図 1	坏 土 罐 器	A 12.5	底部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に空る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部ト染子持ちへう割り。底辺回転へう切り後、へう割り。	長石 にふいば褐色 普通	P311 60%
		B 3.3				
		C 6.3				
2	坏 土 罐 器	A [13.5]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に空る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面へう割き。底部へう割り。底辺下層回転後。	赤砂・スクリア・ハミス にふいば褐色 普通	P312 35%
		B 3.7				
		C 9.2				
3	坏 土 罐 器	A [13.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に空る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へう割き。底辺回転へう切り後、へう割り。	赤砂・石英・雲母 にふいば褐色 普通	P313 20%
		B 3.5				
		C 6.5				
4	高台付坏 土 罐 器	B [ 3.3]	高台部から体部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。内面は長くハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。底部高台取り付け後、ナデ。内面へう割き。内面黒色焼成。	砂粒・雲母・スクリア にふいば褐色 普通	P315 25%
		D [ 8.9]				
		E 1.8				
5	壺 土 罐 器	A [20.0]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。壺部はくの字状を呈し、口縁部は外傾する。壺部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへう割り後、横ナデ。内面横ナデ。輪轆み板。	砂粒・雲母・黒色粒 にふいば褐色 普通	P316 40%
		B [ 6.8]				
6	釜 土 罐 器	A 10.6	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。壺部はくの字状を呈し、口縁部は外傾する。壺部は内上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面口位縦位のへう割り。中位横位のへう割り。内面ナデ。	長石 にふいば褐色 普通	P317 10%
		B [ 7.1]				
7	瓶 土 罐 器	B [14.9]	底部から体部にかけての破片。多孔式。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面縦位のへう割り後、横位のへう割り。内面横ナデ。輪轆み板。	長石 にふいば褐色 普通	P318 25%
		C [13.8]				
8	坏 瓶 土 器	A [13.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に空る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底辺子持ちへう割り。体部ト染子持ちへう割り。	砂粒・雲母・ハミス 灰黄色 普通	P319 5%
		B 3.5				
		C [ 7.0]				
9	坏 瓶 土 器	B [ 2.9]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底辺子持ちへう割り。体部ト染子持ちへう割り。	長石・スクリア 灰黄色 普通	P320 2%
		C 6.6				

### 土製品観察表

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
10	竇穴土師	3.8	1.5	0.4	7.1	南東コーナー床面	D P 60 100%

### 金属製品観察表

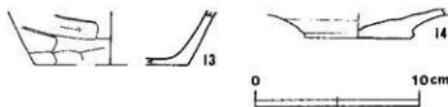
図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考	
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
11	鉄 線	(15.8)	4.7	0.4	(83.6)	東壁付遺産面	M37 75%	
図版番号	種 別	直径 (cm)	空径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	初 鋳 年 度 (西 暦)	鑄 造 地	備 考
12	高年通背	2.7	0.6	0.15	2.7	天平字74年 (760)	不 明	M38

壁 壁高は13cmで、外傾して立ち上がる。西側は、第54A号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝 第54A号住居跡に掘り込まれ東側半分で確認する。上幅10~20cm、下幅2~10cm、深さ5cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

竈 北壁中央部を壁外へ50cmほど掘り込み、付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ90cm、両袖



第108図 第54B号住居跡出土遺物

甕土層解説

- 1 暗赤褐色 粘土粒子少量、焼上粒子・炭化粒子微量  
2 暗灰色 粘土粒子中量、焼上粒子・炭化粒子少量

- 3 暗赤褐色 焼上粒子・炭化物・炭化粒子少量、粘土粒子微量

ピット P<sub>1</sub>は径15cmの円形で、深さ15cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 2層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼上粒子・ローム小ブロック少量  
6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

遺物 土師器片11点、須恵器片9点が出土している。第108図13の土師器甕は甕内の覆土中から出土している。

14の須恵器皿は中央部の覆土中層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが、第54A号住居跡との重複関係から9世紀中葉以前と思われる。

第54B号住居跡出土遺物観察表

図号	器種	寸法(cm)	器形の特徵	下法の特徵	胎土・色澤・焼成	備考
第108図 13	甕 土師器	H (3.3) C (9.4)	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面へタ張り。内面ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母・スコリア 褐色 普通	P223 甕内
14	皿 須恵器	H (1.7) C (6.4)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外両口ロナデ。底部下持ち ヘリ削り。	石英・長石・炭粒 灰白色 普通	P327 中大器覆土中層

第55B号住居跡 (第109図)

位置 調査区D区東部、D4gsk。

重複関係 本跡が第55A・C号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。

規模と平面形 南側が調査区域外に延びており、東西5.03m、南北(3.02m)で、平面形は不明である。

主軸方向 N-2'-W

壁 壁高は28cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅15~25cm、下幅5~10cm、深さ10cmで、調査区内は全周する。断面形はJ字形である。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。中央部から南東に向け、暗褐色土の貼床となっている。

竈 北壁中央部を壁外へ80cmほど掘り込み、付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ110cm、両袖間の最大幅150cmである。袖部は灰白色粘土で構築されている。火床部は径40cmの円形に10cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて赤変硬化している。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

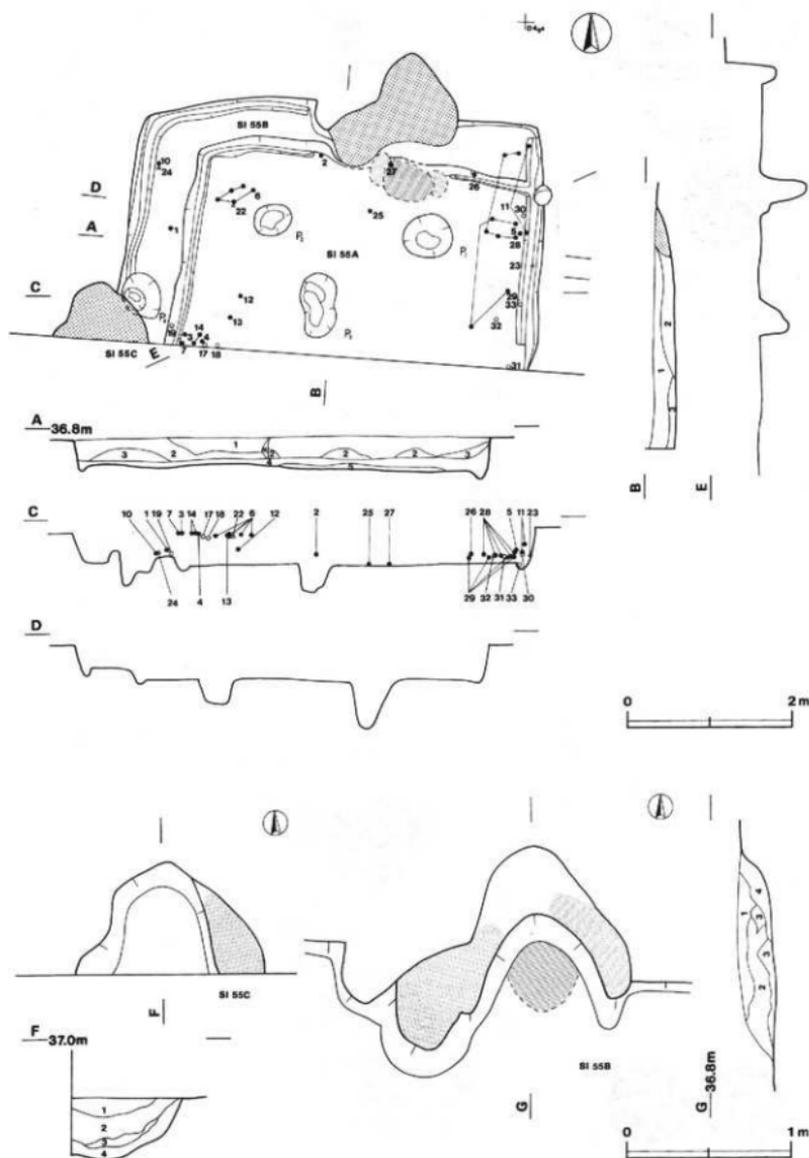
甕土層解説

- 1 灰褐色 灰白色粘土小ブロック・粘土粒子多量、焼上粒子微量  
2 灰褐色 灰褐色粘土小ブロック少量、炭化粒子微量

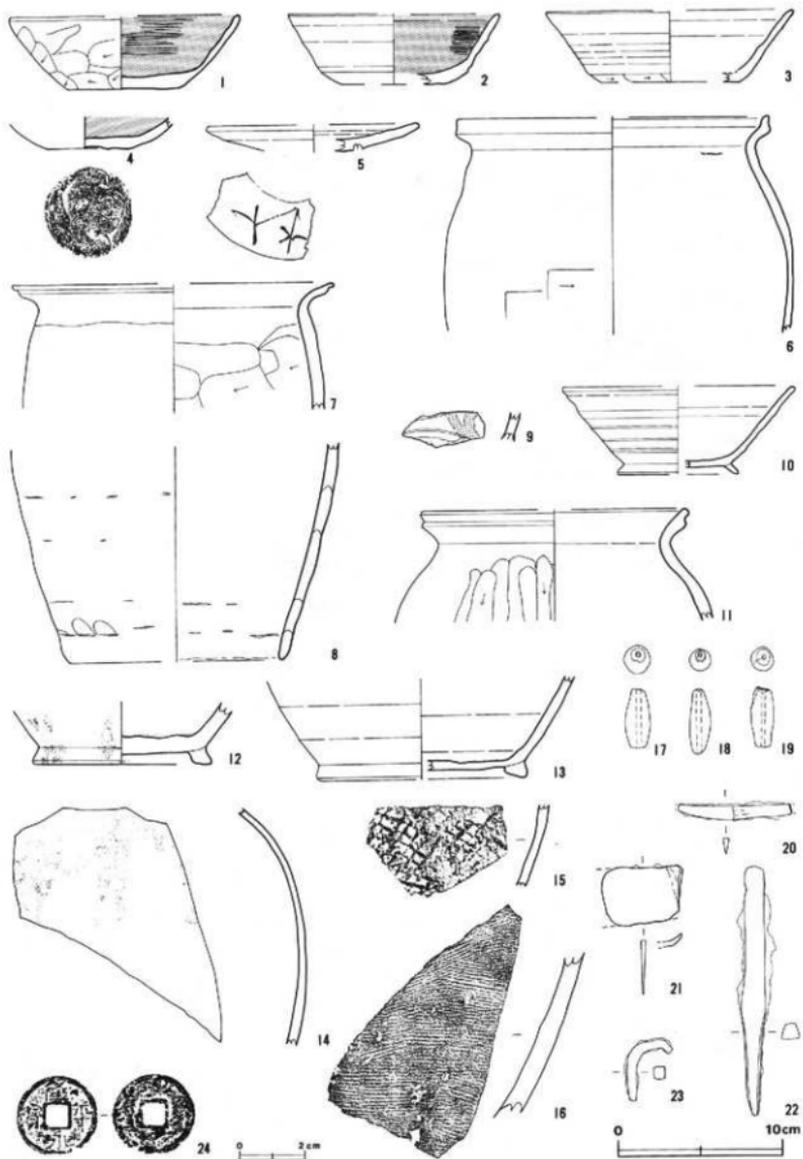
- 3 暗赤褐色 灰多量、焼上粒子・炭化粒子中量  
4 赤褐色 焼上粒子多量、灰少量

ピット 1か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>)。P<sub>1</sub>は径55cmの円形で、深さ55cmである。P<sub>2</sub>は径40cmの円形で、深さ30cmである。

いずれも主柱穴と思われる。P<sub>3</sub>は長径75cm、短径45cmの楕円形で、深さ35cmである。P<sub>4</sub>は長径60cm、短径45



第109图 第55A~C号住居跡



第110图 第55B号住居跡出土遺物

cmの楕円形で、深さ35cmである。いずれも性格は不明である。

覆土 3層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 3 暗褐色 ローム粒子中量、灰白色粘土・小ブロック・焼土粒子少量  
 2 褐色 灰白色粘土・小ブロック中量、焼土・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量

遺物 土師器片500点、須恵器片71点、灰釉陶器片4点、土製品3点、鉄製品7点、古銭1点、縄文土器片4点が出土している。第110図1の土師器環は西壁中央部の覆土下層から、10の須恵器高台付環は北西コーナー部の床面から正位で、その上から24の古銭が出土している。2の土師器環は竈内前面の床面から出土している。3・4の上師器環、7の上師器甕、13・14の灰釉陶器瓶、17・18の管状土鍾、20の刀子、21の鉄鏃は中央部西側の覆土中層から出土している。5の上師器高台付甕は東壁近くの覆土下層から、23の鉄釘は東壁下の壁際の覆土中層から出土している。8の上師器瓶は竈内の覆土中層から、9の須恵器環は中央部の覆土中層から出土している。6の土師器甕は北西部の覆土中層から、22の鉄釘は北西部の床面から出土している。11の須恵器甕は北東部の覆土下層から出土している。12の灰釉陶器瓶、19の管状土鍾は中央部西側の床面から出土している。15・16は拓影図である。15は須恵器甕の体部片で、外面に格子目印きが施されている。16は須恵器甕の体部片で、外面に横位の平行印きが施されている。

所見 本跡は第55A号住居跡の主軸方向と東壁が同じであり、出土遺物に時期差が見られないことから、第55A号住居跡に住んでいた人が建て替えた可能性がある。本跡の時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。12-14の灰釉陶器瓶は黒管14号窯式である。24の古銭は皇朝十二銭の「隆平永寶」である。

第55B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色・完成	備考
第110図 1	環	A 141.1	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外転して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面口ロナデ。体部外面上段から下段手持ちへテテリ内面へテテリ。底部手持ちへテテリ。内面紫色処理。	砂粒・石灰・雲母 にふい・橙褐色 普通	P328 75% 西壁中央段上層
	上師器	B 45 C 6.8				
	2	A 113.0 B 4.5 C 1.62				
3	環	A 135.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外転して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面口ロナデ。底部手持ちへテテリ。体部手持ちへテテリ。体部手持ちへテテリ。普通	砂粒・石灰・雲母 にふい・橙褐色 普通	P332 16% 中央部西側覆土中層
	上師器	B 4.4 C 8.4				
	4	M 1.19 C 5.1				
5	高台付環 土師器	A 131.1 B 1.17	底部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外転して立ち上がり、口縁部に至る。台部直線。	口縁部から体部内・外面口ロナデ。底部高台内側へテテリ。	黄土・雲母 にふい・橙褐色 普通	P337 13% 東壁付台座下層
	甕 上師器	A 119.2 H 113.3	体部から口縁部にかけての破片。体部は内側しながら立ち上がる。器部はくの字状を呈し、口縁部は外傾し、器部は上方につきまみ上げられている。	口縁部から体部内・外面口ロナデ。体部外面中段位置のへテテリ。横筋み現。	砂粒・石灰 にふい・橙褐色 普通	P339 40% 北西部覆土中層
7	甕 上師器	A 119.8 B 1.77	体部から口縁部にかけての破片。体部は内側しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面口ロナデ。内面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙褐色 普通	P335 10% 中央部西側覆土中層
	瓶 土師器	B 133.2 C 13.2	底部から体部にかけての破片。体部は内側しながら立ち上がる。	体部内・外面ナデ。輪筋み現。体部外面下層へテテリ。	石灰・雲母 橙褐色 普通	P351 20% 竈内

図版番号	器 名	寸法(cm)	器 形 の 特 長	手 法 の 特 長	胎土・色調・焼成	備 考
第110図 9	坏 須 忌 器	H ( 1.6)	体部片。体部は内脣気味に立ち上がる。	体部内・外面クロコナテ。	即位 灰色 普通	P 347 中央部現土中層 体部外面赤褐色
10	高台有坏 須 忌 器	A (14.4) B 3.4 D ( 7.5) E 1.3	台部から口縁部にかけての破片。体部は斜面的に外傾して立ち上がり、口縁部に当たる。台部は短くハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面クロコナテ。底部高台貼り付け後、ナテ。	粉粒・長石 細灰色 普通	P 348 20% 北西コーナー未面 二和堂産 二次焼成
11	甗 須 忌 器	A (16.4) B ( 6.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内脣しながら立ち上がり、淵部はくハの字状を開き、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面赤ナテ。体部外面淵部のヘリ限り、内面ナテ。	石灰・茶色粒 灰白色 普通	P 349 10% 北東部現土下層 二和堂産
12	瓶 灰胎陶器	B ( 3.8) D 11.0 E 1.0	高台部から体部にかけての破片。体部は内脣しながら立ち上がる。台部は短くハの字状に開き、断面台形。	体部内・外面クロコナテ。高部高台貼り付け後、ナテ。体部外面赤。	粘土灰白色 輪漉オリープ灰色 普通	P 350 20% 中央部西側床面 黒色14号式
13	瓶 灰胎陶器	B ( 6.2) D 13.0 E 1.0	高台部から体部にかけての破片。体部は内脣しながら立ち上がる。台部は短くハの字状に開き、断面台形。	体部内・外面クロコナテ。底部高台貼り付け後、ナテ。	胎土灰白色 輪漉オリープ灰色 普通	P 356 20% 中央部西側黒土中層 黒色14号式
14	瓶 灰胎陶器	B (14.5)	体部片。体部は内脣しながら立ち上がる。	体部内・外面クロコナテ。体部外面上位物。	胎土灰白色 輪漉オリープ色 普通	P 357 10% 中央部西側黒土中層 黒色14号式

### 土製品観察表

図版番号	種 別	寸 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
17	管状土埴	3.6	1.6	0.3	( 8.4)	中央部西側黒土中層	D P 61 85%
18	管状土埴	4.0	1.3	0.3	6.2	中央部西側黒土中層	D P 66 100%
19	管状土埴	3.6	1.4	0.3	6.6	中央部西側床面	D P 67 100%

### 金属製品観察表

図版番号	種 別	寸 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
20	刀 了	( 7.0)	0.9	0.1	( 6.8)	中央部西側黒土中層	M39 30%
21	鉄 鎌	( 4.9)	3.6	0.3	(18.5)	中央部西側黒土中層	M40 3%
22	鉄 釘	(15.2)	1.2	0.6	(53.8)	北西部床面	M41 90%
23	鉄 釘	( 3.9)	0.7	0.7	(11.9)	東壁付近黒土中層	M42 30%

図版番号	鏡 名	鏡径(cm)	厚径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	初録年代(西暦)	出土地	備 考
24	隆平永寶	2.5	0.6	0.15	2.7	延暦15年(798)	不明	M43

### 第55A号住居跡(第109図)

位置 調査D区東部, D4g区。

重複関係 第55B号住居跡が木跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。また、本跡が第55C号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。

規模と平面形 南側が調査区域外に延びており、東西4.20m、南北(2.50m)で、平面形は不明である。

主軸方向 N-2'-W

壁 壁高は40cmで、外傾して立ち上がる。北・西壁は第55B号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝 上幅15~25cm、下幅5~10cm、深さ10cmで、調査区内は全周する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

■ 北壁中央部に付設された痕跡が確認される。規模は不明であるが、袖部は灰白色粘土で構築されて、火床部は、熱を受けて赤変している一部が確認される。

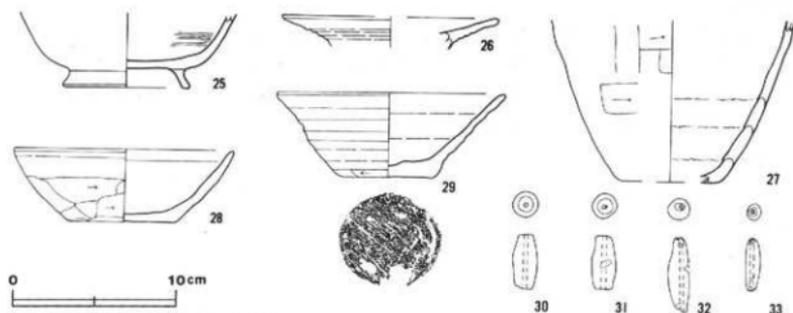
■ 覆土 第55B号住居跡の床下部のみ残存している。

土層解説

- 4 暗褐色 ローム粒子多量(第55B号住居跡の床部) 5 黒褐色 黒色土粒子・灰白色土粒子多量、粘土粒子少量(1~5mmの黒色土と粘土の薄い層が相互に14層)

■ 遺物 土師器片140点、須恵器片6点、土製品3点が出土している。第111図25の土師器高台付環は、電前面の床面から出土している。26の土師器高台付皿は北東コーナー部の覆土下層から出土している。27の土師器甕は左袖部内から出土している。28・29の須恵器環と31・32の管状土鉢は、東壁近くの覆土下層から出土している。30の管状土鉢は東壁近くの覆土中層から、33の管状土鉢は東壁中央の壁土上から出土している。

■ 所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉から後葉と考えられる。



第111図 第55A号住居跡出土遺物

第55A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第111図 25	高台付環 土師器	B (4.6) D 7.8 E 1.2	高台部から体部にかけての破片。体部は内壁気味に立ち上がる。台部はハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部高台彫り付け後、ナデ。	砂粒・雲母にふい橙褐色 普通	P335 30% 電線床面
26	高台付皿 土師器	A [13.4] B (1.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。台部削離。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	石英・長石にふい橙褐色 普通	P338 5% 北東コーナー部覆土下層
27	甕 土師器	B (10.0) C [6.4]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内壁気味に立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ削り後、横位のヘラ削り。内面ナデ。輪積み焼。	長石・スコリアにふい褐色 普通	P340 20% 左袖部内
28	環 須恵器	A 13.5 B 4.5 C 6.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内壁気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部中位から下縁手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母にふい黄褐色 普通	P342 55% 東壁付近覆土下層 三和産
29	環 須恵器	A 14.0 B 5.2 C 5.7	体部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下縁手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・長石 明耀灰色 普通	P343 45% 東壁付近覆土下層 三和産

土製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
30	管状土鉢	3.3	1.5	0.3	(7.2)	東壁付近覆土中層	D P 62 95%
31	管状土鉢	3.2	1.5	0.3	(7.3)	東壁付近覆土下層	D P 63 95%

図録番号	種 別	計 測 値				用 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
32	管状土埴	( 45)	1.3	0.2	( 5.2)	東塚付近奥十下層	D P 61 85%
33	管状土埴	3.2	0.9	0.3	( 2.2)	東塚中央堂溝上	D P 65 95%

### 第55C号住居跡 (第109図)

位置 調査D区東部、D4h3区。

重複関係 第55A・B号住居跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 竈とその周辺部をのみの調査で、南側の大部分が調査区域外に延びており、規模と平面形は不明である。

主軸方向 [N-8°-W]

壁 壁高は30cmで、外傾して立ち上がる。北東部は第55B号住居跡に掘り込まれ不明である。

竈 北壁中央部の壁外へ付設された火床部から煙道部が確認される。右袖は第55B号住居跡に掘り込まれ、規模は焚口部から煙道部までの長さ(70cm)、両袖間の最大幅(100cm)である。袖部は砂質粘土で構築されて、火床部は熱を受けて赤変している。煙道部は焚口部から緩やかに立ち上がる。

#### 覆土層解説

- |                                |                           |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 粘土大・小ブロック中量              | 3 暗褐色 灰多量、粘土小ブロック中量       |
| 2 暗褐色 ローム大・中・小ブロック・粘土大・小ブロック中量 | 4 暗赤褐色 灰多量、硬土小ブロック・焼土粒子少量 |

覆土 3層からなり、自然堆積である。

#### 土層解説

- |                          |                  |
|--------------------------|------------------|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量 | 3 暗褐色 ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量            |                  |

遺物 土師器片5点が出土しているが、図示できるものはない。

所見 出土遺物が少なく時期決定が難しいが、第55A・B号住居跡との重複関係から9世紀中葉以前と思われる。

### 第56号住居跡 (第112図)

位置 調査D区東部、D4e3区。

重複関係 本跡が第57・59号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。また、第53・58号住居跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.25m、短軸2.95mの長方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 覆土が薄く、床面の範囲を確認するだけで壁高は測定不能である。

床 中央部に、踏み固められている痕跡が見られる。

竈 北壁中央部に薄い粘土の堆積が見られ、竈が付設されていた痕跡を確認する。規模や竈の構築状況は不明である。

覆土 覆土は薄く不明である。

遺物 土師器片120点、須恵器片6点、灰釉陶器片2点、鉄滓(碗形滓)1点、縄文土器片2点が出土している。第113図1・3の上師器坏は、室内の覆土中から出土している。2の上師器坏は竈前面部の床面から正位で、5の上師器坏は中央部の床面から出土している。4・6の上師器坏は中央部の床面から出土している。

縄文土器片は流れ込みである。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

### 第57号住居跡 (第112図)

位置 調査D区東部、D4es区。

重複関係 第53・56号住居跡が本跡を掘り込んでいたため、本跡が古い。

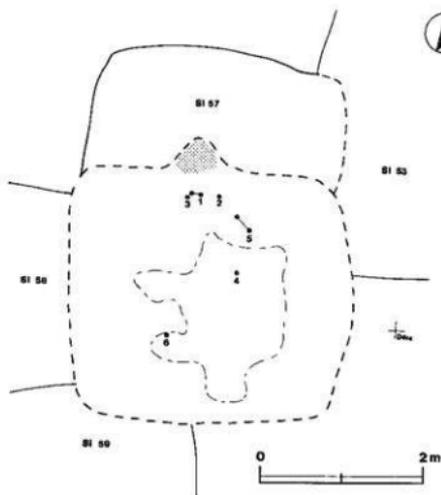
規模と平面形 長軸3.15m、短軸(1.50m)で、平面形は不明である。

壁 覆土が薄く、床面の範囲を確認するだけで、壁高は測定不能である。

床 北部に、踏み固められている痕跡が見られる。

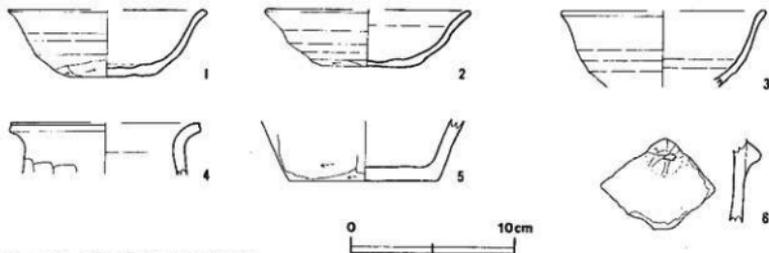
覆土 覆土は薄く不明である。

遺物 土師器片2点が出土しているが、図示するものがない。



第112図 第56・57号住居跡

所見 出土遺物が少なく時期決定は難しいが、第56号住居跡との重複関係から9世紀中葉以前と思われる。



第113図 第56号住居跡出土遺物

### 第56号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第113図 1	坏	A 12.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロコナテ。底部手持ちへう削り。体部下端手持ちへう削り。	長石 浅黄褐色 不良	P338 竪内
	土師器	H 4.2 C 4.9				
	坏	A 12.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロコナテ。肩部手持ちへう削り。体部下端手持ちへう削り。	砂粒・長石・スコリア 灰白色 不良	P339 竪内法面
2	土師器	H 3.5 C 5.2				
	坏	A 11.2	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロコナテ。	長石 普通	P360 竪内
3	土師器	B (4.7)				
	土師器	A [11.7] D (3.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しなから立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナテ。体部外面縦位のへう削り。内面ナテ。	砂粒・長石 浅黄褐色 普通	P363 中央部法面

灰皿番号	番 種	寸法(cm)	着 彩 の 特 徴	工 法 の 特 徴	胎土・色澤・焼成	備 考
第113号	美 土 師 器	B : 3.7 C : 9.0	北東から外部にかけての底面、平底、 体部は点線的に外傾して立ち上がる。	体部外面横段のへう割り、内面ナ デ。	赤粒・石灰・雲母 灰褐色 普通	P364 中央部床面
6	美 土 師 器	B : 3.7	体部片、外面に深い凹手が空く。	体部内・外面ナデ、北平部割り付付 徒、へう割り。	赤粒・石灰・雲母 灰褐色 普通	P365 中央部床面

### 第58号住居跡 (第114図)

位置 調査D区東部、D4位区。

重複関係 本跡が第56・59号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。また、第60・61号住居跡、第2号井戸跡と第201号土坑が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 一辺3.70mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は34cmで、外傾して立ち上がる。南西部は第60号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝 上幅5～25cm、下幅3～10cm、深さ5cmで全周する。断面形はU字形である。

床 全体的に平床で、踏み固められている。

竈 北東中央部を壁外へ60cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ140cm、両袖間の最大幅105cmである。袖部は、灰褐色粘土で構築されている。火床部は、径30cmの円形に5cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて硬化している。煙道部は第201号土坑に掘り込まれ不明である。

#### 遺土層解説

- |                                      |                             |
|--------------------------------------|-----------------------------|
| 1 桃褐色色 焼土粒子・灰褐色粘土中・小ブロック少量           | 4 暗赤褐色 焼土粒子・灰中量、炭化粒少量       |
| 2 にぶい赤褐色 灰褐色粘土粒子中量、焼土粒子・ローム粒子少量      | 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、灰白色粘土 |
| 3 にぶい赤褐色 灰褐色粘土小ブロック中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量 | 小ブロック中量                     |

ピット 3か所 (P1～P3)。P1は径35cmの円形で深さ16.5cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

P2・P3は径25～30cmの円形で深さ13cmである。底部が丸く何かを置いたピットと思われる。

覆土 4層からなり、自然堆積である。

#### 土層解説

- |  |                      |
|--|----------------------|
| 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・暗褐色土小ブ<br>ック多量、焼土粒子少量 | 3 暗褐色 粘土小ブロック・粘土粒子多量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子微塵                              | 4 暗褐色 粘土粒子少量         |

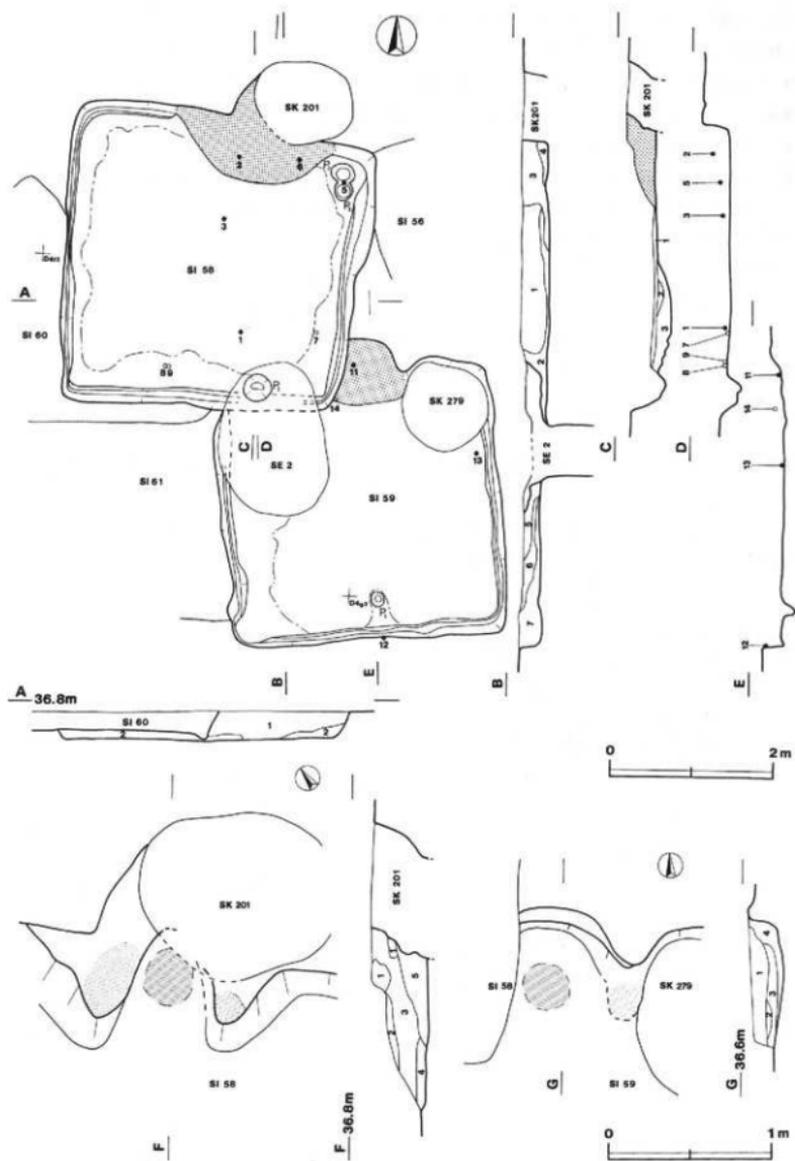
遺物 土師器片284点、須恵器片19点、灰釉陶器片8点、土製品5点が出土している。第115図2の須恵器環は竈前面の覆土中層から出土している。1の土師器高台付碗は中央部南側の床面から、3の須恵器環は中央部の覆土中層から出土している。4の須恵器瓶、10の土製紡錘車は、中央部の覆土中層から出土している。5の灰釉陶器碗は北東コーナー部の覆土下層から、6の灰釉陶器長頸瓶は、竈右袖部内から出土している。7の管状土錘は中央部東側の床面から、8・9の管状土錘は中央部南側の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀末から10世紀初頭と考えられる。5の灰釉陶器碗は、遠江産で静岡県浜北市の三川窯跡産か宮口窯跡産と思われる。6の灰釉陶器長頸瓶は、黒熊90窯式で、第82号住居跡出土の灰釉陶器と接合する。

### 第59号住居跡 (第114図)

位置 調査D区東部、D4位区。

重複関係 第58・61号住居跡と第2号井戸跡、第279号土坑が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。



第114図 第58・59号住居跡

規模と平面形 長軸3.46m, 短軸3.44mのはほぼ方形である。

主軸方向 N-12°-W

壁 壁高は22cmで、外傾して立ち上がる。北西部は第58号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝 上幅10~20cm, 下幅3~10cm, 深さ6cmで全周する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

竈 北壁中央部を壁外へ40cmほど掘り込み、付設されているが、左半部は第58号住居跡に掘り込まれ不明である。規模は焚口部から煙道部までの長さ80cmである。袖部は灰褐色粘土で構築されている。火床部は熱を受けて赤変硬化している。煙道部は焚口部から垂直に立ち上がる。

竈土層解説

- |                             |                                   |
|-----------------------------|-----------------------------------|
| 1 褐色 褐色粘土大・小ブロック・粘土粒子多量、炭化物 | 3 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子多量                |
| 2 黒褐色 炭化物・灰多量、焼土粒子中量        | 4 暗赤褐色 炭化物・灰多量、焼土粒子中量、焼土大・小ブロック少量 |

ピット P1は径20cmの円形で、深さ15cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

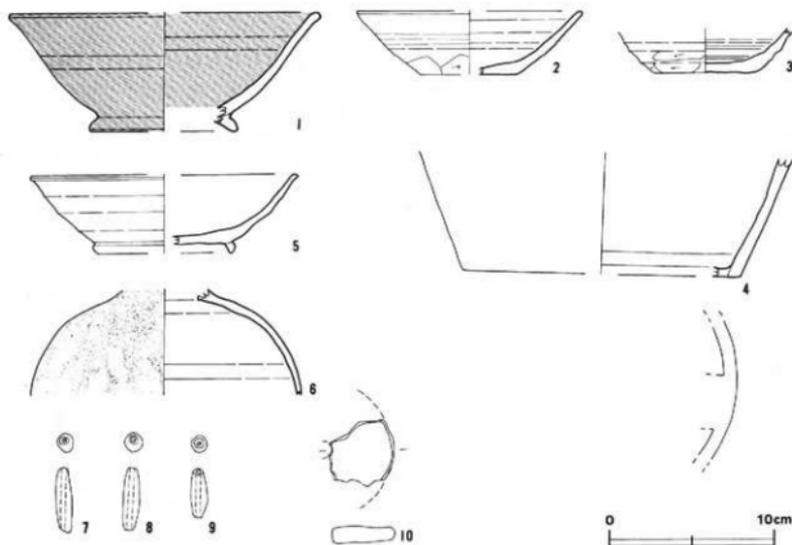
覆土 3層からなり、ロームブロックが不均一に堆積しているので、人為堆積と思われる。

土層解説

- |                              |                          |
|------------------------------|--------------------------|
| 5 暗褐色 ローム大・中ブロック・暗褐色土中ブロック多量 | 7 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 ローム大・中ブロック多量           |                          |

遺物 土師器片92点, 須恵器片1点, 鉄滓(鍛冶滓)1点(10g)が出土している。第116図11の土師器甕, 14の管状土鉢は竈内覆土中層から出土している。12の土師器甕は南壁近くの覆土中層から出土している。13の須恵器坏は北東コーナーの床面から正位で出土している。鉄滓は流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、出土遺物から8世紀後半と思われる。



第115図 第58号住居跡出土遺物

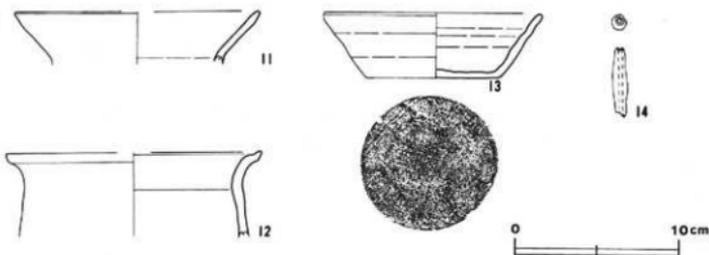
第58号住居跡出土遺物観察表

採取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	編	考
第115回 1	高台付甕 土師器	A [193]	高台部から口縁部にかけての破片。口縁部から内唇気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台起り付け後、ナデ。内・外面黒色処理。	石英・長石 オリーブ黒色 普通	P371	35%
		B 73					
		D [ 90]					
		E 10					
2	坏 須恵器	A [138]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ切り。体部下端手持ちヘラ削り。	石英・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P370	20%
		B 39					
		C [ 58]					
3	坏 須恵器	B [ 26]	高台部から体部にかけての破片。平底。体部は内唇気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部側転ヘラ切り後、ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 灰黄褐色 普通	P374	10%
		C 60					
4	瓶 須恵器	B [ 73]	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。多孔式。	口縁部から体部内・外面ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面ナデ。	石英・長石 にぶい褐色 普通	P376	15%
		C [172]					
5	甕 灰釉陶器	A [164]	高台部から口縁部にかけての破片。体部は内唇気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。台部は三日月状を呈している。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台起り付け後、ナデ。体部内・外面塗。	胎土：灰黄色 釉調：透明 普通	P378	45%
		B 49					
		D [ 86]					
		E 08					
6	長頸瓶 灰釉陶器	B [ 65]	体部片。前部は内唇して頸部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。体部と頸部の接合痕。体部外面塗。	胎土：灰黄色 釉調：オリーブ黒色 普通	P379	10%

土製品観察表

採取番号	種別	計測値				出土地点	編	考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
7	管状土鉢	3.9	1.0	0.3	( 3.6)	中央部南側床面	DP68	90%
8	管状土鉢	3.8	1.1	0.3	4.1	中央部南側床面	DP69	100%
9	管状土鉢	3.0	1.0	0.3	2.6	中央部南側床面	DP70	100%

採取番号	種別	計測値				出土地点	編	考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
10	碇鉢	[8.6]	1.0	[1.1]	[16.6]	中央部覆土中層	DP71	20%



第116図 第59号住居跡出土遺物

### 第59号住居跡出土遺物観察表

図面番号	部 位	寸法(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第116図	土 師 器	A 115.6	口縁部片、口縁部は外突する。	口縁部内・外面磨ナデ。	長径・中径・スコリア 棕色 青緑	P381 室内
		B 4.33				
12	土 師 器	A 116.6	外縁から口縁部にかけての破片。体 部は内側気味に立ち上がり、口縁部 は外反する。	口縁部から体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・炭粒 に赤・棕色 青緑	P381 南壁付遺瓦上中層
		B 4.31				
13	埴 土 器	A 134	口縁部一部欠損。体部は直線的に 外壁して立ち上がり、口縁部に全 心。	口縁部から体部内・外縁磨ナデ	砂粒・石英 黄灰色 青緑	P385 北東コーナー東面 新出室壁
		B 10				
		C 8.2				

### 土製品観察表

図面番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
14	管状土器	4.2	0.9	0.3	(28)	室内	DPT2 95%

### 第60号住居跡 (第117図)

位置 調査D区東部、D46区。

重複関係 本跡が第58号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。また、第61号住居跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.58m、短軸2.60mの長方形である。

主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は21cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅10~15cm、下幅3~5cm、深さ3cmで全周する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部西寄りにはA竈、東寄りにB竈を確認した。A竈は袖部の残存状態が良くないのでB竈より古いと思われる。

A竈は、北壁を壁外へ50cmほど掘り込み、付設されている。規模は美10部から煙道部までの長さ60cm、両袖間の最大幅90cmである。袖部には濃い褐色粘土で構築されている。火床部は長径45cm、短径25cmの楕円形で5cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて赤変している。煙道部は火床面から緩やかに傾斜で立ち上がる。

B竈は、北壁を壁外へ60cmほど掘り込み、付設されている。規模は美10部から煙道部までの長さ95cm、両袖間の最大幅80cmである。袖部は褐色粘土で構築されている。火床部は長径60cm、短径20cmの楕円形で5cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて赤変硬化している。煙道部は火床面から緩やかに立ち上がる。

#### A竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 濃い褐色粘土・中・小ブロック・粘土粒子多量

- 3 暗赤褐色 焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、焼土中・小ブロック少量
- 4 赤褐色 ローム中・小ブロック多量

#### B竈土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量

- 3 暗赤褐色 焼土中・中・小ブロック・焼土粒子・炭化物中量、ローム粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量

覆土 3層からなり、自然堆積である。

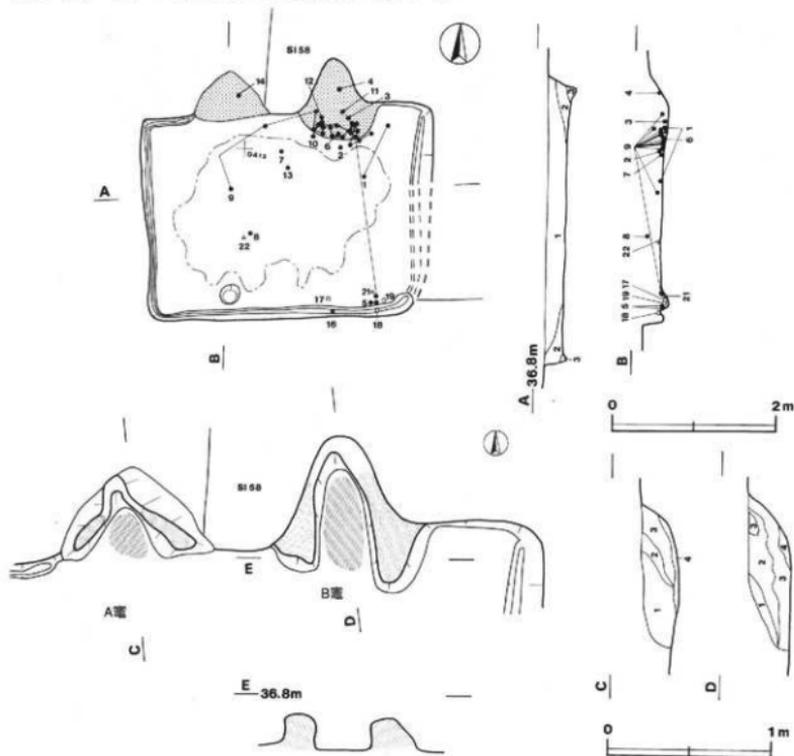
#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量

- 3 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片1112点、須恵器片25点、瓦片1点、土製品22点、鉄製品3点、鉄滓10点（95g）、縄文土器片3点が出土している。第118・119図1の土師器坏は北東部の床面から、2の土師器坏はB竈前面の床面から出土している。3・4の土師器坏、6の土師器高台付坏、9～12の土師器甕はB竈内の覆土中から散乱するように出土している。5の土師器坏、17～19の管状土鉢、21の鉄鎌は南東コーナー部の床面から重なり合って出土している。7の土師器高台付坏、22の不明鉄製品は中央部の床面から、8の須恵器高台付坏、13の土師器甕、15の土師器甕は、中央部の覆土中層から出土している。20の丸瓦は南東部の覆土中層から出土している。14の土師器甕は、A竈内の覆土中層から出土している。16の須恵器甕は南壁下の壁溝の覆土中から出土している。鉄滓は含鉄滓2点（30g）、鍛冶滓8点（65g）で中央部の覆土上層から出土し、流れ込みと思われる。縄文土器片は流れ込みである。

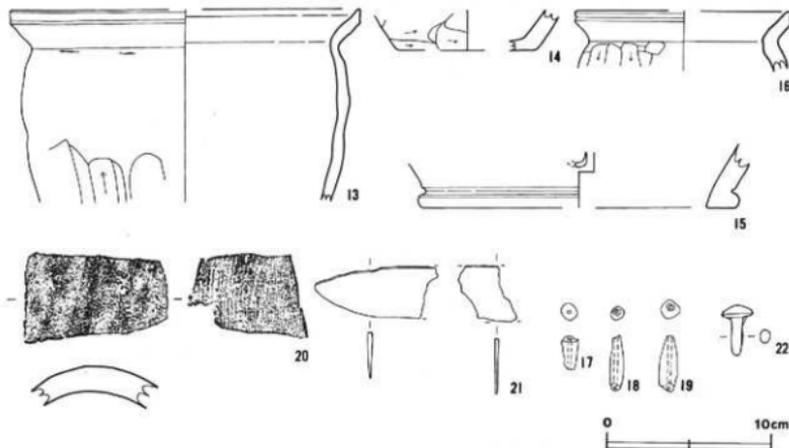
所見 本跡の時期は、出土遺物から10世紀前半と考えられる。



第117図 第60号住居跡



第118図 第60号住居跡出土遺物(1)



第119図 第60号住居跡出土遺物(2)

第60号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備	考
第118図 1	坏	A 129	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	長石 にぶい褐色 普通	P386	60%
	土師器	B 34					
	C [ 60]						
2	坏	A [118]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・黒色粒 にぶい褐色 普通	P387	30%
	土師器	B 33					
	C 79						
3	坏	A [122]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P388	30%
	土師器	B 34					
	C [ 56]						
4	坏	A [136]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P389	30%
	土師器	B 40					
	C [ 64]						
5	坏	A [148]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P391	10%
	土師器	B [ 30]					
6	高台付坏	A [159]	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P399	20%
	土師器	B [ 52]					
	E [ 03]						
7	高台付坏	B [ 37]	高台部から体部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。台部はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部高台貼り付け後、ナデ。	緑粒・石英・スコリア 浅黄褐色 普通	P400	40%
	土師器	D 76					
	E 17						
8	高台付坏	B [ 20]	底部片。体部は内彎気味に立ち上がる。台部割断。	口縁部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・黒色粒 にぶい褐色 普通	P402	30%
	筑忠器						
9	甕	A 186	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しなから立ち上がる。頸部はく字状を呈し、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位換位のヘラ削り。下位換位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P405	50%
	土師器	B (28.1)					
10	甕	A [218]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面低位のヘラ削り。内面ナデ。体部外面輪組み砥。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P406	35%
	土師器	B (19.4)					

図版番号	種 別	寸法 (cm)	器 形 の 特 徴	工 法 の 特 徴	胎土・色澤・地味	備 考
第18図 11	甕 土 師 器	A (180) B (152)	底部から口縁部にかけての破片。体部は内貯しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面焼ナゲ。体部外面位置のヘラ削り。内面ナゲ。体部内・外面磨削み施。	砂粒・雲母・ガラス質色 やや不直	P407 B鑑内 20%
12	甕 土 師 器	A (232) B ( 57)	底部から口縁部にかけての破片。体部は内貯気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面焼ナゲ。体部外面位置のヘラ削り。内面ナゲ。	砂粒・長石・灰母 褐色 やや不直	P409 B鑑内 15%
第19図 13	甕 土 師 器	A (214) B (117)	底部から口縁部にかけての破片。体部は内貯しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し、口縁部は外傾し、端部は上方にのみまみ上げられている。	口縁部内・外面焼ナゲ。体部外面位置のヘラ削り。内面ナゲ。	砂粒・雲母・スコリア 灰褐色 やや不直	P410 中央部埋立中層 20%
14	甕 土 師 器	A ( 25) C ( 83)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内貯気味に立ち上がる。	体部外面位置のヘラ削り。内面ナゲ。	砂粒・石英・雲母 灰褐色 磨光	P413 A鑑内 10%
15	瓶 土 師 器	B ( 32) C (197)	底部から体部にかけての破片。底部は凹状に深方向に開く。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	底部から体部内・外面ロクワナゲ。体部下深穿孔。	灰石・雲母・スコリア 灰白・赤褐色 磨光	P415 中央部埋立中層 5%
16	甕 土 師 器	A (134) B ( 36)	底部から口縁部にかけての破片。体部は内貯しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面焼ナゲ。体部外面位置のヘラ削り。内面ナゲ。	砂粒・石英・雲母 灰白 磨光	P418 北壁下敷箇内 新出遺棄 5%

#### 土製品観察表

図版番号	種 別	実 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	口径 (cm)	重量 (g)		
17	管状土師	(20)	2.0	0.2	( 17)	南東コーナー床面	DP73 90%
18	管状土師	(20)	0.8	0.3	( 20)	南東コーナー床面	DP74 90%
19	管状土師	(23)	1.2	0.2	( 37)	南東コーナー床面	DP75 90%

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	口径 (cm)	重量 (g)		
20	丸 丸	(3.6)	(8.2)	1.5	(101.2)	南東部埋立中層	T9 西壁南片断 凸面ナゲ調整 5%

#### 金属製品観察表

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	口径 (cm)	重量 (g)		
21	鉄 釜	(12.2)	2.5	0.2	(19.9)	南東コーナー床面	M46 43%
22	不明鉄製品	2.8	1.9	1.9	( 6.0)	中央部埋立	M47

#### 第61号住居跡 (第120図)

位置 調査D区東部、D台区。

重複関係 本跡が第58～60号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。また、第2号井戸跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.38m、短軸2.34mの長方形である。

主軸方向 N-84°-E

壁 覆土が極めて薄く床面の範囲を確認するのみで、壁を確認することができない。

床 北部及び東部は、ローム混じりの暗褐色土で貼床している。全体的に平坦で、よく踏み固められている。

竈 東壁中央部を壁外へ15cmほど掘り込み、付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ100cm、西

両袖間の最大幅80cmである。袖部は灰褐色粘土で構築されている。火床部は5cmほど掘りくぼめられているが、規模は不明である。煙道部は火床面から緩やかに立ち上がる。

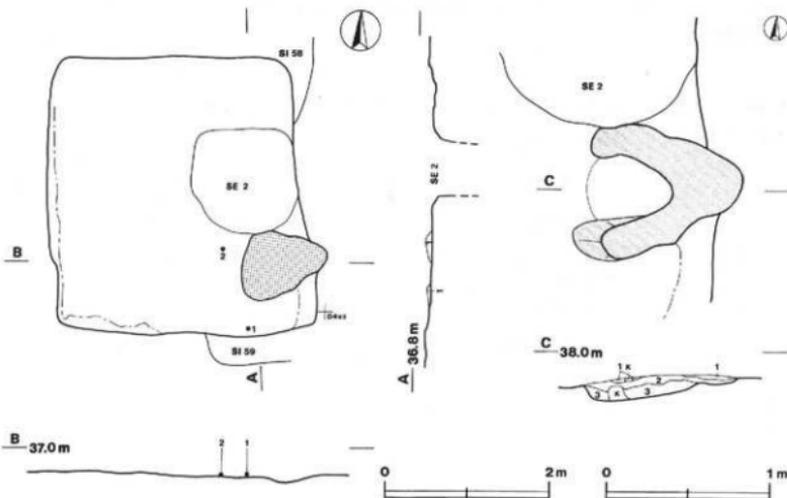
**覆土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量      3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・粘土粒子少量  
 2 暗褐色 灰・炭化物中量、炭化物・ローム粒子少量

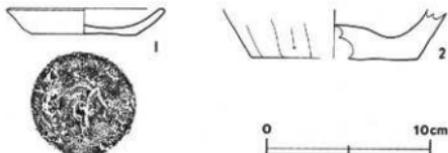
**覆土** 覆土が薄く不明である。

**遺物** 土師器片26点が出土している。第121図1の土師器小皿は、南東コーナー部の床面から正位で出土している。2の土師器甕は、竈前面の床面から逆位で出土している。

**所見** 本跡の時期は、重複関係と出土遺物から10世紀後半と思われる。



第120図 第61号住居跡



第121図 第61号住居跡出土遺物

第61号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第121図 1	小皿 土師器	A 96 B 16 C 64	平底、体部は内壁気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後、ヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 褐色 普通	P 420 100% 南東コーナー床面
2	甕 土師器	B (3.1) C [10.2]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内壁しながら立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ削り、内面ナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P 421 10% 竈前床面

第62号住居跡 (第122図)

位置 調査D区中央部, D4g1区。

規模と平面形 長軸3.87m, 短軸3.47mの長方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は20~22cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で, 中央部が踏み固められている。

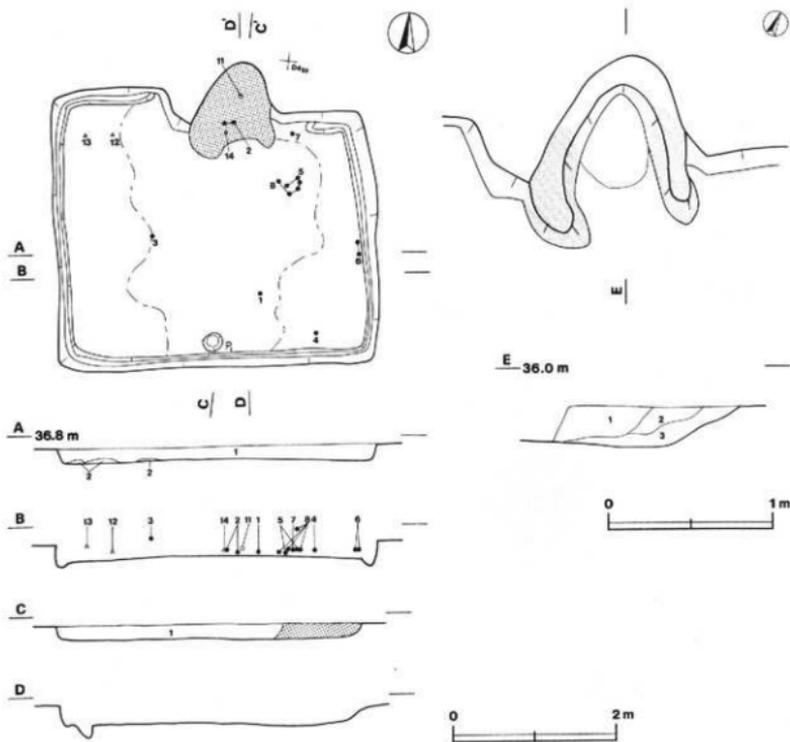
竈 北壁中央部を壁外へ65cmほど掘り込み, 付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ105cm, 両袖間の最大幅100cmである。袖部は灰白色粘土で構築されている。火床部は径40cmの円形で3cmほど掘りくぼめられて, 熱を受けて硬化している。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- |        |                       |        |                       |
|--------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色  | ローム小ブロック・粘土粒子少量       | 3 暗赤褐色 | 粘土中・小ブロック多量, 焼土小ブロック・ |
| 2 暗赤褐色 | 粘土中・小ブロック・粘土粒子多量, 焼土小 |        | 塊土粒子・粘土粒子中量, ローム中・    |
|        | ブロック・焼土中量, ローム小ブロック少量 |        | 小ブロック少量               |

ピット P1は径25cmの円形で, 深さ20cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 2層からなり, 自然堆積である。



第122図 第62号住居跡

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、  
灰白色粘土粒子微量

2 褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・  
焼土粒子少量

遺物 土師器片205点、須恵器片15点、灰袖陶器片2点、鉄製品5点が出土している。第123図1の土師器坏は中央部の覆土下層から正位で、3の土師器坏は、中央部西側の覆土上層から、10の須恵器甕は、中央部の床面から出土している。2の土師器坏、9の須恵器蓋、11の土製品（把手か）、14の鉄斧は、甕内の覆土中層から出土している。4の土師器坏は、南東部の覆土下層から出土している。5の土師器坏、8の土師器羽釜は甕前面の床面から、6の土師器高台付坏は東壁付近の覆土下層から出土している。7の土師器甕は、右袖部内から出土している。12の刀子、13の鉄釘は、北西コーナー部の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から10世紀前半と考えられる。



第123図 第62号住居跡出土遺物

第62号住居跡出土遺物観察表

採取番号	器 種	品類番号 (cm)	器 形 の 特 徴	平 法 の 特 徴	粘土・色調・底質	備 考
第124回 2	土 師 器 杯	A 132	底面から口縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下縁手持ちへつ回り、底面手持ちへつ回り。	砂粒・赤褐色 赤色 普通	P423 70%
		B 36				
		C 59				
3	土 師 器 杯	A 127	底面から口縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底面回転未切り。	砂粒・長石・黄褐色 赤色 普通	P421 50%
		B 36				
		C 59				
3	土 師 器 杯	A 124	底面から口縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下縁手持ちへつ回り、底面手持ちへつ回り。	砂粒・長石・黄褐色 赤色 普通	P425 20%
		B 36				
		C 19				
4	土 師 器 杯	A 131	底面から体部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下縁手持ちへつ回り、底面手持ちへつ回り。	砂粒・スコリア・赤褐色 赤色 普通	P426 40%
		B 36				
		C 58				
5	土 師 器 杯	A 121	底面から体部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底面回転未切り後、へつ回り。	砂粒・赤褐色 赤色 普通	P427 50%
		B 36				
		C 75				
6	高台付土師器 土 師 器	A 143	高台部から外部にかけての破片。体部は内野気味に立ち上がる。高台はハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。底面高台回り付け後、ナデ。内面へつ回り。内面は褐色彫理。	砂粒・石灰・赤褐色 赤褐色 普通	P428 50%
		D 72				
		E 16				
		F 16				
7	土 師 器 壺	A 188	体部から口縁部にかけての破片。体部は内野しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面頸位のへつ回り。内面ナデ。	砂粒・長石・黄褐色 灰褐色 普通	P429 30%
		B 188				
8	土 師 器 壺	A 120	体部から口縁部にかけての破片。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部に至る。体部上縁に線が付く。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面頸位のへつ回り。内面ナデ。	石灰・長石 赤褐色 普通	P431 30%
		B 150				
9	土 師 器 壺	A 133	口縁部片。頸部は平野で、口縁部内面に凹み状の穴が付く。	口縁部内・外面ロクロナデ。外面白熱線。	砂粒・赤褐色 赤褐色 普通	P435 5%
		B 120				
10	土 師 器 壺	A 204	体部から口縁部にかけての破片。体部は内野気味に立ち上がる。頸部はくの字状を呈し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面頸位の平野明き。内面ナデ。	砂粒 赤褐色 普通	P433 5%
		B 151				

上製品観察表

採取番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
11	壺の把手	19.5	2.8	2.7	91.0	壺内	11P76 全曲線写真

金属製品観察表

採取番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
12	刀子	18.0	1.4	0.4	19.7	定百コナ一層十中層	M49 95%
13	鉄 釘	9.7	1.3	0.7	16.5	北沢コナー一層十中層	M50 95%
14	鉄 斧	7.2	4.7	2.6	135.8	壺内	M51 40%

## 第63号住居跡 (第124回)

位置 調査D区中央部、M4c1区。

重複関係 本跡が第64号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。また、第276～278号上坑が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.80m、短軸3.05mの長方形である。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は11cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅12~15cm、下幅3~5cm、深さ5cmで北壁下と東壁下の一部で確認する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、よく踏み固められている。

遺 北東コーナー部にA竈、東壁中央部にB竈を確認した。A竈は袖部の残存状態が良くないのでB竈より古いと思われる。

A竈は北東コーナー部を壁外へ60cmほど掘り込み、付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ100cm、両袖間の最大幅60cmである。袖部は、褐色粘土で構築されている。火床部は長径55cm、短径25cmの楕円形に3cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて赤変している。川礫を支脚として火床部中央に埋設して使用している。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

B竈は東壁中央を壁外へ40cmほど掘り込み、付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ90cm、両袖間の最大幅85cmである。袖部は、褐色粘土で構築されている。袖部の補強材として土師器片を使用している。火床部は長径35cm、短径25cmの楕円形に5cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて赤変している。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

#### A竈土層解説

- |                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 粘土粒子・焼土粒子・ローム粒子少量 | 3 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量、粘土粒子少量     | 4 暗褐色 灰多量、炭化粒子・ローム粒子少量    |

#### B竈土層解説

- |                        |                                 |
|------------------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量 | 3 暗褐色 炭化粒子・灰中量、鉄土大・中ブロック・粘土粒子少量 |
| 2 に近い赤褐色 焼土大・中ブロック多量   |                                 |

覆土 2層からなり、ロームブロックが不均一に堆積しているので、人為堆積と思われる。

#### 土層解説

- |                                 |                          |
|---------------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子多量 |
|---------------------------------|--------------------------|

遺物 土師器片130点、須志器片4点、緑釉陶器片1点、灰釉陶器片1点、瓦片1点、鉄製品2点が出土している。第125図1・2の土師器坏、7の土師器甕、10の土師器瓶は、B竈内の覆土中から出土している。3の土師器高台付椀、8の土師器甕は、A竈内の覆土中から出土している。4の土師器高台付椀は南東部の覆土中層から、13の緑釉陶器片、14の瓦は南東部の覆土下層から出土している。5の土師器高台付椀と11の須志器坏は、南西部の床面から出土している。6の土師器高台付椀と15の鉄鏝は、西壁中央付近の床面から、9の土師器瓶は東前部の覆土中層から出土している。12の灰釉陶器片は中央部北側の覆土下層から、16の刀子は中央部の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から10世紀前半と考えられる。

### 第64号住居跡 (第124図)

位置 調査D区中央部、D4a1区。

重複関係 第63・66号住居跡、第214・215・276~278号土坑が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.50m、短軸3.45mのほぼ方形である。

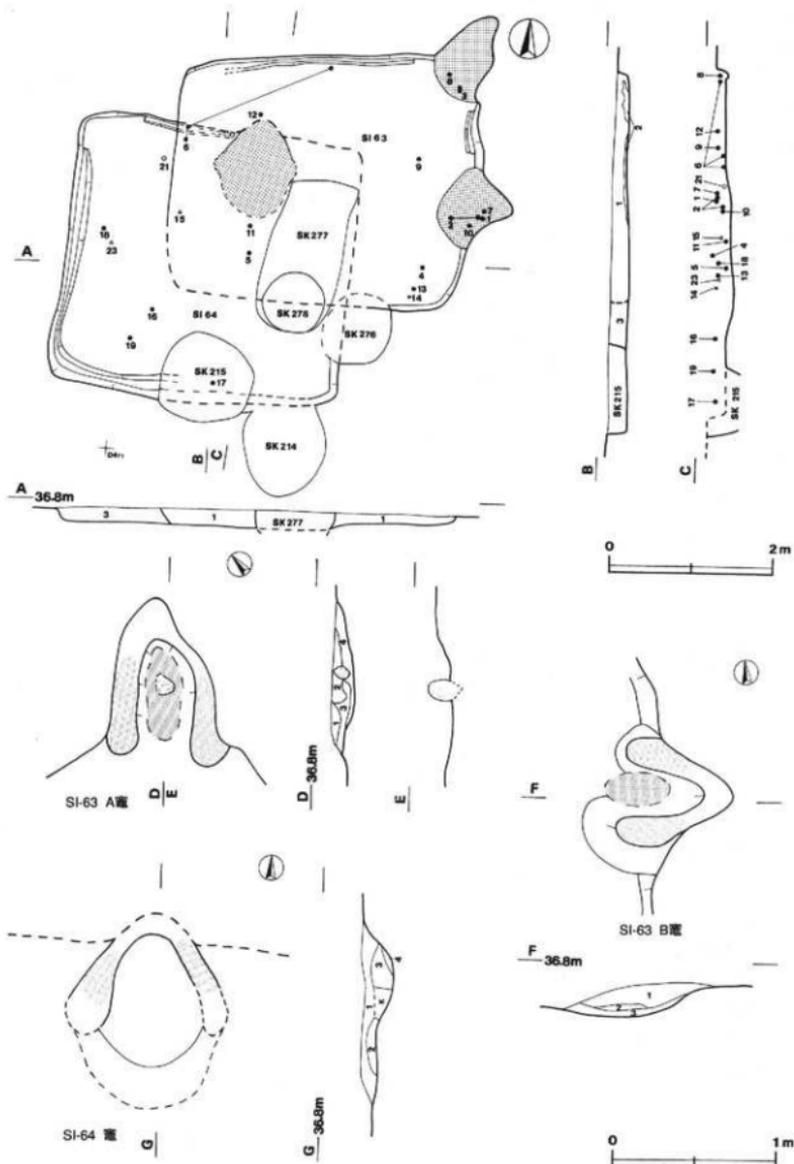
主軸方向 N-0°

壁 壁高は23cmで、外傾して立ち上がる。北東部は第63号住居跡に刺り込まれ不明である。

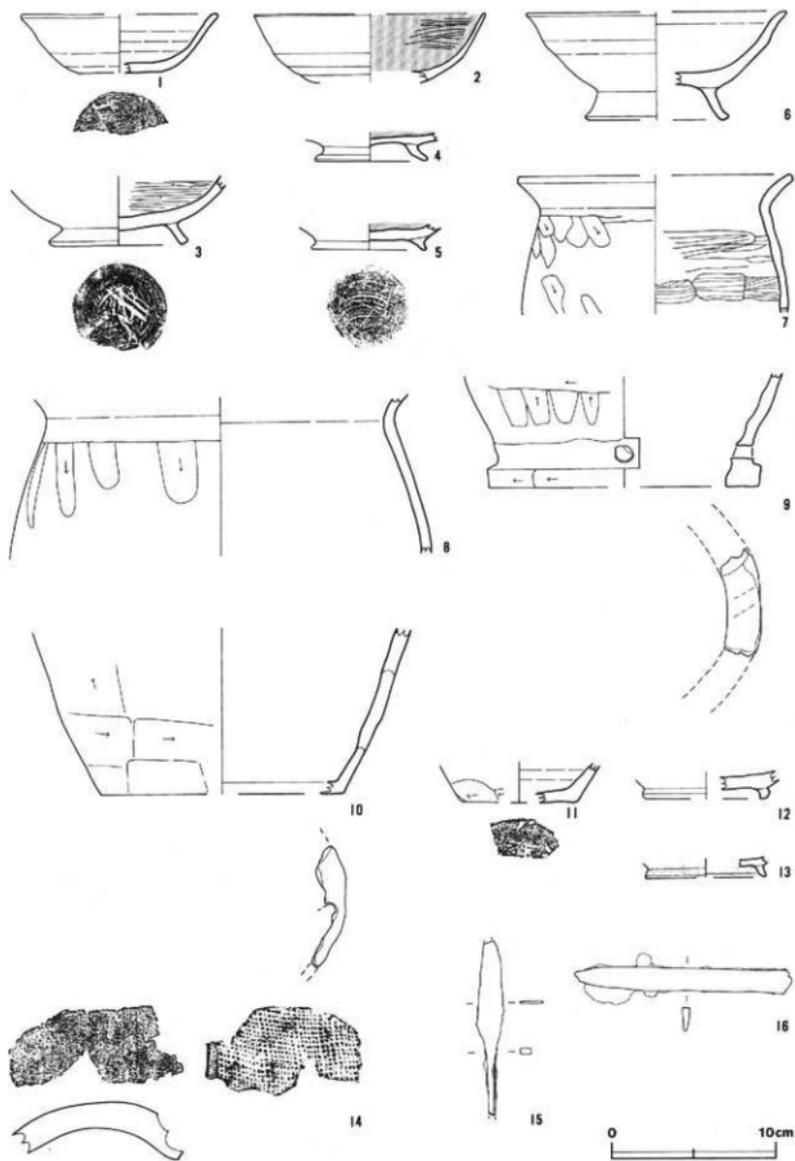
壁溝 上幅15~25cm、下幅3~10cm、深さ5cmで南壁下と西壁下の一部で確認する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

遺 北壁中央部を壁外へ掘り込み、付設されている痕跡を確認する。規模は焚口部から煙道部までの長さ



第124图 第62・63号住居跡



第125図 第63号住居跡出土遺物

第63号住居跡出土遺物観察表

図版番号	品名	計測値 (cm)	形状の特徴	手法の特徴	胎土・色調・産地	備考
第12図 1	土師器 小 土師器	A 1.50	底面から内部にかけての破片。平底。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底面回転痕切り。	赤・石黄・茶褐色	P430 B室内
		B 0.36				
		C 1.50				
2	土師器 小 土師器	A 1.51	体部から口縁部にかけての破片。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部には生ずる。	口縁部から体部外ロクロナデ。内面へたつき。内面黄色処理。	長石・赤褐色	P437 B室内
		B 0.42				
		D 0.25				
3	高台付筒土師器	A 1.47	高台部から体部にかけての破片。体部は内側気味に立ち上がる。台部はハの字状に開く。	体部外ロクロナデ。底面高台張り付け後、ナデ。内面へたつき。底面外面へたつき。底面内周縁部	長石・赤褐色	P439 A室内
		B 0.69				
		E 1.3				
4	高台付筒土師器	B 1.17	高台部から体部にかけての破片。体部は内側気味に立ち上がる。台部はハの字状に開く。	体部外ロクロナデ。底面高台張り付け後、ナデ。内面へたつき。内面黄色処理。	長石・赤褐色	P440 A室内
		D 0.69				
		E 1.0				
5	高台付筒土師器	B 1.03	高台部から体部の破片。台部は短くハの字状に開く。	体部外ロクロナデ。底面高台張り付け後、ナデ。内面へたつき。内面黄色処理。	長石・赤褐色	P451 A室内
		D 0.70				
		E 0.8				
6	高台付筒土師器	A 1.60	高台部から口縁部にかけての破片。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底面高台張り付け後、ナデ。	赤・石黄・茶褐色	P439 B室内中央部
		B 0.66				
		D 1.88				
		E 1.8				
7	土師器	A 1.70	体部から口縁部にかけての破片。外口には内反しをもち立ち上がり、底面は短くハの字状に開く。口縁部は内側する。	底面内・外側ナデ。体部外面磨りナデ。内面磨りナデ。	長石・赤褐色	P441 B室内
		B 0.53				
8	土師器	B 1.07	体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに外反して立ち上がる。	体部外面中へたつき。内面ナデ。張り出し部へたつき。	赤・石黄・茶褐色	P443 A室内
		D 0.69				
9	土師器	B 1.09	底面から体部にかけての破片。体部は内側しをもち立ち上がる。底面は短くハの字状に開く。体部下縁は外面から立ち。	底面外・外面ナデ。体部外周磨りナデ。内面ナデ。	赤・石黄・茶褐色	P444 B室内上部
		C 1.60				
		D 0.69				
10	土師器	B 1.01	底面から体部にかけての破片。多礼式。体部は内側しをもち立ち上がる。	体部外面中へたつき。下縁部は短くハの字状に開く。内面磨りナデ。	赤・石黄・茶褐色	P445 B室内
		C 1.49				
11	土師器	B 1.25	底面から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外反して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下縁部へたつき。底面は短くハの字状に開く。	赤・石黄・茶褐色	P457 B室内
		C 1.70				
12	土師器	B 1.17	底面破片。平底。内面は三日目状を呈す。	底面ロクロナデ。底面高台張り付け後、ナデ。	胎土・灰白色	P446 中央部
		D 0.72				
		E 0.6				
13	土師器	B 1.19	底面破片。平底。台部はハの字状に開く。	底面内・外面ロクロナデ。底面高台張り付け後、ナデ。高台の内・外面磨り。	胎土・灰白色	P447 B室内
		D 1.74				

土製品観察表

図版番号	品名	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
11	丸瓦	15.2	10.0	1.8	111.0	南東部出土層	T11 内面右肩部凸出ナデ調整 5%

金属製品観察表

図版番号	品名	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
15	銅	10.7	1.7	0.1	12.1	南東部出土層	M52 90%
16	刀	14.0	1.6	0.5	37.2	中央部出土層	M54 90%

(110cm)、両袖間の最大幅(90cm)である。袖部は、褐色粘土で構築されている。火床部は不明である。

煙道 部は火床部から緩やかに立ち上がる。

#### 覆土層解説

- |  |                  |
|--|------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土小ブロック少量              | 3 褐灰色 灰多量        |
| 2 黒褐色 灰・粘土粒子多量(2~5mmの灰層と褐色粘土層が相互に堆積している) | 4 暗赤褐色 焼土小ブロック中量 |

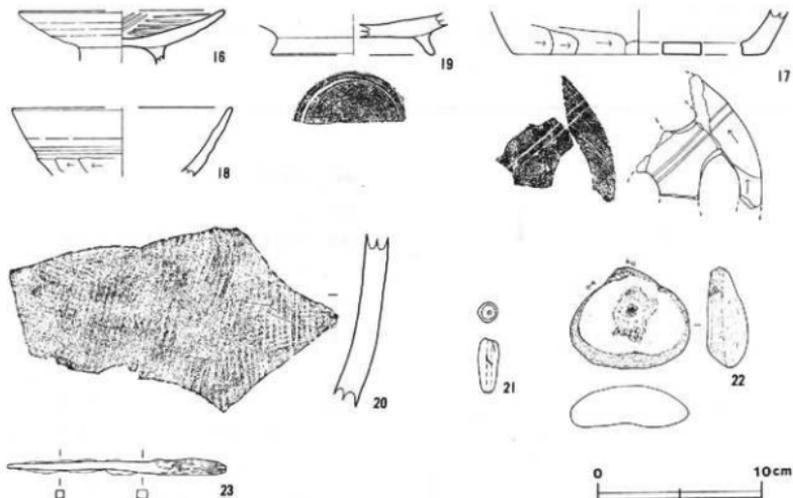
覆土 単一層であり、ロームブロックが不均一な堆積をしているので、人為堆積と思われる。

#### 土層解説

- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子多量

遺物 土師器片278点、須恵器片15点、鉄製品1点、土製品7点が出土している。第126図16の土師器台付皿は南西部の覆土下層から、19の須恵器高台付環は南西部の覆土中層から出土している。17の土師器甌は、南壁付近の覆土下層から出土している。18の須恵器環は西壁中央の覆土下層から出土している。21の管状土鉢は北西部の覆土下層から出土している。23の不明鉄製品は西壁中央の床面から出土している。22の円石は中央部の覆土中層から出土している。20は須恵器甕の体部片で、外面に平行叩きが施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉と考えられる。18の須恵器は三和町の三和窯産である。19の須恵器は岩瀬町の堀ノ内窯産である。



第126図 第64号住居跡出土遺物

#### 第64号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備	考
第126図 16	台付皿 土師器	A [12.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して口縁部に至る。台部はハの字状に開く。	口縁部から体部外面口クロナデ。底部高台貼り付け後、ナデ。内面ヘラ滑き。	長石 にふい-棕色 普通	P 452	30%
		B ( 32)					
		C ( 1.0)					
17	甌 土師器	B ( 2.6)	底部から体部にかけての破片。体部は内傾気味に立ち上がる。多孔式。	体部外面横位のヘラ滑り。内面横ナデ。底部ヘラ滑り。底部縦滑。	赤粘土-黄-白-ス にふい-棕色 普通	P 455	5%
		C [15.4]					



遺物 土師器片52点, 須恵器片3点, 縄文土器片1点が出土している。住居内全体から細片で出土している。

縄文土器片は流れ込みである。

所見 出土遺物が細片であり時期を決定するのが難しいが, 遺構の形状から平安時代と思われる。

#### 第66号住居跡 (第128図)

位置 調査D区中央部, D3e0区。

重複関係 本跡が第64・67号住居跡を掘り込んでいるため, 本跡が新しい。また, 第268・270号土坑が本跡を掘り込んでいるため, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.80m, 短軸2.50mの隅丸長方形である。

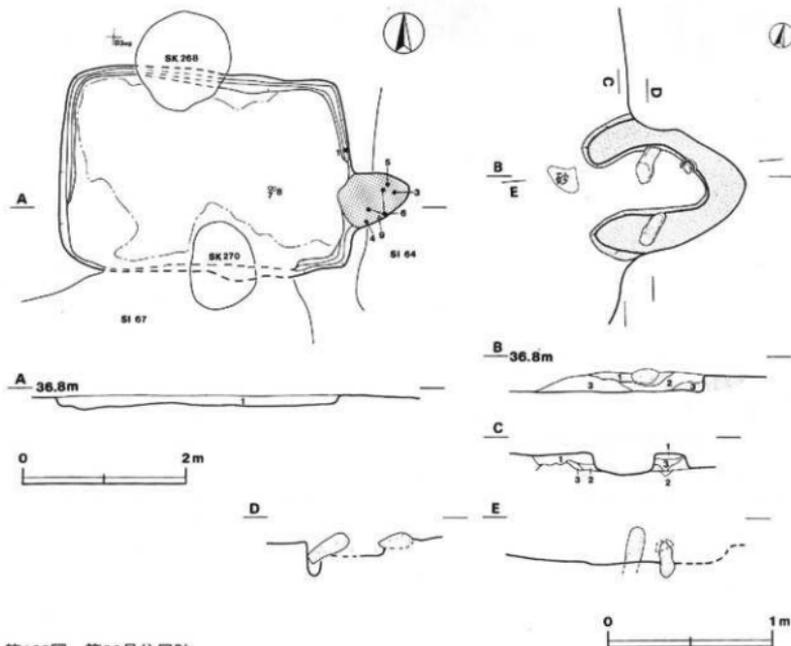
主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は10cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅13~20cm, 下幅4~10cm, 深さ5cmで南西部を除いて確認する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で, よく踏み固められている。

竈 東壁中央部を壁外へ60cm掘り込み, 付設されている。規模は突口部から煙道部までの長さ100cm, 両袖間の最大幅90cmである。袖部は, にぶい褐色粘土で構築されている。両袖の内側に径10cm, 長さ25~30cmの円礫が補強材として埋設されている。火床部は径35cmの円形に5cmほど掘りくぼめられ, 中央部に円礫が支脚として利用されている。煙道部は火床部から垂直に立ち上がる。



第128図 第66号住居跡

甕土層解説

- 1 暗褐色 粘土粒子少量  
2 暗赤褐色 粘土中、小ブロック多量、  
焼土小ブロック中量

3 暗褐色 粘土粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量  
2 ぶい褐色 粘土粒子多量

3 暗褐色 ローム粒子少量

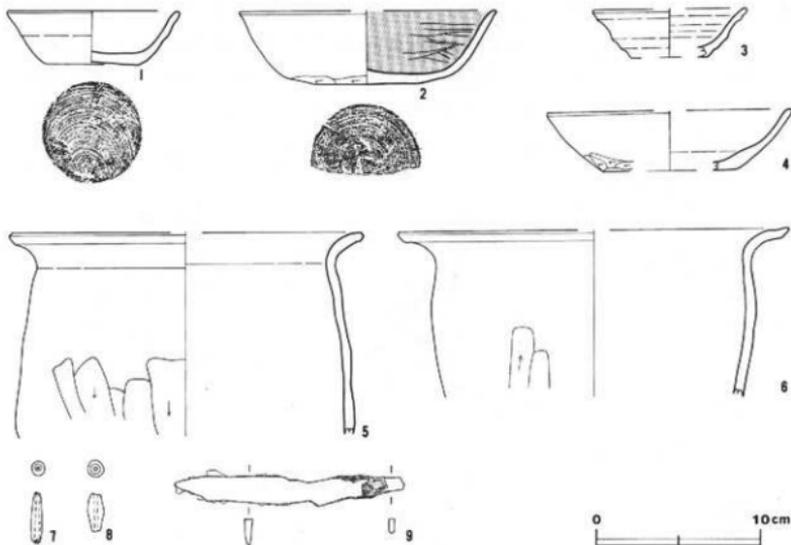
覆土 単一層であり、ロームブロックが不均一に堆積しているので、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、炭化物少量

遺物 土師器片98点、須恵器片14点、鉄製品1点、土製品2点、鉄滓2点、円礫16点、縄文土器片1点が出土している。第129図1の土師器片は竈左側の床面から正位で出土している。2の土師器片は中央部の覆土中層から出土している。3の土師器片は、竈内の円礫の支脚上から逆位で出土している。4の土師器片と5・6の土師器片は、竈内の覆土中から出土している。7・8の管状土錘は竈前面の床面から出土している。9の刀子は、竈内から出土している。鉄滓は、流動滓1点(10g)、含鉄滓1点(5g)が中央部の覆土中層から出土し、流れ込みと思われる。縄文土器片は流れ込みである。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀末から10世紀初頭と考えられる。



第129図 第66号住居跡出土遺物

第66号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備	考
第129図 1	土師器	A 10.5	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ、底部回転糸切り。	長石にぶい黄褐色 普通	P-461 竈左床面	95%
		B 3.3					
		C 6.0					
2	土師器	A [15.7]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ倒り。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。内面黒色処理。	妙粘・雲母・黒色粒 ぶい黄褐色 普通	P-462 中央部覆土中層	45%
		B 4.5					
		C 6.6					

図取番号	名称	寸法 (cm)	形状の寸法	主な特徴	土・瓦割・破成	備考
第129号	土 基 礎	A (1.94)	底面から1段部にかけての残片。体 厚は内径気味に立ち上がり、1段部 はわずかに外反する。	1段部から体部内・外面ロクロナテ。 基部直下手持ちへり削り。内径へり削 り。底面手持ちへり削り。	深緑・灰石・黒色砂 粒色 普通	P-403 堀内
		B (3.0)				
		C (1.8)				
4	土 体 跡	A (1.36)	底面から1段部にかけての残片。平 底。体部は内径気味に立ち上がり、 1段部に凸る。	1段部から体部外側ロクロナテ。基 部直下手持ちへり削り。内径へり削 り。底面手持ちへり削り。	深緑・灰石・黒色砂 粒色 普通	P-448 堀内
		B (3.7)				
5	土 基 礎	A (2.17)	体部から1段部にかけての残片。体 厚は内径気味に立ち上がり、1段 部は外反する。	1段部内・外面ロクロナテ。体部外側中 径気味のへり削り。内面ナテ。	深緑・灰石・黒色砂 粒色 普通	P-464 堀内
		B (2.25)				
6	土 基 礎	A (2.6)	体部から1段部にかけての残片。体 厚は内径気味に立ち上がり、1段部 は外反する。	1段部内・外面ロクロナテ。体部外側中 径気味のへり削り。内面ナテ。	深緑・灰石・ベニス に白い赤褐色 普通	P-463 堀内
		B (0.2)				

#### 土製品観察表

図取番号	名称	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
7	管状土器	3.1	0.8	0.2	2.0	堀内東部	D P 78 95%
8	管状土器	(2.3)	1.0	0.2	(1.7)	堀内東部	D P 79 95%

#### 金属製品観察表

図取番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
9	刀子	(14.0)	1.6	0.5	(37.2)	堀内	M53 90%

#### 第67号住居跡 (第130号)

位置 調査D区中央部、D3街区。

重複関係 本跡が第68号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。また、第66号住居跡、第270・280～282号土坑が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.20m、短軸3.90mのほぼ方形である。

主軸方向 N-17-W

壁 壁高は32cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅15～20cm、下幅4～10cm、深さ5cmで北東部を除いて確認する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、よく踏み固められている。

竈 北壁中央部を壁外へ25cm掘り込み、付設されている。規模は焚火部から煙道部までの長さ125cm、両袖間の最大幅105cmである。袖部は、灰白色粘土で構築されている。火床部は長径40cm、短径20cmの楕円形に10cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて赤変している。煙道部は火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

##### 竈土層解説

- |        |                          |        |                      |
|--------|--------------------------|--------|----------------------|
| 1 灰褐色  | ローム粒中量、ローム小ブロック・灰白色粘土粒少量 | 3 赤褐色  | 粘土粒中量、粘土小ブロック微量      |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量         | 4 赤褐色  | 焼土小ブロック・焼土粒子多量       |
|        |                          | 5 暗赤褐色 | ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量 |

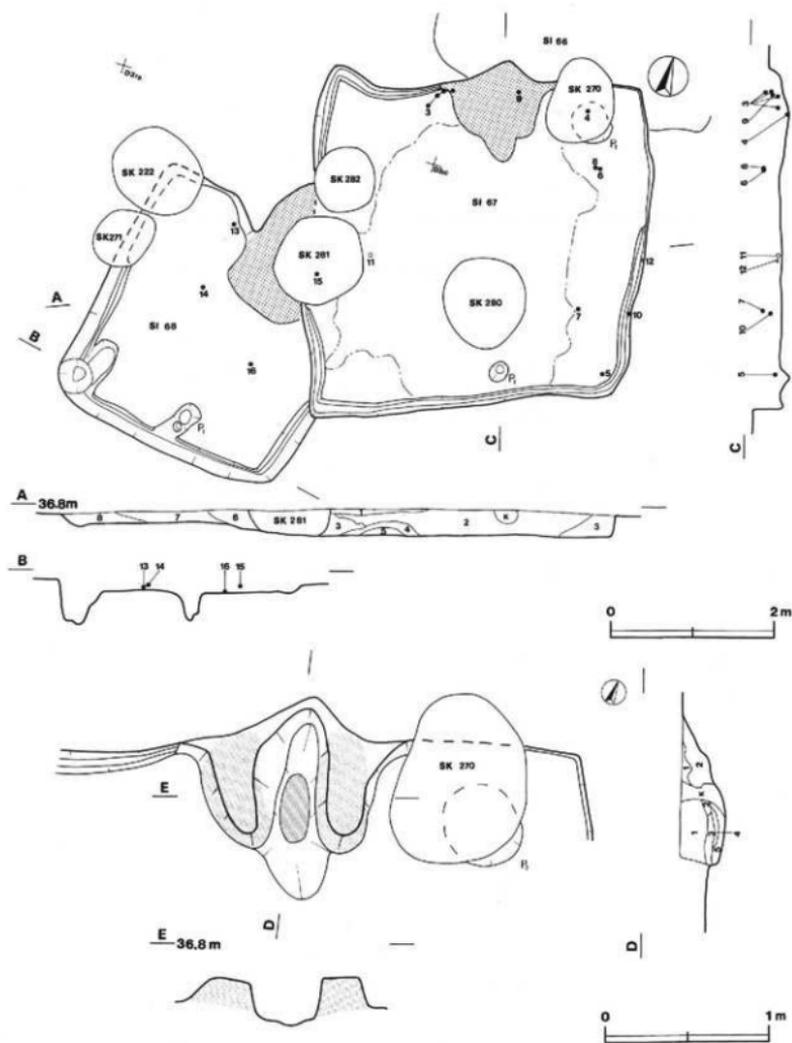
ピット 2か所(P1・P2)。P1は径25cmの円形で、深さ15cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P2は径50cmの円形で、深さ25cmである。性格は不明である。

覆土 5層からなり、ロームブロックを局部的に含有して堆積しているため、人為堆積と思われる。

##### 土層解説

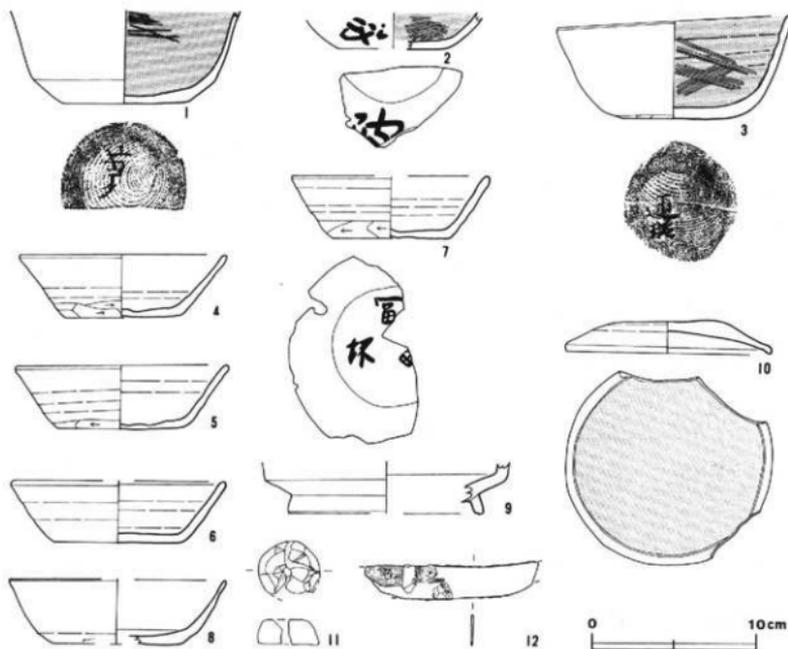
- |       |                             |       |                                |
|-------|-----------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | 溝付土                         | 3 暗褐色 | ローム中・小ブロック・ローム粒中・中量、炭化粒子・粘土粒少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒少量、粘土大・中ブロック中量 | 4 暗褐色 | ローム粒少量                         |
|       |                             | 5 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒少量、焼土粒少量          |



第130图 第67・68号住居跡

遺物 土師器片466点, 須恵器片48点, 灰釉陶器片4点, 土製品2点, 鉄製品2点, 円礫19点, 縄文土器片3点が出土している。第131図1の土師器椀, 7の須恵器杯は南東部の覆土中層から出土している。2の土師器杯は南西部の覆土中層から出土している。3の土師器椀は, 竈左側の床面から出土している。4の須恵器杯はP<sub>2</sub>の覆土中から, 5の須恵器杯は南東コーナー部の床面から, 6の須恵器杯は北東部の覆土中層から出土している。8の須恵器杯は北東部の覆土中層から出土している。9の須恵器高台付杯は竈内の覆土上層から出土している。10の須恵器蓋は東壁中央の壁溝上から横位で出土している。内面を硯として転用している。11の上製紡錘車は中央部西側の床面から, 12の鉄鎌は東壁近くの床面から出土している。縄文土器片は流れ込みである。

所見 木跡の時期は, 出土遺物から9世紀前葉と考えられる。8の須恵器は栃木県宇都宮市の宇都宮窯産である。



第131図 第67号住居跡出土遺物

第67号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備	考
第131図 1	土師器 椀	B (5.7) C 7.6	底部から外部にかけての破片。平底。 体部は内製気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端 回転へら削り。内面へら磨き。底部 回転糸切り後、回転へら削り。内面 黒色処理。	長石 褐色 普通	P 469 南東部覆土中層 底部外面磨き	30%

図面番号	器 種	JST測尺 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・施文	備 考
第131図 2	坏 土 師 器	A 23 C 16.4	底面から体誌にかけての破片。平底。体部は内側気味に立ち上がる。	体部外周ロクロナデ。内面へう巻き。底面回転糸切り。穴面無気色胎。	砂鉄・石灰・黒色鉄 褐色 青褐色	P470 南宮弥生上中層 体部外周気味
3	碗 土 師 器	A 14.4 B 6.4 C 7.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内側気味に立ち上がり。口縁部に至る。	口縁部から体部外周ロクロナデ。体部へう巻き。内面へう巻き。底面静止糸切り後、手分けへう割り。内面無気色胎。	長石 にぶい褐色 黄褐色	P473 室戸館山遺跡 底面外周・底面・手分け
4	坏 煎 豆 器	A 12.8 B 3.6 C 7.0	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり。口縁部に至る。	口縁部から体部内・外周ロクロナデ。体部へう巻き。底面回転糸切り後、へう割り。	砂鉄・石灰 赤灰褐色 良好	P475 P509野上中層 新治宮堂
5	坏 煎 豆 器	A 13.1 B 1.0 C 7.6	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり。口縁部に至る。	口縁部から体部内・外周ロクロナデ。体部へう巻き。底面一方へう割り。	砂鉄・石灰・長石 黒褐色 青褐色	P476 赤坂コーナートombs 新治宮堂
6	坏 煎 豆 器	A 13.1 B 3.8 C 7.8	底面から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり。口縁部に至る。	口縁部から体部内・外周ロクロナデ。底面回転糸切り後。底面回転糸ナデ。	砂鉄・石灰・赤褐色 黄褐色	P477 北東郡伏土中層 新治宮堂
7	坏 煎 豆 器	A 12.1 B 3.4 C 7.4	底面から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり。口縁部に至る。	口縁部から体部内・外周ロクロナデ。体部へう巻き。底面回転糸切り後。へう割り。	砂鉄・石灰・赤褐色 黒色鉄 灰褐色 青褐色	P478 南宮弥生上中層 体部外周気味・底面・新治宮堂
8	坏 煎 豆 器	A 13.2 B 1.0 C 7.4	底面から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり。口縁部に至る。	口縁部から体部内・外周ロクロナデ。底面回転糸切り後。底面回転糸ナデ。	長石 オリーブ灰色 青褐色	P479 北東郡伏土中層 宇部宮堂
9	高台付坏 煎 豆 器	B 1.2 D 12.0 E 12	高台部から体部にかけての破片。体部下部に明確な線をもち、内面はへう割りに近い。	体部内・外周ロクロナデ。底面高台切り付付焼。ナデ。	砂鉄・黒色鉄 褐色 青褐色	P482 畿内
10	坏 煎 豆 器	A 12 B 2.1	口縁部一部欠損。つまみ欠損。天月部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり。口縁部に至る。	天月部回転糸ナデ。口縁部はロクロナデ。	長石 黄褐色 青褐色	P483 東院中土師器土 内面転写気味 新治宮堂

### 土製品観察表

図面番号	器 種	寸 測 尺				出土 地 点	備 考
		長 寸 (cm)	幅 寸 (cm)	厚 寸 (cm)	重量 (g)		
11	煎 豆 器	13.8	1.5	0.5	166.4	中央部西側溝面	D P80 70%

### 金属製品観察表

図面番号	器 種	寸 測 尺				出土 地 点	備 考
		長 寸 (cm)	幅 寸 (cm)	厚 寸 (cm)	重量 (g)		
12	鉄 器 (手鐲)	(10%)	2.2	0.2	153.1	東院村中土師器	M57 板厚本厚付者 70%

### 第68号住居跡 (第130図)

位置 調査D区中央部、D36区。

重複関係 第67号住居跡。第222・271・281号土坑が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.20m、短軸3.00mで、平面形は隅丸方形と思われる。

主軸方向 N-7°-E

壁 壁高は15cmで、外傾して立ち上がる。北東部が第67号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝 上幅25～30cm、下幅3～5cm、深さ5cmで、北東部を除いて確認する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

竈 北壁中央部を境外へ掘り込み、付設されていた痕跡を確認したが、第281号土坑に掘り込まれ不明である。

ピット P<sub>1</sub>は径30cmの円形で、深さ30cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層からなり、自然堆積である。

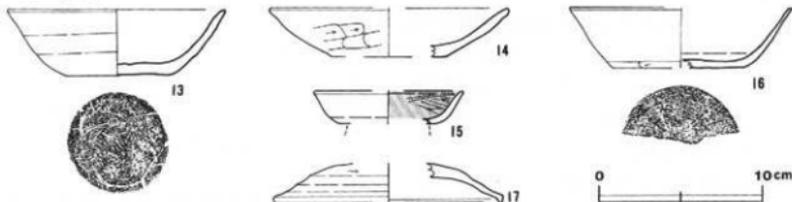
土層解説

6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中・小ブロック・粘土粒子少量

7 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子中量、炭化物・焼土粒子少量  
8 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子少量

遺物 土師器片171点、須恵器片17点、鉄製品2点、鍛冶滓1点(25g)が出土している。第132図13の土師器片は竈左側の床面から正位で出土している。14の土師器片は竈前面の覆土下層から出土している。15の土師器高台付坏は、竈右側の覆土下層から出土している。16の須恵器片は中央部の床面から逆位で出土している。17の須恵器蓋は北東部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀前葉から中葉と思われる。16の須恵器片は栃木県宇都宮市の宇都宮竈産である。



第132図 第68号住居跡出土遺物

第68号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・成焼	産地	考
第132図 13	土師器 碗	A [13.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母にふい・褐色	P 484	60%
		B [3.8]					
		C [6.1]					
14	土師器 碗	A [14.7]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部中位手持ちへつ削り。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母・スクリアにふい・褐色 普通	P 485	20%
		B [3.0]					
		C [7.0]					
15	高台付坏 土師器	A [9.2]	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。高台部剥離。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へつ磨き。底部高台括り付け板。内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 487	10%
		B [2.1]					
16	須恵器 碗	A [15.0]	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転へつ削り。底部回転糸切り後、回転へつ調整。	砂粒・石英・雲母 灰褐色 普通	P 490	45%
		B [3.7]					
		C [9.4]					
17	蓋 須恵器	A [14.0]	口縁部破片。口縁部にわずかながらが付く。	天井部付近回転へつ削り。口縁部磨ナデ。	砂粒・石英 暗灰黄色 普通	P 492	5%
		B [2.3]					

第69号住居跡 (第133図)

位置 調査D区中央部、D3es区。

重複関係 本跡が第267号土坑を掘り込んでいるため、本跡が新しい。中央部を南北に私道が走り、調査区域外となっている。

規模と平面形 長軸5.30m、短軸5.10mのほぼ方形である。

主軸方向 N-12'-W

壁 壁高は30cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅15~20cm, 下幅4~7cm, 深さ10cmで, 調査区内を全周する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で, よく踏み固められている。

竈 形状から調査区域外にあると思われる。

ピット 2か所 (P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>)。P<sub>1</sub>は径10cmの円形で, 深さ26cmである。P<sub>2</sub>は径45cmの円形で, 深さ24cmである。

いずれも支柱穴と考えられる。

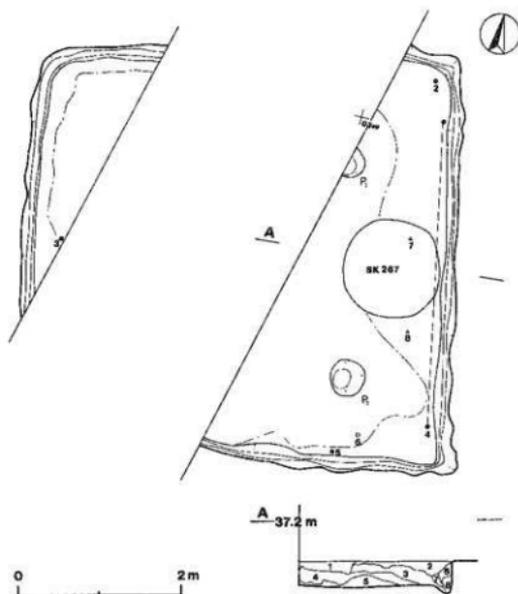
覆土 8層からなり, 自然堆積である。

土層解説

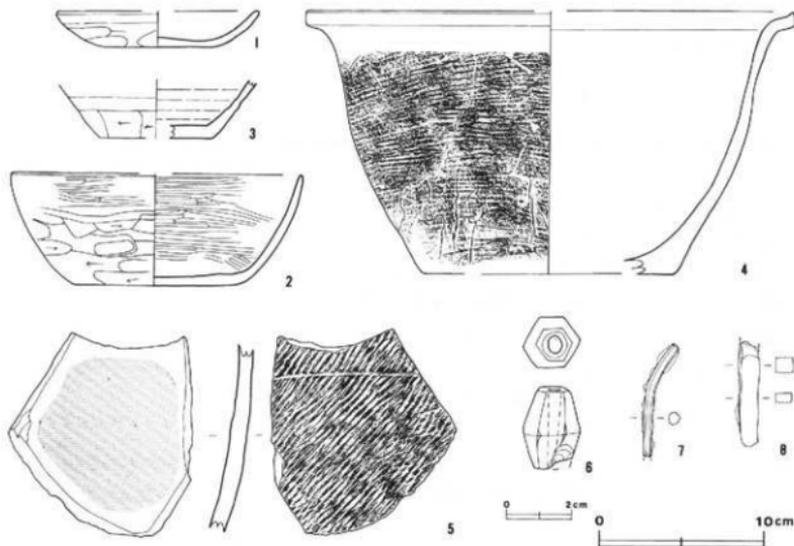
- |       |                                 |       |                     |
|-------|---------------------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化物微量         | 5 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック少量 |
| 2 棕褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量             | 6 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量,<br>ローム中ブロック微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量             |
| 4 棕褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック少量             | 8 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化物微量      |

遺物 土師器片102点, 須恵器片10点, 灰釉陶器片1点, 鉄製品2点, 石製品1点, 縄文土器片2点が出土している。第134図1の土師器環は北東部の覆土中層から出土している。2の土師器鉢は北東コーナー部の床面から正位で出土している。3の須恵器杯は, 西壁中央部の覆土下層から出土している。4の須恵器鉢は, 東壁中央部の床面から出土している。5の須恵器甕, 6の切子玉は南壁東寄りの覆土下層から出土している。5の須恵器甕は瓶に転用されている。7・8の不明鉄製品は中央部東側の床面から出土している。縄文土器片は流れ込みである。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から8世紀前葉と考えられる。



第133図 第69号住居跡



第134図 第69号住居跡出土遺物

第69号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・造成	備考
第134図 1	環	A [12.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 褐色 普通	P 894 20%
	土師器	B 2.1				
	C 7.0					
2	鉢	A [17.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内面ナデ。外面磨削位のヘラ削り。内面・口縁部外面ヘラ磨き。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・バミス に灰(褐色・中褐色) 普通	P 893 70%
	土師器	B 6.8				
	C 10.2					
3	環	B [3.5]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外縁して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・長石・バミス 灰褐色 普通	P 496 10%
	埴土器	C [6.8]				
4	鉢	A [30.0]	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横削位の平行引き。体部下端ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・長石・石英 褐色 普通	P 497 40%
	埴土器	B 16.1				
	C [15.6]					
5	葉形土器	B (12.2)	体部片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面削位の平行引き目。内面同心円当て具痕。	長石 灰色 普通	P 898 5%
	埴土器					

石製品観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
6	切子玉	2.7	1.6	0.5	(7.9)	水晶	南壁東寄り覆土下層	Q-43 90%

金属製品観察表

図録番号	種類	計 測 値				出土地点	番 号
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(mm)	重量(g)		
7	不明鉄製品	(7.0)	3.0	0.6	(10.7)	中央東側床面	M58
8	不明鉄製品	(6.5)	1.2	0.9	(21.2)	中央東側床面	M59

第70号住居跡 (第135図)

位置 調査D区西部, D3f区。

重複関係 第226号土坑が本跡を掘り込んでいるため, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.80m, 短軸2.0mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は15cmで, 外傾して立ち上がる。

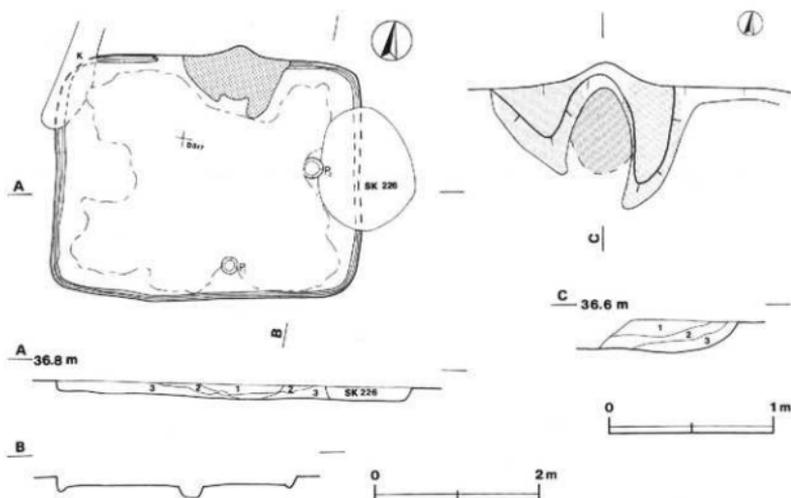
壁溝 上幅5~15cm, 下幅3~5cm, 深さ10cmで全周する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で, よく踏み固められている。

竈 北壁中央部を壁外へ15cmほど掘り込み, 付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ90cm, 両袖間の最大幅70cmである。袖部は灰褐色粘土で構築されている。火床部は長径55cm, 短径35cmの楕円形に5cmほど掘りくぼめられ, 熱を受けて赤変している。煙道部は火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

- |   |                        |   |
|---|------------------------|---|
| 1 にふい赤褐色<br>小ブロック少量                               | 灰褐色粘土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム | 3 暗赤褐色<br>粘土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子中量,<br>粘土粒子・灰少量 |
| 2 暗灰色<br>粘土粒子多量, 灰褐色粘土小ブロック中量, 焼<br>土小ブロック・焼土粒子少量 |                        |   |



第135図 第70号住居跡

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は径20cmの円形で、深さ15cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

P2は径25cmの円形で、深さ16cmである。性格は不明である。

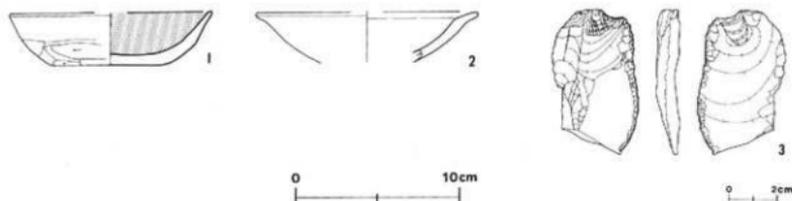
覆土 3層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量  
 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック中量、粘土  
 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量  
 粒子少量、炭化粒子少量

遺物 土師器片55点、須恵器片5点、鉄製品2点、縄文土器片4点、石器1点が出土している。第136図1の土師器杯は竈石鎮の床面から正位で出土している。2の土師器杯は中央部の覆土中層から出土している。3のスクレイパーは南壁東寄りの覆土下層から出土している。縄文土器片は流れ込みである。

所見 本跡の時期は、出土遺物から8世紀前葉と思われる。



第136図 第70号住居跡出土遺物

第70号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(mm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 1	杯 土師器	A 12.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロコナデ。体部中位から下縁手持ちへつ前り。内面へつ折き。底部手持ちへつ前り。内面黒色処理。	緑・石黄・雲母にふい棕色 普通	P499 30% 竈石鎮床面
		B 3.2				
		C 7.0				
2	杯 土師器	A 13.5	体部から口縁部にかけての破片。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ロコナデ。	緑・石黄・雲母 棕色 普通	P500 3% 中央部覆土中層
		B (3.1)				

石製品観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
3	スクレイパー	5.9	3.6	1.1	18.3	チャート	南壁東寄り覆土下層	Q44

第71号住居跡 (第137図)

位置 調査D区西部、D3g区区。

重複関係 本跡が第72号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.20m、短軸2.50mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は45~50cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅20~25cm、下幅5~10cm、深さ5cmで、全周する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

竈 北壁中央部を壁外へ60cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ105cm、両袖間の最大幅130cmである。袖部は灰白色粘土で構築されている。火床部は長径50cm、短径40cmの楕円形に5cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて硬化している。煙道部は、火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

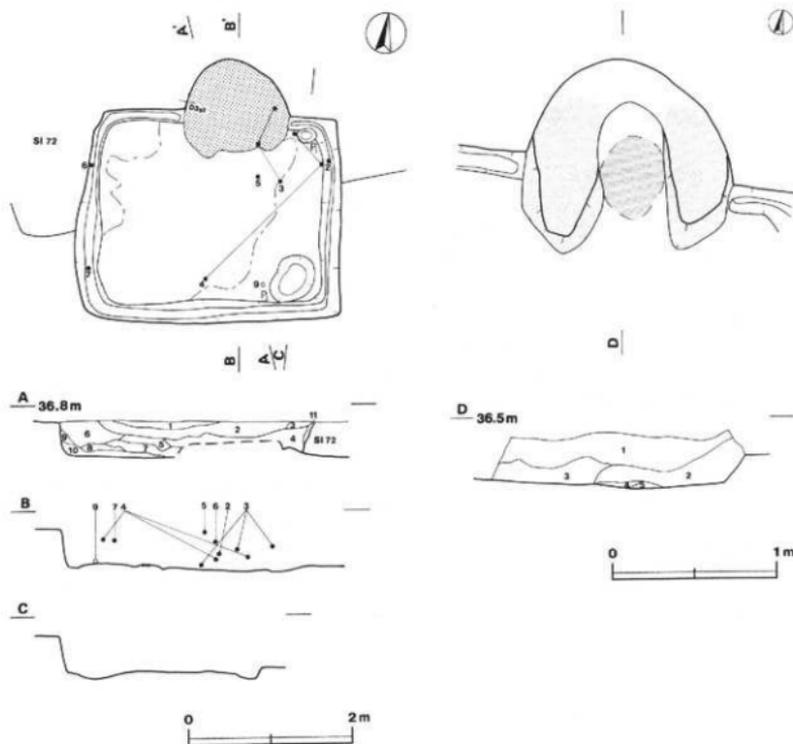
- |                                      |                                      |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 に濃い赤褐色 灰白色粘土粒子中量、焼土粒子・灰白色粘土小ブロック少量 | 3 暗褐色 灰白色粘土粒子少量、焼土粒子・ローム粒子・粘土小ブロック微量 |
| 2 灰褐色 灰白色粘土小ブロック・粘土粒子中量、焼土粒子・ローム粒子微量 | 4 黒色 炭化粒子多量、焼土粒子微量                   |
|                                      | 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量                 |

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は長径25cm、短径15cmの楕円形で、深さ10cmである。底部に灰白色粘土が張り付けられており、何かを置いたピットと思われる。P2は長径60cm、短径50cmの楕円形で、深さ10cmの皿状である。性格は不明である。

覆土 11層からなり、自然堆積である。

土層解説

- |                                      |                                    |
|--------------------------------------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック微量             | 3 褐色 ローム粒子多量、灰白色粘土粒子中量             |
| 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 灰褐色 灰白色粘土粒子多量、焼土小ブロック・ローム小ブロック微量 |

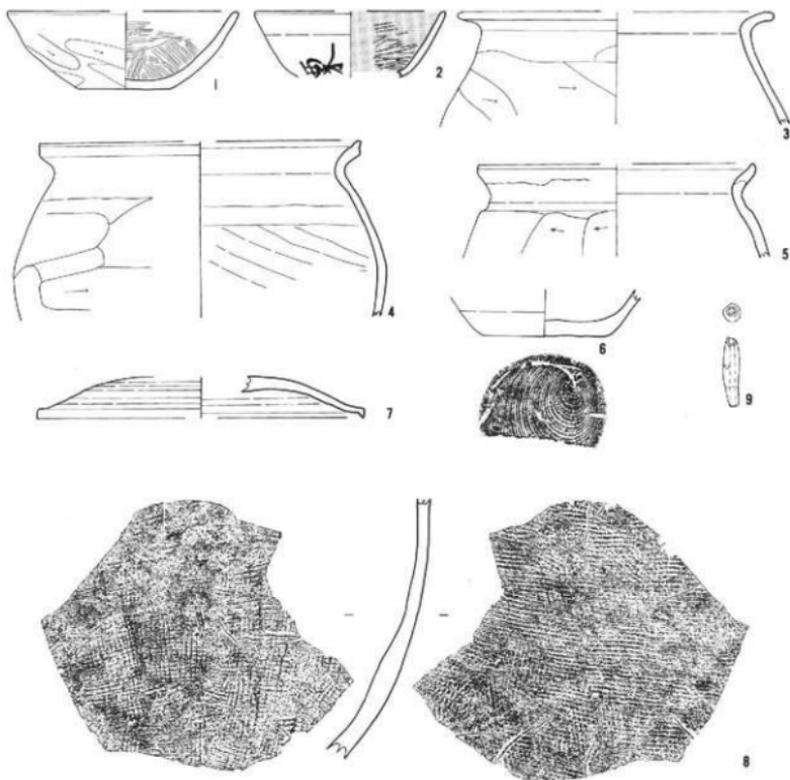


第137図 第71号住居跡

- 5 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土  
粒子微量  
6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・ロ  
ーム小ブロック微量  
7 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・灰白  
色粘土粒子微量

- 8 褐色 ローム小ブロック多量、炭化物微量  
9 黒褐色 灰白色粘土粒子少量、ローム粒子微量  
10 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・粘土小ブ  
ロック・粘土粒子少量、炭化物微量  
11 褐色 ローム粒子多量

**遺物** 土師器片173点、須恵器片20点、鉄滓1点、土製品1点が出土している。第138図1の土師器環は中央部の覆土中層から出土している。2の土師器環は東壁中央部の覆土下層から出土している。3の土師器甕は中央部の床面から、4の土師器甕は中央部の覆土下層から破片が散在するように出土している。5の土師器甕は中央部の覆土上層から出土している。6の須恵器環は西壁中央部の覆土中層から出土し、9の管状土鍾は南壁中央の床面から出土している。7の須恵器蓋は、南西コーナー部の覆土上層から出土している。8は須恵器甕の体部片で、外面に横位の平行叩きで、内面に格子目の当て具痕が見られる。鉄滓は、含鉄滓で南東コーナー部の覆土中層から出土し、流れ込みと思われる。



第138図 第71号住居跡出土遺物

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉と考えられる。6の須恵器坏は栃木県佐野市・岩舟町の三澁川  
 流産産である。

第71号住居跡出土遺物観察表

図版番号	品名	測定値(mm)	形状の特徴	手法の特徴	粘土・色・焼成	備考
第134図 1	灰 土 胎 器	A (142)	灰部から口縁部にかけての破片。平 底。体部は内湾気味に立ち上がり、 口縁部は直る。	口縁部から体部内・外面ロクロナア。 体部口位から下部手持りへ向き、 底平へ向き。内面へ向き。	砂粒・炭屑・ハミヌ に多い黄褐色 赤褐色	P301 中央部遺土中層
		B (47)				
		C (36)				
2	灰 土 胎 器	A (116)	体部から口縁部にかけての破片。体 部は内湾気味に立ち上がり、口縁部 は直る。	口縁部から体部外側ロクロナア。内 面へ向き。内面黒色処理。	灰石・炭屑・黒色粒 に多い黄褐色 赤褐色	P302 東部中央部上層 外部表面 裏の壁石
		B (23)				
3	灰 土 胎 器	A (194)	体部から口縁部にかけての破片。体 部は内湾しながら立ち上がる。頸部 はくの字状を呈し、口縁部は外傾す る。	口縁部内・外面ロクナア。体部外側機 位のへ向き。内面赤土。	砂粒・石炭・炭屑 褐色 赤褐色	P303 中央部床面
		B (69)				
4	灰 土 胎 器	A (198)	体部から口縁部にかけての破片。体 部は内湾しながら立ち上がる。頸部 はくの字状を呈し、口縁部は外傾す る。口縁部は上方につまみ上げら れている。	口縁部内・外面ロクナア。体部外側中 外機位のへ向き。内面赤土。	砂粒・炭屑・スリア 褐色 赤褐色	P306 中央部遺土下層
		B (167)				
5	灰 土 胎 器	A (170)	体部から口縁部にかけての破片。体 部は内湾しながら立ち上がる。頸部 はくの字状を呈し、口縁部は外傾す る。	口縁部内・外面ロクナア。体部外側機 位のへ向き。内面赤土。輪縁のみ 普通。	砂粒・長石・炭屑 に多い赤色 普通	P308 中央部遺土上層
		B (50)				
6	灰 土 胎 器	A (200)	体部から口縁部にかけての破片。平 底。体部は内湾気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナア。気部取付部 あり。	灰石 灰褐色 普通	P304 西半中央部中層 ・森山穴遺物
		B (50)				
7	灰 土 胎 器	A (200)	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部から口縁部にかけてはドーム 状を呈している。口縁部部におそ なけがれがみられる。	天井部から口縁部内・外面ロクナ ア。	砂粒・石炭・ハミヌ 灰褐色 普通	P305 西側コーナー遺土上層 壁内面壁
		B (25)				

土製品観察表

図版番号	品名	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(mm)	径 (mm)	孔径(mm)	重量(g)		
9	管状土器	42	19	0.8	1.3	南東中央部	D P 81 95%

第72号住居跡 (第139図)

位置 調査D区西部、D3a区。

遺構関係 第71号住居跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 北側が調査区域外に伸びており、東西6.00m、南北(3.50m)で長方形と推定される。

主軸方向 N-15°-W

壁 壁高は35cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅20～35cm、下幅5～15cm、深さ15cmで、調査区域内は全周する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

礎 調査区域内では確認されなかった。

ピット 3か所(P1～P3)。P1は長径85cm、短径60cmの楕円形で、深さ60cmである。P2は径60cmの円形で、深  
 さ75cmである。いずれも主柱穴と思われる。P3は径20cmの円形で、深さ15cmである。出入口施設に伴うピット

トと考えられる。

**P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>土層解説**

- |       |                                 |       |                    |
|-------|---------------------------------|-------|--------------------|
| 1 灰褐色 | ローム小ブロック・黒褐色土小ブロック中量、ローム中ブロック少量 | 2 暗褐色 | ローム砂子多量、ローム中ブロック少量 |
|       |                                 | 3 暗褐色 | ローム砂子中量、ローム小ブロック少量 |

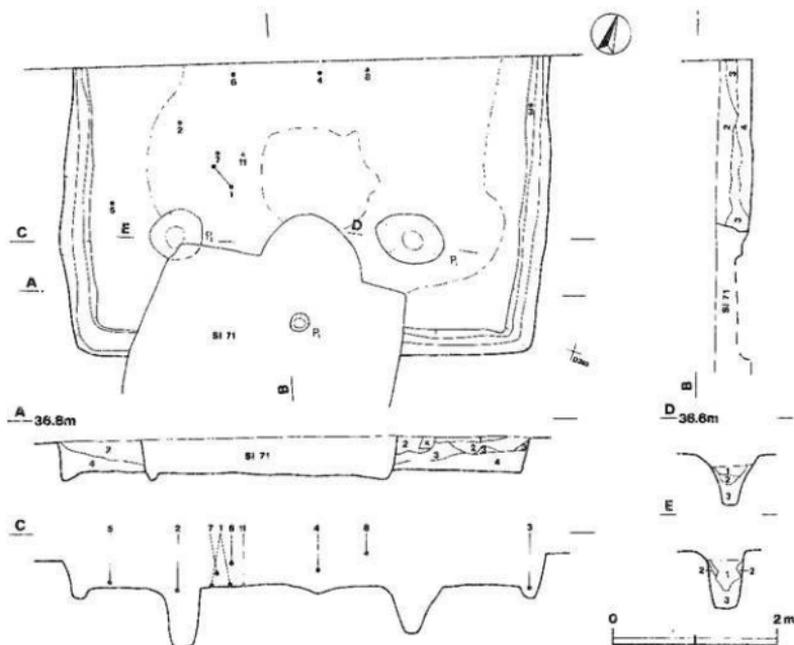
**覆土** 4層からなり、自然堆積である。

**土層解説**

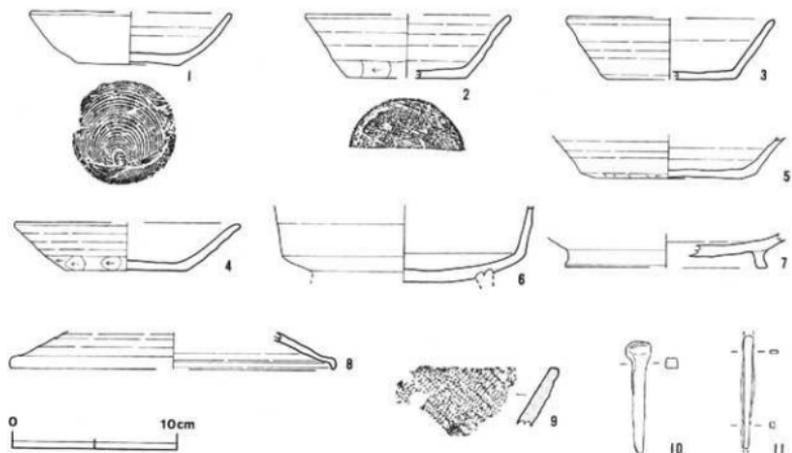
- |       |                              |       |  |
|-------|------------------------------|-------|--|
| 1 褐色  | ローム砂子中量                      | 3 褐色  | ローム砂子多量、ローム小ブロック微量                     |
| 2 暗褐色 | ローム砂子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム砂子・黒褐色土小ブロック少量、焼土小ブロック微量 |

**遺物** 土師器片170点、須恵器片102点、鉄製品4点、縄文土器片2点が出土している。第140図1の土師器杯、2の須恵器杯は中央部西側の床面から出土している。3の須恵器杯は東壁中央部の床面から出土している。4の須恵器杯、6の須恵器高台付杯、8の須恵器蓋、10の鉄釘は、中央部の覆土中層から出土している。5の須恵器杯は西壁中央部の覆土下層から、7の須恵器高台付杯は中央部西側の覆土中層から出土している。11の不明鉄製品は、中央部の床面から出土している。9は縄文土器片の拓影図である。臼縁部片で早稲RL縄文の横回転が施されている。黒浜式に比定されるものである。縄文土器片は流れ込みである。

**所見** 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉と考えられる。2・4の須恵器杯は岩瀬川の堤ノ内窯産である。



第139図 第72号住居跡



第140図 第72号住居跡出土遺物

第72号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色美・焼成	備考
第140図 1	坏	A [12.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	石灰・スコリアに多い橙色 普通	P512 40% 中央部西側床面
	土師器	B 3.3				
	C 6.2					
2	坏	A [12.5]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへう割り。底部手持ちへう割り。	砂粒・長石 灰黄色 普通	P515 40% 中央部西側床面 堀ノ内窯産
	須恵器	B 3.9				
	C [7.2]					
3	坏	A [12.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへう割り。底部へう割り。	砂粒・長石 灰青色 普通	P516 30% 東側中央床面
	須恵器	B 3.8				
	C [7.9]					
4	坏	A [13.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへう割り。底部手持ちへう割り。	砂粒・黒色粒 灰黄褐色 普通	P517 30% 中央部覆土中層 堀ノ内窯産
	須恵器	B 3.0				
	C 7.3					
5	坏	B [2.2]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへう割り。底部回転へう割り後へう割り。	砂粒・石英・雲母 明褐色 普通	P519 10% 西側中央覆土下層 新治窯産
	須恵器	C 8.8				
6	高台付坏	B [4.7]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾する。高台部割離。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台割り付け板。	砂粒・石英・雲母 針状結核 黄灰色 普通	P521 25% 中央部覆土中層 本業下窯産
	須恵器					
7	高台付坏	B [2.1]	破片。台部はハの字状に開く。	底部内・外面ロクロナデ。底部高台割り付け後、ナデ。	砂粒・長石・雲母 黄灰色 普通	P522 15% 中央部西側覆土中層
	須恵器	D [12.4]				
	E 1.1					
8	壺	A [20.0]	天井部から口縁部にかけての破片。天井部から口縁部にかけてはドーム状をしている。口縁端部にわずかなえりぎが付く。	天井部から口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・石英・ハミス 灰黄色 普通	P523 10% 中央部覆土中層 堀ノ内窯産
	須恵器	H [2.5]				

金属製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
10	鉄針	(6.9)	1.6	0.6	(14.8)	中央部覆土中層	M160 60%
11	不明鉄製品	(6.9)	0.6	0.4	(5.7)	中央部床面	M161

第73B号住居跡（第141図）

位置 調査D区西部、D3g区。

重複関係 本跡が第73A号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。また、第320号土坑が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

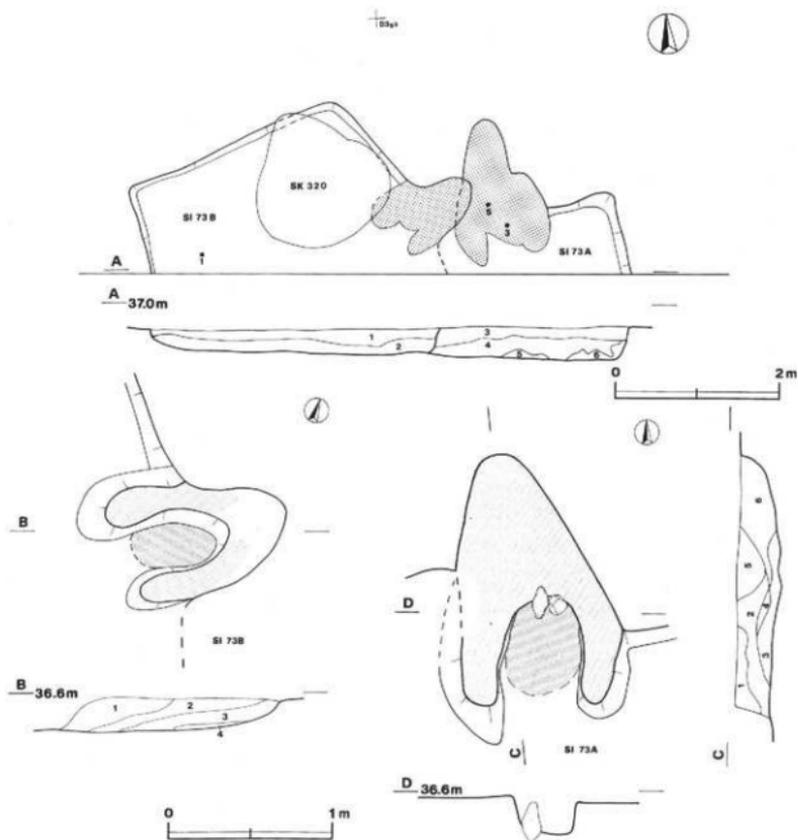
規模と平面形 南側が調査区域外に延びており、東西3.20m、南北（1.10m）で、平面形は不明である。

主軸方向 N-72°-E

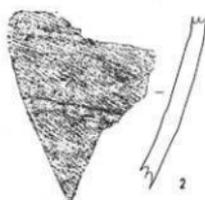
壁 壁高は35cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

竈 東壁中央部を壁外へ60cmほど掘り込み付設されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ110cm、両袖間の最大幅80cmである。袖部は、褐色の砂質粘土で構築されている。火床部は長さ50cm、短径30cmの楕円



第141図 第73A・B号住居跡



第142図 第73B号住居跡出土遺物

形に2cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

**覆土層解説**

- 1 暗赤褐色 ローム中・小ブロック少量、焼土粒子・ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・ローム中・小ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子微量
- 4 に近い赤褐色 焼土大ブロック・焼土粒中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック微量

**覆土** 2層からなり、自然堆積である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子・焼沼土微量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック中量、焼土粒子・ローム粒子少量

**遺物** 土師器片5点、炭化材片1点が出土している。第142図1の土師器片は、中央部西側の床面から出土している。2は須恵器甕の体部片で、外面に平行叩きが施されている。

**所見** 本跡は、出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが、第73A号住居跡との重複関係から10世紀前半以降と思われる。長さ15cm、幅5cmの炭化材は中央部西側の床面から出土していることから、本跡は焼失家屋と思われる。

**第73B号住居跡出土遺物観察表**

図取番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第142図 1	土師器 土師器	A [13.6] B (3.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内唇気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・石瓦・スクリア 褐色 普通	P529 中央部西側床面

**第73A号住居跡 (第141図)**

**位置** 調査区西部、D3g3区。

**重複関係** 第73B号住居跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

**規模と平面形** 南側が調査区域外に延びており、東西2.20m、南北(1.00m)で、平面形は不明である。

**主軸方向** N-15°-W

**壁** 壁高は40cmで、外傾して立ち上がる。

**床** 全体的に平坦で、踏み固められている。

**竈** 北壁中央部を壁外へ120cmほど掘り込み、付設されている。規模は、突口部から煙道部までの長さ170cm、両袖間の最大幅115cmである。袖部は、砂質粘土で構築されている。長さ35cm、幅10~20cmの円礫が袖部の補強材として使用されている。火床部は長径60cm、短径45cmの楕円形に2cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

**覆土層解説**

- 1 に近い褐色 焼沼土少量、炭化材・ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 ローム大ブロック中量、焼土粒子微量
- 3 に近い赤褐色 焼土大ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 に近い赤褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量

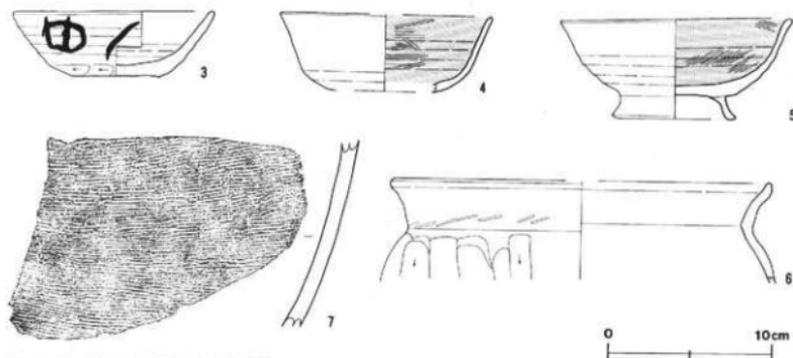
**覆土** 4層からなり、鹿沼土がブロック状に堆積することから、人為堆積と思われる。

**土層解説**

- 3 黒褐色 ローム粒子中量、炭化材微量
- 4 に近い褐色 ローム粒子・焼沼土中量、ローム大ブロック少量、炭化材微量
- 5 黒褐色 焼土粒子中量、焼沼土微量
- 6 に近い褐色 ローム小ブロック・焼沼土小ブロック少量

遺物 土師器片100点, 須恵器片11点, 鉄製品4点, 鉄滓(鍛治滓)3点(5g)が出土している。第143図3の土師器杯は, 竈内の火床部から正位で出土している。4の土師器杯, 6の土師器甕は竈内の覆土中から出土している。5の土師器碗は竈左袖内から正位で出土している。7は須恵器甕の体部片で, 外面に横位の平行叩きが施されている。鉄滓は中央部北側の覆土上層から出土し, 流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から10世紀前半と考えられる。



第143図 第73A号住居跡出土遺物

第73A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第143図 3	杯 土師器	A 12.4 B 4.0 C 5.4	平底。体部は内埴気味に立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへつ回り。或部手持ちへつ回り。	石英・長石 褐色 普通	P524 竈内 体部外面磨き
4	土師器	A [13.0] B (4.7) C [5.9]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内埴気味に立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へつ磨き。内面黒色処理。	石英・長石・スコリア にぶい褐色 普通	P525 竈内 二次焼成
5	碗 土師器	A 14.2 B 6.2 D 7.6 E 1.5	平底。体部は内埴気味に立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。右部はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面へつ磨き。或部高台廻り付け後, ナデ。内面黒色処理。	安母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P527 竈左袖上 二次焼成
6	甕 土師器	A [23.4] B (6.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内埴しなかり立ち上がる。頸部はくハの字状を呈し, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面部位のへつ回り。内面ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母・黒色粒 にぶい黄褐色 普通	P528 竈内

第74号住居跡 (第144図)

位置 調査D区西部, D2gm区。

規模と平面形 北側が調査区域外に延びており, 東西3.50m, 南北(1.40m)で, 方形か長方形と推定される。

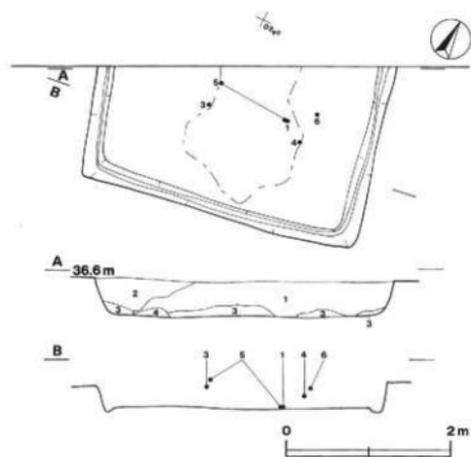
主軸方向 N-9°-W

壁 壁高は30cmで, 外傾して立ち上がる。

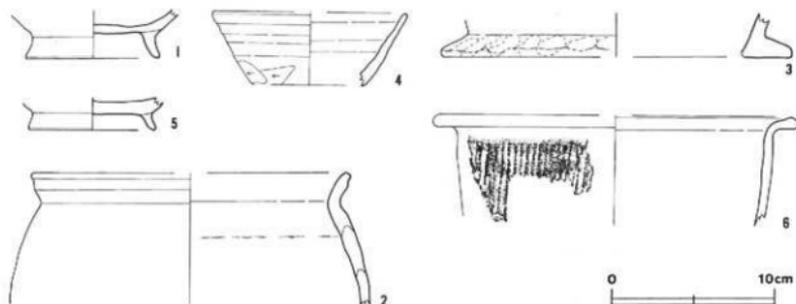
壁溝 上幅15~25cm, 下幅2~5cm, 深さ5cmで調査区域内は全周する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で, 中央部がよく踏み固められている。

竈 調査区域内では確認できなかった。



第144図 第74号住居跡



第145図 第74号住居跡出土遺物

第74号住居跡出土遺物観察表

図版番号	部 種	寸法(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第145図 1	高台付碗 土 師 器	B (29) D 8.2 E 1.7	高台部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。台部はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台部 り付け後、ナデ。	砂粒・長石・雲母 にふい黄褐色 普通	P533 40% 中央部床面
2	甕 土 師 器	A [19.6] B (8.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し、口縁部は外開する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦 位のナデ。内面横ナデ。輪積み灰。	長石・スコリア 褐色 普通	P536 10% 中央部覆土中層
3	瓶 土 師 器	B (27) C [21.5]	底部片。体部は内彎気味に立ち上がる。底部は筒状に横方向に開く。	体部内・外面ナデ。底部外面手持 ヘラ痕り。底部は筒状部脚正直。	細粒スコリア・ピリス にふい褐色 普通	P537 3% 中央部覆土上層

覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量

遺物 土師器片149点、須恵器片47点、鉄滓（鍛冶滓）1点（15g）が出土している。第145図1の上師器高台付碗は、中央部の床面から出土している。2の土師器甕、4の須恵器杯、5の須恵器高台付杯は、中央部の覆土中層から出土している。3の土師器瓶は、中央部の覆土上層から出土している。6の須恵器甕は、中央部東側の覆土中層から出土している。鉄滓は、中央部の覆土上層から出土し、流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀末から10世紀初頭と考えられる。

区画番号	器 種	寸法(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第145区 4	坏 須 志 器	A [120]	底部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面口クロナテ。体部ノミ手持ちヘラ削り。	粉粒・石英・パリス 明褐色 普通	P538 5% 中央部覆土中層
		B [20]				
		C [69]				
5	高台付坏 須 志 器	H [20]	底部片。台部はハの字状に開く。	底部内面口クロナテ。底部面台形り付け後、ナテ。	粉粒・石英・パリス 褐色 普通	P539 10% 中央部覆土中層
		D 7.8				
		E 1.1				
6	美 須 志 器	A [22.4]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面口クロナテ。体部外面腹位の平行引き、内面口クロナテ。	粉粒・パリス 灰色 普通	P540 5% 中央部美須覆土中層 新治窯産
		B [66]				

### 第76号住居跡 (第146区)

位置 調査E区中央部, D210区。

重複関係 第284・285号土坑が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 北側が調査区域外に延びており、東西2.70m, 南北(1.60m)で、方形が長方形と推定される。

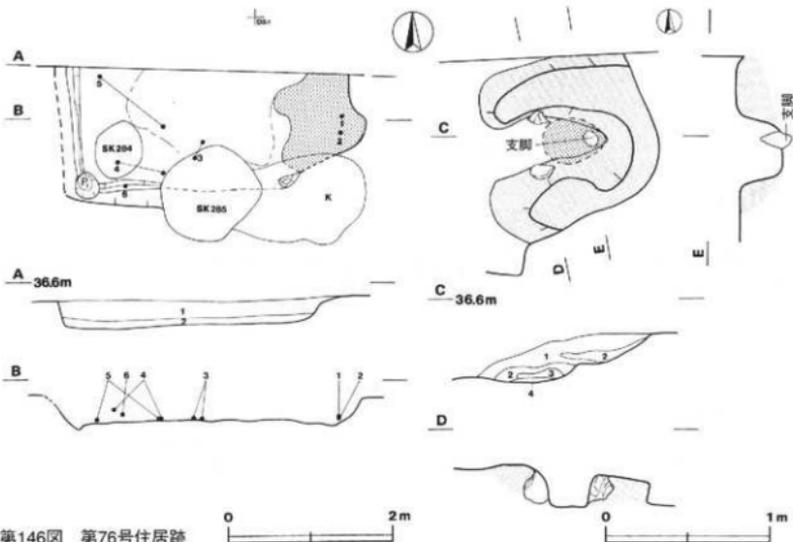
主軸方向 N-85°-W

壁 壁高は30cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅15~25cm, 下幅2~5cm, 深さ5cmで調査区域内は全周する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 東壁中央南寄りを壁外へ70cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ100cm, 両袖間の最大幅(100cm)である。袖部は、灰褐色粘土で構築されている。礎を両袖部の補強材として利用している。火床部は長径40cm, 短径30cmの楕円形に5cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて赤変硬化している。円礎を支脚として火床部中央に埋設して使用している。煙道部は、火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。



第146区 第76号住居跡

甑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粘土粒子微量  
 2 灰褐色 粘土中・小ブロック・粘土粒子多量、ローム粒子微量  
 3 赤褐色 焼土大ブロック・焼土粒子多量、灰微量  
 4 赤灰色 灰少量、焼土粒子微量

ピット P<sub>1</sub>は径30cmの円形で、深さ35cmである。性格は不明である。

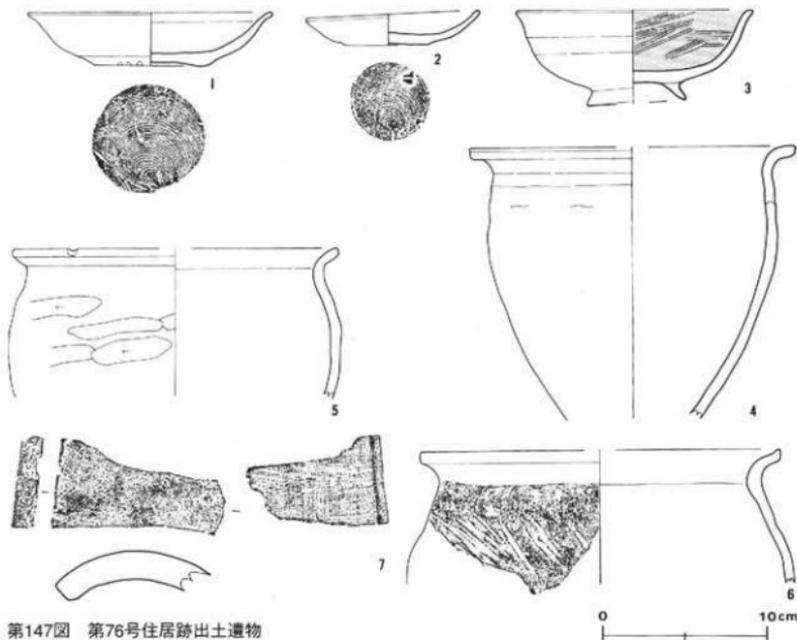
覆土 2層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化  
 粒子微量  
 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片205点、須恵器片13点、瓦片1点、鉄滓（含鉄滓）1点（10g）が出土している。第147図1の土師器皿、2の土師器小皿は竈内の覆土中から逆位で出土している。3の土師器高台付碗は、中央部の床面から出土している。4の土師器甕は、南壁中央部付近の床面から出土している。5の土師器甕は西壁中央部の覆土下層から、6の土師器甕は南壁中央部の覆土中層から出土している。7の丸瓦は、中央部の覆土中層から出土している。鉄滓は中央部の覆土上層から出土し、流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、出土遺物から10世紀後半と考えられる。



第147図 第76号住居跡出土遺物

第76号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の身数	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第147図	皿	A 14.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内帯	口縁部から体部内・外面ワタロナテ。	粉粒・舌粒・ハミス	F506
1	土師器	B 3.3	気味に立ち上がり、口縁部はわずかに	底部回転糸切り。底部外面へウ当て	にふい藍色	竈内
	器	C 0.5	に外反する。	丸。	普通	

ICR番号	器 種	SHM番号	器 形 の 詳 細	手 続 の 詳 細	出土・包埋・処理	備 考
1	土師器	A 106 B 21 C 48	灰部から口縁部にかけての残片。灰部、灰部は内側赤褐色に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から灰部内・外面ロウナガサ、灰部は細粒の。	神代・石丸・志保 に深い褐色 普通	P587 25%
3	高台付甕 土師器	A 143 B 55 C 60 D 13	高台部から口縁部にかけての残片。中央部は口縁部に向く。灰部は内側赤褐色に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から灰部内・外面ロウナガサ、内面へラウナガサ。灰部は細粒の。口縁部はわずかに外反する。	長石 に深い褐色 普通	P500 25%
4	甕 土師器	A 120,0 B 116,0	灰部から口縁部にかけての残片。灰部は内側赤褐色に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部をへら面磨ナゲ、灰部内・外面は細粒のナゲ。灰部は細粒の。	神代・石丸・志保 に深い褐色 普通	P502 10%
5	土師器	A [20] B [9.1]	灰部から口縁部にかけての残片。灰部は内側赤褐色に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面磨ナゲ、灰部外面は細粒のへら磨り。内面ナゲ。口縁部へラウナガサ。	神代・志保・バミス に深い褐色 普通	P552 10%
6	土師器	A [22] B [8.2]	灰部から口縁部にかけての残片。灰部は内側赤褐色に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口縁部はわずかに上方に突き上げられている。	口縁部内・外面磨ナゲ、灰部外面は細粒のへら磨り。内面ナゲ。	神代・石丸・志保 に深い褐色 普通	P264 5%

### 土製品観察表

ICR番号	器 種	土 質 観 察				出土 照 点	備 考
		径(mm)	細 目	砂(mm)	重量(g)		
7	丸 瓦	( 5.5)	( 9.5)	0.6	(107.7)	中央部覆土中層	T13 西田春日集 西田中層 5%

### 第77号住居跡 (第148図)

位置 調査E区中央部、C4j1区。

重複関係 本跡が第315号土坑に掘り込まれているため、本跡が古い。

規模と平面形 東側の一部が調査区域外に延びており、長軸4.30m、短軸(3.10m)で、方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は16cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅15～25cm、下幅2～5cm、深さ5cmで調査区域内の壁下を全周する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北東中央部を壁外へ30cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ90cm、両袖間の最大幅80cmである。袖部は、褐色粘土で構築されている。火床部は、径30cmの円形に10cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて赤変酸化している。煙道部は、火床部から緩やかに立ち上がる。

#### 覆土層解説

- |        |                       |          |                         |
|--------|-----------------------|----------|-------------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量      | 3 に深い赤褐色 | 焼土人ブロック・焼土粒子多量、粘土粒子・灰微粒 |
| 2 灰 褐色 | 焼土人ブロック・粘土粒子多量、焼土粒子微量 | 4 暗 赤褐色  | 焼土粒子少量、粘土粒子微量           |

覆土 3層からなり、自然堆積である。

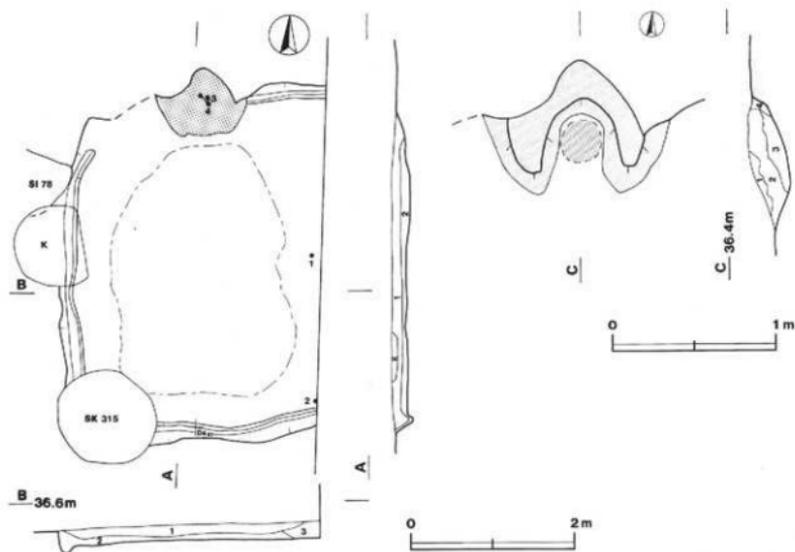
#### 土層解説

- |        |                                |        |                |
|--------|--------------------------------|--------|----------------|
| 1 黒 褐色 | ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 暗 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗 褐色 | ローム中・小ブロック中量、ローム粒少量            |        |                |

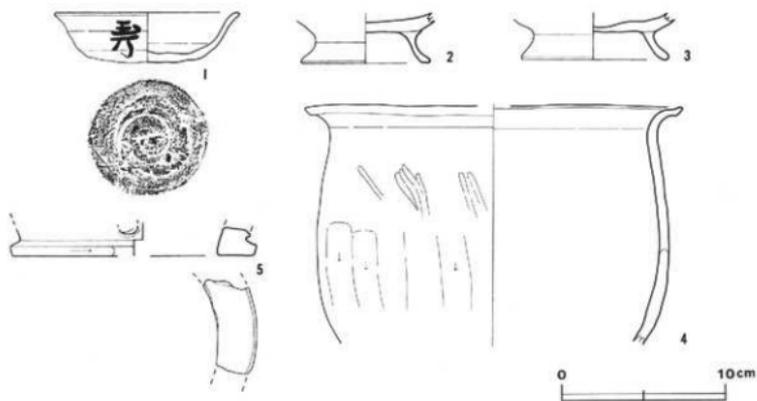
遺物 土師器片197点、須臾器片26点、灰釉陶器片2点、鉄滓1点(135g)、土製品3点が出土している。第149

図1の土師器杯は中央部東側の覆土上層から正位で出土している。2の土師器高台付杯は、南東部の覆土下層から出土している。3の土師器高台付杯、4の土師器甕は竈内の覆土中から出土している。5の土師

器櫃は北西部の覆土上層から出土している。鉄滓は流れ込みと思われる。



第148図 第77号住居跡



第149図 第77号住居跡出土遺物

第77号住居跡出土遺物観察表

調査区分	遺 跡	調査点	遺 物 の 特 徴	手 取 の 特 徴	出土・発掘・後成	備 考
第140回	1	A 111	土底、体部は内厚気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する	口縁部から体部内、外面はクワロナテ、灰釉面はヘタ張り	薄緑・土色・スコリアに多い褐色	P568 10%
		B 21 C 69				
2	高台付体 土 雑 器	B 131	底面片、可成、体部は内厚気味に立ち上がる。内面は反くハの字状に開く。	体部内・外面クワロナテ、底面は全張り付いた、ナメ。	灰白・スコリアに多い褐色	P569 30%
		D 80				
		E 20				
3	高台付体 土 雑 器	B 239	底面片、可成、体部は内厚気味に立ち上がる。台部はハの字状に開く。	体部内・外面クワロナテ、底面は全張り付いた、ナメ。	薄緑・黄白・スコリアに多い褐色	P570 30%
		D 90				
		E 17				
4	土 雑 器	A 12315	体部から口縁部にかけての底片、体部は内厚しながら立ち上がり、口縁部は外反する	口縁部は内・外面無ナテ、体部は内厚気味のヘタ張り、内面ナメ。	薄緑・土色・スコリアに多い褐色	P572 10%
		B 1480				
5	土 雑 器	B 147	底面から体部にかけての底片、体部は内厚しながら立ち上がる。底面は口縁部に傾方向に開く。	体部内・外面無ナテ、底面は反ヘタ張り、体部・底面から内面に穿孔。	薄緑・長石・空母に多い褐色	P574 3%
		C 1460				

第78号住居跡 (第150回)

位置 調査E区中央部、D2区。

重複関係 本跡が第233・317・319号土坑を掘り込んでいるため、本跡が新しい。また、第316・318号土坑が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.00m、短軸3.00mで、長方形である。

主軸方向 N-87°-E

壁 壁高は15～20cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 上唇15～35cm、下唇2～5cm、深さ5cmで西壁下の一部を除いて確認する。断面形はL字形である。

床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 東壁中央北寄りを壁外へ60cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ100cm、両袖間の最大幅110cmである。袖部は、褐色粘土で構築されている。火床部は、長径35cm、短径25cmの楕円形に10cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- |                              |                         |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック・粘土粒中量、炭土粒子粗量    | 3 暗赤褐色 焼土粒中・粘土粒子少量      |
| 2 灰褐色 粘土ブロック・焼土粒多量、炭土粒中量、炭灰量 | 4 に近い赤褐色 焼土大ブロック・焼土粒子少量 |

ピット Pは長径15cm、短径40cmの楕円形で、深さ30cmである。性格は不明である。

P土層解説

- |                         |               |
|-------------------------|---------------|
| 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量  | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量 |               |

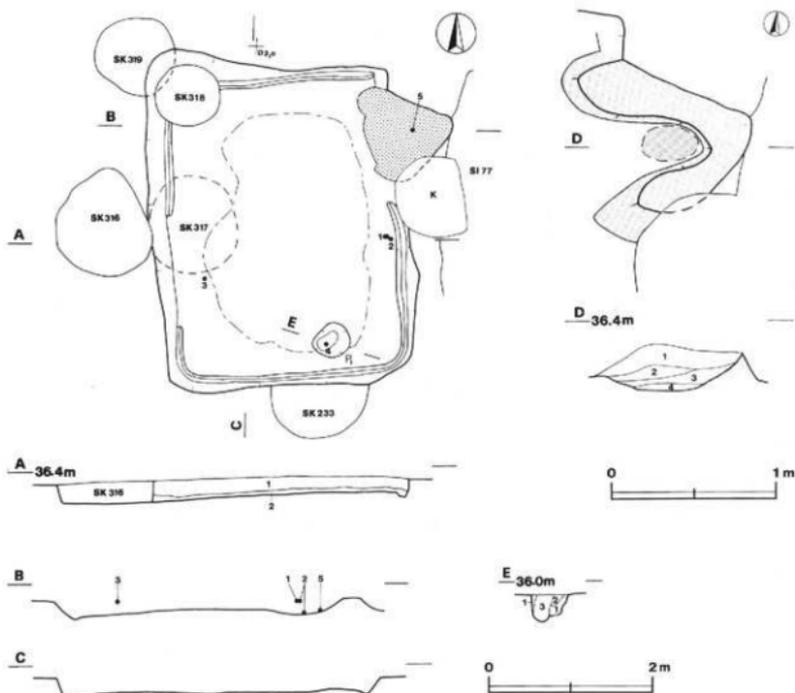
覆土 2層からなり、自然堆積である。

土層解説

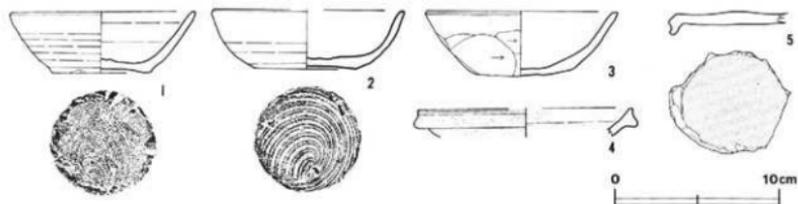
- |                                |                                 |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒中量、炭化粒子粗量 | 2 暗褐色 ローム中・小ブロック少量、炭化粒子・ローム粒子粗量 |
|--------------------------------|---------------------------------|

遺物 土師器片136点、須恵器片25点、灰釉陶器片3点が出土している。第151回1の土師器片は東壁中央の覆土中層から、2の土師器片は東壁中央の床面から正位で重なって出土している。3の土師器片は、中央部西側の覆土中層から出土している。4の灰釉陶器片は、P内の覆土中から出土している。5の灰釉陶器片は、室内の覆土中から出土している。高台部を覆に転用しており、朱塗が付着している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。4・5の灰釉陶器は黒黄14号窯式である。



第150図 第78号住居跡



第151図 第78号住居跡出土遺物

第78号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第151図 1	杯 土師器	A 11.3 B 3.8 C 6.2	体部一部欠損。平底。体部は内押気 殊に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロケロナテ。 底部回転糸切り。底部外面ヘラ当て 肌。	砂粘石長石質土質 に灰・靑色。 普通	P 376 東城中央戦土中研

調査番号	築 設	平面図(m)	遺 跡 の 写 真	手 記 の 特 徴	出土・色沢・地味	備 考
第79号	土 基 基	A 11.8	北側から1層部にかけての鏡片・平 底、体部は内側気味に立ち上がり、 口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面はタテナシ 京都府産磁器。	緑・灰白・青 灰白色 青磁	P.377 京博中央庫
		B 3.6				
		C 6.0				
3	土 基 基	A 11.8	北側から1層部にかけての鏡片・平 底、体部は内側気味に立ち上がり、 口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面はタテナシ 体部中央から下腹子持ちへテテリ、 底腹子持ちへテテリ。	粉砂・黄・スロリア に濃い藍色 青磁	P.378 中央部内蔵出土中野
		B 4.0				
		C 3.6				
4	灰 瓦 葺 灰箱跡	A 1.30	口縁部内・外面から外側して口縁部 内・外面に。	口縁部内・外面はタテナシ、口縁部 内・外面に。	黒土・黄褐色 赤土・黒土 赤土	P.380 P.46 第14号部成
		B 1.57				

### 第79号住居跡 (第152図)

位置 調査E区中央部，E3a1区。

重複関係 第80・81B号住居跡，第323号土坑が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形 東側が調査区域外に延びており，規模と平面形は不明である。

主軸方向 N'-0°

壁 他の遺構との重複や調査区域外に延びて，壁周辺で確認し，壁高は30cmで外傾して立ち上がる。

床 竈前で平坦で，踏み固められた部分を確認する。

竈 北壁中央部を壁外へ65cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚火部から煙道部までの長さ130cm，向箱口の最大幅(125cm)である。前部は，褐色の砂質粘土で構築されている。火床部は，径40cmの円形に15cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて硬化している。煙道部は，火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

#### 出土品解説

- |   |                                |
|---|--------------------------------|
| 1 暗 褐色 焼土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒<br>子燻炭       | 4 暗 赤 灰色 炭化粒子中量，焼土大ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 に濃い赤褐色 焼土粒子・焼土粒少量                       | 5 に濃い赤褐色 焼土粒子少量，焼土粒子燻炭         |
| 3 に濃い赤褐色 焼土大ブロック・焼土粒子多量，焼土粒子中<br>量，炭化粒子少量 | 6 暗 褐色 赤土小ブロック少量，ローム粒子燻炭       |

覆土 2層からなり，自然堆積である。

#### 土層解説

- |                          |                                       |
|--------------------------|---------------------------------------|
| 1 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子燻炭 | 2 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒<br>子燻炭 |
|--------------------------|---------------------------------------|

遺物 土師器片214点，須恵器片22点，灰釉陶器片3点が出土している。第153図1の土師器坏は竈前面の床面から出土している。2・3の土師器坏，5の須恵器坏は北西部の覆土下層から出土している。4の土師器甕，6の須恵器双耳坏は遺内の覆土中から出土している。7は須恵器甕の体部片で，外面に縦位の平行叩きが施されている。

所見 本跡は出土遺物が細片で時期を決定するのが難しいが，出土遺物と重複関係から9世紀中葉と思われる。

### 第80号住居跡 (第152図)

位置 調査E区中央部，E2a2区。

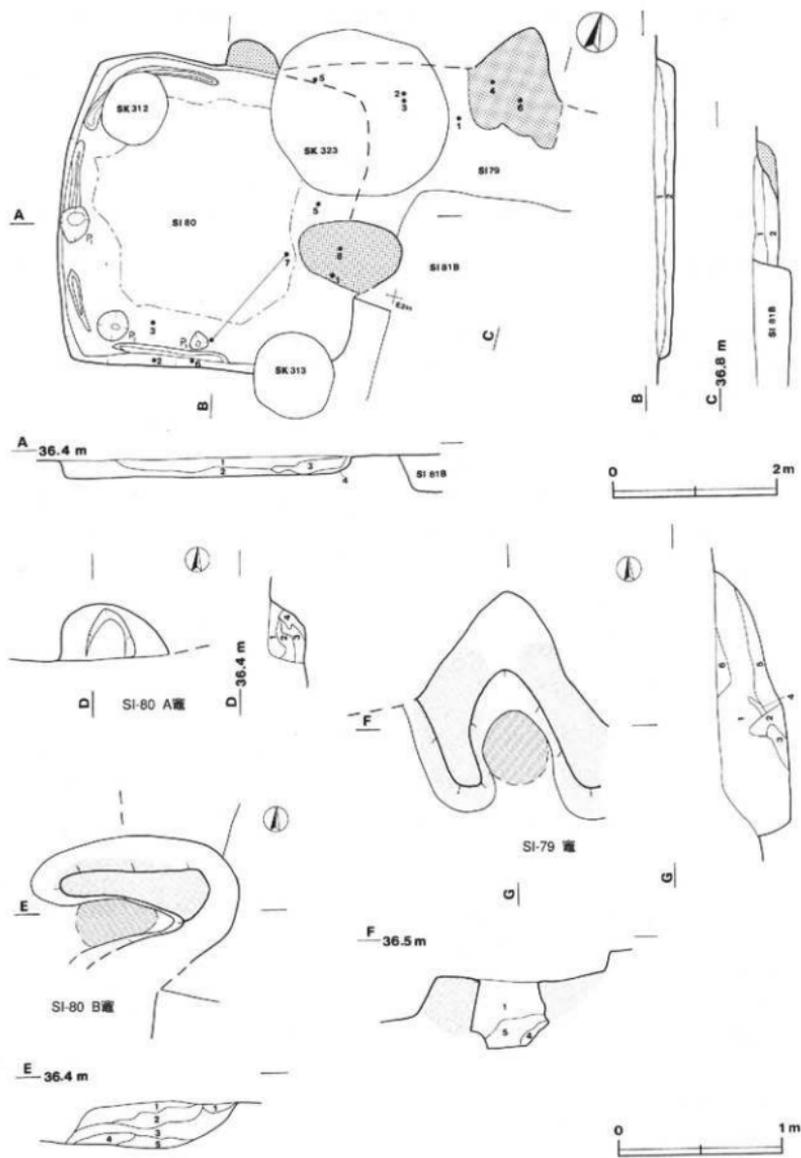
重複関係 第312・313・323号土坑が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。また，本跡が第79号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.80m，短軸3.50mの方形である。

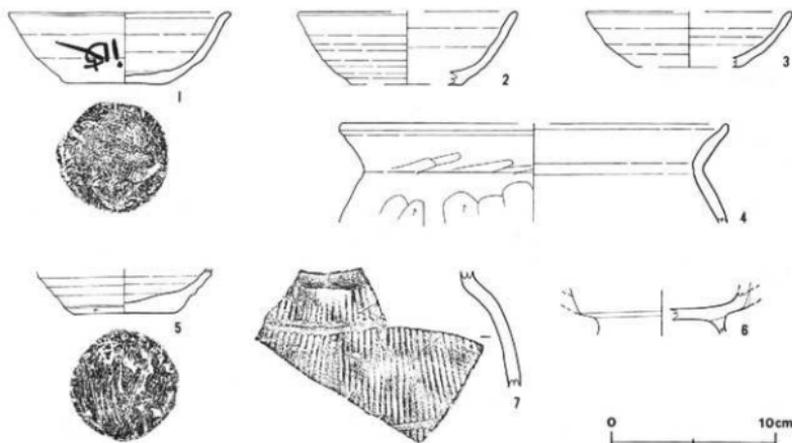
主軸方向 N-80°-E

壁 壁高は25cmで，外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で，踏み固められている。



第152図 第79・80号住居跡



第153図 第79号住居跡出土遺物

第79号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値mm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・構成	備考
第153図 1	坏	A 136	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内埴気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底部回転糸切り。底部外面へラ当て痕。	砂粒・石英・雲母 褐色 普通	P582 竈前床面 体部外面「流」の墨書
	土加器	B 43				
	C 63					
2	坏	A [136]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内埴気味に立ち上がり、口縁部に歪む。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底部回転糸切り。	長石・雲母 にふい褐色 普通	P583 30% 北西部覆土下層
	土加器	B 46				
	C [70]					
3	坏	A [126]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内埴気味に立ち上がり、口縁部に歪む。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 にふい褐色 普通	P584 20% 北西部覆土下層
	土加器	B 34				
	C [63]					
4	甕	A [240]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内埴しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ痕り。内面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にふい褐色 普通	P586 10% 竈内
	土加器	B (64)				
5	坏	B (27)	底部から体部にかけての破片。体部は内埴しながら立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。体部下層手持ちヘラ痕り。底部手持ちヘラ痕り。	砂粒・雲母・パミス にふい褐色 普通	P585 20% 北西部覆土下層 三和灰産
	環忠器	C 64				
6	双耳坏	B (29)	底部から体部にかけての破片。平底。台部はくの字状に開く。体部は内埴しながら立ち上がる。耳部欠損。	体部内・外面口クロナデ。底部高台造り付け後、ナデ。耳部粘り付け。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P588 30% 竈内
	環忠器	E (11)				

竈 北壁中央部にA竈、東壁中央部にB竈を確認した。A竈は残存状態が良くないので、B竈より古いと思われる。

A竈は、北壁中央部を壁外へ35cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ(35cm)、両袖間の最大幅(65cm)である。袖部は、褐色の砂質粘土で構築されている。火床部の規模は不明である。煙道部は、火床部から傾斜して立ち上がる。

B竈は、東壁中央部を壁外へ55cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ

120cm、両袖間の最大幅（80cm）である。袖部は、灰褐色の砂質粘土で構築されている。火床部の規模は不明である。煙道部は、火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

**A竈土層解説**

- |          |                               |       |                  |
|----------|-------------------------------|-------|------------------|
| 1 灰 褐色   | 粘土粒子中量、焼土大ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 3 褐色  | 焼土大ブロック・炭化材微量    |
| 2 に近い赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土粒子微量                 | 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |

**B竈土層解説**

- |          |                            |        |                    |
|----------|----------------------------|--------|--------------------|
| 1 灰 褐色   | 粘土粒子中量、焼土粒子少量              | 3 暗赤褐色 | 焼土大ブロック・焼土粒子少量、炭微塵 |
| 2 に近い赤褐色 | 焼土大ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 4 赤褐色  | 焼土粒子多量、粘土粒子・炭微塵    |
|          |                            | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量       |

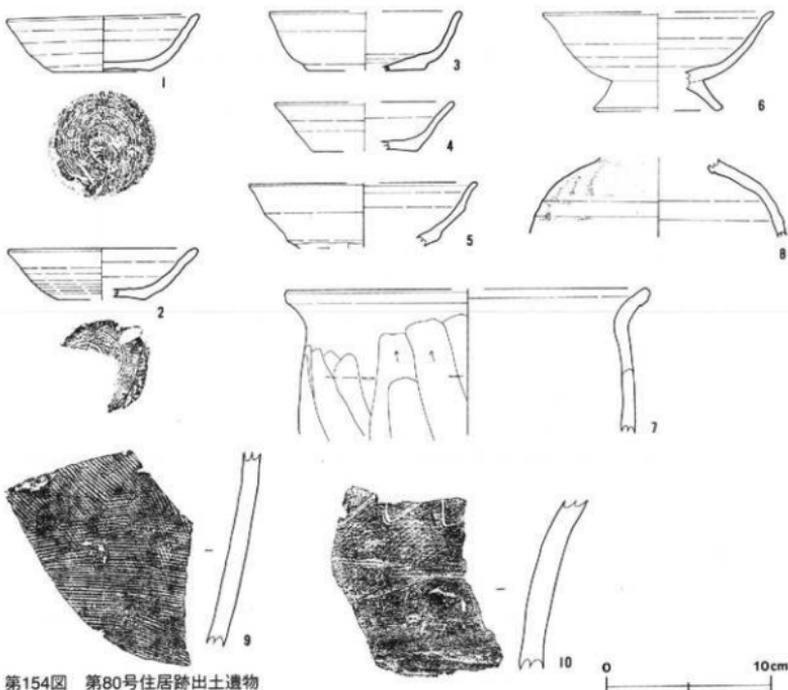
**ピット** 3か所（P<sub>1</sub>～P<sub>3</sub>）。P<sub>1</sub>は径40cmの円形で、深さ20cmである。P<sub>2</sub>は径35cmの円形で、深さ10cmである。P<sub>3</sub>は径20cmの円形で、深さ10cmである。いずれも性格は不明である。

**覆土** 4層からなり、自然堆積である。

**土層解説**

- |       |                                  |        |                       |
|-------|----------------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 3 灰褐色  | 粘土大ブロック・粘土粒子多量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量        | 4 暗赤褐色 | 焼土大ブロック・焼土粒子少量、粘土粒子微量 |

**遺物** 土師器片360点、須恵器片20点、灰軸陶器片2点、鉄滓（含鉄滓）1点（15g）が出土している。第154図1の土師器環は、B竈の右袖上から逆位で出土している。2・3の土師器環、6の土師器高台付碗は南壁中央部付近の覆土中層から出土している。4の土師器環、8の灰軸陶器壺はB竈内の覆土中から出土している。5の土師器環は北壁中央部付近の床面から、7の土師器甕は南壁中央部付近の床面から出土している。



第154図 第80号住居跡出土遺物

9・10は須恵器片の拓影図である。9は須恵器甕の体部片で、外面に平行叩きが施されている。10は須恵器甕の頸部片で、工具による波状文が斜条施されている。鉄蒔は、中央部の覆土層から出土し、流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後葉と考えられる。8の灰種陶器蓋は黒屋14号窯式である。

第80号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	数量(個)	器形の特徴	手述の特徴	胎土・色別・変態	備考
第155図 1	土師器 土師鉢	A 118	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部に広がる。	口縁部から体部内・外面クロコナテ。底面紅彩条切り。	粉砂・黄白・オリーブ に赤い褐色	P380 B室内 二次焼成
		B 35				
		C 58				
2	土師器 土師鉢	A 117	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部に広がる。	口縁部から体部内・外面クロコナテ。底面紅彩条切り。底面外面へついで着。	粉砂・長石 褐色	P380 玄塚中央層土中層
		B 31				
		C 53, 54				
3	土師器 土師甕	A (118)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。二次焼成部。	口縁部から体部内・外面クロコナテ。底面紅彩条切り。底面外面へついで着。	粉砂・長石 赤い・褐色	P301 玄塚中央層土中層
		B 37				
		C 70, 72				
4	土師器 土師甕	A (119)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロコナテ。底面紅彩条切り。	粉砂・長石・スクリュー に赤い・褐色	P302 B室内
		B 30				
		C 64				
5	土師器 土師甕	A 114	底部から口縁部にかけての破片。底部は内湾しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロコナテ。	粉砂・長石・赤色 褐色	P303 玄塚中央層
		B (39)				
6	高台付種 土師器	A 112	高台部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面クロコナテ。底面高台跡有り。ナテ。	粉砂・黄白・スクリュー 褐色	P285 玄塚中央層土中層
		B 60				
		D (78)				
		E 18				
7	土師器 土師甕	A 72, 4	底部から口縁部にかけての破片。体部は内湾しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面クロコナテ。体部外面紅彩のへら張り。内面ナテ。底面紅彩。	粉砂・長石・赤色 に赤い褐色	P306 玄塚中央層
		B (83)				
8	土師器 土師甕	B (30)	付録片。体部は内湾しながら底面に広がる。	体部内・外面クロコナテ。底面・外面紅彩。体部外面紅。	粉土・赤白色 褐色・黄白・オリーブ 着道	P600 B室内 黒屋14号窯式

### 第81A号住居跡 (第155図)

位置 調査区中央部, E3b1区。

重複関係 第81B・C号住居跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 北西コーナー部を確認するだけで、規模や平面形は不明である。

壁 壁高は5cmで、外傾して立ち上がる。

床 確認された部分は平坦である。

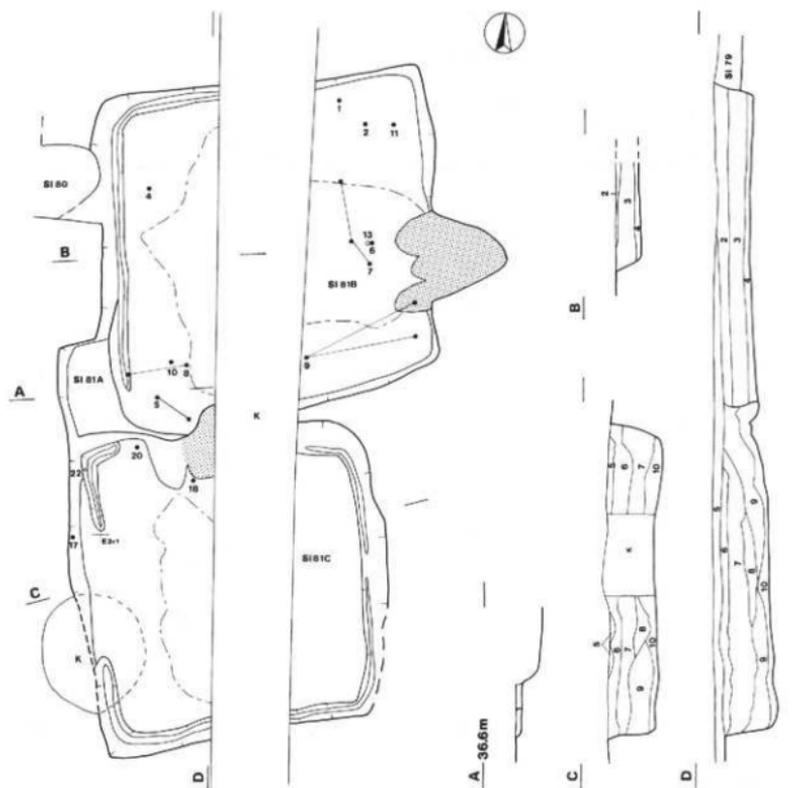
覆土 単一層であり、自然堆積である。

#### 土層解説

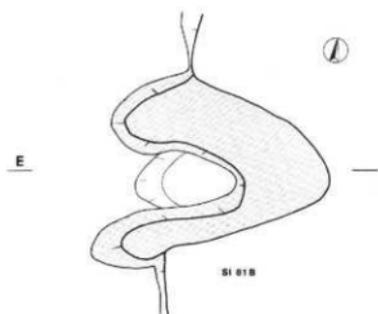
1 黄褐色 ローム粒子少な。炭化粒子微量

遺物 土師器片11点、須恵器片2点が出土している。図示できるものはない。

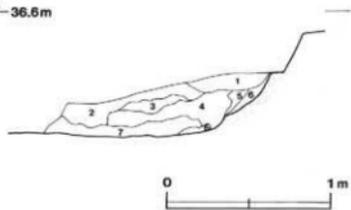
所見 本跡は出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが、第81B・C号住居跡との重複関係から9世紀後葉以前の平安時代と思われる。



0 2m



E 36.6m



0 1m

第155图 第81A~C号住居跡

### 第81B号住居跡（第155図）

位置 調査E区中央部、E3b1区。

重複関係 第81C号住居跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。また、本跡が第81A号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.20m、短軸4.10mの方形である。中央部に南北に長い覆瓦がある。

主軸方向 N-80°-E

壁 壁高は45cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、竈から中央部がよく踏み固められている。

竈 東壁中央部を壁外へ100cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ130cm、両袖間の最大幅110cmである。袖部は、褐色の砂質粘土で構築されている。火床部の規模は不明である。煙道部は、火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

#### 覆土層解説

- |         |                              |          |                |
|---------|------------------------------|----------|----------------|
| 1 暗褐色   | 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・<br>ローム粒子微量 | 4 にぶい褐色  | 粘土粒子多量、焼土粒子中量  |
| 2 暗褐色   | 粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量        | 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量         |
| 3 にぶい褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量                | 6 赤褐色    | 炭・大ブワック・焼土粒子多量 |
|         |                              | 7 暗赤褐色   | 焼土粒子少量、粘土粒子微量  |

覆土 3層からなり、自然堆積である。

#### 土層解説

- |       |                                  |       |         |
|-------|----------------------------------|-------|---------|
| 2 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量                | 4 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム中・<br>小ブワック・ローム粒子微量 |       |         |

遺物 土師器片799点、須恵器片125点、灰釉陶器片13点、鉄製品9点、土製品20点、石製品1点が出土している。第155図1・2の土師器環は北東部の床面から出土している。3の土師器環、11の灰釉陶器壺は北東部の覆土中層から出土している。4の土師器環は北西部の床面から、5の土師器高台付椀は西部の床面から出土している。6の土師器高台付椀、7の土師器甕、13の管状土鐘は煙道面の床面から出土している。8の土師器甕、10の灰釉陶器壺は西部の覆土下層から出土している。9の土師器甕は南東部の覆土下層から、14の砥石は竈内の覆土中から、16の鉄製鋤先は中央部の覆土上層部から出土している。15の石製双孔門板は南東部の覆土上層から出土し、流れ込みと思われる。12は須恵器甕の体部片で、内面に当て具痕が見られる。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

### 第81C号住居跡（第155図）

位置 調査E区中央部、E3c1区。

重複関係 本跡が第81A・B号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.70m、短軸3.40mの長方形である。中央部に南北に長い覆瓦がある。

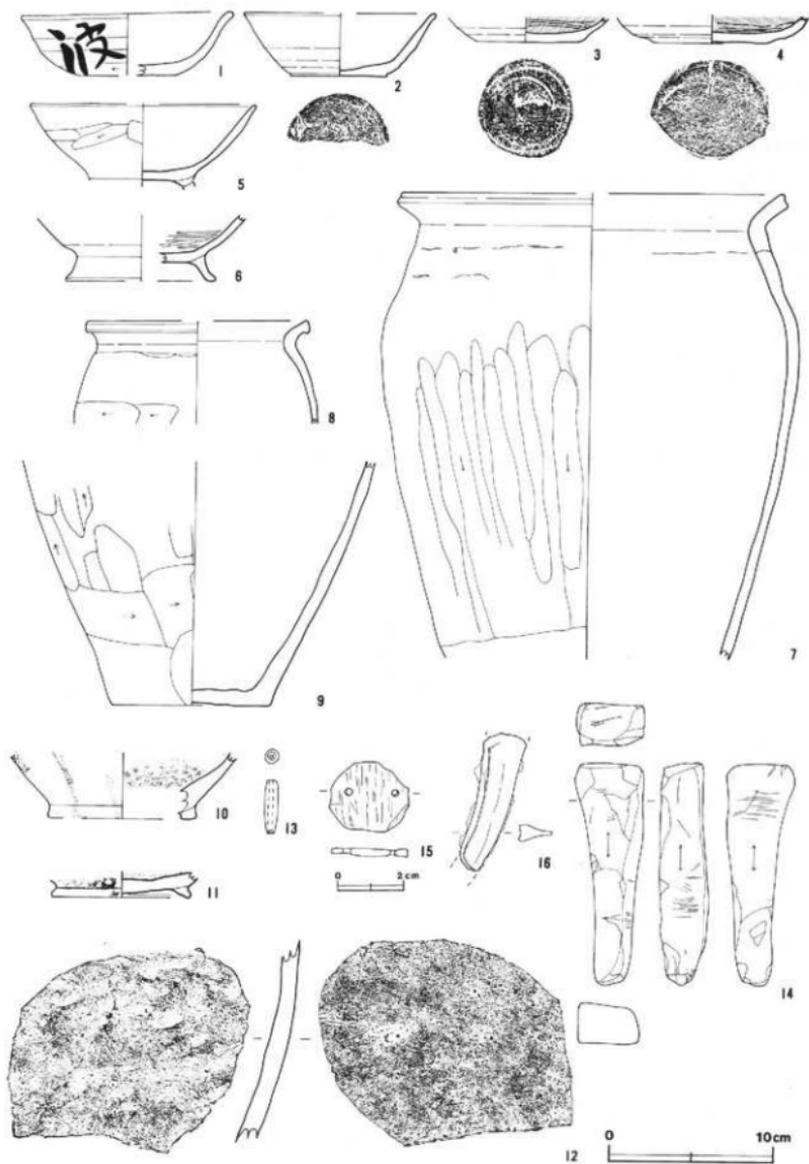
主軸方向 N-0°

壁 壁高は70cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部を壁外へ掘り込み、付設されているが、右半分は覆瓦によって不明である。規模は、焚口部から煙道部までの長さ70cm、両袖間の最大幅（40cm）である。袖部は、褐色の砂質粘土で構築されている。火床部の規模は不明である。

覆土 6層からなり、自然堆積である。



第156图 第81B号住居跡出土遺物

第813号住居跡出土土物観察表

図版番号	器 種	図版番号	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色面・装束	備 考
1	杯	A 163	底面から口縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部は外野に外野反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下部は持ちヘリ有り。底面ヘリ有り。	長径・石灰・土母 に赤い色面 片流し(体部外面磨き)	P602 北沢部東中層
		B 28 C 60				
2	杯	A 118	底面から口縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部は外野に外野反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下部は持ちヘリ有り。底面ヘリ有り。	長径・石灰・土母 に赤い色面 片流し(体部外面磨き)	P603 北沢部東中層
		B 28 C 59				
3	杯	B 166	底面から口縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部は外野に外野反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下部は持ちヘリ有り。底面ヘリ有り。	長径・石灰・土母 に赤い色面 片流し(体部外面磨き)	P603 北沢部東中層
		C 62				
4	杯	B 147	底面から口縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部は外野に外野反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下部は持ちヘリ有り。底面ヘリ有り。	長径・石灰・土母 に赤い色面 片流し(体部外面磨き)	P603 北沢部東中層
		C 75				
5	高台付 土 師 器	A 120	底面から口縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部は外野に外野反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下部は持ちヘリ有り。底面ヘリ有り。	長径・石灰・土母 に赤い色面 片流し(体部外面磨き)	P602 西宮部東部
		B 32				
6	高台付 土 師 器	A 41	高台部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部は外野に外野反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下部は持ちヘリ有り。底面ヘリ有り。	長径・石灰・土母 に赤い色面 片流し(体部外面磨き)	P605 通瀬方面
		D 92 E 15				
7	土 師 器	A 210	底面から口縁部にかけての破片。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部は外野に外野反する。	口縁部内・外面磨きナデ。体部外面は口縁部から持ちヘリ有り。下部感付のヘリ有り。内面ナデ。磨き面あり。	長径・石灰・土母 に赤い色面 片流し(体部外面磨き)	P610 東玉塚南
		B 284				
8	土 師 器	A 117	底面から口縁部にかけての破片。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部は外野に外野反する。	口縁部内・外面磨きナデ。体部外面は口縁部から持ちヘリ有り。下部感付のヘリ有り。内面ナデ。磨き面あり。	長径・石灰・土母 に赤い色面 片流し(体部外面磨き)	P611 南宮部東上層
		B 33				
9	土 師 器	B 119	底面から口縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部は外野に外野反する。	体部外面ヘリ有り。内面ナデ。	長径・石灰・土母 に赤い色面 片流し(体部外面磨き)	P612 東玉塚東上層
		C 97				
10	土 師 器	A 101	底面から口縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部は外野に外野反する。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面は口縁部から持ちヘリ有り。ナデ。底面内外面磨きナデ。	胎土：灰白色 装束：オリーブ色 片流し	P614 南宮部東上層 星原14号式土師
		B 90 C 91				
11	土 師 器	B 151	底面から口縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部は外野に外野反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面は口縁部から持ちヘリ有り。ナデ。底面内外面磨きナデ。	胎土：灰白色 装束：オリーブ色 片流し	P615 北沢部東上層 星原14号式土師
		C 85 E 05				

土製品観察表

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
13	管孔土師	32	99	92	1.20	通瀬東部	DF92

石製品観察表

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
11	板 瓦	138.0	42	30	2367	板 瓦 2	Q4E	
15	双孔土師	4.21	24	92	28	東 沢	Q17	

金属製品観察表

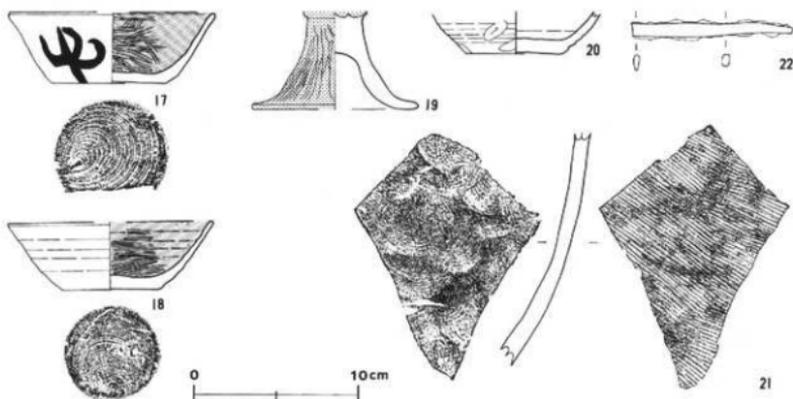
図版番号	種別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
16	鋳 鉄	8.4	2.5	1.0	37.3	中央部覆土層	M64 30%

土層解説

- |       |                     |        |                     |
|-------|---------------------|--------|---------------------|
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量      | 9 黒褐色  | ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、 |
| 6 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量   |        | 焼土粒子・炭化粒子・鹿沼土微量     |
| 7 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量、        | 10 黒褐色 | ローム中・小ブロック・ローム粒子・   |
|       | ローム小ブロック・鹿沼土微量      |        | 焼沼土微量               |
| 8 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子微量 |        |                     |

遺物 土師器片100点、須恵器片33点、鉄製品2点が出土している。第157図17の土師器片は、西壁中央部付近の覆土上層から出土している。18の土師器片は、竈内の覆土中から出土している。19の土師器高杯は、中央部の覆土中層から出土し、流れ込みと思われる。20の須恵器片は、北西部の覆土下層から逆位で出土している。22の刀子は、西壁下壁溝の覆土中から出土している。21は須恵器壺の体部片で、外面に横位の平行叩き、内面に同心円の当て具痕が見られる。

所見 本跡の時期は、出土遺物と重複関係から9世紀末から10世紀初頭と思われる。



第157図 第81C号住居跡出土遺物

第81C号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第157図 17	土 師 器	A 12.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外組して口縁部に至る。	口縁部から体部外面口ロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母にふい黄棕色	P616 西壁中央覆土上層 「卍」体部外面叩き
		B 4.3				
		C 6.8				
18	土 師 器	A 12.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内凹気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面口ロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリアにふい黄棕色	P617 竈内
		B 4.2				
		C 5.8				

図版番号	部 科	品類等 (cm)	形状の特徴	出土の位置	出土・色・灰・炭	出 土	考
第157号	写 真	110x60	灰白片・灰部は100の字状に長く深く、	壁部から外部外面へ向張り、内面は平。	緑・長石・赤褐色	F619	5%
18	上 面 写 真	E: 60			赤色	中央部黄土層	
20	写 真	B: 25 E: 57	灰部から外部へ向けての破片・平灰、 体部は浮き出た上に立ち上がる	体部内・外面より平。体部下端は 手持ちへ向張り。灰部は下持ちへ向張り。	緑・長石・赤褐色 灰白色	F620	20%

#### 金具製品観察表

図版番号	部 科	寸 法				出土の位置	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
22	刀 片	100	28	0.4-0.5	(1.14)	西壁下噴湧層上層	A165

#### 第82号住居跡 (第158・159号)

位置 調査区中央部、D21a区。

重複関係 第83号住居跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 北側の一部が調査区域外に延びており、長軸3.80m、短軸(3.50m)で、長方形と推定される。

主軸方向 N-82°-W

壁 壁高は80cmで、外傾して立ち上がる。南壁の一部が第83号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝 上幅15~30cm、下幅3~7cm、深さ3cmで南・西壁下の一部で確認する。断面形はL字形である。

床 全体的に平沢で、踏み固められている。

竈 東壁南寄りを壁外へ130cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚き口部から排煙道まで180cm、内軸間の最大幅120cmである。袖部は、灰褐色粘土で構築されている。径10cm、長さ25cmの円環を袖部の補強材として利用している。火床部は、径40cmの円形に5cmほど掘りくぼめられ、熱を受けてが変硬化している。火床部奥に円環を埋設し支脚として使用している。煙道部は、火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

#### 壁土層解説

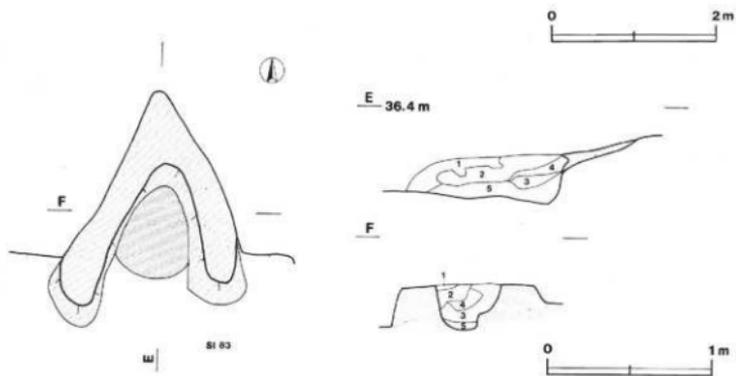
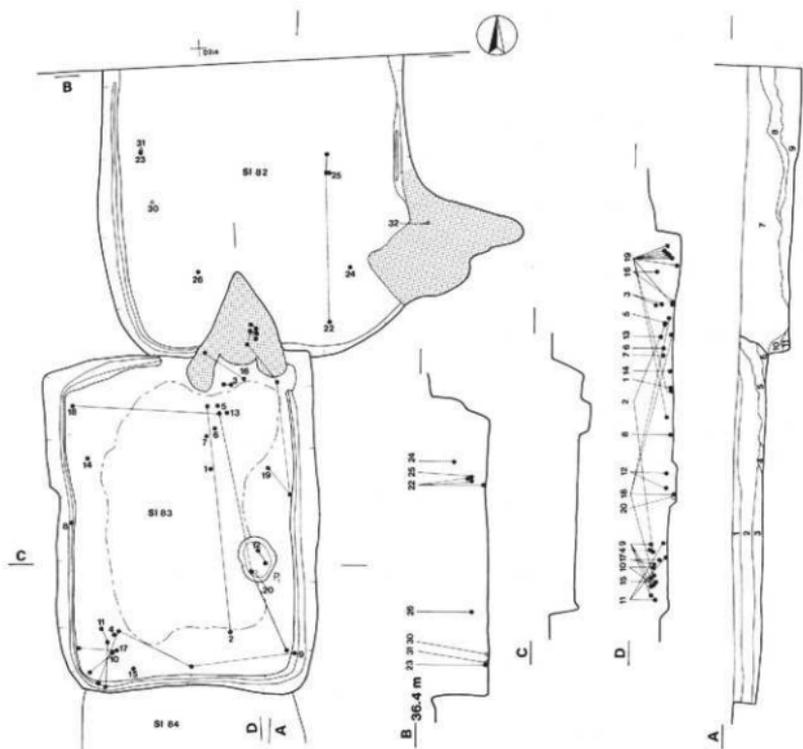
- |         |                       |          |                           |
|---------|-----------------------|----------|---------------------------|
| 1 黒褐色   | ローム粘土少量、焼土粒子少量        | 4 灰褐色    | 焼土粒子多量、焼土粒子少量             |
| 2 に近い褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量、粘土小ブロック少量 | 5 に近い赤褐色 | 焼土大ブロック・焼土粒子多量、炭化材・炭化粒子少量 |
| 3 褐色    | 粘土粒子中量、ローム粘土少量        | 6 暗赤褐色   | 焼土粒子少量、ローム粘土少量            |

覆土 5層からなり、自然堆積である。

#### 土層解説

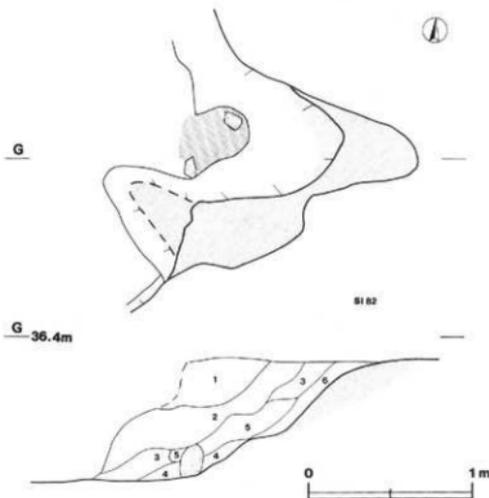
- |       |                                 |        |                                 |
|-------|---------------------------------|--------|---------------------------------|
| 7 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粘土少量    | 9 暗褐色  | ローム中・小ブロック中量、粘土粒子少量、粘土粒子・炭化粒子少量 |
| 8 暗褐色 | 粘土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粘土・粘土粒子少量 | 10 褐色  | ローム中・小ブロック中量、ローム粘土少量            |
|       |                                 | 11 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粘土少量                |

遺物 土師器片483点、須恵器片110点、灰釉陶器片7点、古銭1点、鉄製結4点、瓦片2点、鉄滓3点、管状土鍔19点、石製品1点、縄文土器片1点が出土している。第161図22の土師器環は、中央部の覆土下層から出土している。23の土師器甕、30の古銭、31の刀子は西壁中央部付近の床面から出土している。24の須恵器環、32の鉄鍔は室内の覆土中から出土している。25の須恵器甕、29の不明鉄製品は中央部の覆土中層から出土している。26の須恵器甕は、南西部の覆土下層から出土している。27の瓦は、中央部の覆土上層から出土している。鉄滓は、碗形滓1点(310g)、鍛冶滓1点(30g)、流動滓1点(10g)で、中央部の覆土上層から出土している。いずれも流れ込みと思われる。管状土鍔は、住居内全体に散在するように覆土中層から出土している。28の打製石斧と縄文土器片は流れ込みである。



第158图 第82·83号住居跡

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後葉と考えられる。29の古銭は皇朝十二銭の『隆平永寶』である。中央部の覆土中層から出土した黒笹90号窯式の長頭瓶が、第58号住居跡の灰釉陶器片と接合した。24の須恵器杯は三和町の三和窯産である。



第159図 第82号住居跡電

#### 第83号住居跡 (第158図)

位置 調査E区中央部, D2j6区。

重複関係 本跡が第82・84号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.10m, 短軸3.00mの長方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は35cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅15~30cm, 下幅3~10cm, 深さ5cmで全周する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、竈から中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央東寄りを壁外へ100cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで130cm, 両袖間の最大幅115cmである。袖部は、砂質の灰褐色粘土で構築されている。火床部は長径55cm, 短径40cmの楕円形に深さ5cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

##### 覆土層解説

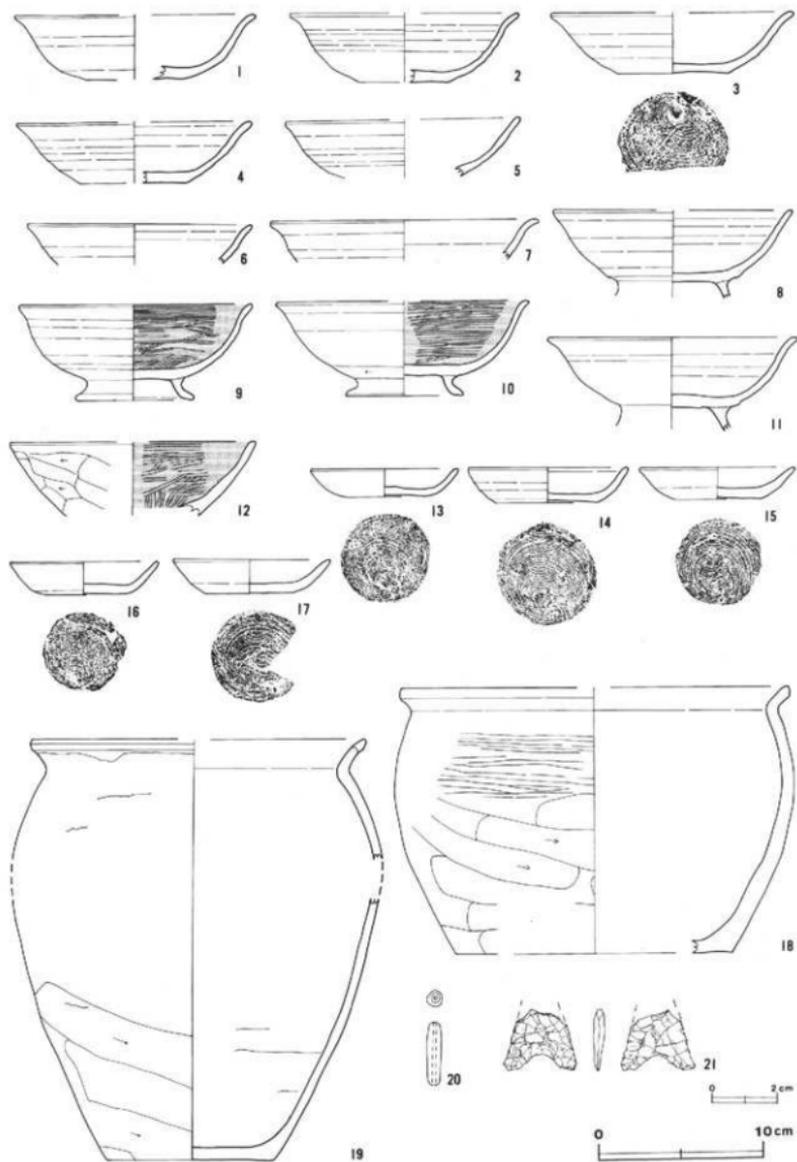
- |       |                               |         |                         |
|-------|-------------------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土大ブロック・粘土粒子少量、<br>ローム小ブロック微量 | 3 濃い赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量, 粘土粒子少量     |
| 2 灰褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子・粘土大ブロック少量        | 4 暗赤褐色  | 焼土粒子中量, 粘土粒子微量          |
|       |                               | 5 明赤褐色  | 焼土大・中・小ブロック・焼土粒子多量, 炭微量 |

ピット P1は長径50cm, 短径40cmの楕円形で、深さ15cmである。底部は平坦である。性格は不明である。

覆土 6層からなり、自然堆積である。

##### 土層解説

- |       |  |       |                                     |
|-------|--|-------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック・<br>ローム粒子微量       | 4 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量,<br>焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム中・<br>小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量                             |
| 3 暗褐色 | ローム中・小ブロック中量, ローム粒子少量                  | 6 暗褐色 | ローム粒子中量                             |



第160图 第83号住居跡出土遺物

遺物 土師器片973点、須恵器片49点、鉄製品4点、鉄滓2点、土製品12点、石製品1点が出土している。第160図1の上師器環は中央部の床面から出土している。2・3・5～7の土師器杯、13・16の土師器小皿は竈前面の覆上下層から出土している。4の上師器杯、10・11の上師器高台付椀、15・17の上師器小皿は南西部の覆土下層から出土している。8の上師器杯、10・11の上師器高台付椀は、西壁中央部付近の床面から出土している。9の上師器高台付椀は、南壁沿いの覆上下層に破片となって散在した状態で出土している。12の上師器高台付椀、20の管状土鉢は、P<sub>1</sub>の覆土中から出土している。14の土師器小皿は、北西部の床面から正位で出土している。18の上師器甕は床面全体に破片が散在した状態で出土している。19の土師器甕は東壁中央部付近の床面から竈内で出土している。21の石鉢は中央部の覆土中層から出土している。鉄滓は、椀形滓1点(150g)、含鉄滓1点(5g)で、ほかに羽目片6点が出土している。いずれも流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、出土遺物から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。

第83号住居跡出土遺物観察表

図号	器種	測値(cm)	器底の特徴	手法の特徴	胎土・色沢・装束	位置	割合
第160図1	土師器 杯	A 142	底面から臼縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、臼縁部はわずかに外反する。	臼縁部から体部内・外面ロクロナデ。底面刷毛痕あり。	石灰・長石にぶら・黄褐色 青濁	P631	40%
		B 66					
		C 68					
2	土師器 杯	A 110	底面から臼縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、臼縁部はわずかに外反する。	臼縁部から体部内・外面ロクロナデ。底面刷毛痕あり。	砂鉄・雲母・パミス 赤色 青濁	P632	40%
		B 42					
		C 53					
3	土師器 杯	A 150	底面から臼縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、臼縁部はわずかに外反する。	臼縁部から体部内・外面はロクロナデ。底面刷毛痕あり。	砂鉄・長石・古河・黑色鉄 褐色 青濁	P633	35%
		B 38					
		C 66					
4	土師器 杯	A 147	底面から臼縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、臼縁部はわずかに外反する。	臼縁部から体部内・外面ロクロナデ。底面刷毛痕あり。	砂鉄・雲母・古河・黑色鉄 褐色 青濁	P634	30%
		B 37					
		C 66					
5	土師器 杯	A 145	体部から臼縁部にかけての破片。体部は内野気味に立ち上がり、臼縁部はわずかに外反する。	臼縁部から体部内・外面はロクロナデ。	砂鉄・雲母・黑色鉄 褐色 青濁	P635	50%
		B 34					
		C 66					
6	土師器 杯	A 138	体部から臼縁部にかけての破片。体部は内野気味に立ち上がり、臼縁部はわずかに外反する。	臼縁部から体部内・外面はロクロナデ。	砂鉄・石灰・古河・黑色鉄 褐色 青濁	P637	30%
		B 24					
		C 66					
7	土師器 杯	A 164	体部から臼縁部にかけての破片。体部は内野気味に立ち上がり、臼縁部はわずかに外反する。	臼縁部から体部内・外面はロクロナデ。	長石・スコリア 褐色 青濁	P638	35%
		B 23					
		C 66					
8	高台付椀 土師器	A 148	高台部から臼縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、臼縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	臼縁部から体部内・外面ロクロナデ。高部高台取り付付後、ナデ。	砂鉄・石灰・古河にぶら・褐色 青濁	P640	60%
		B 54					
		B 11					
9	高台付椀 土師器	A 141	高台部から臼縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、臼縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	臼縁部から体部内・外面ロクロナデ。高部高台取り付付後、ナデ。内面へラ磨き。内面黑色装束。	砂鉄・雲母・スコリア 褐色 青濁	P641	70%
		B 59					
		D 73					
		E 73					
		E 73					
10	高台付椀 土師器	A 136	高台部から臼縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、臼縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	臼縁部から体部内・外面ロクロナデ。高部高台取り付付後、ナデ。内面へラ磨き。内面黑色装束。	長石・スコリアにぶら・褐色 青濁	P642	15%
		B 58					
		D 82					
		E 12					
		E 12					
11	高台付椀 土師器	A 153	高台部から臼縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、臼縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	臼縁部から体部内・外面ロクロナデ。高部高台取り付付後、ナデ。	長石・雲母・スコリアにぶら・褐色 青濁	P643	50%
		B 58					
		E 15					

採取番号	器種	寸法(cm)	彫刻の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第160号 12	直立土師器	A 15.2	底部から口縁部にかけての破片、平底、体部は内野気味に立ち上がり、口縁部に至る。内面黒色。	口縁部から体部外面ワロコナテ、体部外面縦位のヘリ割リ、底部高台割リ付付直、内面ヘリ割リ、内面黒色。	砂粒・石灰・雲母・ハミス	P614 P、内径十中
		B 1.5F			灰褐色	
13	小土師器	A 9.0	平底、体部は内野気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ワロコナテ、底部回転余切り。	砂粒・石灰・雲母	P620 100%
		B 1.7			褐色	瀬岡遺土下層
		C 5.4			青褐色	
14	小土師器	A 9.1	口縁部一部欠損、平底、体部は内野気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ワロコナテ、底部回転余切り。	砂粒・石灰・雲母	P651 35%
		B 2.2			黄褐色	北西部前面
		C 6.2			青褐色	
15	小土師器	A 8.3	口縁部一部欠損、平底、体部は内野気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ワロコナテ、底部回転余切り。	砂粒・石灰・雲母	P652 90%
		B 1.9			に灰い褐色	南西部遺土下層
		C 5.3			青褐色	
16	小土師器	A 9.1	口縁部一部欠損、平底、体部は内野気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ワロコナテ、底部回転余切り。	砂粒・石灰・雲母	P653 90%
		B 2.0			黒色粒、褐色	瀬岡遺土下層
		C 5.0			青褐色	
17	小土師器	A 9.6	口縁部一部欠損、平底、体部は内野気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ワロコナテ、底部回転余切り。	砂粒・石灰・雲母	P654 90%
		B 2.1			灰色、に灰い褐色	南西部遺土下層
		C 5.5			青褐色	
18	土師器	A 21.0	底部から口縁部にかけての破片、平底、体部は大形しながら立ち上がる。底部はくの字状を呈し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナテ、体部外面上段横位のヘリ割リ、中位から下段横位のヘリ割リ、内面横ナテ。	砂粒・雲母	P656 80%
		B 16.3			褐色	内径内全周
		C 11.7			青褐色	
19	土師器	A 29.5	底部から口縁部にかけての破片、平底、体部は内野しながら立ち上がる。底部はくの字状を呈し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナテ、体部下位横位のヘリ割リ、上面横ナテ、前部下方。	砂粒・石灰・雲母	P657 35%
		B 23.0			明赤褐色	内面から東部中央部内
		C 10.2			青褐色	

#### 土製品観察表

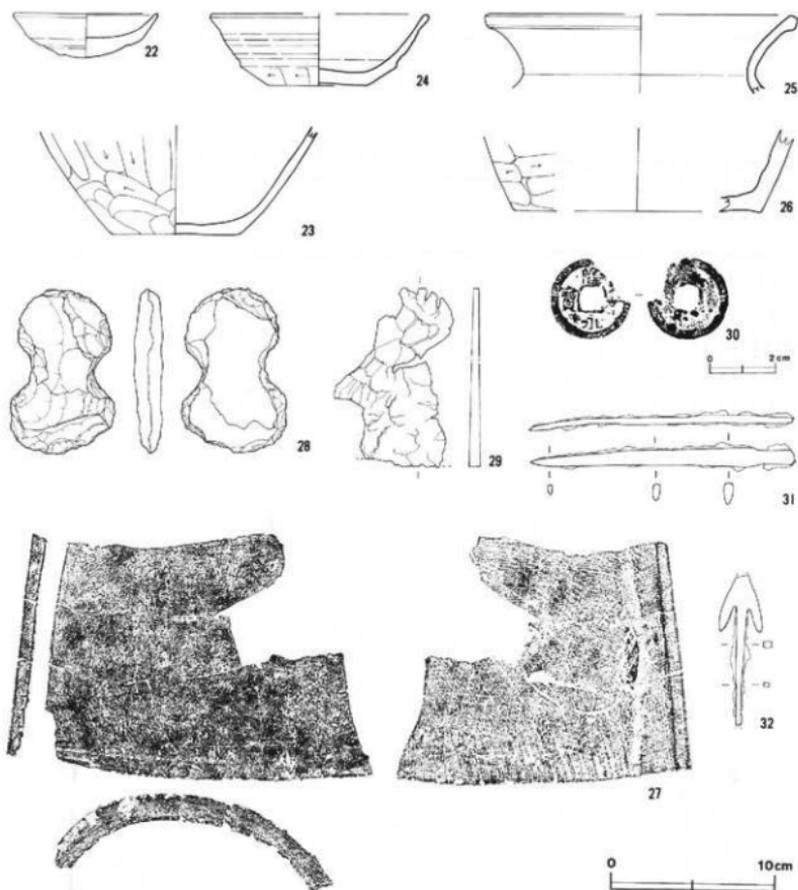
採取番号	器種	寸法				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	口径(cm)	重量(g)		
30	管状土師	3.8	0.9	0.2	(3.3) 内径十中	D P 83	90%

#### 石製品観察表

採取番号	器種	寸法				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	口径(cm)	重量(g)			
21	石鏃	13.8	2.2	0.3	(1.1) チャート	中央部遺土下層	Q砂	70%

#### 第82号住居跡出土遺物観察表

採取番号	器種	寸法(cm)	彫刻の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第161号 22	土師器	A 8.8	底部から口縁部にかけての破片、平底、体部は内野気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ワロコナテ、底部傾・内面ヘリ割リ。	砂粒・雲母	P621 70%
		B 2.2			褐色	中央部遺土下層
23	土師器	B 6.7	底部から口縁部にかけての破片、平底、体部は内野気味に立ち上がる。	体部外面中段横位のヘリ割リ、下段横位のヘリ割リ、内面ナテ、底部ヘリ割リ。	砂粒・雲母・ハミス	P625 30%
		C 7.8			に灰い赤褐色	西側中央部内
24	土師器	A 12.1	底部から口縁部にかけての破片、平底、体部は内野気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ワロコナテ、体部下段手持ちヘリ割リ、底部下持ちヘリ割リ。	砂粒・石灰	P622 95%
		B 4.4			淡赤褐色	瀬岡遺土下層
		C 6.2			青褐色	三和宮裏
25	土師器	A 11.5	口縁部内、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ワロコナテ。	石灰・貝石	P628 5%
		B 4.8			褐色	中央部遺土下層
26	土師器	B 3.1	破片、平底、体部は内野しながら立ち上がる。	体部外面横位のヘリ割リ、上面ナテ。	石灰・貝石	P629 35%
		C 13.1			褐色	南西部遺土下層



第161圖 第82号住居跡出土遺物

土製品観察表

図版番号	類別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
27	丸 瓦	(15.6)	(16.5)	1.5	(613.1)	中央部覆土上層	T14 凹面在日根 凸面十字調整 30%

石製品観察表

図版番号	類別	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
28	打撃石片	10.0	6.4	1.7	124.4	砂 岩	南東部覆土上層	Q48 分割片

金属製品観察表

調査番号	種別	計測				出土地点	保存
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
20	4角鉄動片	(10.9)	(7.3)	0.7	37.0	中央部出土(20)	M66
21	刀	(16.3)	1.6	0.3~0.6	23.3	内窓中央部(1)	M68
22	鉄 器	8.2	2.7	0.4	13.1	室内	M69

調査番号	鉄 名	計測				出土地点(内蔵)	保存	備考
		縦径 (cm)	口径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)			
30	鉄ノ本質	2.6	0.6	0.15	1.91	壁内(1号) (17.9.6)	不図	M67

第75号住居跡 (第162図)

位置 調査区中央部, E2m区。

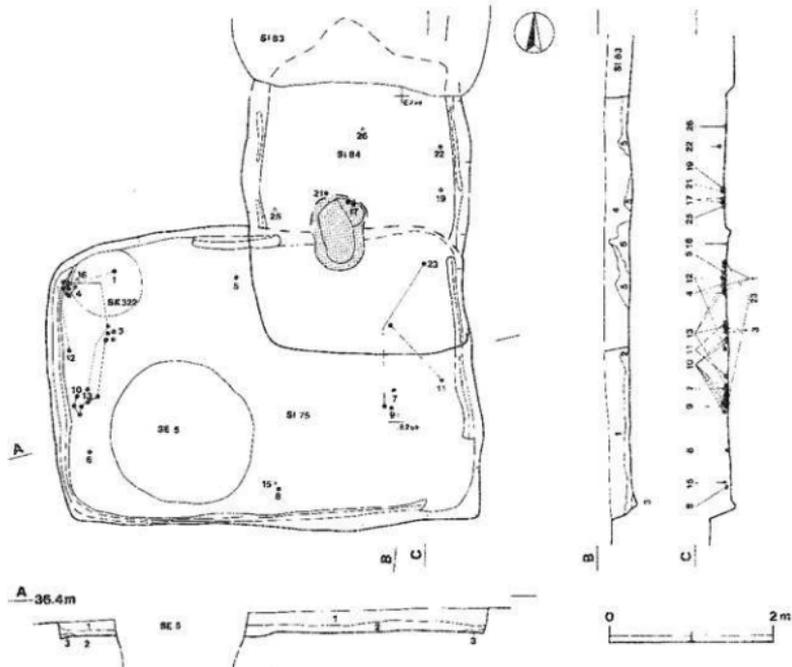
重複関係 第84号住居跡, 第322号土坑, 第5号井戸跡が本跡を掘り込んでいるため, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸6.00m, 短軸3.40mの隅丸長方形である。

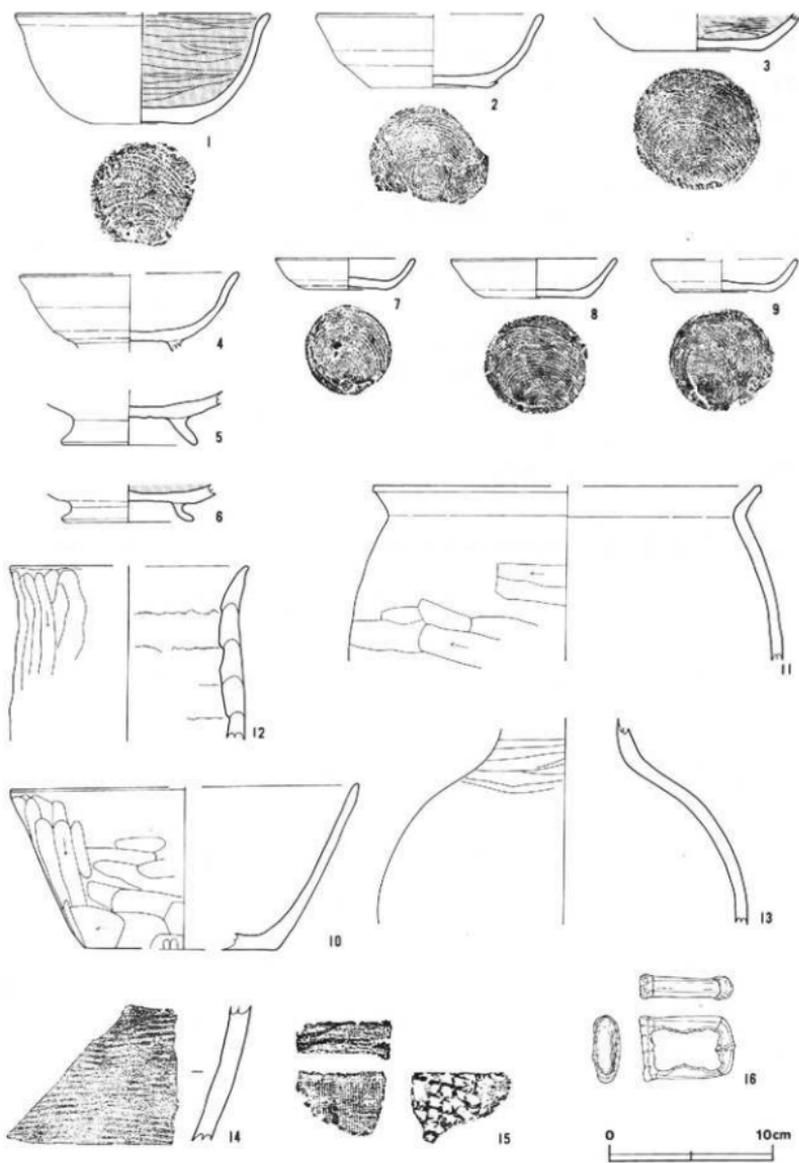
主軸方向 N-E-W

壁 壁高は25cmで, 外傾して立ち上がる。北東コーナー部は第84号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝 上幅10~20cm, 下幅5~7cm, 深さ7cmで南・西境下で確認する。断面形はL字形である。



第162図 第75・84号住居跡



第163图 第75号住居跡出土遺物

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

電 北城中央部東寄りに付設された痕跡を確認する。

覆土 3層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粘土層、黄土粒子・炭化材微塵 3 暗褐色 ローム粘土微塵  
2 暗褐色 ローム粘土中層、ローム中・小ブロック状

遺物 土師器片1044点、須恵器片56点、灰釉陶器片6点、銅製品1点、鉄製品1点、瓦片1点、鉄滓21点が出土している。第163図1の土師器碗、16の銅製靱皮金具は北西コーナー部の床面から出土している。2の土師器杯は中央部の覆土中層から出土している。3の土師器碗は北西部の床面から、4の土師器高台付碗、12の土師器甕は北西コーナー部の覆土下層から出土している。5の土師器高台付碗は中央部北側の覆土下層から、6の土師器高台付碗は南西部の覆土下層から出土している。7・9の土師器小皿、11の土師器甕は中央部東側の覆土下層から出土している。8の土師器小皿、15の平瓦は南城中央部の覆土下層から出土している。10の土師器鉢、13の土師器甕は西壁中央部の床面から散在して出土している。14は須恵器甕の体部片で、外面に平行明きが施されている。鉄滓は、鍛冶滓14点(300g)、含鉄滓7点(75g)で、羽口片3点とともに中央部の覆土上層から出土している。いずれも流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、出土遺物から10世紀後半と考えられる。

第75号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	出層(層)	形状の形数	部位の特徴	出土・色相・状態	備考
第163図 1	碗	A 15(6)	碗部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外周クロコナテ。内面へくつき。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P541 45%
		B 68	碗部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外周クロコナテ。内面へくつき。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P541 45%
		C 60	碗部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外周クロコナテ。内面へくつき。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P541 45%
2	杯	A 12(9)	碗部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外周クロコナテ。内面へくつき。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P542 30%
		B 15	碗部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外周クロコナテ。内面へくつき。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P542 30%
		C 76	碗部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外周クロコナテ。内面へくつき。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P542 30%
3	碗	B 23(3)	碗部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外周クロコナテ。内面へくつき。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P544 10%
		C 78	碗部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外周クロコナテ。内面へくつき。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P544 10%
4	高台付碗	A 15(3)	碗部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。高台部は環状。	口縁部から体部内・外周クロコナテ。内面へくつき。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P545 40%
		B 14(9)	碗部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。高台部は環状。	口縁部から体部内・外周クロコナテ。内面へくつき。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P545 40%
5	高台付碗	B 23(3)	高台部から体部にかけての破片。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部外周クロコナテ。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P546 20%
		C 84	高台部から体部にかけての破片。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部外周クロコナテ。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P546 20%
		E 11	高台部から体部にかけての破片。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部外周クロコナテ。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P546 20%
6	高台付碗	D 22(2)	高台部から体部にかけての破片。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部外周クロコナテ。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P547 20%
		E 81	高台部から体部にかけての破片。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部外周クロコナテ。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P547 20%
		F 11	高台部から体部にかけての破片。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部外周クロコナテ。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P547 20%
7	小土師器	A 8(6)	平底。体部は外側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外周クロコナテ。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P548 100%
		C 50	平底。体部は外側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外周クロコナテ。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P548 100%
8	小土師器	A 10(2)	体部・口縁部・平底。体部は外側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外周クロコナテ。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P549 80%
		D 24	体部・口縁部・平底。体部は外側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外周クロコナテ。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P549 80%
9	小土師器	A 20(2)	碗部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外周クロコナテ。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P550 55%
		B 9(3)	碗部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外周クロコナテ。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P550 55%
		C 8(3)	碗部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外周クロコナテ。碗部は赤褐色。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P550 55%
10	土師器	A 21(1)	碗部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部外周クロコナテ。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P551 60%
		B 10(3)	碗部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部外周クロコナテ。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P551 60%
		C 11(7)	碗部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部外周クロコナテ。内面黒色処理。外部黒褐色。外部黒褐色。外部黒褐色。	赤褐色・黒褐色・暗褐色	P551 60%

図説番号	名称	目録番号	器形の概観	手取の概観	胎土・色調・焼成	備考
1163	土	A 258	体部から口縁部にかけての破片。体部は内層気乾に成り上る。底面はくの字状を呈し、口縁部は外転する。	口縁部外・外面黄ナマ。体部外面黄・黄褐色のへり取り。内面無化のナマ。	赤・石黄・赤褐色	P332 中央部内層黄土下層
1164	土	A 267	体部から口縁部にかけての破片。体部は内層気乾に成り上る。底面はくの字状を呈し、口縁部は外転する。	口縁部外・外面黄ナマ。体部外面黄褐色のへり取り。内面ナマ。	赤・石黄・赤褐色	P333 北西コーナー段土下層
1165	土	B 1279	体部から口縁部にかけての破片。体部は内層気乾に成り上る。底面はくの字状を呈し、口縁部は外転する。	口縁部外・外面黄ナマ。体部外面黄褐色のへり取り。内面ナマ。	赤・石黄・赤褐色	P335 西壁中央部

#### 土製品観察表

図説番号	種別	寸 法				用 途 及 び 出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)		
116	土	4.6	3.9	2.2	28.0	北壁中央部土下層	T12 西壁中央部 西面壁土下層 5%

#### 金属製品観察表

図説番号	種別	寸 法				用 途 及 び 出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)		
16	銅製金具	5.7	4.1	1.6	23.4	北西コーナー床面	M62 90%

#### 第84号住居跡 (第162図)

位置 調査E区中央部、E2a5区。

重複関係 第83号住居跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。また、本跡が第75号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸 (3.60m)、短軸2.60mで、長方形と推定される。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は30cmで、外傾して立ち上がる。北壁は第83号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝 上幅20~25cm、下幅3~5cm、深さ3cmで東壁下の一部で確認する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

竈 第83号住居跡に掘り込まれ、北壁中央部に付設した痕跡を確認したが、遺存状態が不良で、詳細は不明である。

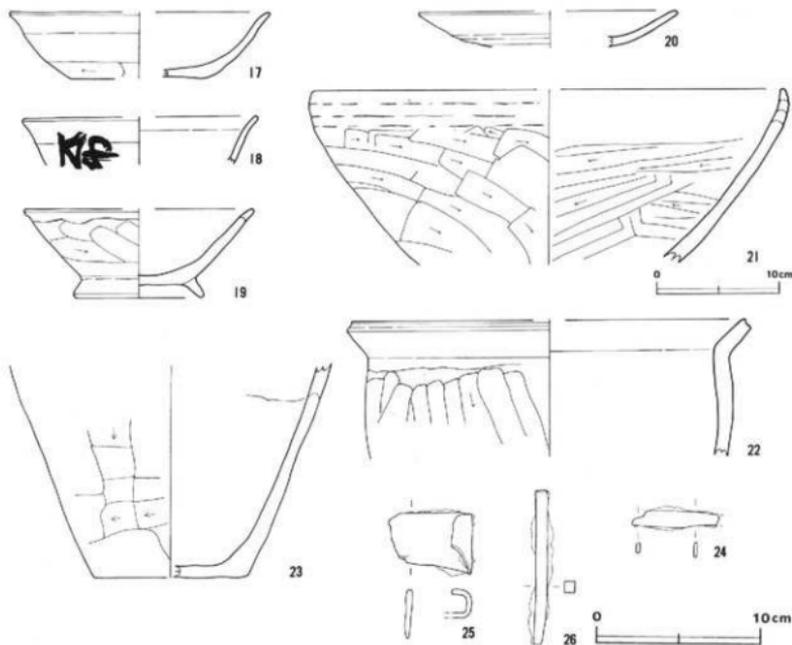
覆土 3層からなり、ローム上がブロック状に堆積していることから、人為堆積と思われる。

##### 土層解説

- |       |                                |       |                                |
|-------|--------------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、粘土粒子・炭化粒子・             | 6 暗褐色 | 焼土粒子・ローム中・小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム中・小ブロック少量                   |       |                                |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子・ローム中・小ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子少量 |       |                                |

遺物 土師器片238点、須恵器片11点、灰釉陶器片3点、鉄製品3点、鉄滓6点が出土している。第164図17の土師器杯、21の土師器鉢 (鉄鉢形)、26の鉄釘は中央部の床面から出土している。18の土師器杯、24の刀子は中央部の覆土中層から出土している。19の土師器高台付碗は東壁中央部の覆土下層から、25の鉄鉢は西壁中央部の覆土下層から出土している。20の土師器高台付皿は南西部の覆土中層から、22の土師器甕は北東部の覆土下層から、23の土師器甕は南東部の覆土下層から出土している。鉄滓は鍛冶滓5点 (40g)、含鉄滓1点 (1g) で、中央部の覆土上層から出土している。いずれも流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、出土遺物と第75号住居跡との重複関係から10世紀後半と考えられる。



第164図 第84号住居跡出土遺物

第84号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備	考
第164図 17	杯 土 師 器	A [ 6.0 ] B 4.0 C [ 8.1 ]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内唇気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母にふい・棕色 普通	P658 中央部床面	10%
18.	杯 土 師 器	A [ 11.5 ] B [ 3.0 ]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内唇気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。	砂粒・雲母・黒色粒にふい・棕色 普通	P659 中央部覆土小層 体部外面覆土	5%
19	高台付 碗 土 師 器	A [ 14.0 ] B 5.4 D 8.0 E 1.3	高台部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内唇気味に立ち上がり、口縁部に至る。台部はハの字状に廣く。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底部高台張り付け後、ナデ。口縁部貼り付け帆。	砂粒・石英・雲母 棕色 普通	P660 東壁中央覆土下層	70%
20	皿 土 師 器	A [ 16.0 ] B [ 2.2 ]	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外反して立ち上がり、口縁部に布る。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。	砂粒・雲母・バミス 棕色 普通	P662 南西部覆土中層	40%
21	鉢 土 師 器	A [ 38.6 ] H [ 14.3 ]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内唇しながら立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上段から下段斜位のヘラ振り、内面ヘラナデ。口縁部・体部接合直。	砂粒・長石 棕色 普通	P663 中央部床面	20%
22	羹 土 師 器	A [ 24.8 ] B [ 8.4 ]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内唇しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ振り。内面ナデ。	砂粒・雲母・バミス 棕色 普通	P664 北東部覆土下層	5%

図版番号	器名	寸法 cm	器形の図説	手取の図説	出土・出土・出土	出	考
第166図 23	瓦 土師 瓦	長 13.1 幅 9.2	瓦葺から体部にかけての残片。手取 体部は内筒5cm幅に立ち上がる。	体部外面腹径のヘラ痕あり。内面平 滑。内筒幅5cm。	砂粒。灰質。ローム 粘土。	P361	西条郡藤十手野

#### 金属製品観察表

図版番号	器名	寸 法				出土状況	出	考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
24	刀子	5.3	1.0	0.2-0.3	5.3	中央部藤十手野	M70	85%
25	瓦 罎	3.0	3.8	0.1	28.1	内里中央部1下野	M71	20%
26	瓦 罎	3.5	0.7	0.7	18.1	中央部藤十手野	M72	70%

#### 第87号住居跡 (第165図)

位置 調査E区中央部、E2c2区。

重複関係 第1・2号溝跡が本跡を  
掘り込んでいるため、本跡が古い。

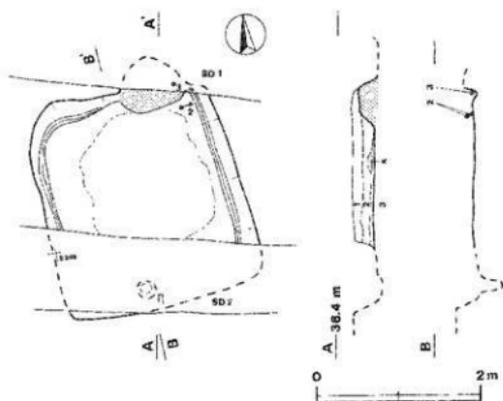
規模と平面形 長軸2.68m、短軸  
2.47mの隅丸方形である。

主軸方向 N-8°-W

壁 壁高は11~14cmで、外傾して  
立ち上がる。

壁溝 上幅1.5~2.5cm、下幅2~5  
cm、深さ5cmで全周する。断面  
形はU字形である。

床 全体的に平坦で、よく踏み固  
められている。



第165図 第87号住居跡

竈 北壁中央東寄り、焼土と粘土塊が見られ、壁外へ掘り込んで付設した痕跡を確認する。規模は、焚口部か  
ら煙道部までの長さ [65cm、両横間の最大幅 [75cm] と推定される。

ピット Pは径20cmの円形で、深さ25cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

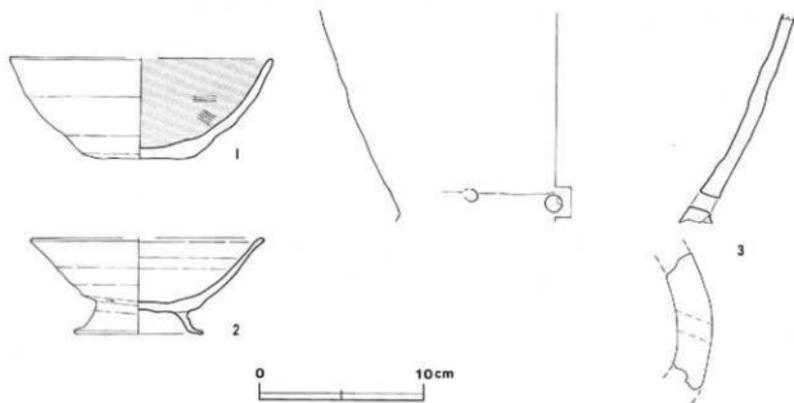
覆土 3層からなり、自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 焼土・ローム・小ブロック・粘土・粘土塊  
2 暗褐色 ローム・小ブロック・ローム・粘土・粘土塊

遺物 土師器片288点、須恵器片33点、鉄製品1点、鉄滓（鍛冶滓）1点（55g）、土製品3点、縄文土器片1  
点が出土している。第166図1の土師器碗は、北東部の覆土中層から出土している。2の土師器高台付碗は、  
竈前面の床面から出土している。3の土師器飯椀は、竈内の覆土中から出土している。鉄滓は、中央部の覆土  
上層から出土し、流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、相上遺物から平安時代の10世紀前半と思われる。



第166図 第87号住居跡出土遺物

第87号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	編	考
第166図 1	土 創 器	A [160]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内埴気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面口クロナデ。内面へう磨き。底部手持ちへら面。内面黒色処理。体部外面。底部摩滅。	砂粒・石英・雲母にふい・褐色。普通	P665	20%
		B 61					
		C 49					
2	高台付 土 器 器	A [143]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内埴気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底部高台盛り付け後、ナデ。	砂粒・石英・雲母にふい・褐色。普通	P666	40%
		B 60					
		D 78					
		E 13					
3	土 創 器	B (129)	体部片。体部は外傾して立ち上がる。底部蹄状部残存。	体部内・外面ナデ。底部盛り付け後、ナデ面。体部下葉外面から内面へ穿孔。	砂粒・石英・雲母にふい・褐色。普通	P668	10%

第88号住居跡 (第167図)

位置 調査E区中央部、E2c区。

重複関係 第2号溝跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.06m、短軸2.73mの長方形である。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は15cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅10~20cm、下幅3~7cm、深さ5cmで全周する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、竈付近がよく踏み固められている。

竈 東壁中央南寄りを壁外へ50cmほど掘り込んで、付設されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ80cm、両袖間の最大幅(80cm)である。袖部は、ローム土混じりの粘土で構築されている。火床部は、熱を受け赤変している。長さ35cm、幅10~15cmの円礫を支脚として火床部奥に埋設し使用している。煙道部は、火床部から傾斜して立ち上がる。

覆土層解説

- 1 暗褐色 粘土粒子微量  
2 灰褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量

- 3 に近い赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、  
焼土粒子微量  
4 明赤褐色 焼土粒子多量

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は径25cmの円形で、深さ12cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

P2は径20cmの円形で、深さ20cmである。性格は不明である。

覆土 3層からなり、自然堆積である。

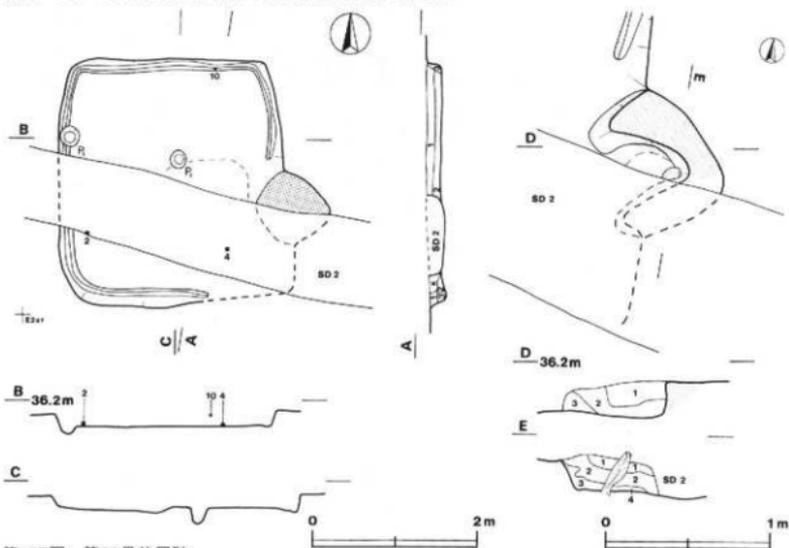
土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子微量  
2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片907点、須恵器片84点、灰釉陶器片3点、瓦片1点、鉄製品2点、鉄滓2点、土製品5点、石製品1点が出土している。第168図1の土師器高台付椀は、北東部の覆土中層から出土している。2の土師器高台付椀は、南西部の床面から、3の土師器小皿は、南西部の覆土下層から出土している。4の土師器小皿は南東部の床面から、5～8の土師器小皿、9の土師器甕は南東部の覆土下層から出土している。10の平瓦は、北壁中央部の覆土下層から出土し、第89・92B号住居跡出土の瓦片と接合する。11の打製石斧、鉄滓は、含鉄滓1点 (10g)、鍛冶滓1点 (50g) で、中央部の覆土上層から出土している。いずれも流れ込みと思われる。

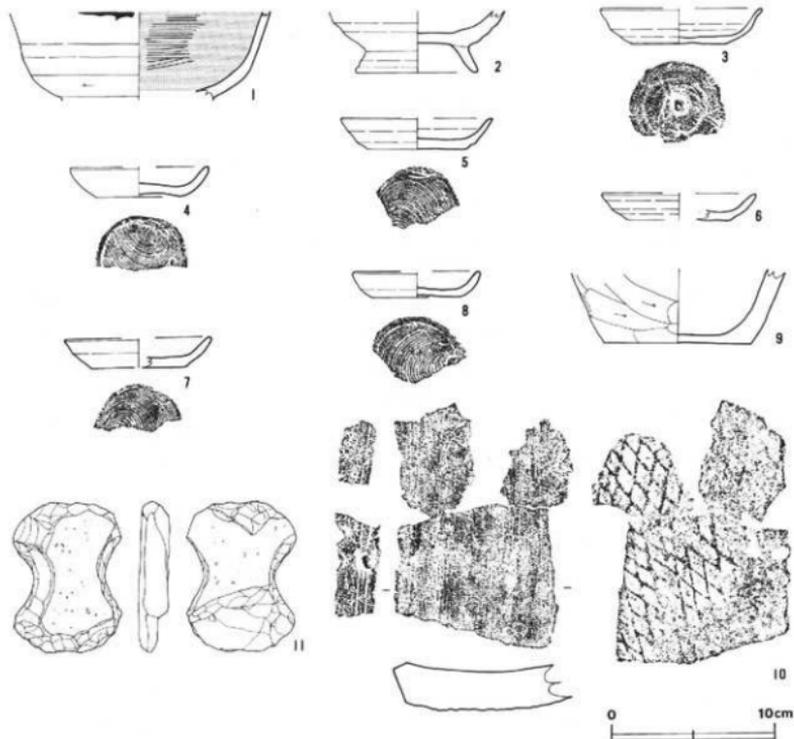
所見 本跡の時期は、出土遺物から10世紀後半と考えられる。



第167図 第88号住居跡

第88号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	産地	考
第168図 1	高台付椀 土師器	B(52)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。高台部潤滑。	口縁部から体部外面ロケロナデ。内面へり巻き。内面黒色処理。底部高台転り付け後、ナデ突。	粘土・色調・焼成 砂粒・雲母・バミス に多い黄褐色	P609 北東部覆土中層	10%



第168図 第88号住居跡出土遺物

図取番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第168図 2	高台付 土師器	B [ 3.7] D 7.4 E 1.6	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり。右部はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台張り付け焼。ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母にふい橙色普通	P670 南東部床面 20%
3	小 土師器	A [ 99] B 2.2 C 5.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり。口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へり削り。	砂粒・石英・雲母にふい橙色普通	P671 南西部覆土下層 50%
4	小 土師器	A [ 84] B 1.8 C 5.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり。口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・黒色粒橙色普通	P672 南東部床面 50%
5	小 土師器	A [ 92] B 1.9 C [ 5.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり。口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母にふい藍色普通	P673 南東部覆土下層 45%
6	小 土師器	A [ 94] B 1.6 C [ 6.1]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり。口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母にふい藍色普通	P674 南東部覆土下層 25%

区域番号	器種	測定値	器種の特徴	手法の特徴	出土位置・状況	備考
第169区 7	小 土 師 器	A : 90 B : 18 C : 36	底部から内縁にかけての底面平 直。作法は内輪気味に立ち上がり、 口縁部に窄る。	1輪部から外縁部へ内輪ロケツナ 気味(輪系切)	砂粒・石質・雲母 に3A・粒直 普通	P 875 西縁部出土層
	小 土 師 器	A : 78 B : 18 C : 36	底部から内縁部にかけての底面平 直。作法は内輪気味に立ち上がり、 1輪部に窄る。	1輪部から外縁部へ内輪ロケツナ 気味(輪系切)	砂粒・石質・雲母 に3A・粒直 普通	P 874 西縁部出土層
9	大 土 師 器	A : 146 B : 80	底部から外縁にかけての底面平直 。作法は内輪気味に立ち上がる。	外縁部外縁部のへり廻り。内面平 直。	砂粒・石質・ガラス に3A・粒直 普通	P 878 西縁部出土層

#### 土製品観察表

IC56番号	材 質	測定値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
10	瓦	11.52	11.12	2.1	566.3	北野中央部出土層	T.15 西縁部出土層 西縁部出土層 30%

#### 石製品観察表

IC56番号	種 別	測定値				石 質	出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
11	打製石斧	9.1	6.7	1.6	137.2	砂 岩	中央部出土層	Q.31 分銅形

#### 第89A号住居跡 (第169区)

位置 調査E区中央部、E20区。

重複関係 第1・2号溝跡、第8号井戸跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。また、本跡が第89B号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸1.55m、短軸1.30mの方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は24cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅15~25cm、下幅3~7cm、深さ5cmで、東・南・西壁の一部で確認する。断面形はU字形である。

床 全体的に平川で、中央がよく踏み固められている。

竈 第1号溝跡に掘り込まれ、北壁中央部を壁外へ掘り込んで付設されている板跡を確認するのみである。規模は不明である。火床部は、径30cmの円形に熱を受け変色している。

ピット 4か所 (P1~P4)。P1は長径40cm、短径30cmの楕円形で深さ42cmである。P2は径35cmの円形で深さ12cmである。P3は長径40cm、短径30cmの楕円形で深さ36cmである。P4は径35cmの円形で深さ12cmである。いずれも性格は不明である。

#### P1土層解説

- 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少許

#### P2土層解説

- 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
- 暗褐色 ローム粒子微量

覆土 5層からなり、自然堆積である。

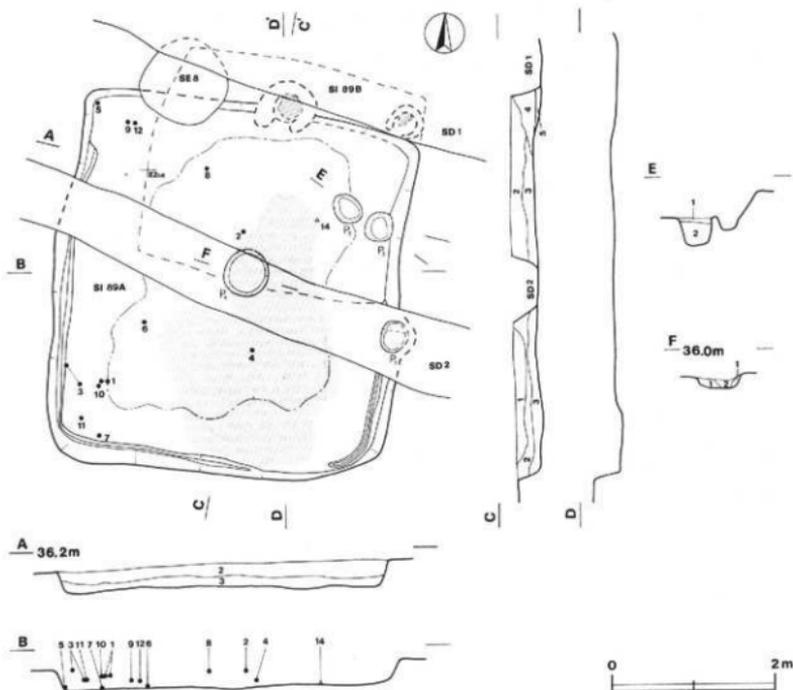
#### 土層解説

- 黒褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 黒褐色 ローム小ブロック・粘土大ブロック少量、粘土粒子・ローム粒子微量
- 暗褐色 凝上粒子・炭化粘土・ローム粒子微量
- 茶褐色 凝上大・中ブロック中量、ローム粒子少量
- 暗褐色 ローム大・中ブロック多量、凝上小ブロック、炭化物・粘土小ブロック中量

遺物 土師器片1149点、須恵器片49点、灰釉陶器片4点、鉄製品2点、瓦片2点が出土している。第170区1の上師器碗、3の上師器高台付碗、10・11の上師器小皿は南西部の覆土下層から出土している。2の上師器

椀は中央部の覆土中層から、6の土師器高台付椀は中央部の床面から出土している。4の土師器高台付椀は中央部南側の覆土下層から、13の丸瓦は中央部南側の覆土下層から出土している。5の土師器高台付椀は北西部の床面から、9・12の土師器小皿は北西部の覆土下層から出土している。7の土師器小皿は、南西コーナー部の床面から出土している。8の土師器小皿は、中央部北側の覆土中層から出土している。14の刀子は、中央部東側の床面から出土している。

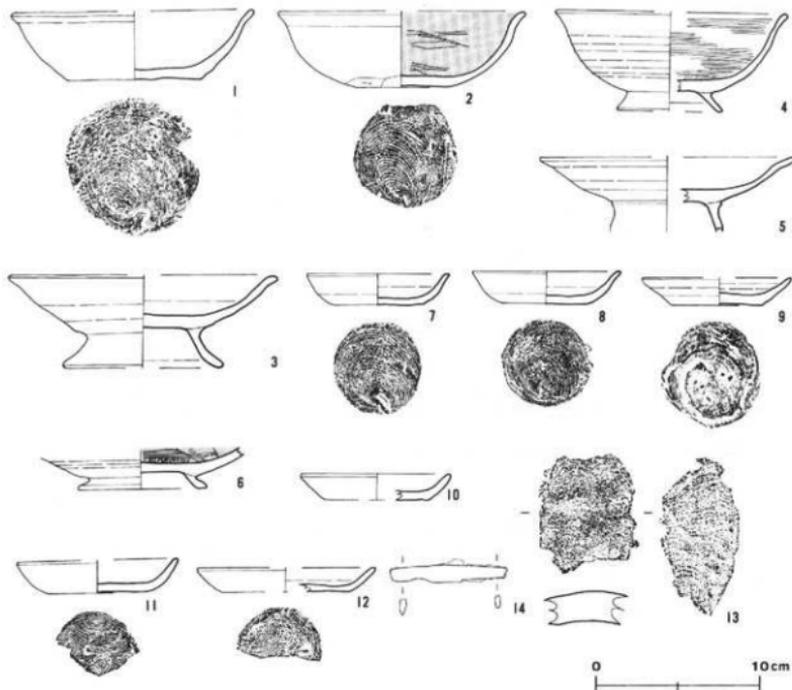
所見 本跡の時期は、出土遺物から10世紀後半以降と考えられる。



第169図 第89A・B号住居跡

第89A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備	考
第170図 1	椀	A [14]	体部一部欠損。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・黒色粒に多い・褐色	P 679	60%
		B 12					
		C 80					
2	土師器	A [15.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下縁手持ちヘラ割り。内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母に多い・褐色	P 680	20%
		B 47					
		C 5.6					



第170図 第89A号住居跡出土遺物

図版番号	器種	寸法(㎝)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備	考
第170図 3	高台付碗 土 胎 器	A [16.5] B 5.7 D [9.8] E 2.4	高台部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。台部は長くハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底部高台貼り付け後、ナデ。	石英・長石・雲母に ぶい・褐色 普通	P683	40% 南西部覆土下層
4	高台付碗 土 胎 器	A [14.3] B 6.1 D [6.4] E 1.1	高台部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内傾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	口縁部から体部外面口クロナデ。底部高台貼り付け後、ナデ。内面ヘラ磨き。	砂粒・石英・雲母 にぶい・褐色 普通	P684	20% 中央部南無覆土下層
5	高台付碗 土 胎 器	A [15.6] B (4.6) E [1.8]	高台部から口縁部にかけての破片。体部は外傾しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。台部は長くハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底部高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい・褐色 普通	P685	15% 北西部床面
6	高台付碗 土 胎 器	B [2.3] D 7.8 E 0.8	高台部から体部にかけての破片。体部は内傾気味に立ち上がり、台部は短くハの字状に開く。	体部外面口クロナデ。内面ヘラ磨き。底部高台貼り付け後、ナデ。内面着色処理。	砂粒・石英・雲母 褐色 普通	P686	15% 中央部床面
7	小 皿 土 胎 器	A 8.9 B 1.9 C 5.4	平底。体部は内傾気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P687	100% 南西部コーナー床面
8	小 皿 土 胎 器	A 9.1 B 2.0 C 5.4	体部一部欠損。平底。体部は内傾気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・ハリス 褐色 普通	P688	60% 中央部北側覆土中層

図説番号	器種	品名	器形の概要	手法の記載	出土・位置・状況	備考
第170号	小 鉢	A 1.93	底部から1/4部にかけての破片。手	1/4部から1/2部内・外面ワケモノナ	砂粒・灰石・黒母 に多い白色	P600 北西コーナー後1下層
		B 1.7	底。体部は内側尖末に立ち上がり、	1/4部内側へ切り		
		C 3.5	1/4部にある			
16	小 鉢	A 92	底部から1/4部にかけての破片。手	1/4部から1/2部内・外面ワケモノナ	砂粒・灰石・黒母 に多い白色	P600 北西コーナー後1下層
		B 21	底。外側は内側尖末に立ち上がり、	1/4部内側へ切り		
		C 1.63	1/4部にある			
11	小 鉢	A 95	底部から1/4部にかけての破片。手	1/4部から1/2部内・外面ワケモノナ	砂粒・灰石・黒母 に多い白色	P601 北西コーナー後1下層
		B 29	底。体部は内側尖末に立ち上がり、	1/4部内側へ切り		
		C 60	1/4部にある			
12	小 鉢	A 116	底部から1/4部にかけての破片。手	1/4部から1/2部内・外面ワケモノナ	砂粒・灰石・黒母 に多い白色	P602 北西コーナー後1下層
		B 15	底。体部は内側尖末に立ち上がり、	1/4部内側へ切り		
		C 60	1/4部にある			

土製品観察表

図説番号	器種	土 質				出土地点	備 考
		粘土 (cm <sup>3</sup> )	砂 (cm <sup>3</sup> )	灰 (cm <sup>3</sup> )	重量 (g)		
13	大 甕	(83)	(58)	2.0	(125.4)	中央部南側1下層	T16 門前石田牧 古洲ナメ高整 5%

金属製品観察表

図説番号	器種	金 属				出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
14	刀 子	(6.9)	1.0	0.3-0.1	17.6	中央部南側1下層	M73 30%

## 第89B号住居跡 (第169号)

位置 調査E区中央部、E2b区。

重複関係 第89A号住居跡、第1・2号溝跡、第8号井戸跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 長軸 (3.26m)、短軸 (2.82m) で長方形と推定される。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は21cmで、外傾して立ち上がる。北壁は第1号溝跡に、南・西壁は第89A号住居跡に掘り込まれ不明である。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

電 第1号溝跡に掘り込まれ、北東コーナー部を壁外へ掘り込んで付設されている炊爨を確認するのみである。規模は不明である。火床部は熱を受け変色している。

覆土 第89A号住居跡に掘り込まれ、不明である。

遺物 土師器片3点が出土しているが、図示できるものはない。

所見 出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが、第89A号住居跡との重複関係から10世紀後半以前の平安時代と思われる。

### 第90号住居跡 (第171図)

位置 調査E区中央部、E2e区。

重複関係 第4号溝跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 南側が調査区域外に延びており、東西3.47m、南北1.69m)で方形が長方形と推定される。

主軸方向 N-77°-E

壁 壁高は19cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

竈 調査区域内では確認できなかった。

覆土 3層からなり、自然堆積である。

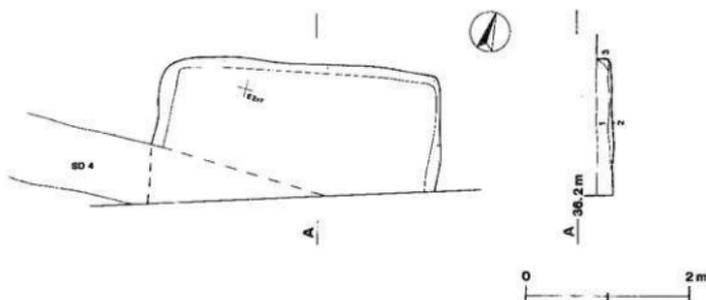
#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量

3 暗褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片126点、須恵器片7点、含鉄滓1点(20g)が出土している。図示できるものはない。

所見 出土遺物が細片であり時期を決定するのが難しいが、底部条切りの土師器坏片や土師器小皿片が出土していることから10世紀以降の平安時代と思われる。含鉄滓は流れ込みと思われる。



第171図 第90号住居跡

### 第91号住居跡 (第172図)

位置 調査E区中央部、D2e区。

規模と平面形 北側の一部が調査区域外に延びており、長軸3.15m、短軸(3.09m)で方形が長方形と推定される。

主軸方向 N-90°-E

壁 掘り込みが浅く、床面だけを確認するだけで、壁高は測定不能である。

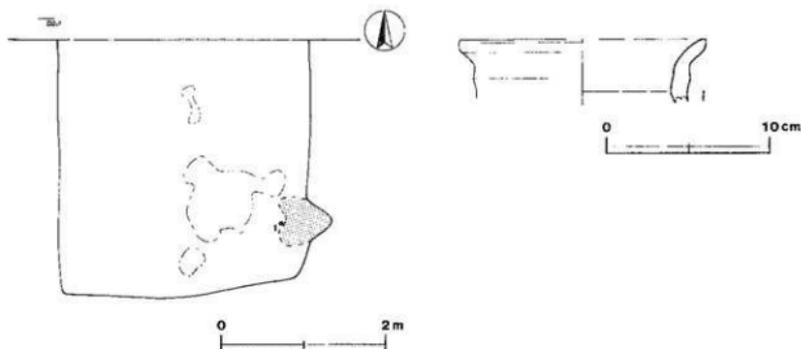
床 全体的に平坦で、一部踏み固められている。

竈 東壁中央南寄りに粘土と焼土が散在しており、竈の痕跡と思われる。

覆土 覆土は確認できなかった。

遺物 土師器片5点、羽目片1点が出土している。第172図の土師器甕は竈付近から出土している。

所見 形状から平安時代と思われるが、出土遺物が少なく詳細な時期は不明である。羽目片は関連する遺構が認められないことから、本跡に伴うものではないと考えられる。



第172図 第91号住居跡・出土遺物

第91号住居跡出土遺物観察表

図録番号	品 種	寸法(mm)	形 状 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・肌成	備 考
第172図	瓦	A 15.2 B 3.99	体部から口縁部にかけての破片。体部は内側しながら立ち上がる。胴部はくの字状を呈し、口縁部は外傾する。	1.縁部内外面傾マブ。	砂粒・石灰・炭屑 褐色 骨殖	P685 電付三 5%

### 第92A号住居跡 (第173図)

位置 調査E区中央部、D21a区。

重複関係 第92B号住居跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 北側が調査区域外に延びており、長軸 (1.82m)、短軸 (1.03m) で、平面形は不明である。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は14cmで、外傾して立ち上がる。南・西壁は第92B号住居跡に掘り込まれ不明である。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

竈 東壁中央南寄りを壁外へ30cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ60cm、両袖間の最大幅75cmである。袖部は、褐色粘土で構築されている。火床部は、長径35cm、短径15cmの楕円形に2cmほど掘りくぼめられ、熱を受け赤変している。煙道部は、火床部から傾斜して立ち上がる。

#### 竈土層解説

- |                             |                    |
|-----------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子微量                | 3 暗赤褐色 焼土粒子微量      |
| 2 赤褐色 焼土大ブロック・焼土粒子多量、粘土粒子少量 | 4 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子微量 |

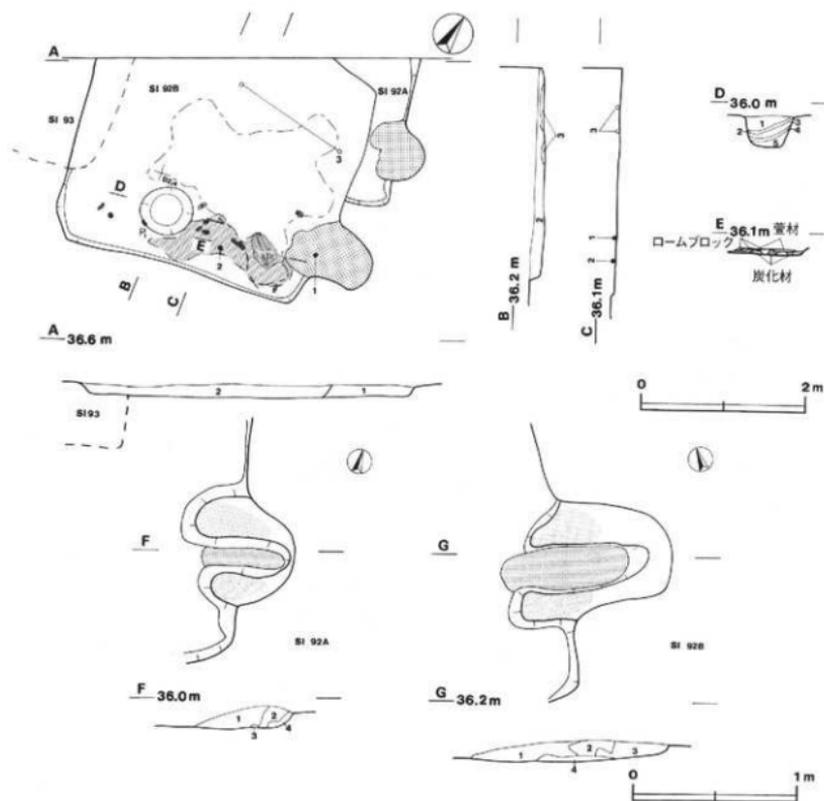
覆土 単一層であり、自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量

遺物 土師器片33点、須器器片12点、灰胎陶器片3点が出土している。

所見 出土遺物が編片であり時間を決定するのが難しいが、重複関係から9世紀末以前の平安時代と思われる。



第173図 第92A・B号住居跡

第92B号住居跡 (第173図)

位置 調査区中央部, D2a区。

重複関係 本跡が第92A・93号住居跡を掘り込んでいるため, 本跡が新しい。

規模と平面形 北側が調査区域外に延びており, 長軸3.12m, 短軸(2.96m)で, 平面形は方形と思われる。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は14cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で, 竈から中央部がよく踏み固められている。

竈 東壁中央南寄りを壁外へ70cmほど掘り込んで, 付設されている。規模は, 焚口部から煙道部までの長さ105cm, 両袖間の最大幅80cmである。袖部は, 褐色粘土で構築されている。火床部は, 長さ60cm, 短径25cm

の楕円形に5cmほど掘りくぼめられ、熱を受け赤変している。煙道部は、火床部から緩やかに立ち上がる。

**覆土層解説**

- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量      | 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量    |
| 2 赤褐色 焼土粒子多量、焼土大ブロック少量 | 4 黒褐色 炭化粒子中量、焼土粒子少量、灰微量 |

**ピット** P1は径60cmの円形で、深さ40cmである。性格は不明である。

**P1土層解説**

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化材中量   | 4 黒褐色 炭化材多量、焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子多量、炭化材少量 | 5 暗褐色 焼土粒子・炭化材少量   |
| 3 黒褐色 焼土粒子・炭化材微量   |                    |

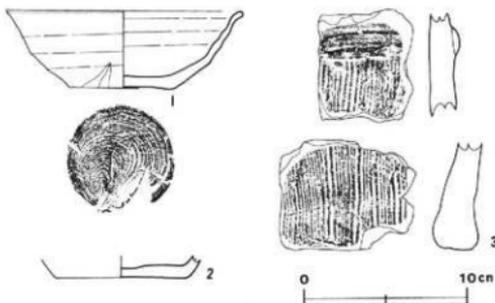
**覆土** 2層であり、自然堆積である。

**土層解説**

- |                         |                           |
|-------------------------|---------------------------|
| 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 | 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子多量、ローム粒子微量 |
|-------------------------|---------------------------|

**遺物** 土師器片15点、須恵器片6点、瓦片1点、炭化材13点、埴輪片3点が出土している。第174図1の土師器碗は竈右袖内から正位で出土している。2の須恵器杯は南壁付近の床面から出土している。3の円筒埴輪は、中央部北側の覆土下層から出土しているが、流れ込みと思われる。

**所見** 出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが、9世紀末から10世紀初頭と思われる。南壁近くの床面に焼土と共に長さ3～9cm、径2～7cmの炭化材が中央を向いて遺存し、その上に炭化した葦も出土しているから、本跡は焼失家屋と考えられる。



第174図 第92B号住居跡出土遺物

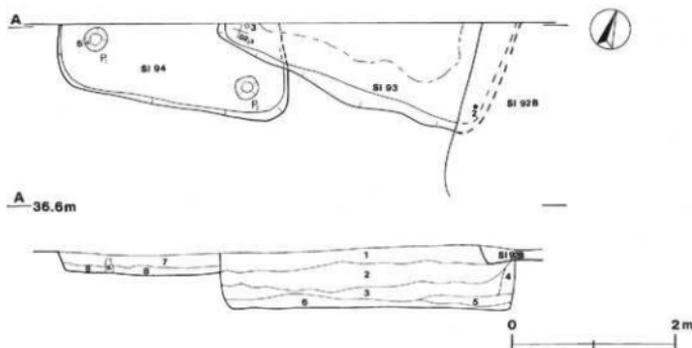
**第92B号住居跡出土遺物観察表**

図録番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第174図 1	碗 土師器	A 14.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部へラ当て痕。	砂粒・雲母・パミスに多い褐色 普通	P606 90% 竈内
		B 4.6				
		C 6.3				
2	杯 須恵器	B (1.5) C [ 8.0]	底部平。平底。体部は内野気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部平持ちへラ削り。	砂粒・石英・パミスに多い褐色 普通	P608 10% 南壁付竈床面
3	円筒埴輪	器径13.6	外面タテハケ後凸部貼り付け。内面ヘラナデ。凸部は低い台形。縦毛目2cm内に7本。		砂粒・スコリア 褐色 普通	DP85 5% 中央部北側覆土下層

**第93号住居跡 (第175図)**

**位置** 調査E区中央部、D2is区。

**重複関係** 本跡が第94号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。また、第92B号住居跡が本跡を掘り込



第175図 第93・94号住居跡

んでいるため、木跡が古い。

**規模と平面形** 北側が調査区域外に延びており、長軸3.47m、短軸(1.42m)で、平面形は方形か長方形と推定される。

**主軸方向** N-0°

**壁** 壁高は60cmで、外傾して立ち上がる。

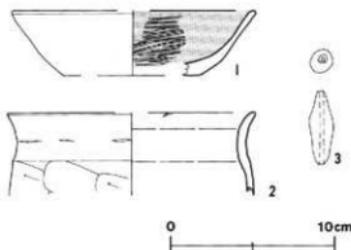
**床** 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

**竈** 調査区域内では確認できなかった。

**覆土** 6層からなり、自然堆積である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック中量、ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム中・小ブロック多量、ローム粒子中量
- 6 褐色 ローム粒子少量



第176図 第93号住居跡出土遺物

**遺物** 土師器片40点、須志器片5点、土製品1点が出土している。第176図1の土師器環は、中央部の覆土中層から出土している。2の土師器甕は、南東コーナー部の床面から出土している。3の管状土錘は、南西コーナー部の覆土下層から出土している。

**所見** 出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが、9世紀後葉と思われる。

第93号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徵	手法の特徵	胎土・色調・焼成	備考
第176図 1	環 土師器	A [15.0]	底部から口縁部にかけての破片。平	口縁部から体部外面ロクロナデ。底	砂粒・石英・雲母	P609 5% 中央部覆土中層
		B 4.0	丸。体部は内壁気味に立ち上がり、	部へラ当て。内面へラ磨き。底部	明褐色	
		C [ 8.3]	口縁部に至る。	凹状糸切り。内面黑色処理。	普通	
2	甕 土師器	A [18.1]	体部から口縁部にかけての破片。体	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横	石英・長石	P700 10% 南東コーナー・床面
		B ( 5.1)	部は内壁気味に立ち上がる。頸部は	位のへラ磨り。内面ナデ。口縁部外	内面褐色	
			コの字状を呈し、口縁部は外傾する。	面輪積み裏。	普通	

## 土製品観察表

採取番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
3	管状土器	40	14	0.2	7.3	南西コーナー覆土下層	DF86 100%

### 第94号住居跡(第175図)

位置 調査E区中央部, D2j区。

重複関係 第93号住居跡が本跡を掘り込んでいるため, 本跡が古い。

規模と平面形 北側が調査区域外に延びており, 東西2.70m, 南北(1.17m)で, 平面形は方形長方形と推定される。

主軸方向 N-15°-W

壁 壁高は24cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で, 踏み固められている。

竈 調査区域内では確認できなかった。

ピット 2か所(P1・P2)。P1は径25cmの円形で, 深さ25cmである。P2は径30cmの円形で, 深さ30cmである。いずれも支柱穴と思われる。

覆土 2層からなり, 自然堆積である。

#### 土層解説

7 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子微量

8 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片19点, 須恵器片11点, 鉄製品1点が出土している。第177図4の須恵器高台付環と, 5の須恵器甕は中央部の覆土中層から出土している。6の刀子は, 南西部の床面に垂直に突き刺さるように出土している。所見 出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが, 重複関係から9世紀後葉以前の平安時代と思われる。



第177図 第94号住居跡出土遺物

### 第94号住居跡出土遺物観察表

採取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第177図 4	高台付杯 須恵器	B (4.4) D (9.7) E 0.6	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。右部はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台盛り付け後, ナデ。	砂粒・バミスに多い黄褐色 普通	P701 10% 中央部覆土中層
5	甕 須恵器	B 3.3	口縁部片。口縁部は前面三角形を呈している。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面に波状文を有する。	砂粒・雲母・黒色粒 に多い褐色 普通	P303 5% 中央部覆土中層

### 金属製品観察表

採取番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	刀子	(10.0)	0.8	0.5	(13.3)	南西部床面	M74 70%

第98号住居跡（第179図）

位置 調査E区中央部、E2ast区。

重複関係 本跡が第95号住居跡と第314号土坑を掘り込んでいるため、本跡が新しい。また、第1号溝跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.15m、短軸3.13mの不整形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は23cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

竈 北壁中央部を壁外へ45cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ95cm、両袖間の最大幅115cmである。袖部は灰白色粘土で構築されている。土師器甕片が袖部の補強材として使用されている。火床部は長径50cm、短径30cmの楕円形に5cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて硬化している。煙道部は、火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- |                        |                  |
|------------------------|------------------|
| 1 黒褐色 粘土粒子少量           | 3 黒褐色 炭化材・炭化粒子中量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、粘土粒子微量 |                  |

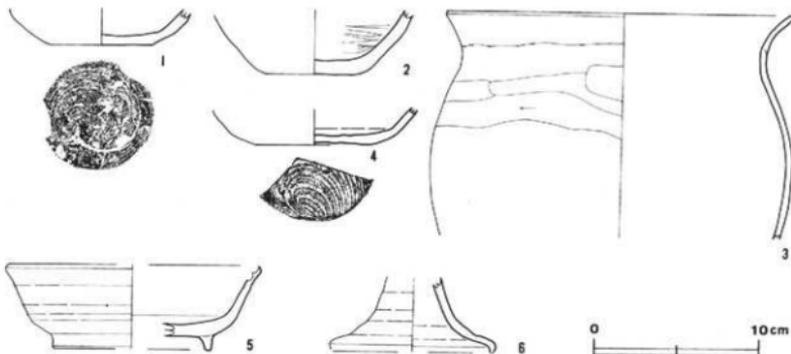
覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

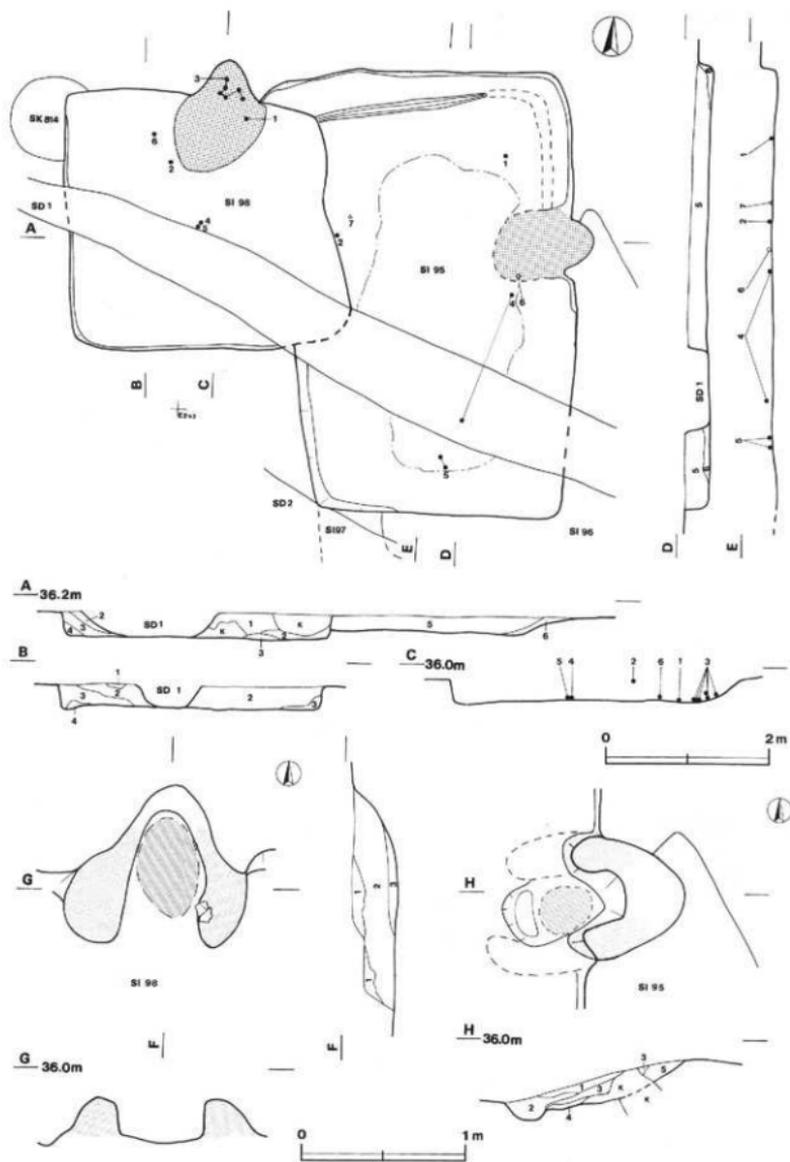
- |                       |               |
|-----------------------|---------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量         | 3 暗褐色 ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量、白色酸粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量 |

遺物 土師器片76点、須恵器片58点が出土している。第178図1の土師器環、3の土師器甕は竈内の覆土中から出土している。2の土師器環は竈前面の覆土中層から、6の須恵器高坏は北西部の床面から出土している。4の須恵器環、5の須恵器高台付坏は中央部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物と第95号住居跡との重複関係から9世紀後葉と思われる。4の須恵器環は栃木県佐野市・岩舟町の三森山窯産である。



第178図 第98号住居跡出土遺物



第179图 第98·95号住居跡

第98号住居跡出土遺物観察表

図号	名称	位置	形状の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
1	土師器	B 1 23	底部から腰部にかけての縦溝。平底。腰部は内側気味に立ち上がる。	腰部内・外側はクロナダ。底部は黒色。塗り。	赤褐色・黒色・赤褐色に濃い褐色	P726 10%
		B 4 41	胴部から腰部にかけての縦溝。平底。腰部は内側気味に立ち上がる。	11号器から腰部外側はクロナダ。底部は黒色。内面へうけ。	赤褐色・黒色・褐色に濃い褐色	P727 5%
2	土師器	A 122	底部から腰部にかけての縦溝。平底。腰部は内側気味に立ち上がり、11号器はわずかに外反する。	腰部内・外側はクロナダ。底記手跡へうけあり。黒色気味。	赤褐色・黒色・褐色に濃い褐色	P728 10%
		B 1 34	底部から腰部にかけての縦溝。平底。腰部は内側気味に立ち上がり、11号器はわずかに外反する。	腰部内・外側はクロナダ。底記手跡へうけあり。黒色気味。	赤褐色・黒色・褐色に濃い褐色	P729 5%
3	土師器	A 122	底部から腰部にかけての縦溝。平底。腰部は内側気味に立ち上がり、11号器はわずかに外反する。	腰部内・外側はクロナダ。底記手跡へうけあり。黒色気味。	赤褐色・黒色・褐色に濃い褐色	P728 10%
		B 1 34	底部から腰部にかけての縦溝。平底。腰部は内側気味に立ち上がり、11号器はわずかに外反する。	腰部内・外側はクロナダ。底記手跡へうけあり。黒色気味。	赤褐色・黒色・褐色に濃い褐色	P729 5%
4	土師器	C 1 72	腰部から腰部にかけての縦溝。平底。腰部は内側気味に立ち上がる。	腰部内・外側はクロナダ。底記手跡へうけあり。	赤褐色・黒色・褐色に濃い褐色	P730 5%
		B 1 34	底部から腰部にかけての縦溝。平底。腰部は内側気味に立ち上がり、11号器はわずかに外反する。	腰部内・外側はクロナダ。底記手跡へうけあり。	赤褐色・黒色・褐色に濃い褐色	P729 5%
5	高台付土師器	A 156	高台部から口縁部にかけての縦溝。平底。腰部は高座的に外反して立ち上がり、11号器はわずかに外反する。台座はハの字状に開く。	11号器から腰部内・外側はクロナダ。高台部は黒色塗り。	赤褐色・黒色・褐色に濃い褐色	P731 30%
		B 52	高台部から口縁部にかけての縦溝。平底。腰部は高座的に外反して立ち上がり、11号器はわずかに外反する。台座はハの字状に開く。	11号器から腰部内・外側はクロナダ。高台部は黒色塗り。	赤褐色・黒色・褐色に濃い褐色	P732 35%
6	土師器	D 1017	腰部。腰部はハの字状に開き、高台部は下方に凹み出されている。	黒色塗り。	赤褐色・黒色・褐色に濃い褐色	P732 35%
		E 1 47	腰部。腰部はハの字状に開き、高台部は下方に凹み出されている。	黒色塗り。	赤褐色・黒色・褐色に濃い褐色	P732 35%

第95号住居跡 (第179図)

位置 調査E区中央部、E2a1区。

重複関係 本跡が第96・97号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。また、第98号住居跡、第1号溝跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.40m、短軸3.47mの長方形である。

主軸方向 N-82-E

壁 壁高は20cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 東壁中央部を壁外へ55cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ110cm、両側間の最大幅80cmである。竈前は、褐色の砂質粘土で構築されている。火床部は、長さ35cm、厚さ30cmの楕円形に5cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて赤変質化している。火床部の手前に幅32cm、高さ10cmの灰床と思われる落ち込みが見られる。煙道部は、火床部から緩やかに立ち上がる。

出土遺物

- |                                   |                        |
|-----------------------------------|------------------------|
| 1 濃い赤褐色 粘土粒子中量、焼土大ブロック・焼土粒子・炭化土少量 | 4 赤褐色 焼土粒子多量、粘土粒子微量    |
| 2 暗赤褐色 炭化土中量、焼土大ブロック・焼土粒子少量       | 5 暗赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量 |
| 3 濃い赤褐色 焼土粒子中量、焼土大ブロック少量          |                        |

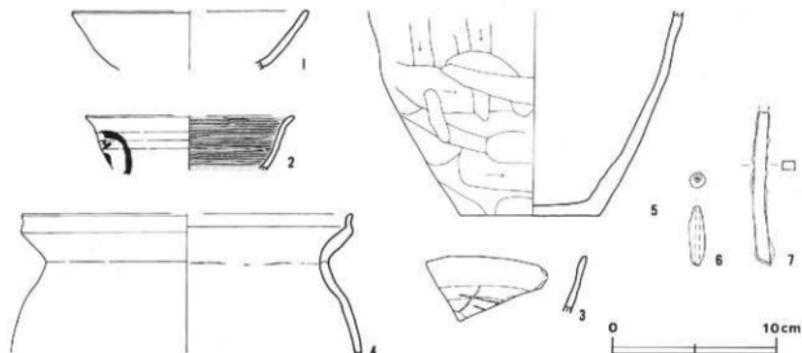
覆土 2層からなり、自然堆積である。

土層解説

- |                      |               |
|----------------------|---------------|
| 5 暗褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子微量 |
|----------------------|---------------|

遺物 土師器片88点、須臾器片37点、鉄製品2点、土製品1点が出土している。第180図の土師器片は北東コーナー部の床面から出土している。2の土師器片と7の鉄釘は中央部の、4の土師器片と6の管状土師器は竈前面の、5の土師器片は竈壁付近の殺土下層からそれぞれ出土している。3の土師器片は竈内の覆土中から出土している。

所見 本跡は、出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが、第98号住居跡との重複関係から9世紀中葉と思われる。



第180図 第95号住居跡出土遺物

第95号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・地成	備 考
第180図 1	坏 土 師 器	A [14.6] B ( 3.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。	長石 にふい黄褐色 普通	P702 10% 北東コーナー床面
2	坏 土 師 器	A [12.8] B ( 3.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面口クロナデ。内面へう磨き。内面黒色処理。	石英・長石 棕色 普通	P703 10% 中央部履土下層 体部外面黒磨
3	坏 土 師 器	B ( 3.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面口クロナデ。体部内面へう磨き。	砂粒・スコリア にふい黄褐色 普通	P704 5% 壺内 体部外面黒磨
4	甕 土 師 器	A [20.2] B ( 8.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し、口縁部は外傾する。頸部は上方につまみ上げられている。	口縁部から体部内・外面ナデ。体部内面輪積み痕。	砂粒・石英・雲母 にふい褐色 普通	P706 5% 甕履土下層
5	甕 土 師 器	B (12.5) C 8.5	底部から体部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面中央位腹のへう削り。下位模位のへう削り。内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 にふい黄褐色 普通	P708 20% 甕履付近層土下層

土製品観察表

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
6	管状土鉢	3.6	1.0	0.3	27	甕履土下層	DP87 100%

金属製品観察表

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	鉄 釘	( 9.2)	0.8	0.5	(14.7)	中央部履土下層	M75 70%

### 第96号住居跡（第181区）

位置 調査E区中央部、E2b4区。

重複関係 本跡が第97号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。また、第95号住居跡、第1・2号溝跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.26m、短軸3.28mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は55cmで、外傾して立ち上がる。

基溝 上幅15～25cm、下幅3～5cmで深さ3cmである。北東コーナー部を除いて巡っている。断面形はU字形である。

床 全体的に平埤で、踏み固められている。

竈 北壁中央部を壁外へ100cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ165cm、両前側の最大幅150cmである。前部は、褐色粘土で構築されている。土師器瓦片が前部の補強材として使用されている。火床部は、径80cmの円形に5cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、火床部から緩やかに立ち上がる。

#### 竈土層解説

- |       |                     |       |                         |
|-------|---------------------|-------|-------------------------|
| 1 紫褐色 | 粘土・小ブロッコ・粘土粒子少量     | 4 灰褐色 | 粘土小ブロッコ・粘土粒子・灰中粒・粘土粒子少量 |
| 2 褐色  | 褐色粘土・中・小ブロッコ・粘土粒子少量 | 5 赤褐色 | 焼土小ブロッコ・焼土粒子少量          |
| 3 暗褐色 | 焼土小ブロッコ少量           |       |                         |

ピット 2か所（P1・P2）。P1は長径25cm、短径20cmの楕円形で、深さ20cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は径25cmの円形で、深さ5cmである。底径20cmで平埤であることから土器を設置したピットと思われる。

覆土 3層からなり、自然堆積である。

#### 土層解説

- |       |                     |       |           |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | 37-μm粒子少量、焼土粒子微量    | 3 暗褐色 | 37-μm粒子少量 |
| 2 暗褐色 | コーム粒子少量、炭土粒子・炭化粒子微量 |       |           |

遺物 土師器片588点、須恵器片201点、鉄製品6点、土製品2点、鉄滓2点が出土している。第182図1・2の上銅器環、11の須恵器甕、13の須恵器双耳環、15・17鉄鎌は中央部の覆土中層から出土している。3の上銅器高台付環は竈前面の覆土中層から出土している。4の上銅器甕は竈左袖の内側から、6の土師器甕、12の須恵器甕は竈右袖の内側から出土している。ともに補強材として使用されている。5の上銅器甕は竈左袖上から出土している。7の土師器甕は、竈前面の覆土下層から出土している。8の須恵器環は北東コーナー部の覆土下層から横位で、10の須恵器甕は北東コーナー部の床面から出土している。9の須恵器環、16の鉄鎌は、竈内の覆土中層から出土している。14の土製紡錘車は北西部の床面から、18の不明鉄製品はP2の覆土中から出土している。鉄滓は竈内から出土し、流動滓1点（25g）、含鉄滓1点（25g）である。いずれも流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉と考えられる。8・9の須恵器環は三和町の三和窯である。

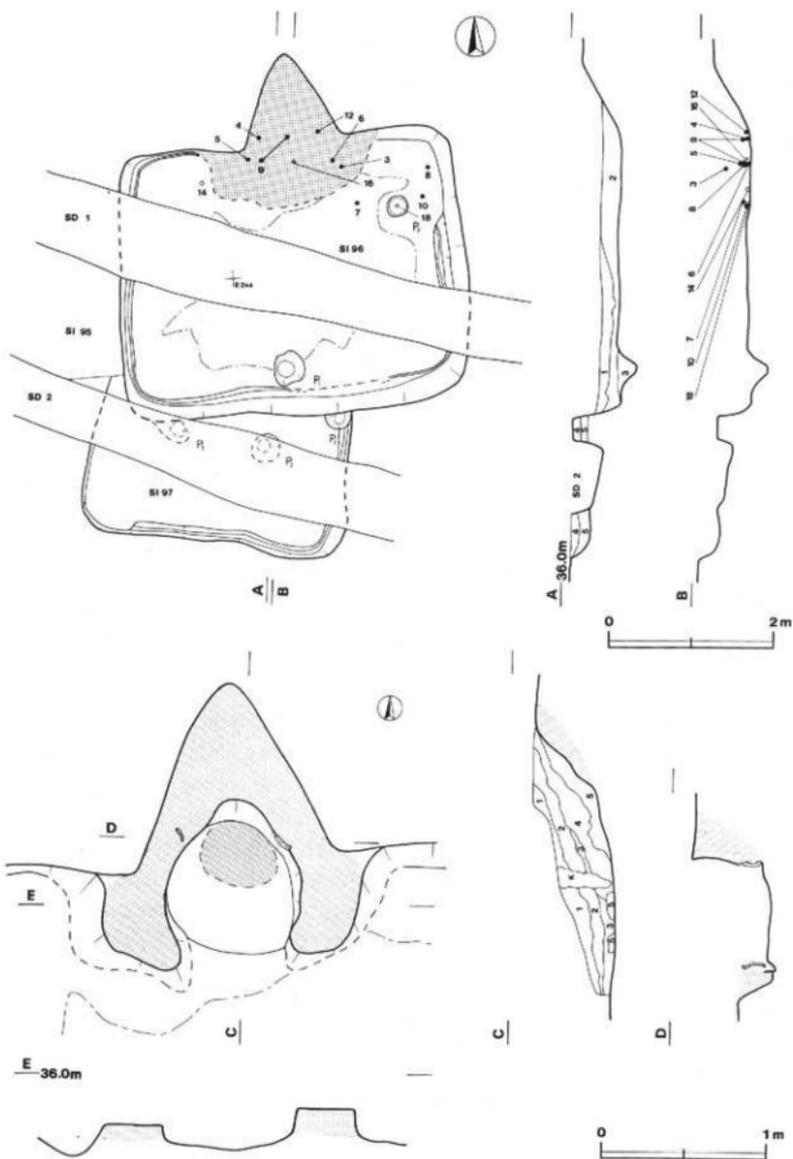
### 第97号住居跡（第181区）

位置 調査E区中央部、E2b4区。

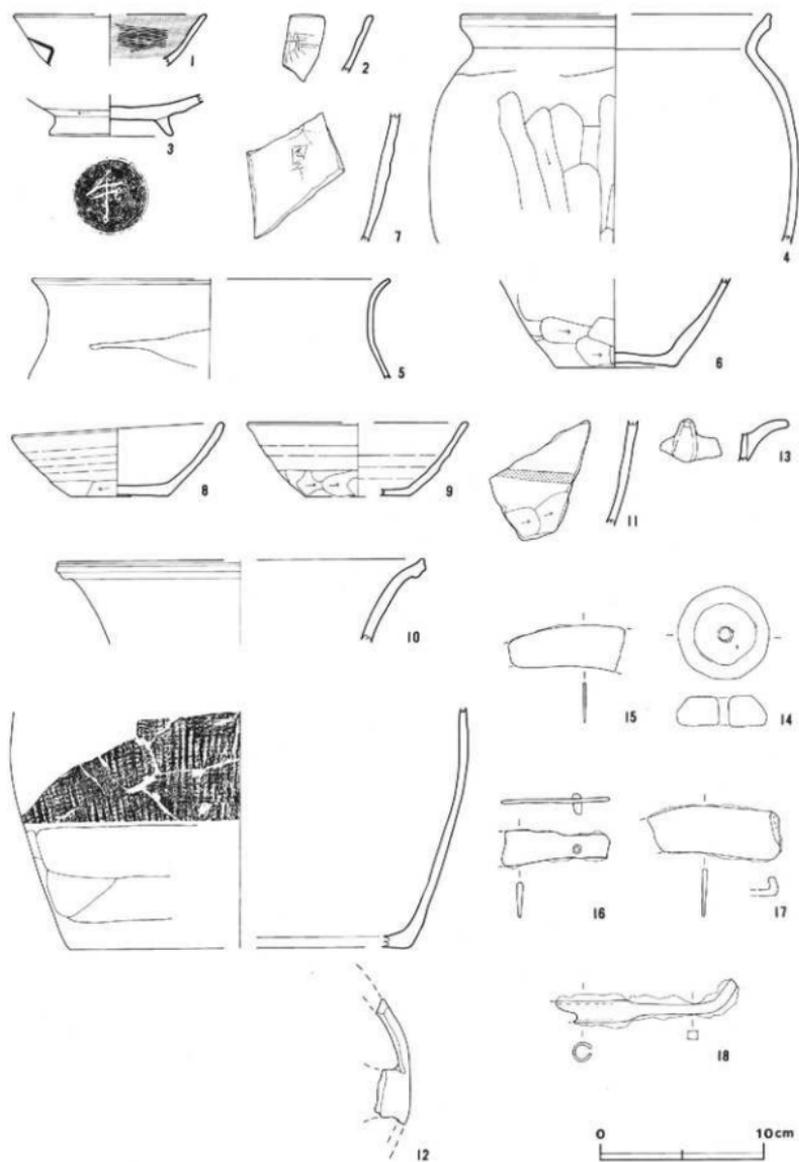
重複関係 第95・96号住居跡、第2号溝跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 東西3.05m、南北1.96mで、方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-13-E



第181图 第96·97号住居跡



第182図 第96号住居跡出土遺物

第96号住居跡出土遺物観察表

図版番号	品名	品名(和名)	器形の分類	製造法の分類	胎土・色別・装束	備考
1	平土師器	A (11A)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	口縁部から体部外面はクワリナテ。内径は平。	胎土・色別・装束 に濃い黄褐色 青褐色	P711 35% 中央部出土(5) 体の外径平
		B (13B)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	口縁部から体部外面はクワリナテ。内径は平。	胎土・色別・装束 に濃い黄褐色 青褐色	P712 38% 中央部出土(4)付 体部外面装束
3	高台有平土師器	B (23B)	底面から体部にかけての破片。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	体部内外面はクワリナテ。底面は平。	胎土・石質・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P714 39% 底面出土(4) 底面有平土師器
		D (7D)	底面から体部にかけての破片。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	体部内外面はクワリナテ。底面は平。	胎土・石質・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P714 39% 底面出土(4) 底面有平土師器
		E (13E)	底面から体部にかけての破片。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	体部内外面はクワリナテ。底面は平。	胎土・石質・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P714 39% 底面出土(4) 底面有平土師器
4	土師器	A (120A)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	口縁部内外面はクワリナテ。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	胎土・石質・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P715 45% 器内出土
		B (14B)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	口縁部内外面はクワリナテ。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	胎土・石質・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P715 45% 器内出土
5	土師器	A (20A)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	口縁部内外面はクワリナテ。	胎土・色別・装束 に濃い黄褐色 青褐色	P716 32% 器内出土
		B (6B)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	口縁部内外面はクワリナテ。	胎土・色別・装束 に濃い黄褐色 青褐色	P716 32% 器内出土
6	土師器	B (5B)	底面から体部にかけての破片。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	体部内外面はクワリナテ。底面は平。	胎土・石質・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P717 28% 器内出土
		C (5C)	底面から体部にかけての破片。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	体部内外面はクワリナテ。底面は平。	胎土・石質・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P717 28% 器内出土
7	土師器	B (7B)	体部。体部は内径突縁に立ち上がる。	体部内外面はクワリナテ。	胎土・色別・装束 に濃い黄褐色 青褐色	P718 32% 底面出土(1)付 体部外面装束
8	土師器	A (18A)	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部には平。	口縁部から体部内外面はクワリナテ。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	胎土・石質・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P719 100% 北東コーナー出土(1)付 口縁部出土
		B (4B)	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部には平。	口縁部から体部内外面はクワリナテ。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	胎土・石質・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P719 100% 北東コーナー出土(1)付 口縁部出土
		C (5B)	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部には平。	口縁部から体部内外面はクワリナテ。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	胎土・石質・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P719 100% 北東コーナー出土(1)付 口縁部出土
9	土師器	A (123A)	底面から口縁部にかけての破片。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	口縁部から体部内外面はクワリナテ。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	胎土・石質・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P720 30% 器内出土
		B (4B)	底面から口縁部にかけての破片。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	口縁部から体部内外面はクワリナテ。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	胎土・石質・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P720 30% 器内出土
		C (6C)	底面から口縁部にかけての破片。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	口縁部から体部内外面はクワリナテ。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	胎土・石質・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P720 30% 器内出土
10	土師器	B (13B)	口縁部。口縁部は外傾し、底面は立ち上がり、口縁部には平。	口縁部内外面はクワリナテ。	胎土・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P720 35% 北東コーナー出土
11	土師器	B (6B)	体部。体部は内径突縁に立ち上がる。	体部内外面はクワリナテ。口縁部は平。	胎土・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P722 5% 中央部出土(1)付 体部外面装束
		C (20C)	体部。体部は内径突縁に立ち上がる。	体部内外面はクワリナテ。口縁部は平。	胎土・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P722 5% 中央部出土(1)付 体部外面装束
12	土師器	B (14B)	底面から体部にかけての破片。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	体部内外面はクワリナテ。底面は平。	胎土・石質・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P723 10% 器内出土
		C (20C)	底面から体部にかけての破片。体部は内径突縁に立ち上がり、口縁部には平。	体部内外面はクワリナテ。底面は平。	胎土・石質・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P723 10% 器内出土
13	土師器	B (26B)	口縁部。体部は内径突縁に立ち上がる。	体部内外面はクワリナテ。口縁部は平。	胎土・石質・装束 に濃い黄褐色 黄褐色	P724 38% 中央部出土(1)付

土製品観察表

図版番号	品名	寸法(単位)				出土地点	備考
		径(cm)	高さ(cm)	口径(cm)	重量(g)		
14	土師器	5.6	1.8	0.8	70.8	北東部出土	D788 100%

金属製品観察表

図版番号	品名	寸法(単位)				出土地点	備考
		長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)		
15	鉄片	7.25	2.9	0.2	12.4	中央部出土(1)付	M76 49%
16	鉄片	6.6	1.3	0.1	0.4	器内	M77 89%

調査番号	種別	寸法				出土地点	備考
		長2cm	幅1cm	厚3cm	直径		
17	陶片	1.829	2.8	0.3	φ9.5	中央部出土	89%
18	下部陶片	3.113	2	1.2	φ2.7	P1内出土	89%

壁 壁高は18cmで、外傾して立ち上がる。北側は第96号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝 上幅15～30cm、下幅3～7cmで深さ3cmである。東・南壁下で確認する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

ピット 3か所 (P1～P3)。P1は径30cmの円形で、深さ20cmである。P2は径35cmの円形で、深さ25cmである。

P3は長径30cm、短径15cmの楕円形で、深さ13cmである、いずれも性格は不明である。

覆土 2層からなり、自然堆積である。

#### 土層解説

4 暗褐色 ローム粒子少

5 暗褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック少量

遺物 土師器片9点、須恵器片6点が出土しているが、図示するものはない。

所見 本跡は出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが、第96号住居跡との重複関係から9世紀中葉以前の平安時代と思われる。

### 第99A号住居跡 (第183図)

位置 調査E区中央部、E2a区。

重複関係 第99B・100号住居跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 長軸2.98m、短軸2.54mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は39cmで、外傾して立ち上がる。第99B号住居跡が掘り込んでいるため東壁以外不明である。

壁溝 上幅10～15cm、下幅3～5cmで深さ3cmである。西・北壁下の一部で確認する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

竈 第99B号住居跡の床下にあり、北壁中央部を壁外へ50cmほど掘り込み、付設されている。規模は、竈口部から煙道部までの長さ100cm、両側間の最大幅110cmである。竈部は、褐色粘土で構築されている。土師器甕片が竈部の補強材として使用されている。火床部は長径55cm、短径40cmの楕円形に2cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて焼化している。火床部の前面に長径30cm、短径25cmの楕円形で深さ6cmの灰床と思われる落ち込みが検出されている。煙道部は、火床部から緩やかに立ち上がる。

#### 甕土層解説

1 に近い赤褐色 粘土中・小ブロック・粘土粒子少量

2 暗赤褐色 焼土小ブロック・粘土小ブロック少量、炭化

2 暗赤褐色 炭化粘土中量、褐色粘土小ブロック少量

粘土微量

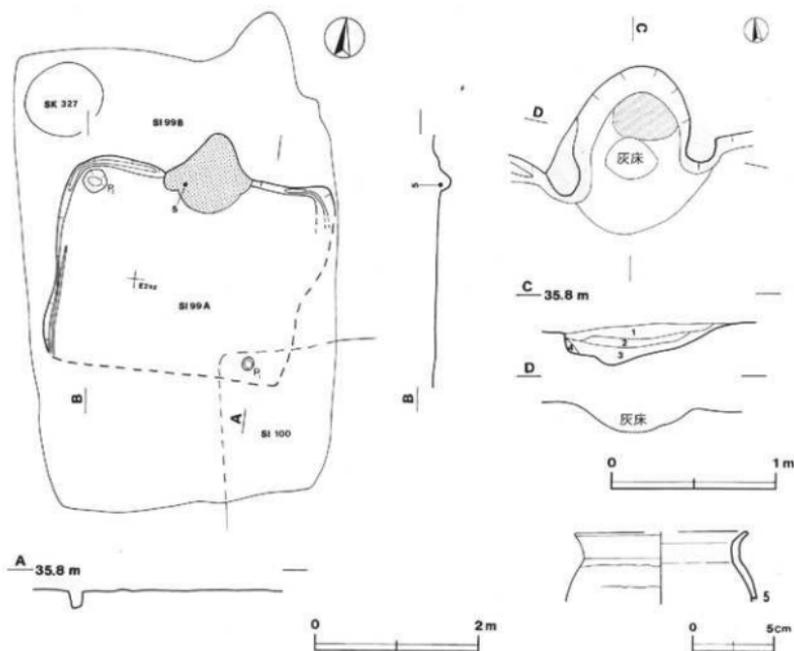
1 暗赤褐色 炭化粘土少量、焼土粒子微量

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は径25cmの円形で、深さ20cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P2は径30cmの円形で、深さ15cmである。性格は不明である。

遺物 土師器片20点が出土している。第183図5の土師器小形甕は竈左側部から出土している。

所見 本跡は、出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが、第99B号住居跡との重複関係から9世紀後半以前の平安時代と思われる。



第183図 第99A号住居跡・出土遺物

第99A号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色澤・焼成	備考
第183図 5	小形土師器	A 106 B (42)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内壁しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横部のヘラ削り。	砂粒・石英・雲母に富み、粉色 普通	P740 遺内 5%

### 第99B号住居跡 (第184・185図)

位置 調査E区中央部、E2a1区。

重複関係 本跡が第99A・100号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。また、第1・2号溝跡、第327号土坑が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.60m、短軸3.82mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は30~40cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅15~30cm、下幅3~10cmで深さ3cmで全周する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、竈から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈 北壁中央東寄りを壁外へ85cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ125

cm、両袖間の最大幅100cmである。袖部は、灰褐色粘土で構築されている。長さ25cm、幅10cmの円礫を袖部に埋設し補強材としている。火床部は長径40cm、短径25cmの楕円形に3cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて赤変硬化している。火床部奥に円礫を埋設し、支脚として使用している。煙道部は、火床部から垂直に立ち上がる。

**覆土層解説**

- |                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粘土中量        | 3 褐色 焼土小ブロック中量  |
| 2 黒褐色 灰褐色粘土中・小ブロック少量 | 4 赤褐色 焼土小ブロック少量 |

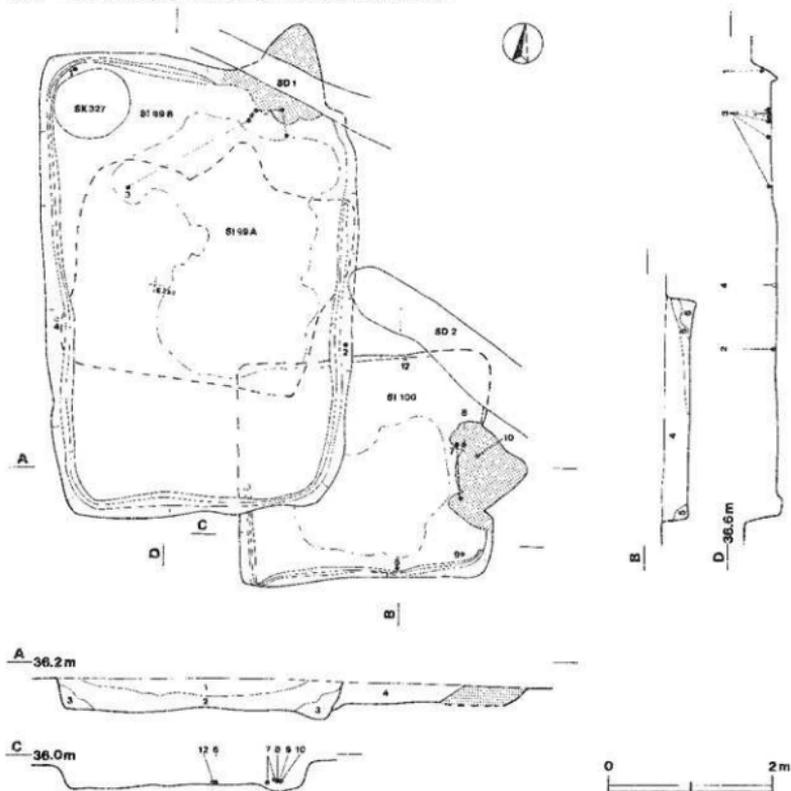
**覆土** 3層からなり、自然堆積である。

**土層解説**

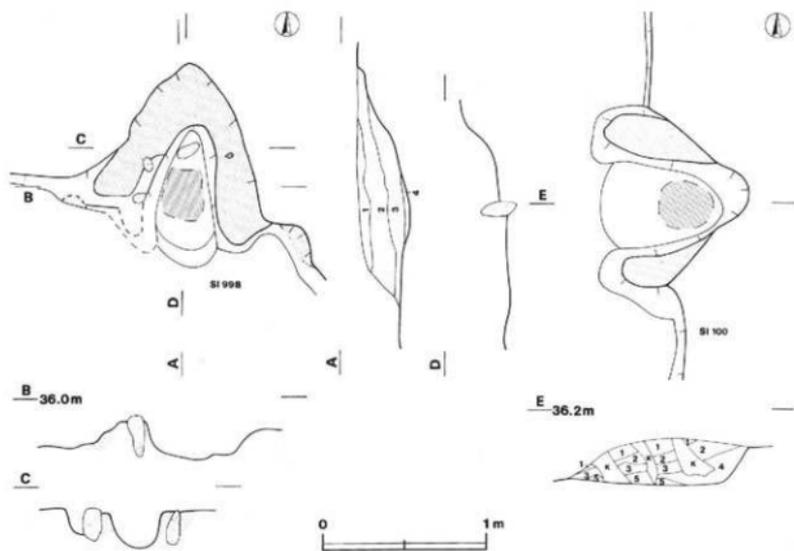
- |                            |               |
|----------------------------|---------------|
| 1 暗褐色 ローム粘土・白色微砂子少量        | 3 暗褐色 ローム粘土少量 |
| 2 暗褐色 ローム粘土中量、ローム中・小ブロック少量 |               |

**遺物** 土師器片337点、須恵器片142点、灰種陶器片2点、鉄製品2点、土製品1点が出土している。第186図1の上師器環は北西コーナー部の覆土中層から出土している。2の上師器環は東壁中央部の床面から出土している。3の上師器甕は室内の覆土中から出土している。4の上製紡錘車は西壁中央部の覆土下層から出土している。

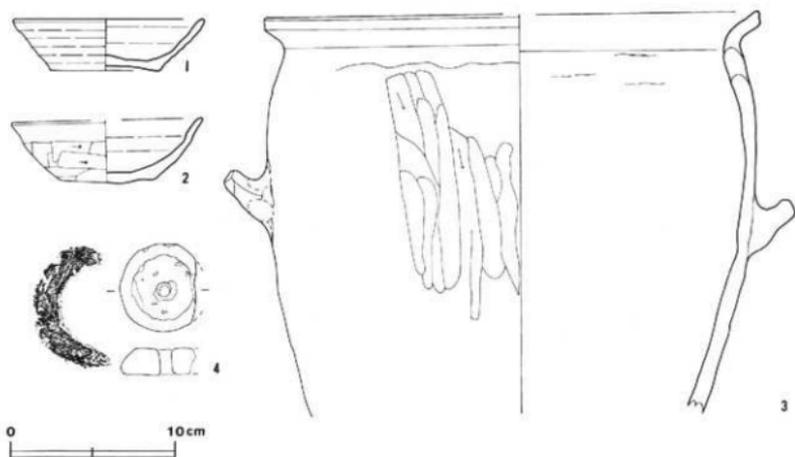
**所見** 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。



第184図 第99B・100号住居跡



第185图 第99B・100号住居跡電



第186图 第99B号住居跡出土遺物

### 第99B号住居跡出土遺物観察表

採取番号	品名	数量(個)	形状の特徴	出土の状況	出土・色調・硬度	備考
第187図 1	土師器	A 117	腰部一部欠損。平底。腰部は奇麗な 跡に立ち上がり、口縁部は定着	口縁部から腰部内・外面はクワロナテ 腰部は鋭角切刃。	緑・青・赤・黒 灰色 黒油	P733 北東コーナー 敷土中層
		B 32				
		C 67				
2	土師器	A 116	腰部より口縁部にかけての破片。口 次。腰部は内側気味に立ち上がり、 口縁部に至る。	口縁部から腰部内・外面はクワロナテ。 腰部中央から下寄り持ちヘツ削り。 先端子持ちヘツ削り。	緑・青・赤・黒 灰色 黒油	P734 本壁中央部
		B 39				
		C 85				
3	土師器	A 204	腰部から口縁部にかけての破片。腰 部は内側気味に立ち上がる。腰部は くの字状を呈し、口縁部は外側気 味。腰部中央に紀子を有する。	口縁部から腰部内・外面はクワロナテ。 腰部上縁部はヘツ削り、下縁部は の字削り。先端気味。	緑・青・赤・黒 灰色 黒油	P741 竈内
		B 243				

### 土製品観察表

採取番号	品名	寸法 (mm)				出土の状況	備考
		径	高さ	口径	口径		
4	土師器	46	15	8.9	45.2	西壁中央部下層	D F層 70%

### 第100号住居跡 (第184・185図)

位置 調査E区中央部、E2b2区。

重複関係 第99A・B号住居跡、第2号溝跡が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.05m、短軸2.70mの長方形である。

主軸方向 N-80°-E

壁 壁高は25cmで、外傾して立ち上がる。北西部は第99B号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝 上幅10~20cm、下幅3~5cmで深さ5cmで、南・西壁で確認する。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、竈から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈 東壁中央部を壁外へ50cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ90cm、両袖間の最大幅110cmである。袖部は、砂質の褐色粘土で構築されている。火床部は長径35cm、短径30cmの楕円形に3cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

#### 遺土層解説

- |                                  |                         |
|----------------------------------|-------------------------|
| 1 緑褐色 ローム粒子少量                    | 4 赤褐色 遺土粒子多量、炭化材・炭化粒子中量 |
| 2 暗褐色 粘土小ブロック・粘土粒子中量             | 5 暗赤褐色 遺土粒子・炭化物・炭化粒子多量  |
| 3 濃い赤褐色 遺土大ブロック中量、粘土小ブロック・遺土粒子少量 |                         |

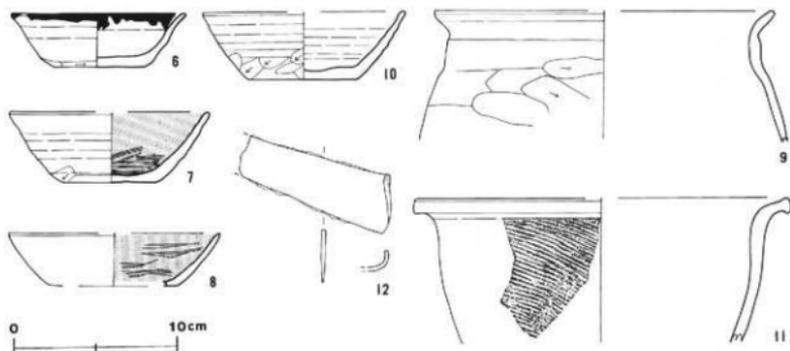
遺土 3層からなり、自然堆積である。

#### 土層解説

- |                        |               |
|------------------------|---------------|
| 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量 | 6 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子少量          |               |

遺物 土師器片77点、須恵器片17点、鉄製品1点が出土している。第187図6の土師器杯は、南壁中央部の床面から正位で出土している。7・8の土師器杯、10の須恵器杯は竈内の覆土中から出土している。9の土師器蓋は南東コーナー部の床面から出土している。11の須恵器鉢は、南東部の覆土中層から出土している。12の鉄線は、北壁中央部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉と考えられる。



第187図 第100号住居跡出土遺物

第100号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第187図 6	杯 土師器	A 10.6 B 3.3 C 3.4	口縁部一部欠損。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへう割り。底部へう割り。	砂粒・雲母 にふい・棕色 普通	P743 95% 南壁中央床面 内・外面口縁部露出着
7	杯 土師器	A 12.3 B 4.3 C 3.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちへう割り。内面へう割り。底部手持ちへう割り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・ハミス にふい・赤褐色 普通	P748 15% 甕内
8	杯 土師器	A 12.9 B 3.2 C 1.8(0)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内野気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へう割り。体部外面黒化へう割り。内面黒色処理。	砂粒・雲母 棕色 普通	P749 10% 甕内
9	蓋 土師器	A 20.8 B 7.9	体部から口縁部にかけての破片。体部は内野しながら立ち上がる。蓋部はくの字状を呈し、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面黒化へう割り。内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 棕色 やや不貞	P750 10% 南東コーナー床面
10	杯 須恵器	A 12.4 B 4.2 C 6.6	底部から口縁部にかけての破片。体部は内野しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへう割り。底部手持ちへう割り。	砂粒・雲母 灰青色 普通	P751 10% 甕内
11	鉢 須恵器	A 23.1 B 8.8	体部から口縁部にかけての破片。体部は外野にして立ち上がり、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位の平打明き、内面縦瓦のナデ。	砂粒・石英・雲母 根柢色 普通	P752 5% 南東部甕上中継

金属製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
12	鉄鏃	(9.8)	3.5	0.3	(34.1)	北壁中央床面	M80 70%

第101号住居跡(第188図)

位置 調査E区西部、E1a区。

規模と平面形 長軸3.95m、短軸3.00mの長方形である。

主軸方向 N-73°-E

壁 壁高は73~90cmで、外傾して立ち上がる。

**壁溝** 北部及び竈兩袖部脇を除き巡っている。上幅16~20cm, 下幅6~10cm, 深さ8cmで, 断面形はJ字形である。

**床** 平坦で, 北側半分が硬く踏み固められている。

**竈** 東壁やや北寄りを壁外に20cmほど掘り込み, 付設されている。規模は, 焚き口部から煙道部までの長さ87cm, 両袖間の最大幅105cmである。両袖部とも砂質粘土で構築されている。火床部は, 楕円形に5cmほど掘りくぼめられている。煙道部は火床部から急傾斜で立ち上がる。

**覆土層解説**

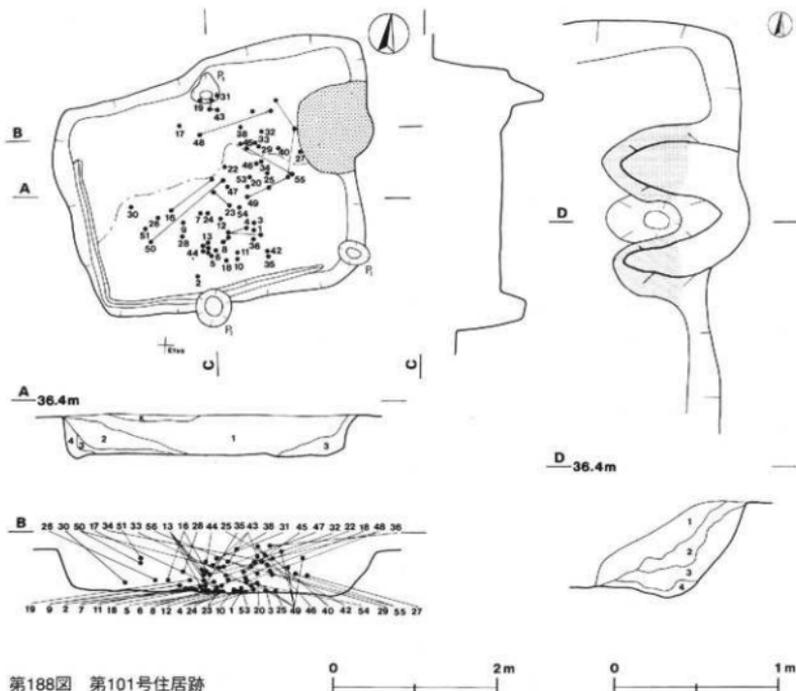
- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム・粘土粒子少量      | 3 暗褐色 粘土粒子多量, ローム粒子中量  |
| 2 暗褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量 | 4 黒色 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量 |

**覆土** 4層からなる自然堆積である。

**土層解説**

- |                                  |                          |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量 | 3 褐色 ローム粒子中量, 黒褐色ブロック土少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量   | 4 褐色 ローム粒子多量             |

**遺物** 中央部の床面から覆土上層にかけて多量の上層器片, 須恵器片が出土している。第189図1~18は土師器片で, 1~8は床面から, 9~16は覆土下層から, 17は覆土中層から, 18は覆土下層から出土している。19は上層器台付甕で, 覆土中層から出土している。20~39は須恵器片で, 20~26・35は覆土下層から, 27~34は覆土中層から, 36~39は覆土上層から出土している。40~46は須恵器高台付甕で, 40~45は覆土中層から, 46は覆土上層から出土している。47は須恵器盤, 48は須恵器蓋, 49・50は須恵器鉢で, いずれも覆土中



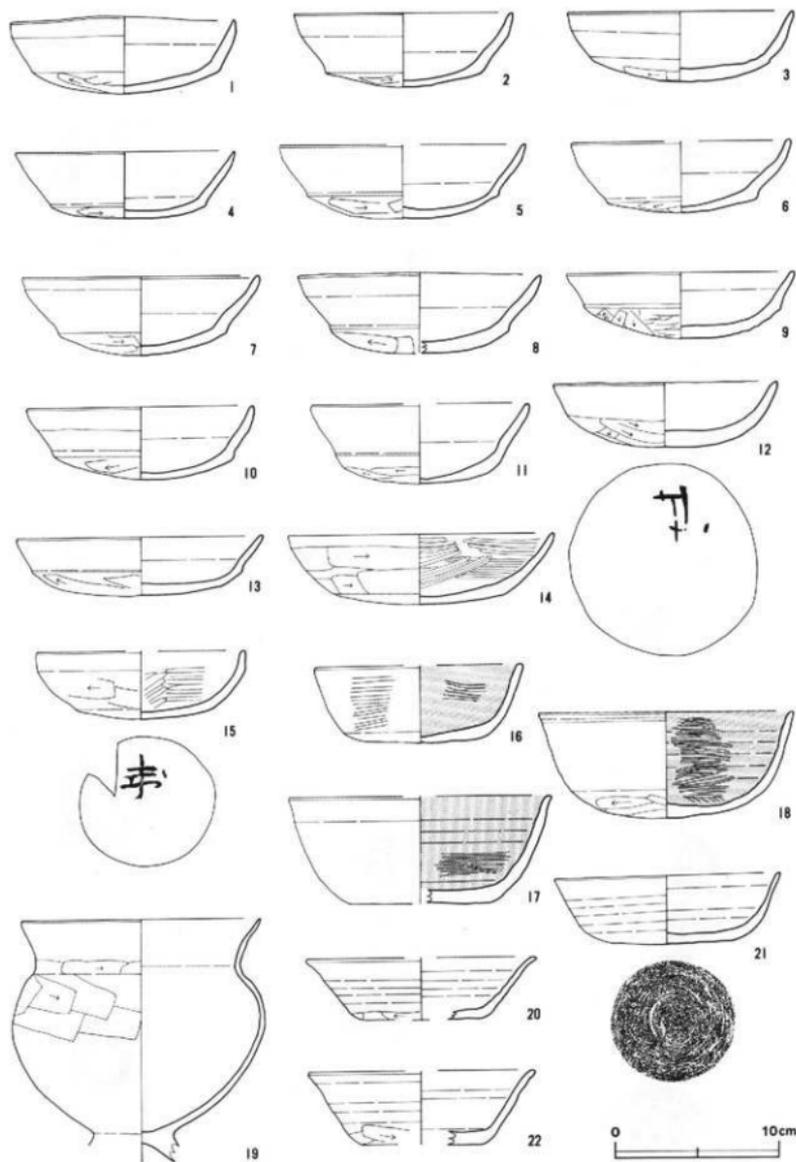
第188図 第101号住居跡

層から出土している。51・52は須恵器高坏で、51は覆上中層から、52は覆上土層から出土している。53～56は須恵器甕で、53・54は覆上下層から、55・56は覆上中層から出土している。

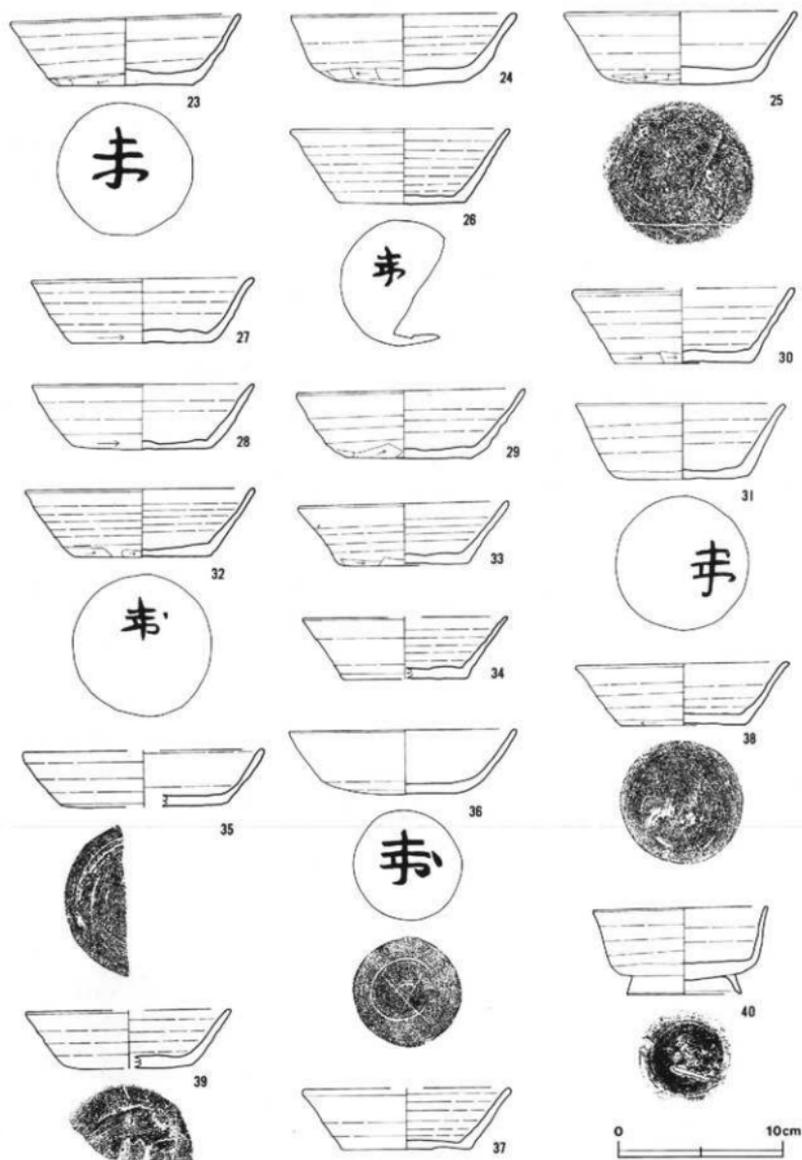
所見 床面から覆上中層にかけて多量の土器が集中して出土している。時期差は、およそ8世紀前半から9世紀前半と約100年ほどあるが床面から出土している遺物から、本跡の時期は、8世紀前半と思われる。

第101号住居跡出土遺物観察表

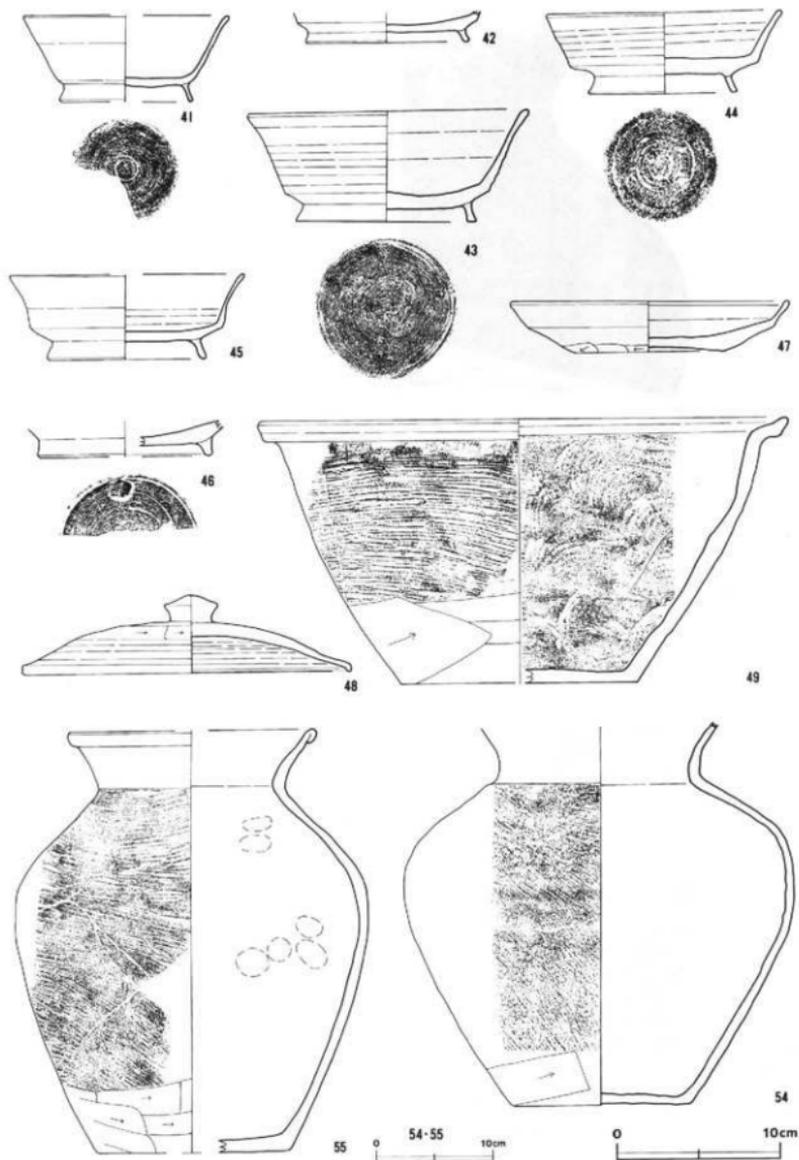
調査番号	器種	品別	品名	器形の要義	手法の特徴	胎土・色別・地味	発見
第101号 1	坏 土器 甕	A	137	丸底。体部下部に横を有し、体部は外傾しながら開き、口縁部は内傾する。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ、底部ヘラ削り。	右赤・左緑・スワリア に赤い地色 普通	P712 中央部床面
		B	47				
2	坏 土器 甕	A	134	丸底。体部下部に横を有し、体部は外傾しながら開き、口縁部は内傾する。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ、底部ヘラ削り。	右赤・左緑・スワリア に赤い地色 普通	P714 中央部床面
		B	46				
3	坏 土器 甕	A	138	丸底。体部下部に横を有し、体部は外傾しながら開き、口縁部は内傾する。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ、底部ヘラ削り。	右赤・長石・雲母 黒赤褐色 普通	P715 中央部床面
		B	44				
4	坏 土器 甕	A	135	丸底。体部下部に横を有し、体部は外傾しながら開き、口縁部は内傾する。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ、底部ヘラ削り。	右赤・左緑・スワリア 赤赤褐色 普通	P716 中央部床面
		B	42				
5	坏 土器 甕	A	139	丸底。体部下部に横を有し、体部は外傾しながら開き、口縁部は内傾する。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ、底部ヘラ削り。	右赤・長石 黒褐色 普通	P722 中央部床面
		B	45				
6	坏 土器 甕	A	134a	丸底。体部下部に横を有し、体部は外傾しながら開き、口縁部は内傾する。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ、底部ヘラ削り。	右赤・左緑・スワリア 黒褐色 普通	P724 中央部床面
		B	44				
7	坏 土器 甕	A	134	丸底。体部下部に横を有し、体部は外傾しながら開き、口縁部は内傾する。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ、底部ヘラ削り。	右赤・左緑・スワリア 黒赤褐色 普通	P725 中央部床面
		B	48				
8	坏 土器 甕	A	148	丸底。体部下部に横を有し、体部は外傾しながら開き、口縁部は内傾する。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ、底部ヘラ削り。	右赤・長石・雲母 赤い・白色 普通	P726 中央部床面
		B	49				
9	坏 土器 甕	A	139	丸底。体部下部に横を有し、体部から口縁部にかけては、外傾しながら開く。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ、底部ヘラ削り。	右赤・長石・雲母 褐色 普通	P727 中央部覆土下層
		B	41				
10	坏 土器 甕	A	140	丸底。体部下部に横を有し、体部は外傾しながら開き、口縁部は内傾する。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ、底部ヘラ削り。	右赤・長石・雲母 に赤い・褐色 普通	P728 中央部覆土下層
		B	45				
11	坏 土器 甕	A	134'	丸底。体部下部に横を有し、体部から口縁部にかけては、外傾しながら開く。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ、底部ヘラ削り。	右赤・長石・スワリア 褐色 普通	P730 中央部覆土下層
		B	59				
12	坏 土器 甕	A	137	丸底。体部下部に横を有し、体部から口縁部にかけては、外傾しながら開く。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ、底部ヘラ削り。	右赤・長石・スワリア 褐色 普通	P730 中央部覆土下層
		B	41				
13	坏 土器 甕	A	150	丸底。体部下部に横を有し、体部から口縁部にかけては、外傾しながら開く。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ、底部ヘラ削り。	右赤・長石・スワリア に赤い・褐色 普通	P731 中央部覆土下層
		B	36				
14	坏 土器 甕	A	162	丸底。体部は外傾しながら開き、口縁部は内傾する。	口縁部外側ヘラナデが、体部外側ヘラ削り、内側ヘラ削り。	長石・スワリア 黒赤褐色 良好	P732 中央部覆土下層
		B	44				
15	坏 土器 甕	A	128	丸底。体部は外傾しながら開き、口縁部は内傾する。	口縁部外側ヘラナデが、体部外側ヘラ削り、内側ヘラ削り。	長石・雲母 普通	P733 中央部覆土下層 底部露出
		B	41				



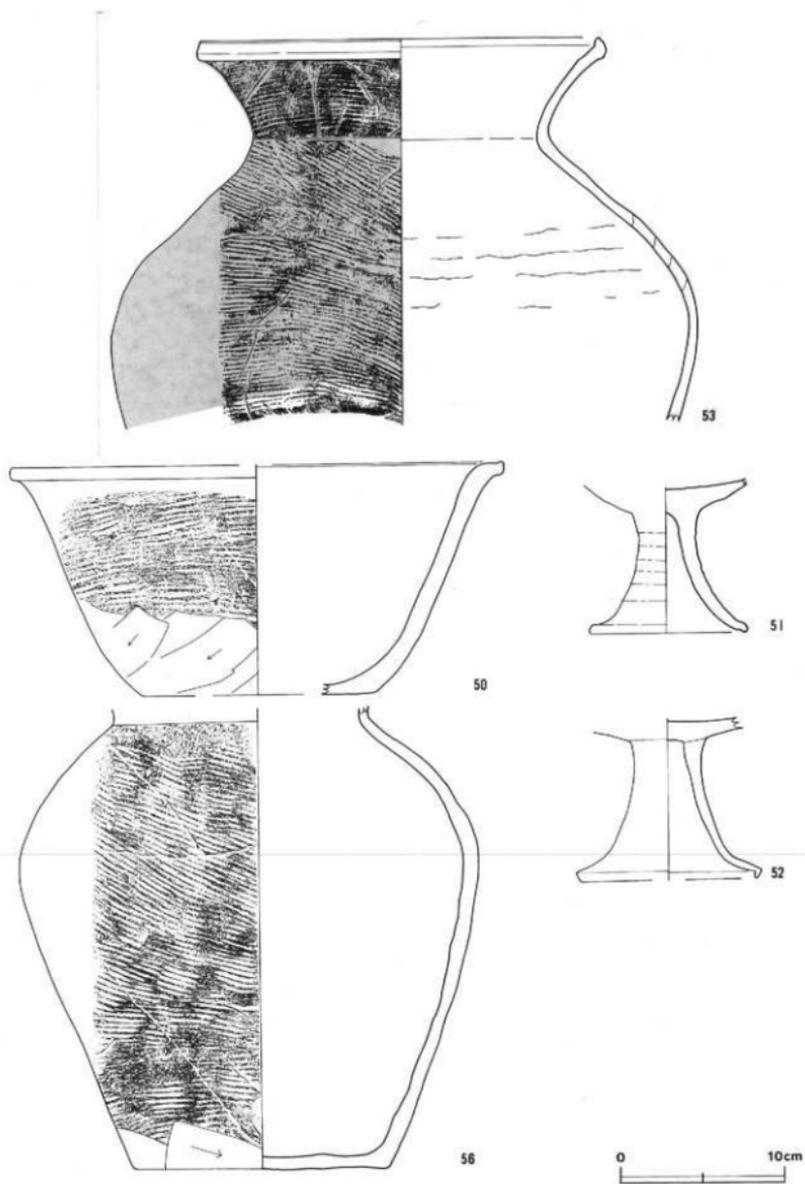
第189図 第101号住居跡出土遺物(1)



第190図 第101号住居跡出土遺物(2)



第191図 第101号住居跡出土遺物(3)



第192図 第101号住居跡出土遺物(4)

収録番号	巻数	演目	巻数の特徴	手法の名称	形・色調・構成	番号
第18回	映 土 原 浩	A 12.2	底部から日陰部にかけての鏡片。平	体部内・外面へラ置き。内面へラ置き後、顔色転換。	長石・雲母 明色褐色 良好	P761 30%
		B 1.8	鏡、体部は内側気味に立ち上がり、			
		C 7.0	日陰部に来る。			
17	映 土 原 浩	A 16.2	底部から日陰部にかけての鏡片。平	体部外面へラ置き。内面へラ置き後、顔色転換。鏡片傾斜へラ置き。	石英・長石 灰色 普通	P765 40%
		B 6.5	鏡、体部は傾斜しながら立ち上がり、			
		C 1.33	日陰部はわずかに外反する。			
18	映 土 原 浩	A 15.8	丸鏡、体部は内側しながら立ち上	体部外面へラ置き後、傾斜後、内	長石・スコーラ 黄褐色 良好	P766 90%
		B 6.6	がり、日陰部はわずかに外反する。			
19	映 土 原 浩	A 14.5	白面丸鏡、体部は内側しながら立ち	日陰部内・外面傾斜せず、体部外面へ	石英・長石 暗赤褐色 普通	P767 80%
		B 14.9	上がり、日陰部は外傾する。			
20	映 新 志 忠	A 14.1	底部から日陰部にかけての鏡片。平	日陰部から体部内・外面ロクロナ	雲母・スコーラ に白い顔色 良好	P777 20%
		B 2.8	鏡、体部は外傾して立ち上がり、日			
		C 7.4	陰部はわずかに外反する。			
21	映 新 志 忠	A 13.8	日陰部一部欠損。平鏡、体部は外傾	日陰部から体部内・外面ロクロナ	石英・長石 灰色 普通	P771 80%
		B 4.3	して立ち上がり、日陰部はわずかに			
C 7.5	外反する。	外傾傾斜へラ置き。				
22	映 新 志 忠	A 13.8	底部から日陰部にかけての鏡片。平	日陰部から体部内・外面ロクロナ	長石・雲母 灰色 普通	P772 30%
		B 4.5	鏡、体部は外傾して立ち上がり、日			
		C 7.1	陰部はわずかに外反する。			
第19回	映 新 志 忠	A 14.1	体部一部欠損。平鏡、体部は外傾し	日陰部から体部内・外面ロクロナ	長石 黄褐色 普通	P774 90%
		B 4.1	て立ち上がり、日陰部に来る。			
		C 8.3				
21	映 新 志 忠	A 13.6	平鏡、体部は外傾して立ち上がり、	日陰部から体部内・外面ロクロナ	石英・長石 灰色 普通	P776 100%
		B 4.5	日陰部はわずかに外反する。			
		C 8.0				
25	映 新 志 忠	A 14.0	底部から日陰部にかけての鏡片。平	日陰部から体部内・外面ロクロナ	長石 灰白色 普通	P777 80%
		B 1.5	鏡、体部は外傾して立ち上がり、日			
		C 8.6	陰部に来る。			
26	映 新 志 忠	A 13.2	底部から日陰部にかけての鏡片。平	日陰部から体部内・外面ロクロナ	石英・長石 灰色 良好	P781 60%
		B 4.7	鏡、体部は外傾して立ち上がり、日			
		C 7.8	陰部に来る。			
27	映 新 志 忠	A 13.7	体部一部欠損。平鏡、体部は外傾し	日陰部から体部内・外面ロクロナ	石英・長石 灰白色 普通	P780 90%
		B 4.0	て立ち上がり、日陰部はわずかに外			
		C 8.5	反する。			
28	映 新 志 忠	A 13.6	体部一部欠損。平鏡、体部は外傾し	日陰部から体部内・外面ロクロナ	石英・雲母 灰白色 普通	P773 80%
		B 4.0	て立ち上がり、日陰部に来る。			
		C 8.5				
29	映 新 志 忠	A 13.9	底部から日陰部にかけての鏡片。平	日陰部から体部内・外面ロクロナ	長石 灰色 良好	P775 60%
		B 4.3	鏡、体部は外傾して立ち上がり、日			
		C 7.7	陰部に来る。			
30	映 新 志 忠	A 13.4	底部から日陰部にかけての鏡片。平	日陰部から体部内・外面ロクロナ	石英・長石・雲母 灰白色 普通	P779 30%
		B 4.6	鏡、体部は外傾して立ち上がり、日			
C 8.3	陰部に来る。	へラ置き。				
31	映 新 志 忠	A 12.8	体部一部欠損。平鏡、体部は外傾し	日陰部から体部内・外面ロクロナ	長石 灰白色 普通	P780 80%
		B 1.7	て立ち上がり、日陰部に来る。			
		C 8.1				
32	映 新 志 忠	A 13.9	日陰部一部欠損。平鏡、体部は外傾	日陰部から体部内・外面ロクロナ	長石・雲母 明褐色 良好	P782 80%
		B 4.3	して立ち上がり、日陰部はわずかに			
		C 8.3	外反する。			
33	映 新 志 忠	A 12.7	体部一部欠損。平鏡、体部は外傾し	日陰部から体部内・外面ロクロナ	石英・長石 灰色 普通	P783 80%
		B 3.9	て立ち上がり、日陰部に来る。			
		C 7.7				
34	映 新 志 忠	A 12.7	底部から日陰部にかけての鏡片。平	日陰部から体部内・外面ロクロナ	長石 灰白色 普通	P787 30%
		B 3.8	鏡、体部は外傾して立ち上がり、日			
		C 7.7	陰部に来る。			

採取番号	器種	子組別	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色澤・装束	集 号	
第190組 35	埴 原 忠 器	A 148	底部から口縁部にかけての破片。平	口縁部から体部内・外面ロクロナ	長石	P770	40%
		B 35	底。体部は外傾して立ち上がり、口	底。底部回転ヘリ有り。	灰黄色	中央部裏土層	
		C 103	縁部に至る。		普通		
36	埴 原 忠 器	A 137	体部 部欠損。平底。体部は外傾し	口縁部から体部内・外面ロクロナ	長石・長石	P778	80%
		B 40	て立ち上がり、口縁部に至る。	底。底部回転ヘリ有り。	灰白色	中央部裏土層	
		C 65			普通	中央部裏土層	へら記号
37	埴 原 忠 器	A 124	底部から口縁部にかけての破片。平	口縁部から体部内・外面ロクロナ	長石	P784	40%
		B 37	底。体部は外傾して立ち上がり、口	底。底部回転ヘリ有り。	灰色	中央部裏土層	
		C 75	縁部に至る。		普通		
38	埴 原 忠 器	A 128	平底。体部は外傾して立ち上がり、	口縁部から体部内・外面ロクロナ	長石・雲母	P785	100%
		B 40	口縁部はわずかに外反する。	底。底部回転ヘリ有り。	灰白色	中央部裏土層	
		C 75			長石	新治集	
39	埴 原 忠 器	A 124	底部から口縁部にかけての破片。平	口縁部から体部内・外面ロクロナ	長石	P786	40%
		B 36	底。体部は外傾して立ち上がり、口	底。底部ヘリ有り。	灰色	中央部裏土層	
		C 176	縁部に至る。		普通		
40	高台付埴 原 忠 器	A 166	体部一部欠損。底部と体部の境は概	口縁部から体部内・外面ロクロナ	長石	P788	70%
		B 55	念をなして顕出し、体部は外傾して	底。底部ヘリ有り後、高台部有り。	灰黄色	中央部裏土層	
		D 70	立ち上がり、高台はハの字状に開く。		長石	高台内面	
E 13			長石	底部ヘリ記号			
第194組 41	高台付埴 原 忠 器	A 128	体部は外傾して立ち上がり、口縁部	口縁部から体部内・外面ロクロナ	長石	P789	50%
		B 53	はわずかに外反する。高台はハの字	底。底部回転ヘリ有り後、高台部	灰白色	中央部裏土層	
		D 82	状に開く。	有り。	普通		
E 13							
42	高台付埴 原 忠 器	B 130	高台部片。高台はハの字状に開く。	底部回転ヘリ有り後、高台部有り。	長石	P790	30%
		D 101			灰色	中央部裏土層	
		E 07			長石		
43	高台付埴 原 忠 器	A 170	底部と体部の境は概をなして顕出す	口縁部から体部内・外面ロクロナ	長石・雲母	P791	50%
		B 70	る。体部は外傾して立ち上がり、口	底。底部回転ヘリ有り後、高台部	灰黄色	中央部裏土層	
		D 111	縁部はわずかに外反する。高台はハ	有り。	普通	新治集	
E 12	の字状に開く。						
44	高台付埴 原 忠 器	A 114	底部と体部の境は概をなして顕出す	口縁部から体部内・外面ロクロナ	長石	P793	50%
		B 52	る。体部は外傾して立ち上がり、口	底。底部回転ヘリ有り後、高台部	灰黄色	中央部裏土層	
		H 92	縁部はわずかに外反する。高台はハ	有り。	普通	中央部裏土層	
E 12	の字状に開く。						
45	高台付埴 原 忠 器	A 114	底部と体部の境は概をなして顕出す	口縁部から体部内・外面ロクロナ	長石	P794	30%
		B 52	る。体部中から口縁部にかけて大	底。底部回転ヘリ有り後、高台部	灰黄色	中央部裏土層	
		D 97	きく外反する。高台はハの字状に開	有り。	普通		
E 12	く。						
46	高台付埴 原 忠 器	B 121	高台部片。高台はハの字状に開く。	底部回転ヘリ有り後、高台部有り。	長石	P792	30%
		D 102			灰白色	中央部裏土層	
		E 12			普通	新治集	
47	埴 原 忠 器	A 170	体部 部欠損。平底。体部は外傾し	口縁部から体部内・外面ロクロナ	長石・雲母	P795	80%
		B 32	て立ち上がり、口縁部は外反する。	底。底部回転ヘリ有り。	灰白・雲母	中央部裏土層	
		C 92			普通	新治集	
48	埴 原 忠 器	A 201	口縁部一部欠損。ボタン状のつまみ	口縁部から体部内・外面ロクロナ	長石・雲母	P796	95%
		B 17	が外面に長く、天井部はドーム状で、	灰白色	中央部裏土層		
		F 33	口縁部は短く折り返されている。	体部内・外面ロクロナ。	普通	新治集	
G 17							
第195組 49	埴 原 忠 器	A 327	底部から口縁部にかけての破片。平	口縁部内・外面ロクロナ。体部外面	長石・雲母	P797	80%
		B 162	底。体部は外傾して立ち上がり、口	縁部はわずかに外反する。	灰黄色	中央部裏土層	
		C 145			普通	高台部	
50	埴 原 忠 器	A 1300	底部から体部にかけての破片。平	口縁部内・外面ロクロナ。体部外面	長石・雲母	P798	30%
		B 141	底。体部は外傾して立ち上がり、口	縁部はわずかに外反する。	灰黄色	中央部裏土層	
		C 142			普通	新治集	
51	高台付埴 原 忠 器	B 63	体部内。縁部は長く、ツツが底に	口縁部内・外面ロクロナ。内面ナ	長石・雲母	P799	30%
		D 95	く。		灰白色	中央部裏土層	
		E 75			普通	新治集	

調査番号	器 種	寸法(cm)	造 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	土 土・色調・焼成	発 見 所
第192B 52	高 坏 須 恵 器	H 9.8 D 10.8 E 8.7	胴部片。胴部はハの字状に開く。底部が下方に広がって出されている。	胴部外周のクロナテ。内面平直。	長石 黄灰色 良好	P800 中央部出土層
53	壺 須 恵 器	A 25.0 B 23.0	体部から口縁部にかけての成形。体部は内押しで立ち上がり、頸部は「く」の字状を呈し、口縁部は外反する。口縁部は上方につまみ上げられている。	体部から体部外周部方向の平行引き。口縁部から頸部内周のクロナテ。輪縁みね。	石英・長石・黒石 灰色 普通	P801 中央部出土層 新治遺跡
第191B 54	壺 須 恵 器	B 21.0 C 14.7	口縁部欠損。体部は内押しで立ち上がり、頸部は外傾する。	体部外周部方向の平行引き。頸部内・外周はクロナテ。体部下位へ張り。	石英・長石・黒石 黄白色 普通	P804 中央部出土層 新治遺跡
55	壺 須 恵 器	A 19.8 B 14.5 C 13.8	体部は内押しで立ち上がり、頸部は「く」の字状を呈し、口縁部は外反する。口縁部は外反して出されている。	体部外周部方向の平行引き。内面に他周押し。頸部内・外周はクロナテ。体部下位へ張り。	石英・長石・黒石 灰色 普通	P802 中央部出土層 新治遺跡
第192C 56	壺 須 恵 器	H 28.1 C 15.7	体部から体部にかけての成形。体部は内押しで立ち上がる。	体部外周部方向の平行引き。体部下位へ張り。	石英・長石・黒石 黄灰色 普通	P803 中央部出土層 新治遺跡

## 第102号住居跡（第193図）

位置 調査E区西部、E2d区。

重複関係 本跡は、第103号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.39m、短軸2.78mの長方形である。

主軸方向 N-4°-E。

壁 壁高は30～34cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 壁下を全周している。上幅16～22cm、下幅4～6cm、深さ4cmで、断面形はU字形である。

床 平地で、特に中央部が踏み固められている。

竈 北壁やや東寄りや壁外へ60cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚き口部から煙道部までの長さ105cm、両袖間の最大幅108cmである。両袖部とも砂質粘土で構築されている。火床部は、床面と同じである。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

### 出土層解説

- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| 1 黒 色 焼土・粘土粒子少量        | 3 灰 褐色 焼土・粘土粒子少量、炭化種子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、粘土粒子少量 | 4 暗 赤 褐色 焼土粒子中量、炭化種子微量  |

ピット Pは径16cmの円形で、深さ20cmの出入り口施設に伴うピットと考えられる。

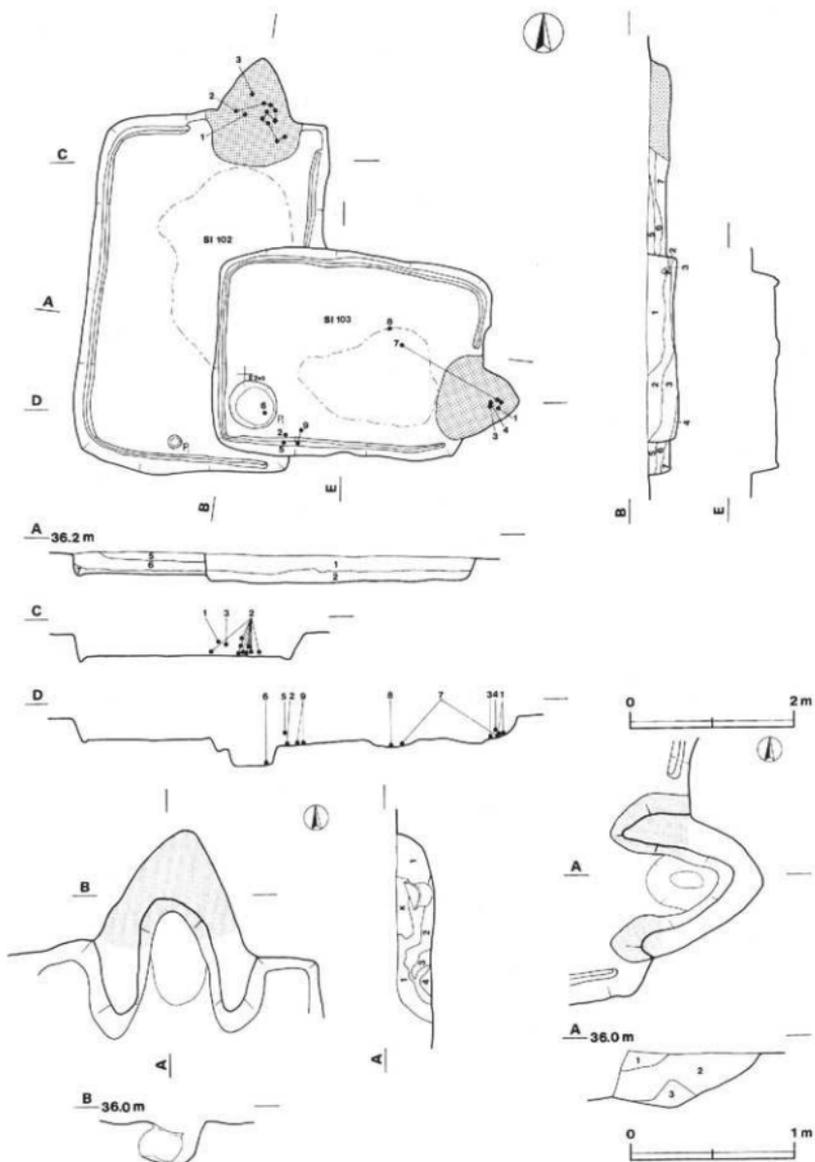
覆土 3層からなる自然堆積である。

### 土層解説

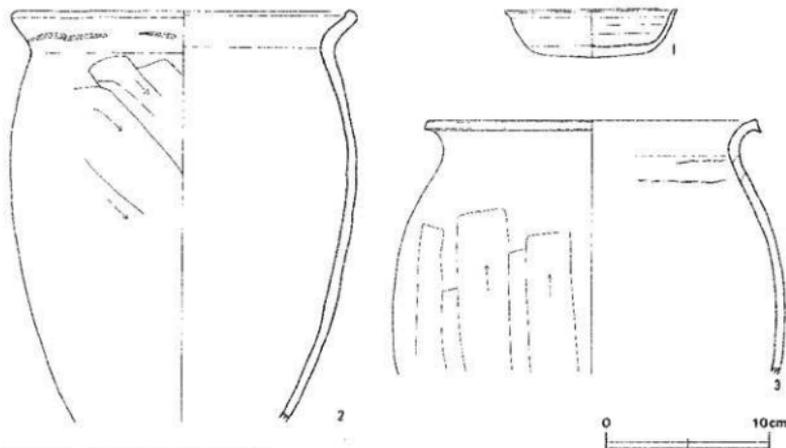
- |                |                        |
|----------------|------------------------|
| 5 黒 褐色 コム粘土質   | 7 暗 褐色 砂 土小ブロック・ローム粘土質 |
| 6 黒 褐色 ロ ム粘土少量 |                        |

遺物 土師器片59点、須恵器片17点、瓦片1点、縄文土器片4点が出土している。第194図1は土師器小皿で竈内の覆土中層から正位で出土している。2・3は土師器甕で、いずれも竈内から出土している。瓦は縄片で、縄文土器片は流れ込みである。

所見 本跡の時期は、出土遺物から10世紀前半と思われる。



第193图 第102·103号住居跡



第194図 第102号住居跡出土遺物

第102号住居跡出土遺物観察表

調査番号	品 種	2測値(m)	形状の概要	手法の概要	粘土・色灰・焼成	図 号
第194図 1	小 鉢 土 師 器	A 10.6	体高は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。底面	口縁部から体部内へ外面はタリオン、基部は傾斜ヘラ切	長石・スコリアに高い褐色	P803 窯内 出窯
		B 3.0				
		C 7.2				
2	大 鉢 土 師 器	A 23.2	体部から口縁部にかけての体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部は上方にのみ上げられている。	口縁部内・外面傾キテ、体部外面へ傾キ、内面ナテ。	長石 に高い褐色 付焼	P806 窯内
		B 13.5				
3	大 鉢 土 師 器	A 30.1	体部から口縁部にかけての体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部は上方にのみ上げられている。	口縁部内・外面傾キテ、体部外面へ傾キ、内面ナテ。	長石・スコリアに高い褐色 付焼	P807 窯内
		B 13.5				

第103号住居跡 (第193図)

位置 調査区E西部、E2c区。

重複関係 本跡が、第102号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸2.5m、短軸2.45mの長方形である。

主軸方向 N-85°-W

壁 壁高は34cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 壁下を全周している。上幅16~24cm、下幅4~8cm、深さ6cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、特に中央部及び竈付近が踏み固められている。

竈 東壁やや南寄りを実外へ50cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚き口部から煙道部までの長さ90cm、内袖間の最大幅100cmである。内袖部とも鈔質粘土で構築されている。火床部は、楕円形に5cmほど掘りくぼめられている。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 黒褐色 焼土・ローム粒子微量  
2 暗赤褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量

- 3 にぶい赤褐色 焼土・ローム粒子中量, 炭化粒子少量

ピット P1は径30cmの円形で、深さ20cmである。性格は不明である。

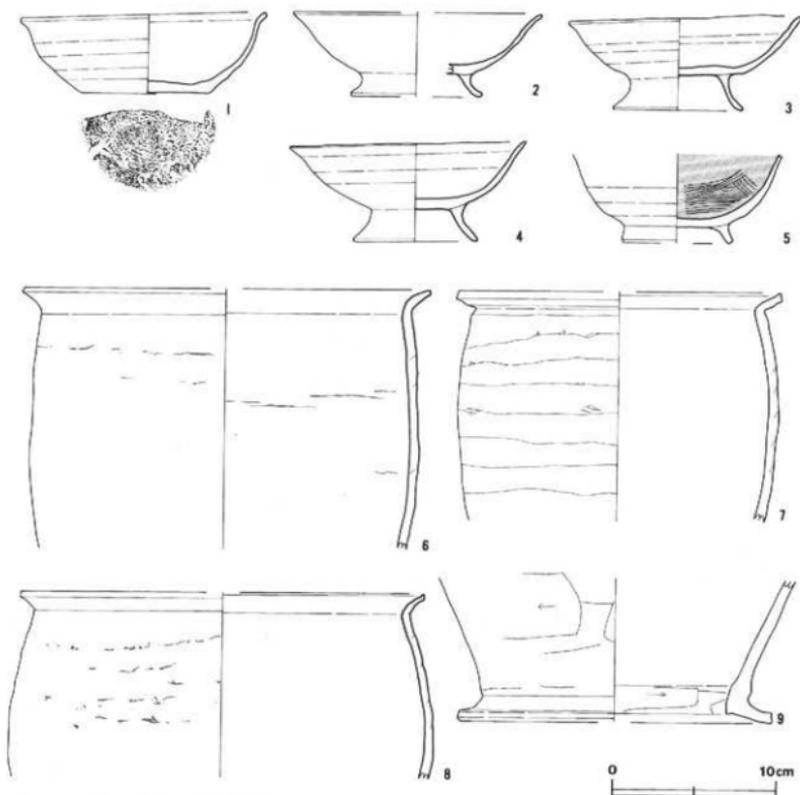
覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化・ローム粒子微量  
2 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ローム粒子中量  
4 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片466点, 須恵器片7点, 縄文土器片3点が出土している。第195図1は土師器坏で、甕の火床部から正位で出土している。2～4は土師器高台付坏で、2は南壁際の床面, 3・4は室内から出土している。5は土師器高台付碗で、南部の壁際から出土している。6～8は土師器甕で、6はP1の底面から、7は室内から、8は中央部の床面から出土している。9は土師器瓶で、南壁際の床面から出土している。縄文土器片は、流れ込みである。



第195図 第103号住居跡出土遺物

所見 本跡の時期は、10世紀前半と思われる第102号住居跡を掘り込んでいることから、10世紀前半以降と思われる。

### 第103号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	品名	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色澤・装成	出 土 所
第103号	土 師 器	A 118	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ワタコロナデ。底面は削り。	石灰・灰汁スロリア 褐色 青油	P806 室内
		B 51				
		C 80				
2	高台付厚土師器	A 153	高台部から口縁部にかけての破片。体部は内傾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ワタコロナデ。高台部は付。	長石・スロリア に白い褐色 青油	P809 中央部東面
		B 52				
		D 7811				
		E 14				
3	高台付厚土師器	A 112	口縁部・高台部一部欠損。体部は内傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ワタコロナデ。底面は削り。高台部は付。	長石・スロリア 灰黄褐色 青油	P811 室内
		B 53				
		D 79				
		E 23				
4	高台付厚土師器	A 145	体部から口縁部一部欠損。体部は内傾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ワタコロナデ。底面は削り。高台部は付。	長石・スロリア 灰黄褐色 青油	P812 室内
		B 62				
		D 76				
		E 21				
5	高台付厚土師器	B 25	高台部から体部にかけての破片。体部は内傾気味に立ち上がり。高台はハの字状に開く。	内面へ付き、黒色地味。底面は削り。高台部は付。	石灰・灰汁 褐色 良好	P810 南部西壁
		D 68				
		E 12				
6	黒土師器	A 250	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ワタコロナデ。輪蓋あり。	長石・スロリア に白い褐色 青油	P813 P2遺跡
		B 159				
7	土師器	A 197	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ワタコロナデ。内面ナデ。輪蓋あり。	長石・スロリア 灰褐色 青油	P814 室内
		B 110				
8	土師器	A 218	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ワタコロナデ。内面ナデ。輪蓋あり。	長石・スロリア に白い褐色 青油	P815 中央部東面
		B 113				
9	土師器	A 180	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ワタコロナデ。体部は付。	石灰・灰汁スロリア 灰褐色 青油	P816 中央部東面
		B 794				

### 第104号住居跡 (第196図)

位置 調査E区西部、E18区。

規模と平面形 東西 (5.40)m、南北 (0.84)mで、大部分が埋没されているため、平面形は不明である。

主軸方向 [N-3°-E]

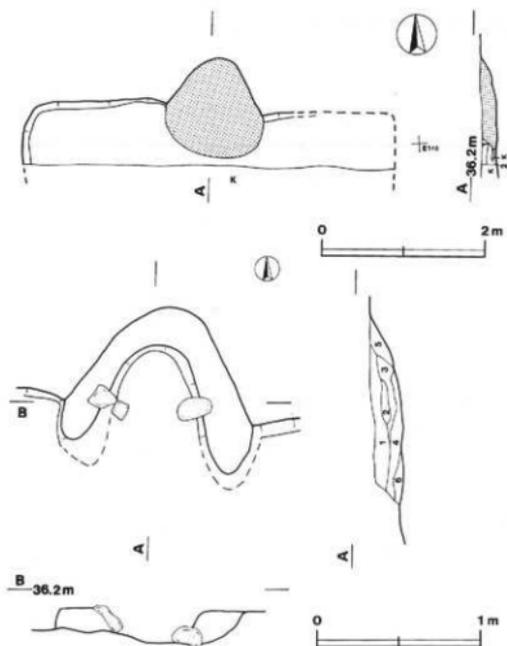
壁 壁高は20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦である。

竈 北壁を壁外へ50cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚き口部から煙道部までの長さ95cm、両袖間の最大幅125cmである。両袖部とも砂質粘土で構築され、凝灰岩で補強されている。火床部は、床面と同じである。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

#### 出土物解説

- |                                |                       |
|--------------------------------|-----------------------|
| 1 白い褐色 焼土・新土粒少量                | 5 灰褐色 粘土ブロック少量、粘土粒子中量 |
| 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量   | 6 暗褐色 焼土粒子少量、コメ粒少量    |
| 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量    |                       |
| 4 明赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子中量 |                       |



第196図 第104号住居跡

第105号住居跡 (第197図)

位置 調査E区東部, D3js区。

重複関係 本跡は, 第112号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南部が調査区域外に延びているが, 長軸 (4.11)m, 短軸5.72mで方形と思われる。

主軸方向 N-15°-W

壁 壁高は16cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 確認した壁下を全周している。上幅12~20cm, 下幅4~6cm, 深さ6cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦である。

竈 北壁中央を壁外へ (22)cmほど掘り込み, 付設されている。煙道部は擾乱を受けている。規模は, 焚き口部から煙道部までの長さ (66)cm, 両袖間の最大幅114cmである。両袖部とも砂質粘土で構築され, 土師器甕で補強されている。火床部は, 床面と同じである。煙道部は擾乱を受けている。

竈土層解説

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 焼土・粘土粒子微量        | 3 明赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 ぶい赤褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子少量 |                       |

覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量        |                        |

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

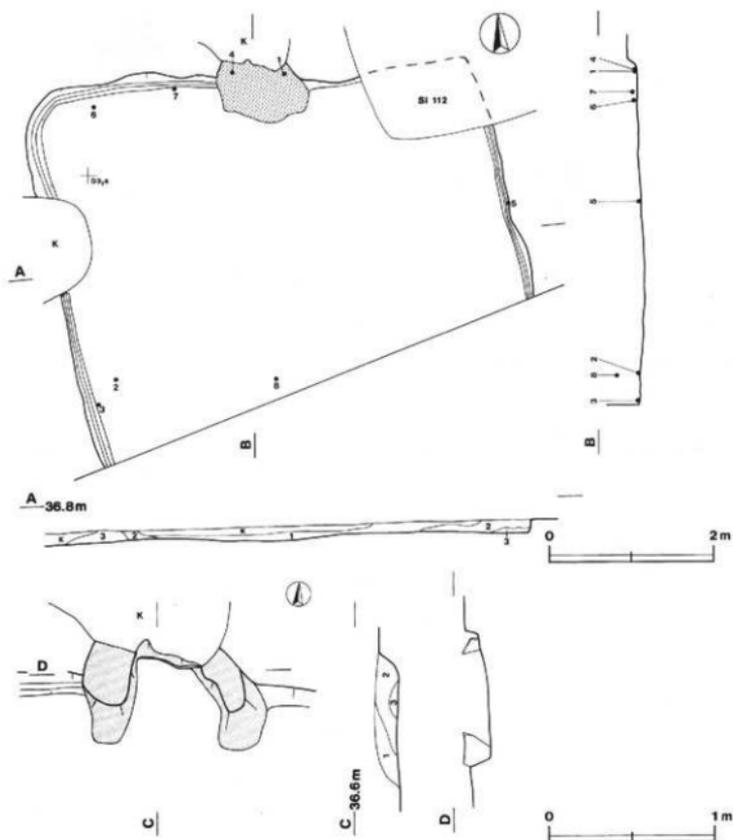
- |                       |
|-----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量         |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |

遺物 土師器片21点, 須恵器片8点, 円標2点が出土している。土器片は, いずれも細片である。円標は竈袖部の補強材である。

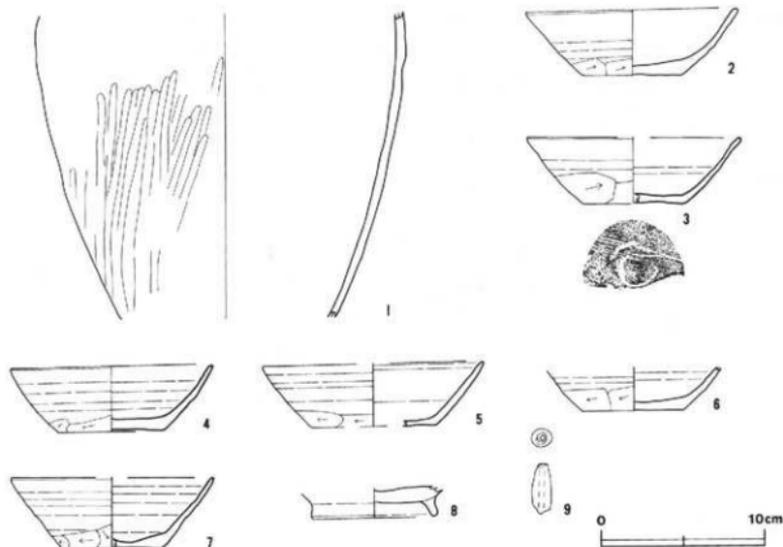
所見 本跡の時期は, 第102号住居跡の形態と類似していること, 土師器片に足高台部片があることから10世紀以降と思われる。

遺物 土師器片165点、須恵器片37点、灰釉陶器片2点、土製品1点、瓦片2点が出土している。第198図1は土師器甕で、竈袖部内から出土している。2～7は須恵器坏で、2は南西部の床面から正位で、3は南西部の床面から、4は竈内から、5は東部の塋際から、6は北西部の覆土下層から、7は北塋際の覆土中層から、8は須恵器高台付坏で南部の覆土上層から出土している。9は管状土錘で、覆土中から出土している。灰釉陶器、瓦は細片で覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉と思われる。



第197図 第105号住居跡



第198図 第105号住居跡出土遺物

第105号住居跡出土遺物観察表

採取番号	器種	片割番号	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第198図 1	甕 土埴器	B (18.6)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ置き、内面ナデ。	長石・雲母・スコリア 棕色 普通	P830 竈内
2	環 須恵器	A 13.0 B 4.1 C 6.1	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	長石 にふい黄棕色 普通	P817 南西部床面
3	環 須恵器	A [13.2] B 4.2 C [ 6.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外側して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ヘラ削り。	長石・スコリア にふい棕色 普通	PS18 南西部床面
4	環 須恵器	A 12.5 B 4.1 C 6.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	石英・長石 黄灰色 普通	P821 竈内 新治堂東
5	環 須恵器	A [13.6] B 3.9 C [ 7.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外側して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	石英・長石 黄灰色 普通	P824 東壁階床面
6	環 須恵器	B [ 2.6] C 6.1	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外側して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	石英・長石 淡黄色 普通	P825 北東部覆土下層
7	環 須恵器	A [12.6] B 4.4 C [ 6.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外側して立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	石英・長石 灰黄色 普通	P822 北壁階床土中層 三和堂東
8	高台付環 須恵器	B (1.9) D 7.8 E 0.9	高台部片。高台はハの字状に薄く。	底部回転ヘラ削り後、高台削り付け。	長石 灰色 良好	P836 南部覆土上層 魁ノ内堂北

土製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
9	管状土罐	(3.1)	1.2	0.3	(3.4)	覆土中	79%

第106号住居跡 (第199図)

位置 調査E区東部, D3js区。

規模と平面形 長軸4.30m, 短軸3.82mの長方形である。

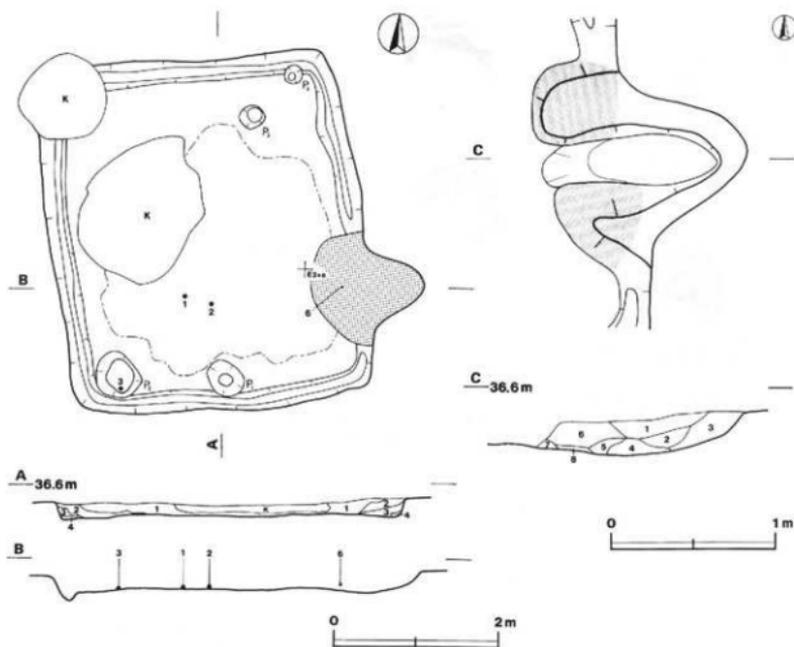
主軸方向 N-82°-E

壁 壁高は20cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 壁下を全周している。上幅20~25cm, 下幅6~12cm, 深さ12cmで, 断面形はU字形である。

床 平坦である。特に, 中央部が踏み固められている。

竈 東壁やや南寄りを壁外へ70cmほど掘り込み, 付設されている。規模は, 焚き口部から煙道部までの長さ125cm, 両袖間の最大幅125cmである。両袖部とも砂質粘土で構築されている。火床部は, 楕円形に10cmほど掘りくぼめられ, 火熱を受け赤変硬化している。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。



第199図 第106号住居跡

覆土層解説

- |        |                                      |        |                            |
|--------|--------------------------------------|--------|----------------------------|
| 1 灰褐色  | 粘土粒子多量, 焼土粒子中量, 粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック微量 | 5 赤灰色  | 焼土中・小ブロック中量, 焼土粒子微量        |
| 2 灰褐色  | 粘土中ブロック多量, 焼土・粘土粒子中量                 | 6 黒褐色  | 粘土粒子少量, 焼土中・小ブロック・焼土粒子微量   |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 粘土粒子中量, 焼土小ブロック少量            | 7 褐色   | ローム小ブロック中量                 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土・粘土粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量         | 8 暗赤褐色 | 炭化粒子・粘土小ブロック少量, ローム小ブロック微量 |

ピット 4か所 (P1~P4)。P1は長径46cm, 短径36cmの楕円形で, 深さ27cmの出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は長径57cm, 短径48cmの楕円形で, 深さ21cmである。P3は径30cmの円形で, 深さ31cmである。P4は径20cmの円形で, 深さ21cmである。いずれも性格は不明である。

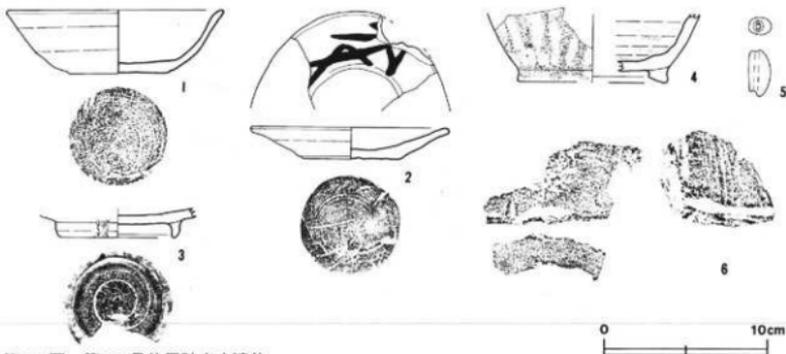
覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- |      |                             |       |            |
|------|-----------------------------|-------|------------|
| 1 褐色 | 粘土小ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量    |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子微量     | 4 褐色  | ローム中ブロック中量 |

遺物 土師器片152点, 須恵器片23点, 灰釉陶器片2点, 土製品1点, 瓦片1点が出土している。第200図1は土師器坏で, 中央部の床面から正位で出土している。2は土師器皿で, 中央部の床面から出土している。3・4は黒90号窯式段階の灰釉陶器で, 3は碗でP2内から, 4は長頸瓶で覆土中から出土している。5は管状土錘, 6は瓦で窠内から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から10世紀前葉と思われる。



第200図 第106号住居跡出土遺物

第106号住居跡出土遺物観察表

図説番号	器種	計測値cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第200図 1	坏 土師器	A 132	平底。体部は内厚気味に立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底部回転糸切り。	長石雲母・スクリヤ 浅黄褐色 普通	P827 100% 中央部床面
		B 39				
		C 60				
2	皿 土師器	A 122	底形から口縁部にかけての破片。平底。体部は大きく外方に廣く。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底部回転糸切り。	長石 褐色 普通	P828 60% 中央部床面 体部外面非書
		B 20				
		C 59				
3	碗 灰釉陶器	B (19)	高台部片。平底。高台は三日月状。	底部回転へく圓り後, 高台筋有り付。片面施。	胎土: 灰黄色 釉濁; 透明 刷毛施りで滑い 良好	P830 10% P2内 黒90号窯式段階
		D 7.2				
		E 0.9				

図録番号	器 名	正逆写像	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・磁石・焼成	備 考
第202図 1	長 須 壺 灰陶製	D・13 D・92 E・19	胴部から唇部にかけての破片 平突。突合は無い。唇部は内凹しな がら立ち上がる	体部外面回転ヘラ目子 ナゲ。体部外面直	粘土:キリーゾ灰色 磁石:わずかに 焼成済み 凡砂	P831 覆土中 葉形90号形式以降

#### 土製品観察表

図録番号	器 名	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	口径(cm)	重量(g)		
5	管状土罐	28	1.5	0.5	1.54	壺内	DP型 80%

図録番号	器 名	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	口径(cm)	重量(g)		
6	丸 瓦	5.5	8.9	2.8	135.6	壺内	T19

#### 第107号住居跡（第201図）

位置 調査E区中央部、D3a区。

規模と平面形 長軸4.39m、短軸3.90mの方形である。

主軸方向 N-18°-W

壁 壁高は18cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 掘乱を受けているが、確認した壁下を全周している。上幅12～20cm、下幅5～8cm、深さ6cmで、断面形はJ字形である。

床 平坦である。特に、中央部が踏み固められている。

壁 北壁やや東寄りを壁外へ70cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚き口部から煙道部までの長さ130cm、両袖間の最大幅126cmである。両袖部とも砂質粘土で構築され、上師器甕で補強されている。火床部は、楕円形に10cmほど掘りくぼめられ、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

#### 瓦土層解説

- |                               |                             |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 1 灰褐色 焼土粒子中量、粘土粒子少量、焼土小ブロック微量 | 4 灰褐色 炭化粒子・粘土小ブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 灰褐色 焼土粒子・粘土小ブロック少量          | 5 暗赤褐色 炭化粒子中量、焼土粒子少量        |
| 3 灰褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量          |                             |

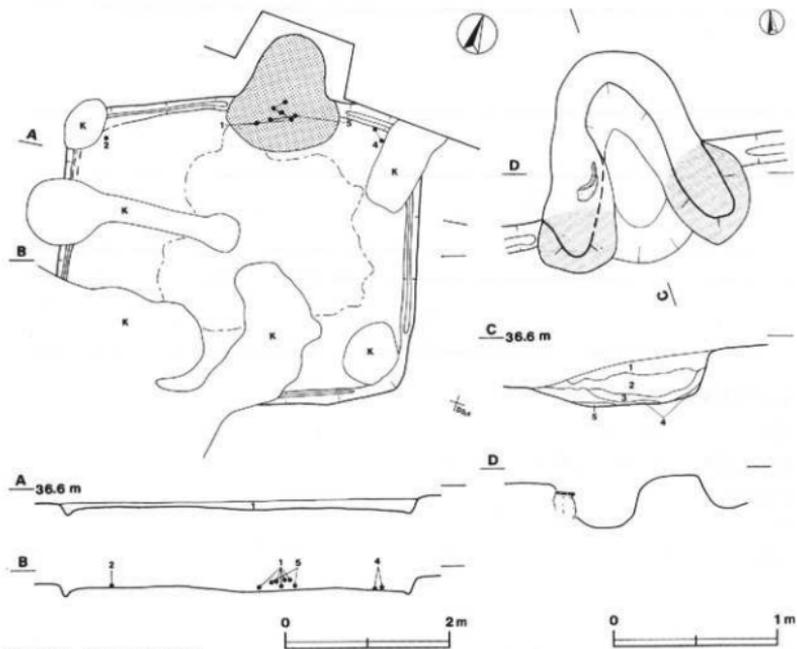
覆土 単一層で、自然堆積であるが、かなり掘乱を受けている。

#### 土層解説

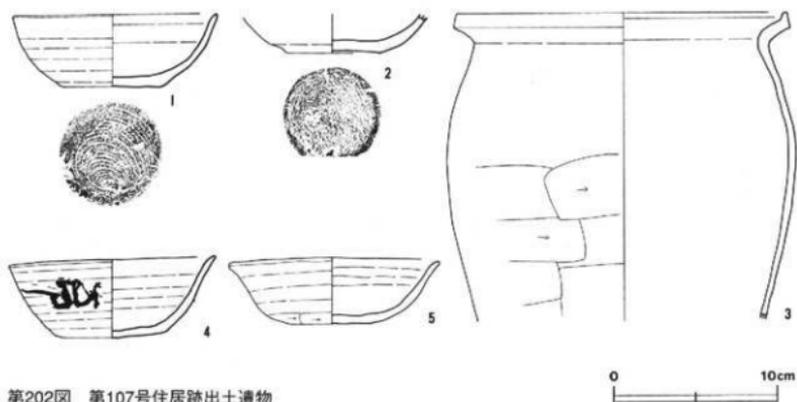
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量

遺物 上師器片128点、須恵器片4点が出土している。第202図1・2は上師器環で、1は壺内から、2は北西部の床面から出土している。3は上師器甕で、壺内から出土している。4・5は須恵器環で、4は北東部の床面から、5は壺内から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から10世紀以降と思われる。



第201图 第107号住居跡



第202图 第107号住居跡出土遺物

### 第107号住居跡出土遺物観察表

図号番号	器名	土層番号	器形の特徴	寸法の特徴	胎土・色灰・焼成	備	率
第202図	土 師 器	A 125	平底、底部は内野気味に立ち上がり、口縁部に平ら。	口縁部から体部内・外面ワタコナデ、底部は平ら。	灰石・褐色・普通	P832	100%
		B 45					
		C 42					
2	土 師 器	B 124	底部から体部にかけての底平、平底、体部は内野気味に立ち上がる。	体部内・外面ワタコナデ、底部は平ら。	灰石・赤褐色・普通	P835	30%
		C 59					
3	土 師 器	A 304	体部から口縁部にかけての底平、体部は内野気味に立ち上がり、口縁部は平らに仕上げられている。	口縁部内・外面ワタコナデ、体部は平ら。	灰石・長石・スロリア・褐色・普通	P837	70%
		B 183					
4	土 師 器	A 127	体部・底部平、底部は内野気味に立ち上がり、口縁部はわずかに平ら。	口縁部から体部内・外面ワタコナデ、底部は平ら。	灰石・スロリア・褐色・普通	P833	90%
		B 58					
		C 69					
5	土 師 器	A 129	体部・底部平、体部は内野気味に立ち上がり、口縁部はわずかに平ら。	口縁部から体部内・外面ワタコナデ、体部下端を持ちへつ回り、底部は平ら。	灰石・褐色・普通	P834	90%
		B 41					
		C 51					

### 第108号住居跡（第203図）

位置 調査区東部、D30区。

規模と平面形 東西5.03m、南北（2.20）mで、住居跡の半分以上が調査区域外に延びているため、平面形は不明である。

主軸方向 [N-79°-E]

壁 壁高は14cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 擾乱を受けているが、確認した壁下を全周している。上幅10～16cm、下幅8～10cm、深さ8cmで、断面形はU字形である。

床 平床である。特に、中央部が踏み固められている。

竈 東壁を壁外へ80cmほど張り込み、付設されている。規模は、焚き口部から煙道部までの長さ115cm、両袖間の最大幅は石籠部が調査区域外に延びているため不明である。両袖部とも砂質粘土で構築されている。火床部は、楕円形に14cmほど張りくぼめられ、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

#### 竈土層解説

- |        |                         |        |                  |
|--------|-------------------------|--------|------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土・ローム粒子少量              | 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量 |
| 2 白灰色  | 白色粘土中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子少量 | 4 灰褐色  | 焼土小ブロック、焼土粒子中量   |
|        |                         | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、焼土小ブロック微量 |

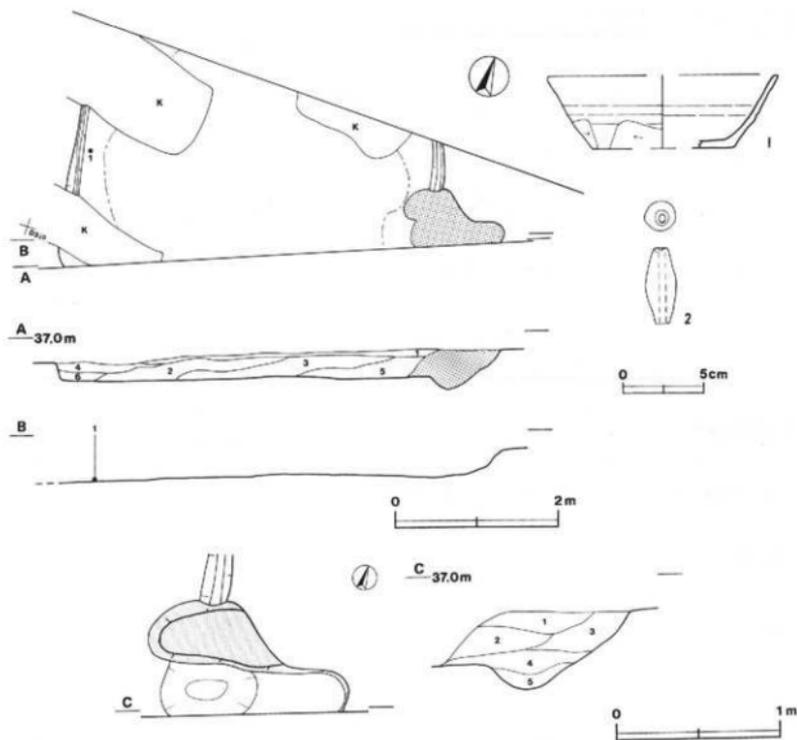
覆土 6層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

- |       |                         |       |                |
|-------|-------------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量          | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック微量      | 5 白灰色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・ローム小ブロック微量 |       | 焼土小ブロック少量      |
|       |                         | 6 褐色  | ローム粒子多量        |

遺物 土師器片40点、須恵器片19点、土製品1点が出土している。第203図1は須恵器片で、西部の床面から出土している。2は管状土師で、覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後半と思われる。



第203図 第108号住居跡出土遺物

第108号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第203図 1	坏 須恵器	A [142] B 15 C [86]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり。口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	石灰・長石 灰黄色 普通	P38 底部床面 新治窯産

土製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
2	管状土師	4.7	1.9	0.4	12.7	覆土中	D P93 100%

第109号住居跡 (第204図)

位置 調査E区中央部, D3j区。

重複関係 本跡が, 第110A・B・C号住居跡を掘り込んでいる。

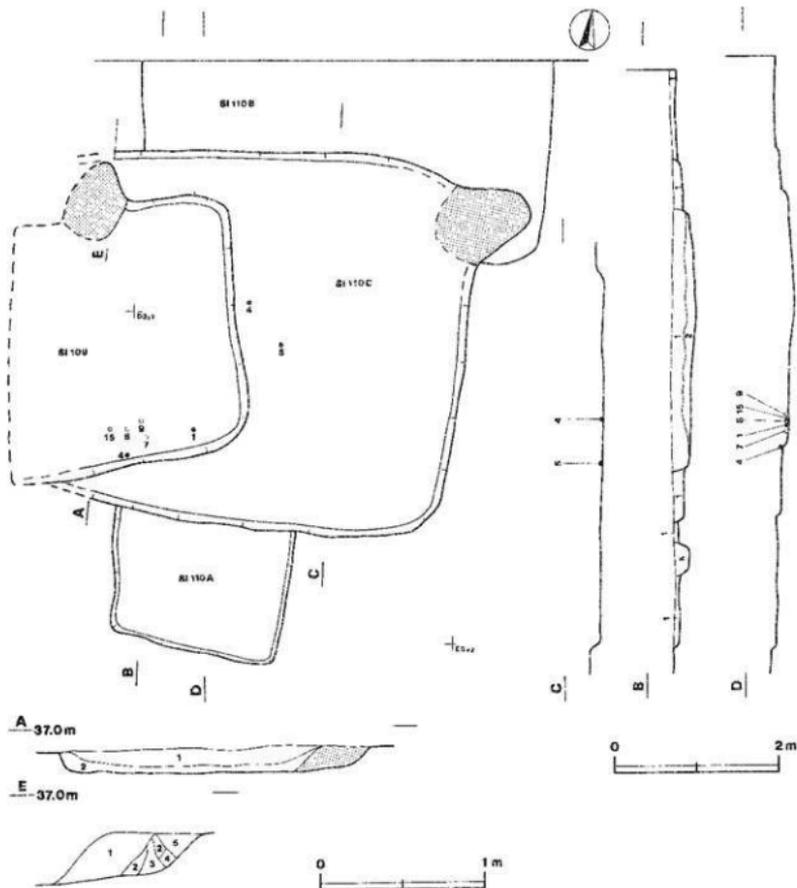
規模と平面形 東西(2.80)m, 南北3.21mで, 西側部は水道工事による擾乱を受けており, 平面形は不明である。

主軸方向 [N-8°-W]

壁 壁高は24cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平田である。

竈 北壁を壁外へ(50)cmほど掘り込み, 付設されている。竈横は, 焚き口部から煙道部までの長さ(98)cm,



第204図 第109・110A~C住居跡

両袖間の最大幅は左袖部が攪乱を受けており、不明である。右袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は、床面と同じである。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

#### 覆土層解説

- |   |                                     |
|---|-------------------------------------|
| 1 濃い赤褐色 焼土小ブロック・粘土粒子中量、炭化・<br>焼土粒子・ローム中ブロック微量 | 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、<br>粘土小ブロック少量 |
| 2 灰褐色 粘土大・中ブロック中量                             | 4 濃い赤褐色 焼土粒子中量、粘土粒子少量               |
|   | 5 暗赤褐色 ローム粒子中量                      |

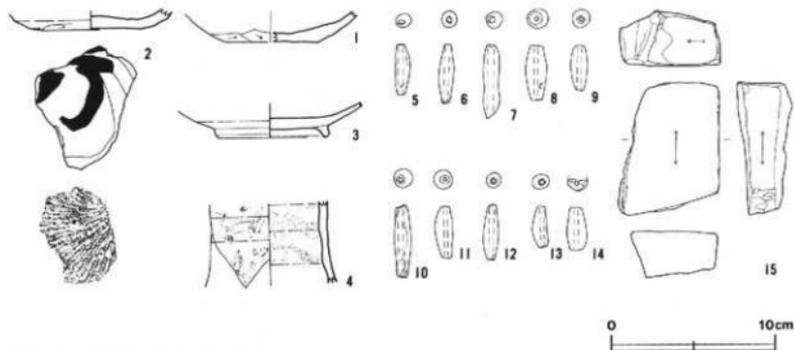
覆土 2層からなる自然堆積である。

#### 土層解説

- |                                       |                                   |
|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・<br>ローム小ブロック微量 | 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・<br>ローム小ブロック微量 |
|---------------------------------------|-----------------------------------|

遺物 土師器片457点、須恵器片64点、灰釉陶器片2点、土製品10点、石製品1点が出土している。第205図1・2は土師器坏で、1は南東部の床面から、2は覆土中から出土している。3・4は黒笹14号室段階の灰釉陶器で、3は皿で覆土中から、4は長頸瓶で南部の床面から出土している。5～14は管状土錐で、7～9は いずれも南部の床面から、5・6・10～14は覆土中から出土している。15は砥石で、南部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から10世紀以降と思われる。



第205図 第109号住居跡出土遺物

第109号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・使用	備考
第205図 1	坏 土師器	B (1.9) C (5.8)	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部下端粗い手持ちヘタ張り。底部ヘタ張り。	石英・長石・雲母にふいだ色 普通	P842 30% 南東部床面
2	坏 土師器	B (1.2) C 6.2	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部下端粗い手持ちヘタ張り。底部ヘタ張り。	長石・スフィアにふいだ色 普通	P843 20% 覆土中 底部から体部下位墨書
3	碗 灰釉陶器	B (2.3) D 6.6 E 0.6	高台部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。高台は三日月状。	底部回転ヘタ張り後、高台張り付け。内面釉。	粘土：灰白色 釉調：透明 刷毛塗り 良好	P846 30% 覆土中 黒笹14号室段階
4	長頸瓶 灰釉陶器	B (3.1)	頸部片。	頸部内・外面ロクロナデ。内・外面釉。	粘土：灰オリーブ色 釉調：濃い紅色 刷毛塗り 良好	P847 5% 南部床面 黒笹14号室式

金属製品観察表

図録番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		径 (cm)	厚 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
5	管状土師	3.1	1.0	0.3	2.2	覆土中	D P 94 100%
6	管状土師	2.7	0.9	0.3	2.6	覆土中	D P 95 100%
7	管状土師	4.5	1.1	0.3	1.2	南部床面	D P 96 100%
8	管状土師	3.1	1.3	0.2	3.1	南部床面	D P 97 100%
9	管状土師	2.8	1.0	0.2	1.1	南部床面	D P 98 100%
10	管状土師	4.5	1.1	0.3	1.7	覆土中	D P 99 100%
11	管状土師	3.2	1.1	0.3	4.5	覆土中	D P 100 100%
12	管状土師	3.4	0.9	0.3	2.1	覆土中	D P 101 100%
13	管状土師	2.6	1.0	0.3	2.0	覆土中	D P 102 90%
14	管状土師	2.7	1.2	0.3	2.2	覆土中	D P 103 70%

石製品観察表

図録番号	種 別	計 測 値				行 置	出土地点	備 考
		径 (cm)	厚 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
15	砥 石	9.1	6.2	3.1	185.0	敷 灰 石	与呂床面	Q53 70%

第110A号住居跡 (第204図)

位置 調査E区中央部、D3j区。

重複関係 本跡は、第109・110C号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 東西2.24m、南北1.59mである。住居跡の北部は第110C号住居跡に掘り込まれており、平面形は不明である。

主軸方向 [N-8°-W]

壁 壁高は9cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

覆土 単一層で、自然堆積である。

土層解説

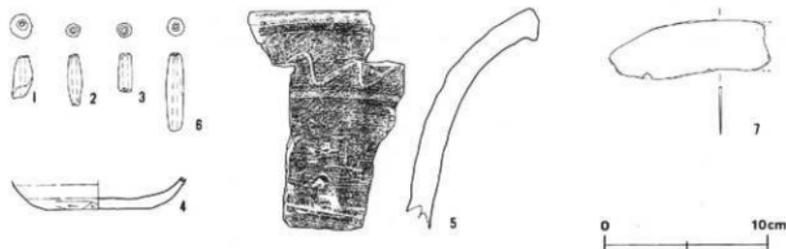
1 暗褐色 ローム軟土少量

遺物 土師器片17点、須恵器片1点、灰釉陶器4点、土製品2点が出土している。土器片はいずれも細片である。第206図1・2は管状土師で、いずれも覆土中から出土している。灰釉陶器片は細片で覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、9世紀後葉と思われる第110C号住居跡に掘り込まれていることから、それ以前と思われる。

第110A号住居跡出土土製品観察表

図録番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		径 (cm)	厚 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
1	管状土師	2.6	1.5	0.3	3.7	覆土中	D P 104 50%
2	管状土師	3.1	0.9	0.3	1.8	覆土中	D P 105 100%



第206図 第110A～C号住居跡出土遺物

### 第110B号住居跡 (第204図)

位置 調査E区中央部, D3j2区。

重複関係 本跡は, 第110C号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 東西(4.98)m, 南北(1.14)mである。住居跡の南部は第110C号住居跡に掘り込まれており, 平面形は不明である。

床 平坦である。

覆土 単一層で, 自然堆積である。

#### 土層解説

1 暗褐色 ローム状土

遺物 土師器片8点, 須恵器片3点, 土製品1点が出土している。土器片はいずれも細片である。第206図3は管状土鉢で, 覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 9世紀後半と思われる第110C号住居跡に掘り込まれていることから, それ以前と思われる。

### 第110B号住居跡出土土製品観察表

図版番号	種別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
3	管状土鉢	(2.4)	0.9	0.3	(1.6)	覆土中	DP106 80%

### 第110C号住居跡 (第204図)

位置 調査E区中央部, D3j2区。

重複関係 本跡は, 第109号住居跡に掘り込まれ, 第110A・B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 東西(4.67m), 南北4.70mで方形と思われる。

主軸方向 [N-85°-E]

壁 壁高は12cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

竈 北東部コーナーを壁外へ(60)cmほど掘り込み付設されているが, 削平されており火床部のみを確認した。遺存状況から砂質粘土で構築されていたと思われる。火床部は浅く掘りくぼめられている。

覆土 単一層で, 自然堆積である。

#### 土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量 焼土・炭化粒子微量

遺物 土師器片36点、須恵器片2点、土製品2点、鉄製品1点が出土している。第206図4は土師器杯、5は須恵器甕、7は鉄製鎌で、いずれも中央部床面から出土している。6は管状土錘で、壺内から出土している。所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後半と思われる。

#### 第110C号住居跡出土遺物観察表

図号番号	部 材	計測値(mm)	部 材 の 特 徴	予 法 の 特 徴	胎土・色澤・焼成	備 考
第206図 4	杯	B:116 土厚 36 径 65	底部から底部下段にかけての破片。平底。径36は厚縁に立ち上がる。	外部下指手持ちへり取り。底部へり取り。	灰白・黄褐色 中央部床面	P548 30%
5	甕	B:133 底厚 30	底部から口縁部にかけての破片。側部から口縁部にかけては大きく外反する。	口縁部から胴部内・外両口縁部へり取り。	灰白・灰褐色 中央部床面	P630 10%

#### 土製品観察表

図号番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
6	管状土錘	43	1.1	0.3	3.5	壺内	D-P107 100%

#### 金属製品観察表

図号番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
7	鉄 鎌	109.0	3.7	0.1	29.0	中央部床面	M81 30%

#### 第111号住居跡 (第207図)

位置 調査D区中央部、D3g区。

規模と平面形 東西(3.60)m、南北(0.97)mで、大部分が調査区域外に延びているため、平面形は不明である。

主軸方向 [N-18°-E]

壁 壁高は30cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認した壁下を巡っている。上幅14~20cm、下幅8~10cm、深さ8cmで、断面形はU字形である。

床 平坦である。

竈 北壁に付設されている。規模は、突き目部から煙道部までの長さ105cm、両袖部の最大幅82cmである。両袖部とも砂葺粘土で構築されている。火床部は、ほぼ床面と同じである。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

#### 竈土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 灰褐色 粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子微量

3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、灰少量、炭化粒子微量

4 濃い赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、灰中量、炭化粒子少量

覆土 7層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

3 暗褐色 ローム粒子中量

4 暗褐色 ローム粒子少量

5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量

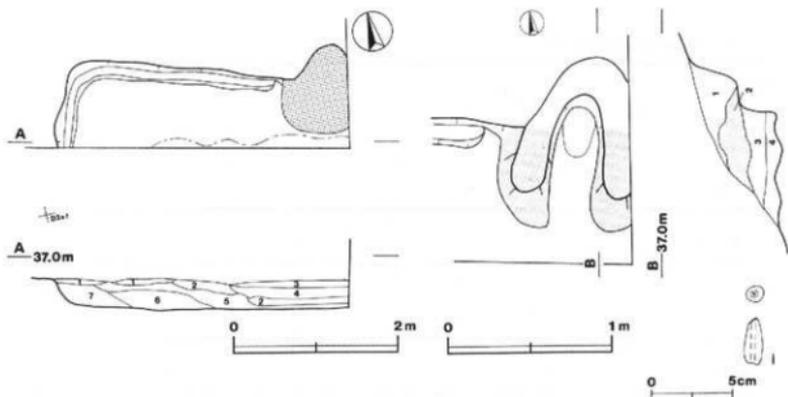
6 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック微量

7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、

ローム中ブロック微量

**遺物** 土師器片31点、須恵器片2点、灰釉陶器片1点、土製品1点が出土している。土器片はいずれも細片である。第207図1は管状土鉢で、甕内から出土している。灰釉陶器片は細片で覆土中から出土している。

**所見** 本跡は、出土遺物が少なく時期の限定は難しいが、須恵器の絶対量が少ないことから、9世紀後葉と思われる。



第207図 第111号住居跡・出土遺物

第111号住居跡出土土製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
1	管状土鉢	(29)	1.1	0.2	(28)	甕内	D F108 100%

#### 第112号住居跡 (第208図)

**位置** 調査E区東部, D3区。

**重複関係** 本跡が、第105号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と平面形** 東西4.39m, 南北(2.30)mで、北側半分が調査区域外に延びているため、平面形は不明である。

**主軸方向** [N-76°-E]

**壁** 壁高は10cmで、外傾して立ち上がる。

**床** 平坦である。特に、中央部が踏み固められている。

**ピット** P<sub>1</sub>は径36cmの円形で、深さ32cmである。性格は不明である。

**覆土** 2層からなる自然堆積である。

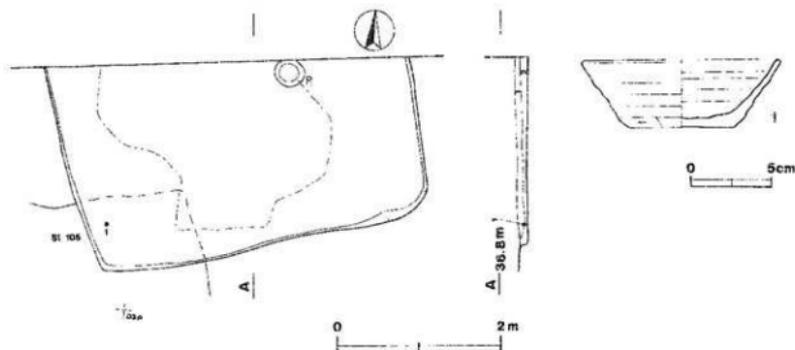
##### 土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

2 暗褐色 ローム粒子少量

**遺物** 土師器片57点、須恵器片4点が出土している。第208図1は須恵器杯で、南西部の覆土下層から出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後葉と思われる。



第208図 第112号住居跡・出土遺物

第112号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	遺 跡	測 定 寸 法	跡 の 形 状	手 法 の 形 態	地 上・色 采・建 造	備 考
1	柱 石	A 125 B 13 C 63	穴部から口縁部にかけての残片。平底。外縁は外傾して立ち上がり、口縁部に至る	口縁部から体部内・外面はタテナギ、体部は左手持ちへたねりへたねり。	灰石 灰色 灰泥	口縁部 山西部残片が疑 疑ノ内空部

第130号住居跡 (第209図)

位置 調査A区西部、B7c1区。

規模と平面形 長径2.81m、短径(1.58)mで、方形と思われる。

主軸方向 N-79°-E

壁 壁高は10cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 幅12cm、深さ5cmの溝を壁右側部付近で確認し、壁溝と思われる。

床 平坦である。

竈 東壁やや南よりを壁外へ56cmほど掘り込み、付設されている。規模は、突き口部から煙道部までの長さ104cm、両側面の最大幅78cmである。両側部とも砂質粘土で構築されている。火床部は、楕円形に10cmほど掘りくまわれている。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| 1 黄褐色 焼土・粘土粒子中量         | 3 黄褐色 粘土粒子多量、焼土粒子中量、 |
| 2 褐色 粘土粒子多量             | 焼土小ブロック少量            |
| 3 にびり赤褐色 焼土小ブロック・粘土粒子多量 | 5 赤褐色 焼土・炭化粒子少量      |
|                         | 6 赤褐色 焼土粒子少量         |

貯蔵穴 南西部から確認されている。径30cmの円形で、深さ18cmである。

貯蔵穴土層解説

- |                         |                            |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、 | 3 褐色 ローム中ブロック多量            |
| ローム中ブロック少量              | 4 暗褐色 炭化・ローム粒子少量、焼土小ブロック少量 |

- |                               |
|-------------------------------|
| 2 黒褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
|-------------------------------|

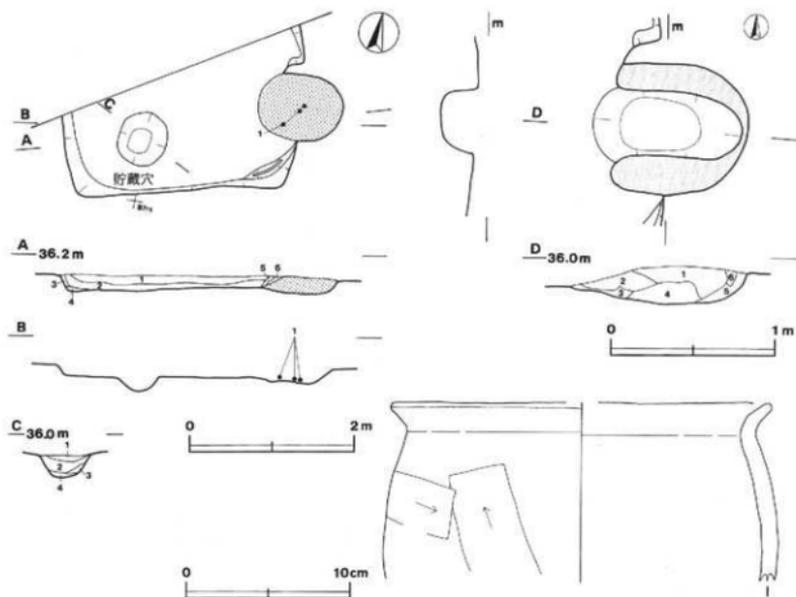
覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- |                    |                |
|--------------------|----------------|
| 1 黒色 ローム粒子少量、炭化粒子・ | 4 暗褐色 ローム粒子中量  |
| ローム小ブロック微量         | 5 黒褐色 ローム粒子少量  |
| 2 黒色 ローム小ブロック微量    | 6 褐色 灰・ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子微量      |                |

遺物 土師器片11点、須恵器片3点、縄文土器片3点が出土している。第209図1は土師器甕で、竈内から出土している。縄文土器片は流れ込みみである。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後葉と思われる。



第209図 第130号住居跡・出土遺物

第130号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備	考
第209図 1	土師器 甕	A [23.4] B [19.9]	腰部から口縁部にかけての破片。腰部は内野して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。腰部外面へウ割り。内面横ナデ。	石英・長石・雲母 暗赤褐色 普通	P851 竈内	20%

第131号住居跡 (第210図)

位置 調査A区西部, B7f区。

規模と平面形 長軸3.70m, 短軸2.60mで、長方形である。

主軸方向 N-72°-E

壁 壁高は14~22cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南西から南側壁下で確認した。上幅15~20cm, 下幅4~6cm, 深さ4cmで、断面形はU字形である。

床 平坦である。

竈 東壁やや南東コーナーを壁外へ70cmほど掘り込み、付設されている。規模は、焚き口部から煙道部までの長さ113cm。両袖間の最大幅90cmである。両袖部とも砂質粘土で構築されている。火床部は、楕円形に8cm

ほど掘りくぼめられている。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

**埋土層解説**

- |                       |                         |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量 | 4 黒褐色 ローム粒子少量           |
| 2 暗赤褐色 焼土・炭化粒子少量      | 5 赤褐色 焼土大ブロック多量         |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量         | 6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子少量 |

**貯蔵穴** 南部から確認されている。径54cmの円形で、深さ30cmである。

**貯蔵穴土層解説**

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 黒色 ローム粒子少量、炭化粒子微量      | 3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 |                          |

**ピット** Pは径16cmの円形で、深さ10cmの出入り口施設に伴うピットと考えられる。

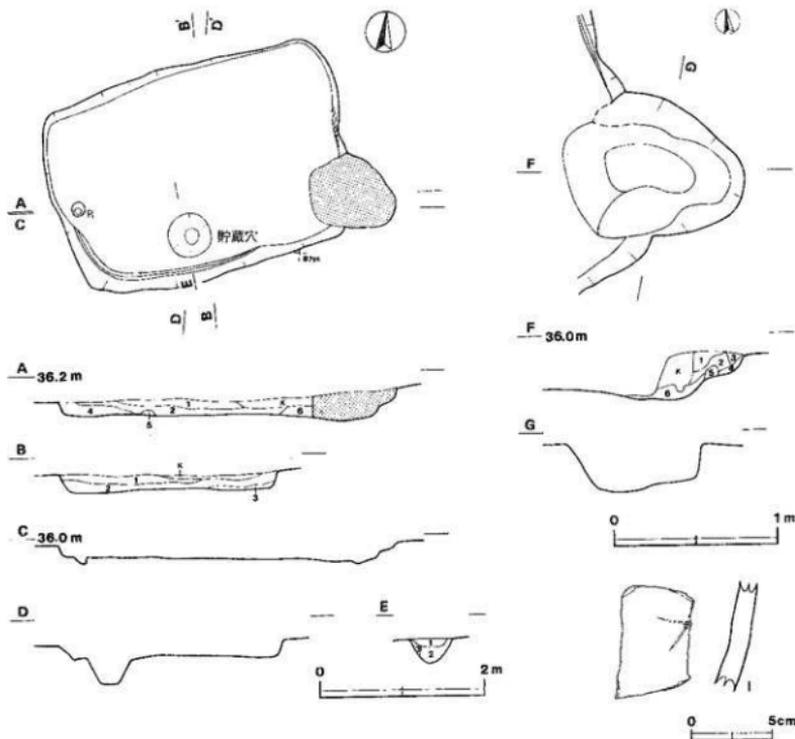
**覆土** 6層からなる自然堆積である。

**土層解説**

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量            | 4 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 2 黒色 ローム粒子少量             | 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量   |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 6 黒色 ローム粒子少量、焼土粒子微量      |

**遺物** 土師器片71点が出土している。第210Ⅳ1は土師器甕で、竈内から出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後葉と思われる。



第210図 第131号住居跡・出土遺物

第131号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	注記	器形の寸法	手法の寸法	粘土・色灰・地成	備考
第210図	土 埴 器	B・68	俵型片	内・外面寸法	石系・雲母 淡灰色 片鱗	P832 編号 弥生外前期西

第132号住居跡 (第211図)

位置 調査B区西部, C5e1区。

重複関係 本跡は, 第360・361・362号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸2.83m, 短軸2.77mで, 隅丸方形である。

主軸方向 N-82°E

壁 壁高は14cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 西壁から北側壁下で確認した。上幅8~12cm, 下幅6~9cm, 深さ10cmで, 断面形はU字形である。

床 平坦である。特に, 中央部が踏み固められている。

竈 東壁やや北東コーナーを壁外へ62cmほど掘り込み, 付設されている。規模は, 焚き口部から煙道部までの長さ75cm, 両袖間の最大幅(63)cmである。両袖部とも砂質粘土で構築されている。火床部は, 楕円形に15cmほど掘りくぼめられている。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

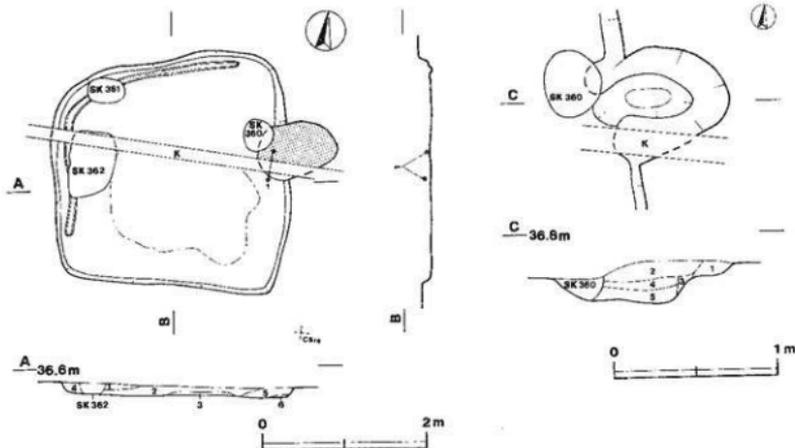
遺土層解説

- |                         |                           |
|-------------------------|---------------------------|
| 1 灰褐色 焼土・ローム粒子少量        | 3 暗褐色 焼土・ローム粒子・炭化物微量      |
| 2 暗褐色 焼土・ローム粒子少量, 炭化物微量 | 4 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量 |
|                         | 5 黒褐色 焼土・ローム粒子・炭化物微量      |

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

- |                                |                                     |
|--------------------------------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量      | 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量           |
| 2 黒褐色 焼土・炭化・ローム粒子・ローム中ブロック微量   | 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム大・中ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 黒色 炭化・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量    |



第211図 第132号住居跡

遺物 土師器片74点、須恵器片6点、灰釉陶器片1点が出土している。第212図1は土師器甕で、甕内から出土している。灰釉陶器片は細片で覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後半と思われる。



第212図 第132号住居跡出土遺物

第132号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	寸法(㎝)	器形の写数	手法の特徴	出土・包埋・状況	図	考
第212図1	甕	A:19.2 B:12.0	体部から口縁部にかけての細片、体部は破やぶりに内埋して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁広角・外面灰釉・体部外面へ手漉り、内面少少。	長石・スロリアによる褐色汚染	P883 甕内	10%

第133号住居跡 (第213図)

位置 調査B区西部、E1c1区。

規模と平面形 東西(0.4)m、南北(1.5)mで、大部分が調査区域外に延びているため、平面形は不明である。

主軸方向 (N-17°-W)

壁 壁高は20cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

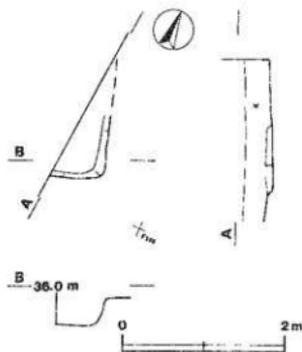
覆土 単一層で、自然堆積であると思われるが、擾乱層が多い。

土層解説

1 黒褐色 ローム状土中硬、ローム小ブロック少量

遺物 土師器片18点、須恵器片2点が出土しているが、いずれも細片である。

所見 出土遺物が細片であり、時期は不明である。



第213図 第133号住居跡

第134号住居跡 (第214図)

位置 調査D区中央部、D3c1区。

規模と平面形 長軸(3.50)m、短軸(3.36)mで、方形と思われる。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は13~15cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

竈 北壁中央に付設されているが、煙道部は擾乱を受けている。規模は、焚き口部から煙道部までの長さ(55)

cm, 両袖間の最大幅56cmである。両袖部とも砂質粘土で構築されている。火床部は14cmほど掘りくぼめられている。

覆土層解説

- |       |                               |          |                       |
|-------|-------------------------------|----------|-----------------------|
| 1 褐色  | 焼土小ブロック中量, ローム小ブロック少量         | 3 にぶい黄褐色 | 焼土小ブロック少量             |
| 2 黒褐色 | 焼土中ブロック中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量 | 4 黒褐色    | ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック少量 |
|       |                               | 5 暗褐色    | 焼土粒子中量, ローム中ブロック微量    |

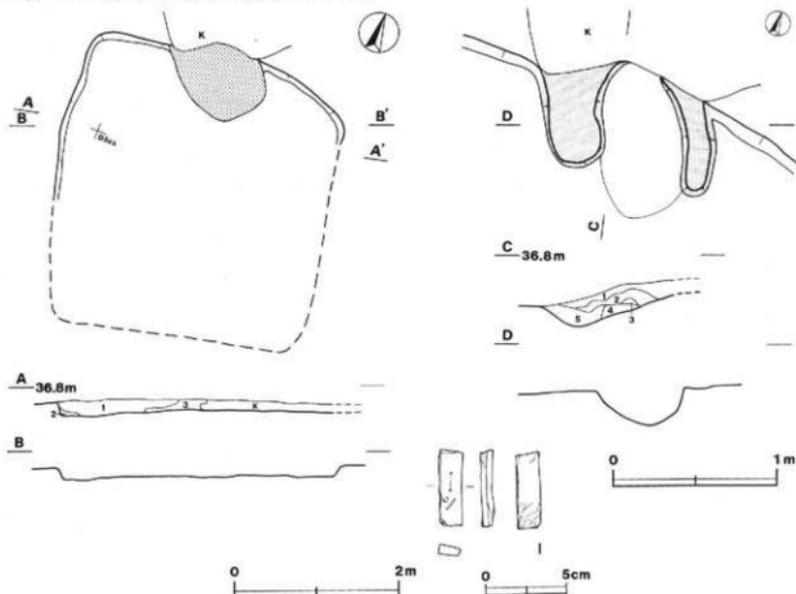
覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- |       |                  |      |                    |
|-------|------------------|------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量  | 3 褐色 | 粘土粒子中量, 焼土・ローム粒子少量 |
| 2 褐色  | ローム中ブロック・ローム粒子少量 |      |                    |

遺物 出土遺物は、土師器の細片と石製品1点である。第214図1は砥石で、覆土中から出土している。

所見 出土遺物が細片であり、時期は不明である。



第214図 第134号住居跡・出土遺物

第134号住居跡出土石製品観察表

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
1	砥石	(L7)	1.6	0.7	(8.0)	粘板岩	覆土中	Q34 79%

第135号住居跡 (第215図)

位置 調査D区東部, D4b区。

重複関係 本跡は, 第368・369号土坑, 第6号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.00m, 短軸3.47mの長方形である。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は18cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 確認した壁下を全周している。上幅14~20cm, 下幅6~10cm, 深さ8cmで, 断面形はU字形である。

床 はほぼ平坦で, 特に中央部が踏み固められている。

竈 北壁やや中央部から焼土・粘土粒子が検出され, 竈の袖部跡と思われる。

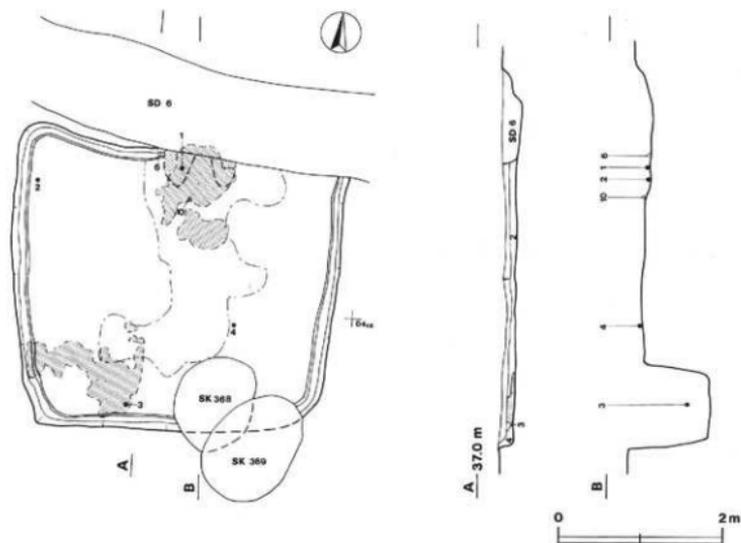
覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

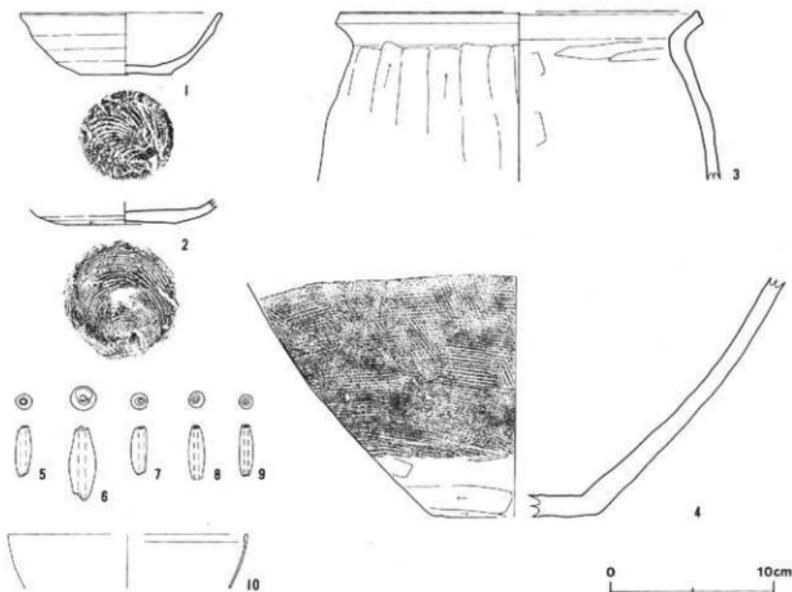
- |   |                                      |
|---|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化・焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 3 暗褐色 焼土大・中・小ブロック多量, 炭化粒子中量, ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 炭化・ローム粒子少量                          | 4 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子微量             |

遺物 土師器片123点, 須恵器片7点, 土製品6点, 銅製品1点が出土している。第216図1・2は土師器で, 1は北部の床面から, 2は北西部の床面から出土している。3は土師器甕で, 南部の覆土下層から出土している。4は須恵器甕で, 中央部の床面から出土している。5~9は管状土鐘で, いずれも覆土中から出土している。10は銅鐘で, 北部の床面から出土している。

所見 本跡の床面からは, 住居跡の南西部を中心に炭化材と焼土が検出され, 床面も焼き締っており, 焼失家屋と思われる。本跡の時期は, 出土遺物から10世紀前葉と思われる。



第215図 第135号住居跡



第216図 第135号住居跡出土遺物

第135号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	産地	考
第216図 1	土 器	A 12.3	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面はクロコナデ。底部回転糸切り。	石英・長石にふい・橙色 普通	P834	80%
		B 3.8					
		C 3.6					
2	土 器	B (1.4)	底部分。平底。	底部回転糸切り。	長石・スコリアにふい・黄褐色 普通	P835	10%
		C 6.5					
3	土 器	A (21.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面はクロコナデ。体部外面へラ回り。内面はナデ。	長石・スコリアにふい・橙色 普通	P836	10%
		B (10.4)					
4	土 器	B (14.8)	底部から体部中央にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面横方向の平行彫り。体部下面へラ回り。	石英・長石 灰色 良好	P837	20%
		C [10.2]					

土製品観察表

図版番号	種別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
5	管状土鉢	4.11	1.0	0.4	(23)	覆土中	D P 109 90%
6	管状土鉢	4.5	1.2	0.4	(65)	覆土中	D P 110 90%
7	管状土鉢	2.9	1.0	0.3	2.6	覆土中	D P 111 100%
8	管状土鉢	3.3	1.0	0.3	3.0	覆土中	D P 112 100%
9	管状土鉢	3.1	0.9	0.3	2.3	覆土中	D P 113 100%

金属製品観察表

図版番号	種別	調査番号	器の形状	手法の種類	編	考
10	銅	A 1145 B (23)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内湾して立ち上がり、口縁部に凸る。口縁部は肥りさせている。		ME2	10%

第136号住居跡 (第217図)

位置 調査D区東部、D4a区。

規模と平面形 長軸3.35m、短軸3.00mの方形である。

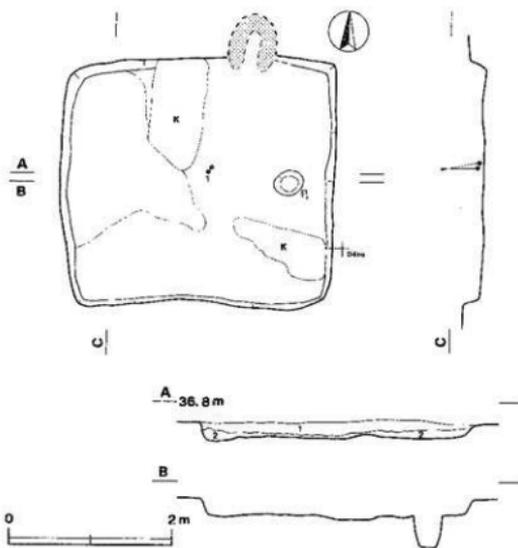
主軸方向 N-1'-W

壁 壁高は20~22cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

礎 北畷やや東寄りから礎の痕跡が確認できた。袖幅〔60〕cm、長さ〔70〕cmと推定され、焼土・粘土粒子が検出された。

ピット P4は長径36cm、短径30cmの楕円形で、深さ40cmである。性格は不明である。



第217図 第136号住居跡

覆土 2層からなる自然堆積である。

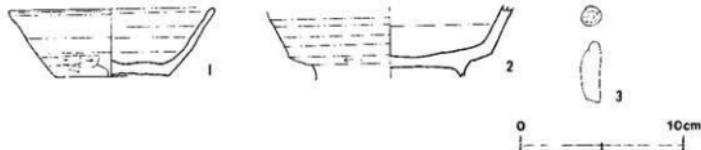
土層解説

- 1 黒褐色 ロム小ブロック・ロム粒子少量 2 暗褐色 ロム粒子少量

遺物 土師器片74点、須恵器片20点、土製品1点、縄文土器片6点が出土している。第218図1は須恵器環、

2は須恵器高台付杯で、いずれも中央部の覆上下層から出土している。3は管状土鉢で、覆土中から出土している。縄文土器片は流れ込みである。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀前葉と思われる。



第218図 第136号住居跡出土遺物

第136号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器名	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	出	考
第218図 1	須恵器	A 126 B 42 C 70	外周一径欠絶。平底、唇部は外傾し、ごもり上がり、1層部に至る。	L1層部から体部内・外周口ロナサ。唇部下縁手持ちへう割り、底部回転へう割り	長石 灰色	P808	89% 中央部上下層
	高台付杯	3:41 5:140	台形欠絶。底部から体部へ段にかけての腹径。唇部は外傾して立ち上がる。	体部内・外周口ロナサ。底部回転へう割り。	石英・長石 灰色 黄緑	P808	40% 中央部覆土下層
	須恵器	5:140					

土製品観察表

図録番号	種類	寸法		重量		出土重点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
3	管状土鉢	37	1.3		4.8	被土中	D P111 100%

第137号住居跡 (第219図)

位置 調査D区東部、C46区。

規模と平面形 北西コーナー部が調査区域外に延びているが、長軸4.58m、短軸4.00mで、方形と思われる。

主軸方向 N-89°-W

壁 壁高は50cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認した壁下を全周している。上幅12~20cm、下幅4~10cm、深さ10cmで、断面形はU字形である。

床 平坦である。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は径32cmの円形で、深さ40cmの出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は径30cmの円形で、深さ16cmである。性格は不明である。

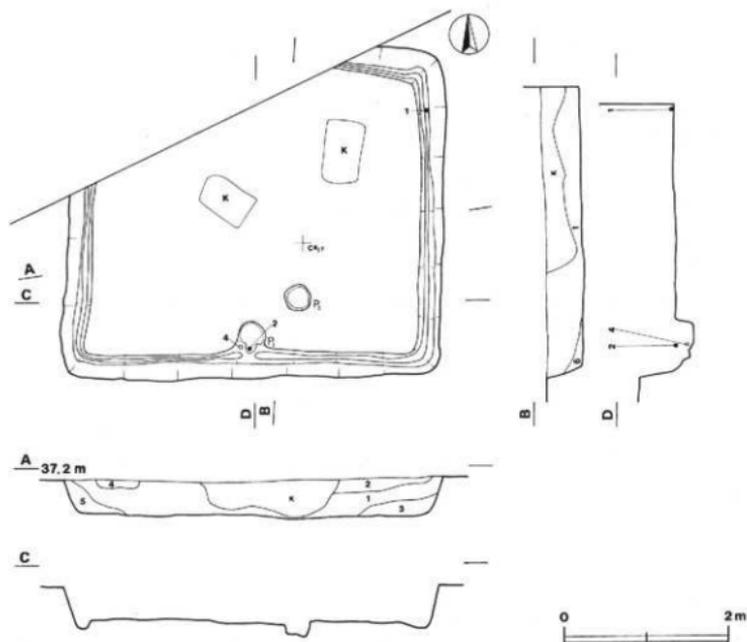
覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

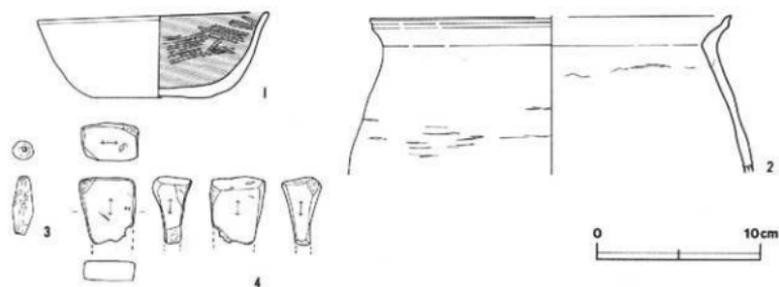
- 1 暗褐色 焼土・炭化・ロム粒子少量、ロム大・小ブロック粒子微量  
2 黒褐色 ロム小ブロック・ロム粒子少量  
3 黒褐色 ロム中ブロック・ロム粒子少量、炭化粒子微量  
4 黒褐色 ロム粒子少量、ロム小ブロック微量  
5 黒褐色 ロム粒子少量、焼土・炭化粒子・ロム小ブロック微量  
6 黒褐色 ロム中ブロック・ロム粒子微量

遺物 土師器片317点、須恵器片86点、土製品1点、石製品1点、縄文土器片7点が出土している。第220図1は土師器椀で、北東部の壁溝内から出土している。2は土師器甕で、P<sub>1</sub>の覆土上層から出土している。3は管状土錘で、覆土中から出土している。4は砥石で、P<sub>1</sub>の覆土下層から出土している。縄文土器片は流れ込みである。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後葉と思われる。



第219図 第137号住居跡



第220図 第137号住居跡出土遺物

第137号住居跡出土遺物観察表

区域番号	器 種	品目名 (cm)	形 状 の 特 徴	手 法 の 特 徴	出土・発掘・発見	備 考		
第137号	陶	A 120	底部一部欠損、平底、体部は肉厚無	口縁部から体部は肉厚のコロナマ、内	長4	P360 北米等製造	80%	
		B 54	口に立ち上がり、口縁部はわずかに	面は湾曲し長、着色包帯、底面は	短志			
		C 73	外反する	糸状孔あり、ナメ	古湯			
2	土 師 器	A 222	体部から口縁部にかけての体部、体	口縁部内・外面はナメ (体部内・外	長1・5短	P401	137号出土物	30%
		B 97	部は肉厚して立ち上がり、口縁部は	和ナメ・縁縁入り	形も褐色			
			外反する。口縁部は上方につまみ					
			上げられている					

土製品観察表

調査番号	器 種	測 量				出土地点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	口径 (cm)	重量 (g)		
3	土師土器	12.6	1.3	0.3	4.8	調査中	137号 80%

石製品観察表

調査番号	器 種	測 量				石 質	出土地点	備 考
		長さ (cm)	厚 (cm)	長さ (cm)	重量 (g)			
4	砥 石	(1)	3.4	1.3-1.8	33.1	調査中	137号 50%	

表2 下り松遺跡住居跡一覧表

調査 番号	住居 棟号	方位	平面図	規模 長×幅 (cm)	築造 時期	内 部 基 礎				出土遺物	備 考 (新田氏調査→由)		
						礎石	土間	土間	土間				
1	B8a	N-2-W	方 形	3.10×(1.60)	20-26	平土	-	-	-	自然	土師器(茶碗)		
2A	B8a	N-87-W	長 方 形	3.20×2.60	30	平土	-	1	東	自然	土師器(高台付平)	炊器片、 土製品(管状土師)	木炭→S12
2B	B8a	N-7-E	長 方 形	4.10×3.45	30	平土	-	-	北	自然	土師器(水、小皿)、土製品(管状土師)	S12A→木炭	
3	B8a	N-0	方 形	3.45×3.40	5	平土	-	1	北東	2	自然	短志片	SK291-292→木炭
3	B8a	N-2-W	方 形	2.90×(2.00)	6	平土	-	-	-	1	自然	土師器(茶)	S16→木炭
6	B8a	N-3-W	方 形	2.93×3.65	18-25	平土	部	1	北	2	自然	土師器(茶)、炊器(高台付平)、土製品(管状土師)	木炭→S15
7	B8a	N-82-E	長 方 形	3.35×2.70	29-40	平土	全周	-	東	-	自然	土師器(水、瓶、高台付平、茶)、土製品(管状土師)	SK293-294→木炭
8	B8a	N-85-E	長 方 形	3.80×3.10	16-22	平土	全周	-	東	1	自然	土師器(水、高台付平、茶)、土製品(管状土師)	SK295→木炭
9	B8a	N-5-W	方 形	6.60×(5.50)	10-12	平土	全周	4	北	4	人為	土師器(茶)、炊器(高台付平)、土製品(管状土師)	SK296-10→木炭→S13
										自然	短志片、縄文土師片、石炭		
11	D8a	N-84-E	薄長方形	3.00×2.40	17	平土	-	-	東	-	自然	土師器(小皿、瓶)、高台付平、土製品(管状土師)、炊器(高台付平)、土製品(管状土師)、土製品(管状土師)、土製品(管状土師)、土製品(管状土師)、土製品(管状土師)	
12	D8a	N-5-W	方 形	3.55×3.45	25-37	平土	全周	-	北	-	人為	土師器(水、高台付平、茶)、土製品(管状土師)	SK297-10→木炭→S13
13	D8a	N-83-E	長 方 形	3.25×2.45	30	平土	全周	-	東	-	自然	土師器(水、茶)、縄文土師片、土製品(管状土師)	SK298→木炭
14	B8a	N-12-W	不 明	3.45×(1.80)	45	平土	一部	-	北	-	人為	土師器(水、瓶、茶)、炊器(高台付平)、土製品(管状土師)	
15	B7a	N-3-W	方 形	6.00×6.00	34-38	平土	全周	4	北	-	人為	土師器(水、炊器(高台付平)、土製品(管状土師)	
16	B7a	N-88-E	八角長方形	3.20×2.20	20	平土	-	1	東	-	人為	土師器(小皿、茶)、土製品(管状土師)	木炭→S17

站号	位置	主解方向	平面形状	边长 长轴×短轴 或长×宽比	标高 (cm)	内 基 施 工								出土器物	考 古 部 门 编 号 (前→后)
						基础	台阶	柱	梁	板	墙	门	窗		
17	17a	N-4-W	长方形	3.65 × 2.90	30	全周	-	-	北	-	-	-	自然	上海等(环、套、盖)、土製品(柄、漆器)、瓷器	SI26→本队
18	17b	N-80-W	长方形	3.15 × 2.30	32	平周	全周	-	-	东	-	-	自然	上海等(环、套)、铁製品(器)	SK6→本队
20	17c	N-12-W	方形	2.55 × 2.50	10-15	全周			北				自然	上海等(环、套)、铜器(器)、漆器、陶器、瓦片	SI27、SK77→本队
21	16c	不明	不明	不明	不明	平周	-	-	北	-	-	-	自然	土製品(小玉、漆器)	本队→SI20
23	C7c	不明	不明	3.60 × 2.20	10	平周	-	-	东	-	-	-	自然	上海等(小玉、漆器)、漆器、不明铁製品	
24	C7a	N-2-E	不明	不明	不明	平周	-	-	北	-	-	-	自然	土製品	
25B	C7c	N-4-E	方形	3.55 × 3.10	10	平周	全周	-	北	-	-	-	人为	上海等(环、套)、漆器(器)	本队→SI25A
25A	C7c	不明	不明	3.90 × 3.75	50-60	柱							人为	瓦土製品	SI25B→本队
26	C6a	N-6-E	不明	3.60 × 0.80	20	平周	-	-	北	-	-	-	自然	土製品(瓦、漆器)	SK108→本队
27	C6c	N-85-W	不明	4.10 × 3.40	40-50	平周	全周	-	东	-	-	-	自然	土製品(环、套)、漆器、瓦片、漆器、铜器(器)、瓦片、漆器	
28A	C6a	N-7-W	方形	3.35 × 3.10	35	平周	全周	-	北	-	5	自然	土製品(漆、土製品、香灰土、漆器)土製品(小型陶器)	SI28B→本队	
28B	C6a	N-87-E	长方形	3.85 × 3.25	30	平周	-	-	北	-	1	自然	土製品(环、小玉、漆)、铁製品(器)、土製品(漆器)	本队→SI28A	
29	C6c	N-90-E	长方形	2.90 × 2.60	5	平周	全周	-	东	-	1	人为	土製品(环、套、漆器)、漆器、瓦片、瓦片	本队→SI4→SI1	
30	C6c	N-85-W	不规则方形	3.80 × 3.20	20	不规则	全周	-	东	-	1	人为	土製品(高台、漆)、土製品(漆器)、漆器、漆器、白粉	本队→SI4	
31	C6c	N-2-W	不规则	3.60 × 2.35	30	平周	全部	1					人为	上海等(环、高台、漆)、漆器、漆器(环、套)、土製品(漆器)	
32	C6c	N-90-E	长方形	3.80 × 3.15	33	平周	全部	-	东	-	-	-	自然	土製品(高台、漆器)、漆器、漆器(漆器)、漆器、漆器(漆器)、漆器、漆器(漆器)	SI24→本队→SI33
33	C6a	不明	不规则	不明	30	平周			北				自然	土製品(高台、漆)、漆器(漆器)、漆器(漆器)、漆器(漆器)	SI22→本队
34	C5a	N-4-E	正方形	3.80 × 3.60	50	平周	全周	-	北	-	2	自然	土製品(环、高台、漆)、漆器(漆器)	本队→SI22、SI-33	
35	C5a	N-8-E	方形	3.470 × 4.05	40	平周	全周	4	北	-	-	-	人为	土製品(环、套、漆)、漆器	SI31→本队
36	C6a	N-23-E	方形	3.80 × 3.40	不明	平周	全部	-	-	-	3	-	自然	上海等(环、高台、漆)、漆器	SK363→本队
37A	C6a	N-6	方形	3.95 × 3.85	10-25	平周	全周	-	北	-	-	-	人为	土製品(环、高台、漆)、漆器	SI37B、SI37C→本队
													自然	漆器(漆器)、漆器(漆器)、漆器(漆器)	
37B	C6a	N-85-E	长方形	2.10 × 2.15	10	平周	全部	-	东	-	1	人为	上海等(环、漆器(漆器))	SI37→本队→SI37A	
38A	C6a	N-85-E	不规则	3.60 × 3.10	10	平周	全部	1	东	-	2	自然	上海等(高台、漆器)、漆器、漆器(漆器)	43B→SI38B	
28B	C5a	N-5-W	不明	3.20 × 1.10	5	平周	全部	-	-	-	1	自然	土製品(漆器)	SI28A→本队	
40	C5a	N-88-E	长方形	3.15 × 2.85	20	平周	全部	-	东	-	-	-	自然	土製品(环、高台、漆)、漆器	SK203→本队
11	C5a	N-11-W	方形	3.15 × 3.15	35	平周	全部	-	北	-	-	-	自然	土製品(环、套)、漆器(漆器)、漆器、漆器(漆器)	
42	C5a	N-13-E	方形	4.0 × 3.90	50	平周	全部	-	北	-	-	-	自然	上海等(环、漆器)、漆器、漆器(漆器)	
43	D5a	N-15-W	长方形	5.00 × 4.00	10-20	平周	全部	-	东	-	-	-	人为	上海等(环、漆器)、漆器(漆器)	
11	C5a	N-8-W	不规则方形	5.80 × 5.20	18-25	平周	全周	1	北	-	-	-	人为	上海等(环、套)、漆器(漆器)、漆器(漆器)、漆器(漆器)、漆器(漆器)	本队→SI45

ID#	區號	主軸方向	平面圖	規模 長軸×短軸 東西×南北	坐落 (cm)	內部配置						樓上	出土遺物	備考 掘出關係(新→旧)	
						壁爐	土坑	土坑	土坑	土坑	土坑				
43	D3a	N 77° E	方 形	3.20 × 3.00	15	平垣	全周	1	1	北	-	-	人跡 自然	土磁器(杯、須臾器(蓋))	S14→本跡
46	D4a	N 0°	長方形	4.05 × 3.05	15	平垣	全周	-	2	北	-	-	自然	土磁器(杯、高台付杯、甕)、 須臾器(蓋)、灰釉陶器(土 製品(管狀土埴、磁器品(蓋)))	本跡→SK37
47	D4a	N-3°-W	長方形	3.30 × 3.00	30~35	階段	一部	-	1	北	-	-	自然	土磁器(杯、高台付杯、甕)、 須臾器(杯、台付甕)、灰釉陶 器(長柄瓶)、土製品(管狀土 埴)瓦	本跡→SK37
48	D4a	N-9°-W	長方形	4.0 × 3.05	40	平垣	全周	-	1	北	-	-	人跡 自然	土磁器(杯、甕、台付甕)、須 臾器(杯、甕、西高瓶)、灰釉 陶器(小瓶、土製品(磁器品))	S10a→本跡
49	D4a	N 2° W	方 形	4.15 × 4.10	25	階段	全周	1	北	-	-	-	人跡 自然	土磁器(杯、瓶、高台付甕、甕) 須臾器(杯)、灰釉陶器(甕)、 土製品(磁器、鉄製品(鏝)、瓦 土磁器(杯)、須臾器(埴)、土 製品(管狀土埴))	本跡→S18
50A	D4a	不明	長方形	3.15 × 3.25	20	平垣	一部	-	-	北	-	-	人跡 自然	土磁器(高台付杯、瓶、高台 付甕)、土製品(管狀土 埴)、不明鉄製品	S130b・50C・50D →本跡→S15
50B	D4a	N-87°-W	長方形	3.15 × 2.90	19	平垣	一部	-	-	東	-	-	自然	土磁器(高台付杯、瓶、高台 付甕)、土製品(管狀土 埴)	本跡→S150A・ 90C・90D
50C	D4a	不明	不明	不明	19	平垣	一部	-	-	北	-	-	不明	土磁器(甕)	S150A50D90D→4跡
50D	D4a	N-3°-W	長方形	3.40 × 2.60	19	平垣	一部	-	-	北	-	-	人跡	土磁器(杯、高台付杯)、土製 品(管狀土埴、磁器品)	S150B・本跡→ S150A・50C
51	D4a	N-37°-W	方 形	3.25 × 3.10	11	平垣	一部	-	-	東	-	-	自然	土磁器(杯、甕)	S150A-SK197-198 273-274→本跡
52	D4a	N-8°-W	長方形	3.15 × 2.90	13	平垣	一部	-	-	北	-	-	自然	土磁器(杯)、土製品(管狀土 埴)、鉄製品(鏝)	S153→本跡
53	D4a	N-2°-E	長方形	3.00 × 3.50	20	平垣	全周	1	北	-	-	-	人跡 自然	土磁器(杯、甕)、土製品(管 狀土埴)、鉄製品(鏝)	4跡→S12
54A	D4a	N-10°-W	長方形	3.56 × 3.22	26	平垣	全周	-	-	北	-	-	自然	土磁器(杯、高台付杯、甕、瓶) 須臾器(杯)、土製品(管狀土 埴)、鉄製品(鏝)、古銭	SK 272→本跡→ S154B
54B	D4a	N-11°-W	不明	3.25 × 3.16	13	平垣	一部	1	北	-	-	-	自然	土磁器(甕)、須臾器(蓋)	S154A→4跡
55A	D4a	N-2°-W	不明	4.20 × 2.50	40	平垣	一部	-	-	北	-	-	人跡	土磁器(高台付甕、甕)、須臾 器(杯)、土製品(管狀土埴) S155B→本跡→ S155C	
55B	D4a	N-2°-W	不明	3.03 × 3.02	28	平垣	一部	2	-	北	-	-	自然	土磁器(杯、高台付杯、甕、瓶) 須臾器(杯、高台付杯、甕)、 灰釉陶器(長柄瓶)、土製品 (管狀土埴、鉄製品(刀子、鏝、 不明鉄製品)、古銭)	本跡→S155A・55C
56C	D4a	[N-8°-E]	不明	不明	30	-	-	-	-	北	-	-	自然	土磁器片	S155A・55D→4跡
56	D4a	N-2°-W	長方形	3.25 × 2.95	-	平垣	-	-	-	北	-	-	-	土磁器(杯、甕)	S155B・55E→本跡→ S157・30
57	D4a	不明	不明	3.15 × 1.50	-	平垣	-	-	-	-	-	-	-	土磁器片	S157・56→本跡
58	D4a	N-9°	方 形	3.70 × 3.70	31	平垣	全周	1	北	-	-	2	自然	土磁器(高台付杯、瓶)、須臾 器(杯)、灰釉陶器(甕)、土製 品(管狀土埴、磁器品)	SE2→本跡→SE6・ 20
59	D4a	N 12° W	方 形	3.40 × 3.44	22	平垣	全周	-	-	北	-	-	人跡	土磁器(杯、甕)、須臾器(杯)、 土製品(管狀土埴)	S158・61・SE2・ SK229→本跡
60	D4a	N-7°-W	長方形	3.58 × 2.60	21	平垣	全周	-	-	北	-	-	自然	土磁器(杯、高台付杯、甕、瓶) 須臾器(蓋)、土製品(管狀土 埴)、鉄製品(鏝)	S161→本跡→S158
61	D4a	N-84° E	長方形	3.38 × 2.34	-	平垣	-	-	-	東	-	-	-	土磁器(小甕、甕)	SE2→本跡→S128・ 60

No.	位置	主軸方向	平面形状	規模 長×幅 東西×南北	築高 (cm)	床面	内部構造				柱土	出土品	備考 附設基(有-無)		
							壁	扉	柱	礎					
62	D1c	N-10°-W	長方形	3.87×3.47	30~22	平土	-	-	1	北	-	-	自然	土師器(杯、高台付木、甕、須恵器)、須恵器(蓋、壺)、鉄製品(刀子、不明鉄製品)	
63	D1c	N-80°-E	長方形	3.80×3.05	11	平土	北	-	-	北	-	-	大島	土師器(杯、高台付木、甕、須恵器)、須恵器(杯)、須恵器(壺)、須恵器(刀子)、不明鉄製品	SK276+278+本館→S564
64	D4c	N-0°	方形	3.50×3.15	23	平土	一部	-	-	北	-	-	大島	土師器(内付皿、高台付木、甕)、須恵器(内付皿)、土製品(管状土師、不明鉄製品)	S83+66+SK214+215+276+278+本館
65	D3c	N-10°-W	不明	3.23×1.64	14~19	平土	一部	-	1	北	-	-	自然	自然土師器片、須恵器片	
66	D3c	N-90°-E	横九長方形	3.80×2.30	10	平土	一部	-	-	北	-	-	大島	土師器(内付皿、甕)、土製品(管状土師)、鉄製品(刀子)	SK268+270+本館→S564+67
67	D3c	N-17°-W	方形	4.30×3.90	32	平土	一部	-	1	北	-	-	大島	土師器(内付皿、甕)、須恵器(内付皿、高台付木、甕)、土製品(粘土)	S166+SK270+280+282+本館→S168
68	D3c	N-7°-E	横九長方形	3.39×3.00	15	平土	一部	-	1	北	-	-	自然	土師器(内付皿、高台付木)、須恵器(蓋、壺)	S167+SK222+271+281+本館
69	D3c	N-12°-W	方形	3.30×3.10	30	平土	北	2	-	-	-	-	自然	土師器(内付皿、甕)、須恵器(内付皿、高台付木)、土製品(刀子)、鉄製品(不明鉄製品)	本館→SK357
70	D3c	N-6°-W	横九長方形	3.80×2.90	15	平土	全面	-	1	北	-	-	自然	土師器(内付皿、高台付木)	SK295+本館
71	D3c	N-5°-W	横九長方形	3.20×2.50	45~50	平土	全面	-	-	北	-	-	自然	土師器(内付皿、甕)、須恵器(内付皿、土製品(管状土師))	本館→S72
72	D3c	N-15°-W	長方形	6.00×3.50	35	平土	一部	2	1	-	-	-	自然	土師器(内付皿、須恵器(内付皿、高台付木、甕)、鉄製品(不明鉄製品))	S77+本館
73	D3c	N-15°-W	不明	2.20×1.00	40	平土	-	-	-	北	-	-	大島	土師器(内付皿、甕)	S730+本館
74	D2a	N-9°-W	長方形	3.50×1.40	30	平土	一部	-	-	-	-	-	自然	土師器(内付皿、甕)、須恵器(内付皿、高台付木、甕)	SK269+690→S72A
75	E2c	N-4°-W	横九長方形	6.00×3.40	25	平土	一部	-	-	-	-	-	自然	土師器(内付皿、高台付木、小皿、甕)、丸瓦、須恵器(甕)、鉄製品	S184+SK322+SE3→638
76	D2a	N-85°-W	長方形	2.70×1.60	30	平土	一部	-	-	東	1	-	自然	土師器(内付皿、甕)、丸瓦	SK281+285+本館
77	C1c	N-0°	長方形	4.30×3.10	16	平土	一部	-	-	北	-	-	自然	土師器(内付皿、高台付木、甕、須恵器)	SK315+448
78	D2a	N-87°-E	長方形	4.00×3.00	15~20	平土	一部	-	-	東	1	-	自然	土師器(内付皿、須恵器(内付皿、高台付木、甕))	SK316+318+本館→SK283+317+319
79	E2c	N-0°	不明	不明	30	平土	-	-	-	北	-	-	自然	土師器(内付皿、須恵器(内付皿、高台付木))	S180+81D+SK323+448
80	F2c	N-80°-E	方形	3.80×3.90	25	平土	-	-	-	北	-	-	自然	土師器(内付皿、甕)、須恵器(蓋)	SK312+313+323+448→S70
81	E2a	不明	不明	不明	5	平土	-	-	-	-	-	-	自然	土師器片、須恵器片	S181F+81C+本館
81B	E2a	N-30°-E	長方形	4.20×4.10	45	平土	-	-	-	東	-	-	自然	須恵器(内付皿、甕)、須恵器(壺)、土製品(管状土師)、鉄製品(甕瓦)、石製品(磁石、灰土)	S181C+本館→S181A
81C	E3c	N-0°	長方形	3.70×3.40	70	平土	-	-	-	北	-	-	自然	土師器(内付皿、須恵器(内付皿)、鉄製品(刀子))	本館→S181A+81D
82	D2c	N-82°-W	長方形	3.80×3.50	30	平土	一部	-	-	東	-	-	自然	土師器(内付皿、甕)、須恵器(内付皿)、鉄製品(刀子)、不明鉄製品)、土製品(管状土師)、古銭	S183+448
83	D2c	N-0°	長方形	4.10×3.00	35	平土	全面	-	-	北	-	-	自然	土師器(内付皿、小皿、高台付木、甕)、土製品(管状土師)、鉄製品	本館→S182+84
84	E2a	N-3°-W	長方形	3.00×2.60	30	平土	一部	-	-	北	-	-	大島	土師器(内付皿、高台付木、甕)、鉄製品(内付皿、刀子)	S183+439→S73
87	E2c	N-8°-W	横九長方形	2.68×2.17	11~14	平土	全面	-	1	北	-	-	自然	土師器(内付皿、高台付木、甕)	S181+2+本館

站号	经纬度	平面积	规格 长×宽 东西×南北	单位 (m)	结构	内部构造				备注	出土遗物	参考 书目(页码/卷/册)		
						券洞	券门	券窗	券壁					
88	D2c N-90°-E	长方形	3.00×2.73	15	平洞	全洞	-	1	东	-	1	自然	上海岩(高台付洞, 小洞, 券); 平瓦, 石磨(石碾石磨)	S12→本册
89A	D2c N-9°-E	长方形	3.35×3.30	24	平洞	券洞	-	-	北	-	4	自然	上海岩(高台付洞, 小洞); 瓦器器(方寸)	SD1·2·S28→本册→S100
89B	D2c N-10°-E	长方形	3.25×(2.82)	24	平洞	-	-	东	-	-	-	自然	上海岩片	S18A·SD1·2·S28→本册
90	D2c N-77°-E	长方形	3.17×(1.60)	19	平洞	-	-	-	-	-	-	自然	上海岩片	SD1→4册
91	D2c N-90°-E	长方形	3.15×(3.05)	24	平洞	-	-	-	北	-	-	自然	上海岩片	-
92A	D2c N-90°-E	不明	1.82×(1.03)	11	平洞	-	-	东	-	-	-	自然	上海岩片	S102→4册
92B	D2c N-90°-E	长方形	3.12×2.90	14	平洞	-	-	东	-	-	-	自然	上海岩(东), 瓦器器(东), 磁器(东)	本册→S82A·的
93	D2c N-0°	长方形	3.17×(1.12)	60	平洞	-	-	-	-	-	-	自然	上海岩(东, 券), 土製品(管状土罐)	S102→本册→S101
94	D2c N-15°-W	长方形	2.70×(1.17)	21	平洞	-	2	-	-	-	-	自然	瓦器器(东, 券), 瓦器器(方寸)	S102→4册
95	D2c N-82°-E	长方形	3.40×3.47	20	平洞	-	-	东	-	-	-	自然	上海岩(东, 券), 土製品(管状土罐)	S98·SD1·本册→S106·97
96	D2c N-0°	不规则形	4.28×3.28	55	券洞	券洞	-	1	北	-	1	自然	上海岩(东, 高台付洞, 券); 磁器(东, 券), 土製品(陶器, 磁器, 瓦器器(东)), 瓦器	S95·SD1·2→本册→S107
97	D2c N-15°-E	长方形	3.05×(1.90)	18	平洞	券洞	-	-	-	-	3	自然	上海岩片, 瓦器器片	S80-90→S102→4册
98	D2c N-8°-W	不规则形	3.15×3.13	23	平洞	-	-	-	北	-	-	自然	上海岩(东, 券), 瓦器器(东, 高台付洞)	SD1→本册→S86
99A	D2c N-0°	不规则形	2.88×2.54	20	平洞	券洞	-	-	北	-	1	自然	上海岩(小洞券)	S104→4册
99B	D2c N-0°	不规则形	5.00×3.82	30~40	平洞	全洞	-	-	北	-	-	自然	上海岩(东, 券), 土製品(管状土罐)	SD1·2·SK327→本册→S10A·100
100	D2c N-80°-E	长方形	3.05×2.70	35	平洞	券洞	-	-	东	-	-	自然	上海岩(东), 瓦器器(东, 券), 瓦器器(东)	S100·SD2→4册
101	D2c N-78°-E	长方形	3.95×3.00	73~90	平洞	券洞	-	-	东	-	-	自然	上海岩(东, 高台付洞), 土製品(高台付洞, 管状土罐)	-
102	D2c N-4°-E	长方形	4.39×2.78	20~34	平洞	全洞	-	1	北	-	-	自然	上海岩(小洞券)	S103→4册
103	D2c N-85°-W	长方形	3.25×2.45	34	券洞	全洞	-	-	东	-	1	自然	上海岩(东, 高台付洞, 券)	本册→S101
104	D2c N-3°-E	不明	15.40×(0.81)	20	平洞	-	-	-	北	-	-	自然	上海岩片, 瓦器器片	-
105	D3c N-15°-W	长方形	4.11×(3.72)	16	平洞	全洞	-	-	北	-	-	自然	上海岩(东), 瓦器器(东, 高台付洞), 土製品(管状土罐)	S112→6册
106	D3c N-82°-E	长方形	4.30×3.82	20	券洞	全洞	-	1	东	-	3	自然	瓦器器(东, 券), 瓦器器(东), 瓦器器(东), 瓦器器(东), 瓦器器(东), 瓦器器(东)	-
107	D3c N-18°-W	长方形	4.30×3.90	18	券洞	全洞	-	-	东	-	-	自然	上海岩(东, 券), 瓦器器(东)	-
108	D3c N-79°-E	不明	5.03×(2.20)	11	平洞	券洞	-	-	东	-	-	人为	瓦器器(东), 土製品(管状土罐)	-
109	D3c N-8°-W	不规则形	3.21×(2.80)	21	券洞	-	-	-	北	-	-	自然	上海岩(东), 瓦器器(东), 瓦器器(东), 瓦器器(东), 瓦器器(东), 瓦器器(东)	本册→S110A·110B·110C
110A	D3c N-8°-W	不明	2.21×(1.50)	9	平洞	-	-	-	-	-	-	自然	上海岩片, 土製品(管状土罐)	S109·110C→6册
110B	D3c	不明	4.98×(1.11)	-	券洞	-	-	-	-	-	-	自然	土製品(管状土罐)	S110C→6册
110C	D3c N-85°-E	长方形	3.67×4.70	12	平洞	-	-	-	北	-	-	自然	上海岩(东), 瓦器器(东), 瓦器器(东), 瓦器器(东), 瓦器器(东), 瓦器器(东)	本册→S110A·110A·110B
111	D3c N-18°-E	不明	3.60×(0.97)	20	平洞	券洞	-	-	北	-	-	人为	上海岩片, 土製品(管状土罐)	-
112	D3c N-76°-E	不明	1.29×(2.30)	10	平洞	-	-	-	-	-	-	自然	瓦器器(东)	4册→S105
113	D3c N-79°-E	长方形	2.81×(1.58)	10	券洞	券洞	-	-	东	-	-	自然	上海岩(东)	-
114	D3c N-72°-E	长方形	3.70×2.60	11~22	券洞	券洞	-	1	东	-	-	自然	上海岩(东)	-
115	C5c N-82°-E	不规则形	2.83×2.77	11	平洞	券洞	-	-	东	-	-	人为	上海岩(东)	SK300→312→本册
116	D3c N-17°-W	不明	0.40×(1.30)	20	平洞	-	-	-	-	-	-	自然	上海岩片	-
117	D3c N-14°-W	长方形	3.50×(3.36)	13~15	平洞	-	-	-	北	-	-	人为	上海岩片, 磁器	-
118	D4c N-90°-E	长方形	4.00×3.47	18	平洞	券洞	-	-	北	-	-	自然	上海岩(东, 券), 瓦器器(东), 瓦器器(东)	SD6·SK368·369→4册

9320	位置 海拔	主峰方位	平面尺	面积 长轴×短轴 东西×南北	等高(米)	内 部 结 构				覆土	出 入 道 路	备 考 其他说明 (注→附)
						塔楼	柱	梁	石砌			
136	D4	N - E - W	方	3.35 × 3.00	20~25	塔楼	-	-	(北)	-	1	自然 黄泥基一坪, 混合石基, 土质 土 (带灰土坪)
137	C4	N - 80° - W	方	4.58 × 4.00	30	塔楼	-	1	-	-	1	人工 土质基 (墙、梁), 土质土 (带 灰土坪), 灰石

茨城県教育財団文化財調査報告第145集  
一般国道50号結城バイパス改築工事  
地内埋蔵文化財発掘調査報告書  
下り松遺跡  
油内遺跡  
(上巻)

平成11(1999)年3月16日 印刷

平成11(1999)年3月19日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団  
〒310-0811 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

印刷 富士オフセット印刷株式会社  
〒310-0967 水戸市根本3丁目1534-2  
TEL 029-231-4211(代)